茨城県教育財団文化財調査報告第225集

金谷遺跡1

北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

（下　巻）

平成16年3月

日本道路公団
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第225集

金谷（かなや）遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

（下　巻）

平成16年3月

日本道路公団
財団法人　茨城県教育財団

目　　次

〈下巻〉

(6)　溝跡 ……287
(7)　鋳造関連遺構 ……290
(8)　排滓場 ……318
4　近世の遺構と遺物 ……326
(1)　墓壙 ……326
(2)　井戸跡 ……367
(3)　土坑 ……369
5　その他の遺構と遺物 ……370
(1)　竪穴住居跡 ……370
(2)　方形竪穴遺構 ……387
(3)　掘立柱建物跡 ……392
(4)　井戸跡 ……393
(5)　溝跡 ……394
(6)　土坑 ……398
(7)　ピット群 ……408
(8)　ピット列 ……410
(9)　不明遺構 ……412
(10)　遺物包含層 ……415
(11)　遺構外出土遺物 ……418
第4節　まとめ ……437
付章 ……447
写真図版
付　図

第17号溝跡（第212図・付図）

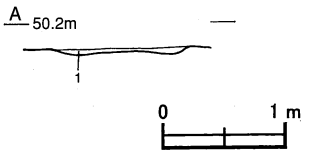
位置　中央２区西部のＴ44ｊ8 区からＴ44g8 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第19号溝に掘り込まれている。

規模と形状　Ｔ44ｊ8 区以南は調査区域外へ延びており，北東方向（Ｎ－10°－Ｅ）へ直線的に延びている。確認できた長さは11.80mである。規模は上幅0.50～0.78m，下幅0.30～0.60m，深さ10～20cmである。形状は底面がわずかにくぼみ，壁面は緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土　単一層である。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量



第212図　第17号溝跡実測図

遺物出土状況　土師器片３点（坏１，甕２），須恵器片１点（坏）が全域から散在して出土している。出土遺物のすべてが細片で，図示できるようなものはない。

所見　当遺跡で確認されている中世と推定されている溝跡とは形状が類似しているが，炉壁片などの鋳造に関連する遺物が出土していないことや８世紀中葉以後と考えられる第20号溝跡と平行に付設されていることから，時期は中世以前の可能性が考えられる。また，性格は等高線に直交し，台地から低地部へ延びていることから，排水的な役割を持っていた可能性もあるが，第19・20号溝跡と共に，コの字状を呈していることから，区画溝の可能性もある。

第19号溝跡（第213図・付図）

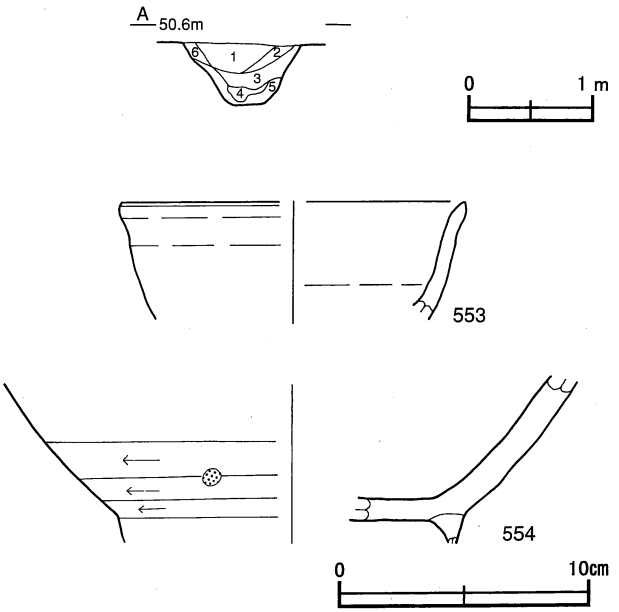
位置　中央２区中央部西寄りのＴ44g8 区からＴ46ｉ1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第73・77号住居跡，第13号掘立柱建物跡，第17・20号溝跡を掘り込み，第２ピット列に掘り込まれている。

規模と形状　Ｔ44g8 区から北東方向（Ｎ－87°－Ｅ）へわずかに蛇行しながら直線的に延びる。確認できた長さは51.70mで，規模は上幅0.72～1.20m，下幅0.24～0.54m，深さ23～42cmである。形状は底面がわずかにくぼみ，壁面は緩やかな傾斜で直線的に立ち上がり，Ｕ字状を呈している。

覆土　６層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
6　にぶい黄褐色　ロームブロック微量



第213図　第19号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　弥生土器片２点（壺），土師器片68点（坏17，甕51），須恵器片30点（坏19，甕11），炉壁片13点（817ｇ），鉄滓11点（449ｇ）〔流動滓２（10ｇ），炉内溶解物８（438ｇ），白色滓１（１ｇ）〕，鋳型片１点（24ｇ），粘土塊５点（94ｇ）が全域から散在して出土している。553・554は覆土中から出土している。

所見　中世と推定される第17号溝跡を掘り込んでいるので，時期は中世以降と考えられる。性格は第17・20号溝跡と本跡で南に開くコの字状を呈していることから，区画を目的とした溝の可能性が考えられる。また，この３条南側（内側）から，鋳造に関連した遺物が出土し，工房跡と考えられる方形竪穴遺構が確認されていることから，鋳造又は製鉄関連遺構を区画する目的があった可能性がある。

第19号溝跡出土遺物観察表（第213図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
553	須恵器	坏	[13.4]	(4.7)	－	長石	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
554	陶器	甕ヵ	－	(6.3)	－	長石・石英	灰褐	普通	体部外面ヘラ削り	覆土中	10%,外面鉄付着

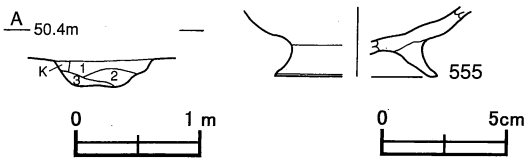
第20号溝跡（第214図・付図）

位置　中央２区中央部西寄りのＴ45ｉ8区からＵ45ｃ8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第68号住居跡を掘り込み，第19号溝に掘り込まれている。

規模と形状　Ｕ45ｃ8区以南は調査区域外へ延びており，北部は北方向（Ｎ－７°－Ｅ）へ直線的に延びている。確認できた長さは17.50ｍで，規模は上幅0.62～0.92ｍ，下幅0.21～0.48ｍ，深さ20cmである。形状は底面がわずかにくぼみ，壁面は緩やかな傾斜で直線的に立ち上がり，Ｕ字状を呈している。

覆土　３層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。



第214図　第20号溝跡・出土遺物実測図

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片58点（坏32，甕26），須恵器片９点（坏７，甕２），土製品１点（不明），炉壁片４点（98ｇ），鉄滓２点（36ｇ）〔炉内溶解物〕，羽口片１点（174ｇ）が出土している。555は覆土中から出土している。

所見　８世紀中葉以後の第68号住居跡を掘り込み，中世と推定される第19号溝に掘り込まれていることから，時期は８世紀中葉から中世と考えられる。性格は南に開くコの字状を呈していることから，区画を目的とした溝の可能性が考えられる。この３条南側（内側）から，鉄に関連する遺物が出土し，工房跡と考えられる方形竪穴遺構が確認されていることから，鋳造又は製鉄関連遺構があり，それを区画するための溝跡の可能性がある。

第20号溝跡出土遺物観察表（第214図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
555	土師器	高台付椀	－	(2.7)	[6.4]	長石・雲母	明赤褐	普通	底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け後ナデ	覆土中	10%

第21号溝跡（第215図・付図）

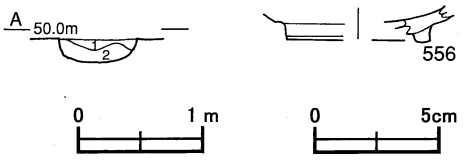
位置　中央１区西部のＴ43ｃ8区からＴ44ｃ3区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　Ｔ43ｃ8区から東方向（Ｎ－85°－Ｅ）へ進み，Ｔ43ｃ0区で北方向（Ｎ－10°－Ｅ）に屈曲し，蛇行しながらＴ44ｃ3区に至る。確認できた長さは26.0ｍで，規模は上幅0.29～0.60ｍ，下幅0.21～0.47ｍ，

深さ８～19cmである。形状は底面がわずかにくぼみ，壁面は緩やかな傾斜で直線的に立ち上がり，Ｕ字状を呈している。

覆土　２層からなる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量



第215図　第21号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片16点（坏１，甕15），陶器片１点（甕），磁器片１点（碗），炉壁片２点（20ｇ）が覆土中から出土している。出土遺物のすべてが細片で，図示できるようなものはない。

所見　時期は，陶器片が出土しており，中世の可能性がある。性格は不規則な形状をしていることから，排水的役割を果たした溝であると考えられる。

第21号溝跡出土遺物観察表（第215図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
556	磁器	碗	－	(1.4)	[5.6]	緻密	灰オリーブ	普通	ロクロ整形，貼り付け高台ヵ	覆土中	10%

第24号溝跡（第216図・付図）

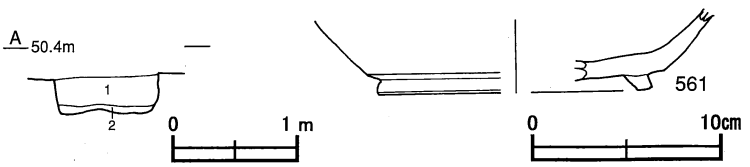
位置　中央２区南東隅のＶ49ｃ0区からＶ50ｃ1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第24号住居跡を掘り込み，第７号井戸，第12号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東部は調査区域外へ伸びているため，全容は不明であるが，確認できたのはＶ19ｃ0区からほぼ直線的に東方向（Ｎ－90°－Ｅ）へ延びている。確認できた長さは4.12mで，規模は上幅0.64～0.82m，下幅0.50～0.68m，深さ30cmである。形状は底面が平坦で，壁面は外傾して直線的に立ち上がっており逆台形状を呈している。

覆土　２層からなる。不規則な堆積状況を示している人為堆積である。第２層は覆土が薄く，ほぼ水平に堆積し，締まりも強いことから，溝として機能をしている時に道路として使用された可能性がある。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量



第216図　第24号溝跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　弥生土器片１点(壺)，土師器片11点(坏・高台付坏３，甕８)，須恵器片２点（坏），礫１点（破砕礫；被熱痕）が全域にわたって覆土中から出土している。561は覆土中から出土している。本跡に伴う遺物はない。

所見　４世紀後半と推定される第24号住居跡を掘り込み，中世の可能性のある第７号井戸に掘り込まれているので，古墳時代前期から中世までの間と考えられるが，当遺跡で確認されている中世と推定される溝跡と形状が類似していることから，中世と考えられる。また，性格は周辺の溝跡と同様に排水溝ではなく，区画溝として機能していたと考えられる。また，土層断面図中の第２層の覆土が薄く，硬化していることから，区画溝として機能しているときに道路としても使用された可能性がある。

第24号溝跡出土遺物観察表（第216図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
561	須恵器	高台付坏	－	(3.4)	[10.8]	長石・雲母	黒褐	普通	底部回転ヘラ切り，高台貼り付け後ナデ	覆土中	10%

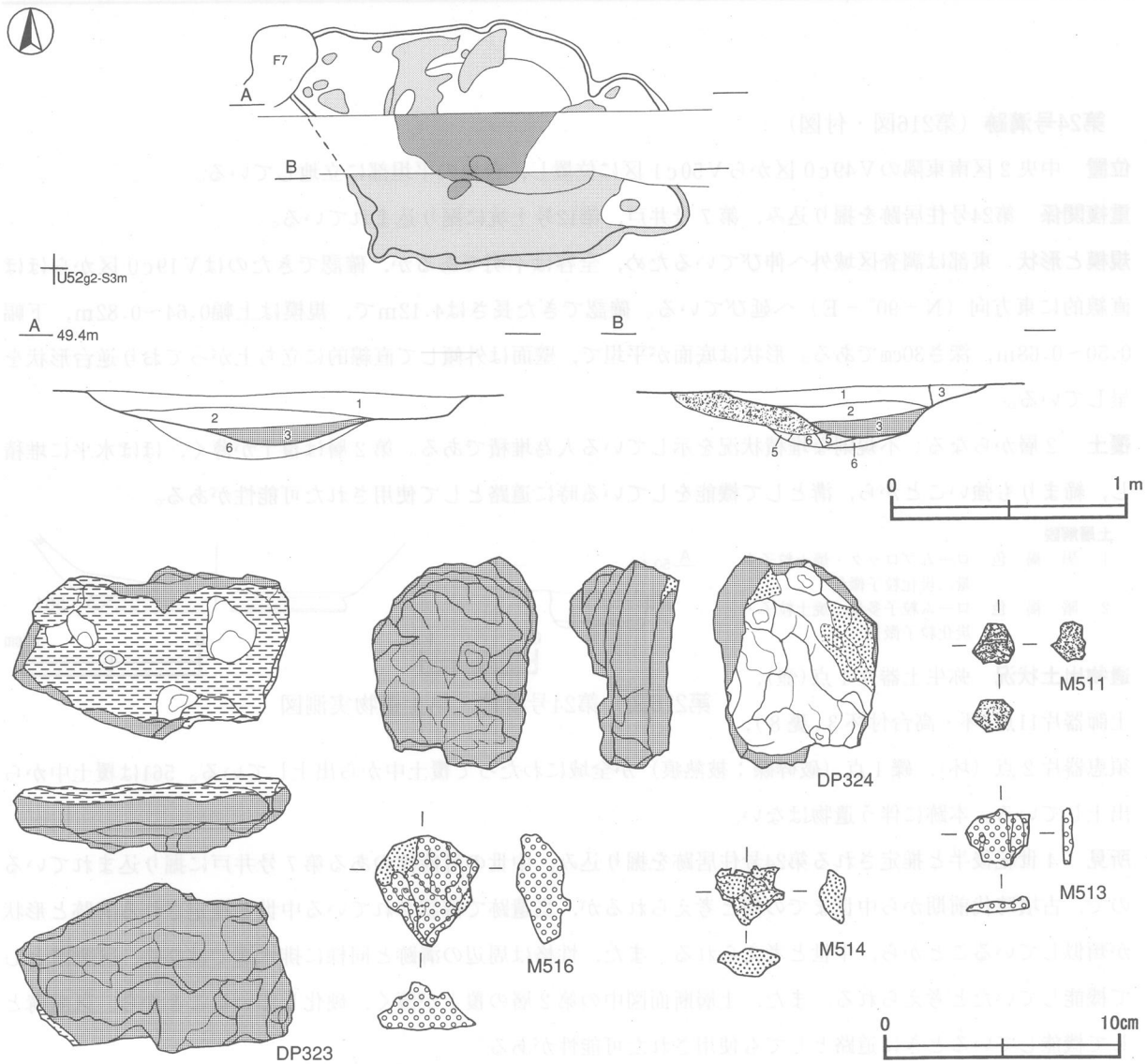
(7) 鋳造関連遺構

今回の調査では，東区と中央２区から鋳造に関連する遺構が確認されている。東区からは炉跡７基，それに付随すると考えられる鋳造関連土坑18基，中央２区からは鋳造に関連すると考えられる方形竪穴遺構９基，井戸跡10基が確認されており，既述のとおりである。ここでは，炉跡，鋳造関連土坑，方形竪穴遺構について記述する。

ア　炉跡

第１号炉跡（第217図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。



第217図　第１号炉跡・出土遺物実測図

重複関係　第７号炉に掘り込まれている。

規模と形状　第７号炉に掘り込まれており，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長軸1.63m，短軸1.03mの不整長方形で，深さは27cmである。断面はＵ字状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はＮ－89°－Ｗである。残存している底面は青灰色に還元し硬化している。還元面の周囲は酸化により焼土化している。この還元・酸化面の下方に深さ６cmの掘り込みがあり，多量の焼土・炭化物・鉄滓・粘土が堆積していた。これらの掘り込みは，炉の防湿施設の下部構造である可能性がある。

覆土　６層からなる。第１・２層は鉄滓や被熱痕のある礫を含む覆土であり，第２層と第３層の境界部に礫を敷いたような広がりが見られた。第３層は炉底の土層，第４層は還元面の周囲の酸化焔により焼土化した層，第５・６層は下部構造の埋土である。第１・２・５・６層は焼土・炭化物・鉄滓・礫・粘土を含んでいることから，人為堆積である。

土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック中量，鉄滓少量
2　灰　　色　粘土粒子中量，礫少量（硬化している）
3　青灰色　粘土ブロック多量，砂粒少量（硬化している）
4　橙　　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量（締まり弱い）
5　明黄褐色　粘土ブロック中量，炭化物・鉄滓少量（締まり強い）
6　灰白色　粘土ブロック多量

遺物出土状況　陶器片１点（椀），炉壁片349点（3361ｇ），鉄滓743点（4462ｇ）〔炉内溶解物373（2488ｇ），流動滓303（971ｇ），白色滓67（260ｇ）〕，鋳型片１点（３ｇ），粘土塊32点（213ｇ），礫22点（円礫２・破砕礫20；うち被熱痕14）が中央部の底面を中心に出土している。このほかには，混入した土師器８点（坏１・高台付坏１・甕６），須恵器３点（坏２・甕１），石器１点（石鏃）が出土している。DP320～DP324・M511・M513～M518は覆土中から出土している。DP323は溶解炉の炉底部の可能性があり，DP324は溶解炉の側壁中端である可能性がある。DP320～DP322，M512・M515・M517・M518は写真のみを掲載した。

所見　性格は炉壁及び炉内溶解物が出土していることから，溶解炉の可能性がある。時期は出土遺物から中世と考えられる。

第１号炉跡出土遺物観察表（第217図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP323	炉壁	(7.3)	(11.6)	(3.3)	(219.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入りの粘土で，未調整であり，内面は群青色をした半溶解状鉄で，厚さが薄く空気排出孔が多数あり，赤錆付着し，着磁性があり	中層	炉底ヵ PL94
DP324	炉壁	(8.7)	(6.7)	(4.5)	(195.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入りの粘土で，未調整で凹凸あり，内面は暗褐色をした半溶解状鉄で，流動による凹凸があり，着磁性は弱い	中層	炉中端

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M511	炉内溶解物	(1.8)	(1.8)	1.5	(4.1)	鉄	コバルト色を呈し，表面筋状の凹凸あり	覆土中	コバルト発色滓ヵ PL98
M513	白色滓	(2.4)	(2.7)	0.6	(4.1)	鉄	白色をし，表面は平坦	覆土中	PL98
M514	炉内溶解物	(2.4)	(2.9)	1.2	(5.0)	鉄	黒褐色をし，表面細かな凹凸あり	覆土中	PL98
M516	白色滓	(4.5)	(4.3)	(2.0)	(23.0)	鉄	ほぼ灰白色をし，一部黒褐色の半溶解鉄あり	覆土中	PL99

第２号炉跡（第218図）

位置　東区北東部のＵ52g2区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認できた規模は長径0.84m，短径0.78mの不整円形で，深さは15cmである。断面は浅いＵ字形状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はＮ－29°－Ｗである。確認面で炉壁の崩落した部分が確認されている。残存している底面は青灰色に還元し硬化してい

る。還元面の周囲は酸化焔により焼土化している。この還元・酸化面が互層になっているので，２回程度使用されたと考えられる。

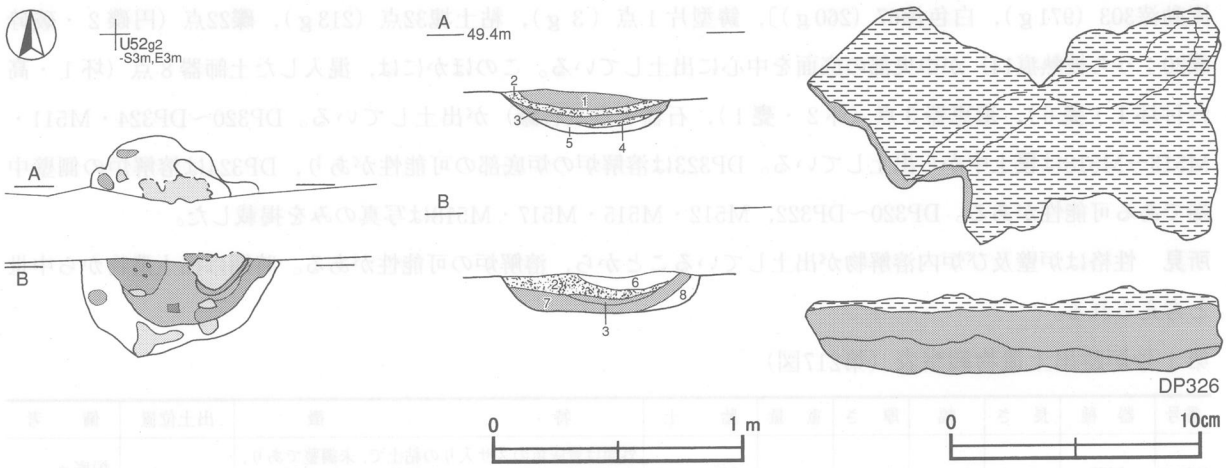
覆土　８層からなる。第１・３・７層は青色の還元し硬化した層，その間の第２・４層は赤色に酸化した層である。焼土ブロック・鉄滓などを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　暗青灰色　粘土粒子中量
2　明赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3　暗青灰色　粘土粒子中量，焼土ブロック微量
4　明赤褐色　焼土ブロック少量，鉄滓微量
5　オリーブ灰色　粘土粒子中量
6　暗オリーブ灰色　粘土粒子少量，焼土粒子微量
7　暗緑灰色　粘土粒子中量，鉄滓微量
8　オリーブ灰色　粘土粒子少量

遺物出土状況　炉壁片103点(2237ｇ)，羽口片７点(751ｇ)，鉄滓100点(261ｇ)〔炉内溶解物34(115ｇ)，流動滓47(96ｇ)，白色滓19(50ｇ)〕，鋳型片２点(195ｇ)，礫12点(破砕礫；うち被熱痕10)が出土している。これらの遺物は覆土中層を中心に出土している。このほかには，混入した土師器片６点(甕)，須恵器片１点(甕)，が出土している。DP325・DP326は覆土中から出土している。DP325は観察表のみを掲載した。

所見　性格は炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから，鋳造のための溶解炉の可能性がある。また，還元・酸化による層が２度の互層になっていることから，この場所が溶解炉として２度以上の作り替えが行われたと考えられる。時期は周辺にある同種類の遺構と類似していることから，中世と考えられる。



第218図　第２炉跡・出土遺物実測図

第２号炉跡出土遺物観察表（第218図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP325	炉壁	(9.1)	(6.1)	(4.2)	(243.0)	砂粒・スサ	外面の粘土はスサ入りと砂粒入りの２層の貼り付けで，内面は薄い暗褐色の半溶解状の鉄で，着磁性弱い	覆土中	実測図なし
DP326	炉壁	(16.3)	(9.4)	(3.4)	(355.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入り粘土で，未調整であり，内面は群青色をした半溶解状鉄で，厚さが薄く平坦であり，着磁性は弱い	覆土中	PL95

第３号炉跡（第219図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

重複関係　第７号鋳造関連土坑と重複しているが，重複部分がトレンチャーによる攪乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　攪乱を受けているため，確認できた規模は長軸0.68m，短軸0.23mで，不整方形あるいは不整長方形と推測される。深さは40cmで，断面が段を持つU字状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN－88°－Wである。残存している底面は酸化により焼土化している。東部は確認面から40cmの深さで，

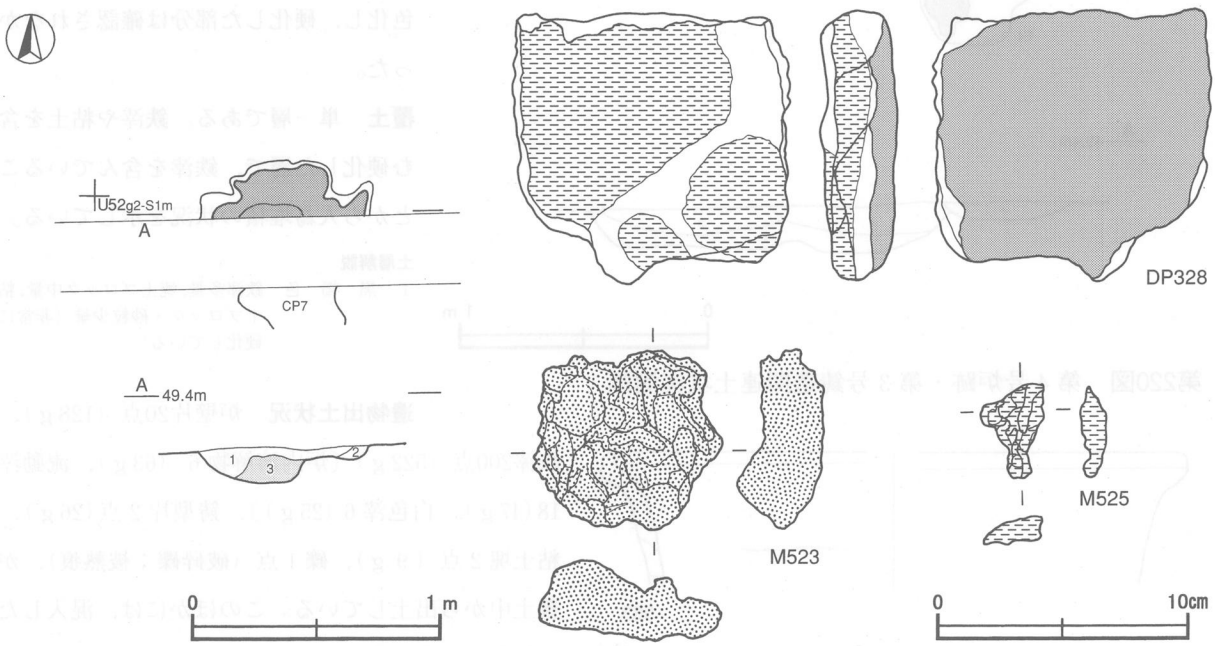
底面がわずかに平坦に掘り込まれ，地山との境界部分には粘土が貼り付けられている。西部は東部の底面からさらに11cmほど掘り込み，確認面から15cmほどの深さであり，断面はU字状である。東部の平坦部と西部の深い掘り込み部との境界には被熱痕のある礫が固定された状態で出土している。炉の防湿施設の下部構造は確認されなかった。

覆土　3層からなる。第1層は粘土・礫を含む層で，第2層は地山との境界部分に貼り付けられた層で，第3層は鉄滓を含む酸化焔により焼土化した層で，締まりが強く，硬化している。焼土ブロック・粘土ブロックを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子・礫微量
2　灰　褐　色　粘土粒子中量，焼土ブロック少量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量，鉄滓微量

遺物出土状況　磁器片1点（碗），炉壁片85点（2314ｇ），羽口片12点（317ｇ），鉄滓200点（522ｇ）〔炉内溶解物134（376ｇ），流動滓47（96ｇ），白色滓19（50ｇ）〕，鋳型片2点（195ｇ），礫12点（破砕礫；うち被熱痕10），が覆土中から出土している。DP328・DP329・M523・M525は覆土中から出土している。DP329は観察表のみを掲載した。

所見　性格は炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから，鋳造のための溶解炉の可能性がある。また，還元焔により青灰色化した層が確認されてなく，操業回数は1回と考えられる。時期は中世と推定される磁器片が出土し，中世の鋳造に関連した遺物が出土していることから，中世と考えられる。



第219図　第3号炉跡・出土遺物実測図

第3号炉跡出土遺物観察表（第219図）

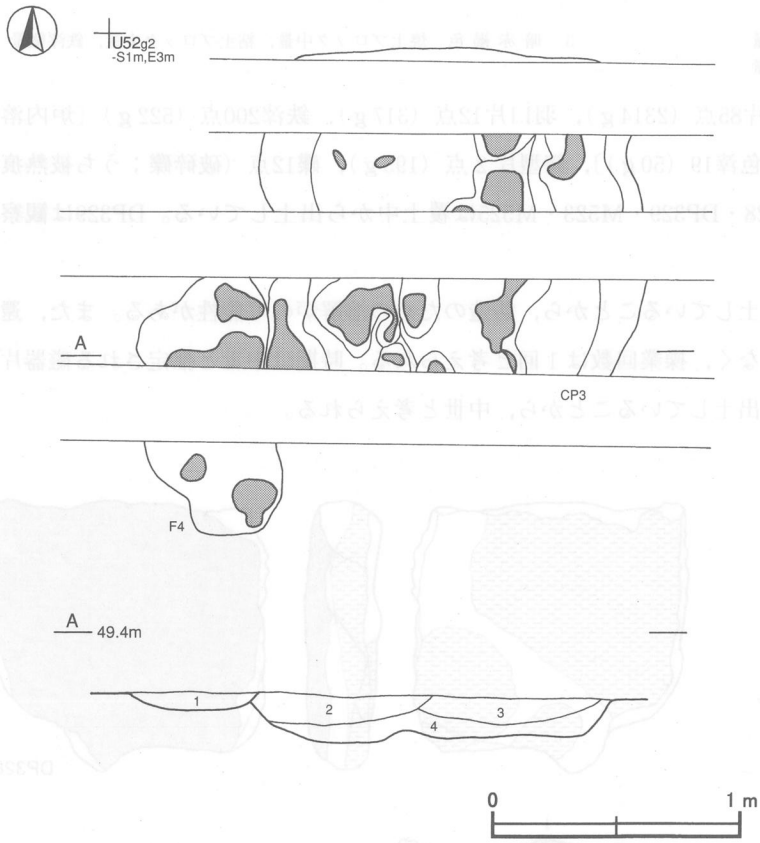
番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　　考
DP328	炉壁	(11.0)	(10.6)	(3.1)	(400.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色のスサ入りの粘土で，未調整であり，内面は群青色をした半溶解状鉄で，厚さが薄く空気排出孔が多数あり，赤錆付着し，着磁性があり	覆土中	PL93
DP329	炉壁	(13.8)	(10.0)	(3.9)	(651.0)	スサ	外面はスサ入りの粘土で灰色をし，内面は黒褐色の半溶解状の鉄に全面に赤錆付着	覆土中	炉底部ヵ，実測図無し

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M523	炉内溶解物	(7.2)	(7.5)	3.7	(160.2)	鉄	暗褐色の表面は凹凸あり，側面破砕面に多数の空気排出孔あり	掘り方覆土中	PL98
M525	白色滓	(3.7)	(2.5)	1.3	(7.1)	鉄	白色の表面は凹凸あり，流動性あり	覆土中	PL99

第4号炉跡（第220・221図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

重複関係　第3号鋳造関連土坑を掘り込んでいる。



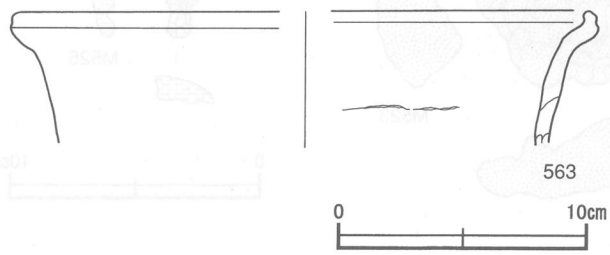
第220図　第4号炉跡・第3号鋳造関連土坑実測図

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認できた規模は長径1.02m，短径0.53mで，不整円形あるいは不整楕円形と推測される。深さは27cmで，断面が浅いU字状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－6°－Wである。掘り込み部分には白色粘土が酸化焼成により焼土化した部分と砂粒の層が確認されただけである。還元焼成により青灰色化し，硬化した部分は確認されなかった。

覆土　単一層である。鉄滓や粘土を含む硬化した層で，鉄滓を含んでいることから人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒　褐　色　鉄滓多量，焼土ブロック中量，粘土ブロック・砂粒少量（非常に硬化している）



第221図　第4号炉跡出土遺物実測図

遺物出土状況　炉壁片20点（128g），鉄滓200点（522g）〔炉内溶解物6（63g），流動滓18（47g），白色滓6（25g）〕，鋳型片2点（26g），粘土塊2点（9g），礫1点（破砕礫；被熱痕），が覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片1点（甕）が出土している。

所見　性格は炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから，鋳造のための溶解炉の可能性がある。また，焼土や粘土・砂粒・鉄滓に還元した部分がなく，炉壁片の出土が少ないことから，炉底下部の可能性がある。時期は中世の鋳造に関連する遺物が出土していることから，中世と考えられる。

第4号炉跡出土遺物観察表（第221図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
563	土師器	甑ヵ	[22.8]	(5.3)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ	覆土中	10%

第５号炉跡（第222図）

位置　東区北東部のU52h1区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.53m，短径0.48mで，不整円形あるいは不整楕円形と推測される。深さは12cmで，断面が浅いU字形状で，緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－86°－Wである。確認面で不規則な形状の粘土が確認され，その下位には焼土を中心とした粘土・砂粒・鋳造関連遺物などの層があり，粘性・締まりとも非常に弱く，炉の下部構造の可能性がある。

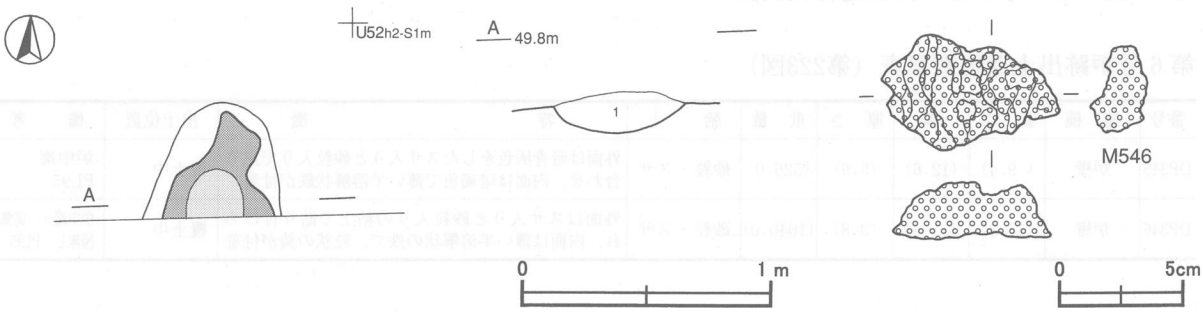
覆土　単一層である。焼土を中心とした粘土・砂粒・鋳造関連遺物などを含む層で，人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子・砂粒多量，粘土ブロック・鉄滓少量（粘性・締まり非常に弱い）

遺物出土状況　鉄製品１点（不明），石器１点（砥石），炉壁片21点（540ｇ），鉄滓17点（2621ｇ）〔炉内溶解物３（2488ｇ），流動滓２（３ｇ），白色滓７（130ｇ）〕，粘土塊２点（11ｇ），礫２点（破砕礫；被熱痕１）が覆土中から出土している。ほかに，混入した須恵器１点（甕）が出土している。M546は覆土中から出土している。

所見　炉壁及び炉内溶解物などの鋳造に関連する遺物が出土しているが，出土数が少なく，砂粒が被熱で赤変していることから，性格は溶解炉の下部構造の可能性がある。時期は周囲にある中世と推定される炉跡と規模と形状で類似していることから，時期は中世と考えられる。



第222図　第５号炉跡・出土遺物実測図

第５号炉跡出土遺物観察表（第222図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M546	白色滓	(7.2)	(4.6)	(2.3)	(41.2)	鉄	白色を呈し，瘤状の突起による凹凸あり，流動性も見られる	覆土中	PL99

第６号炉跡（第223図）

位置　東区北東部のU52h3区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.65m，短径0.32mで，楕円形あるいは円形と推測される。深さは17cmで，断面は浅いU字形状で，緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－86°－Eである。残存している底面は青灰色に還元し硬化している層と，還元面の周囲が酸化により焼土化している層が互層になっている。この還元面の下方に深さ４cmの掘り込みがあり，多量の焼土・粘土が混じり合って堆積している。

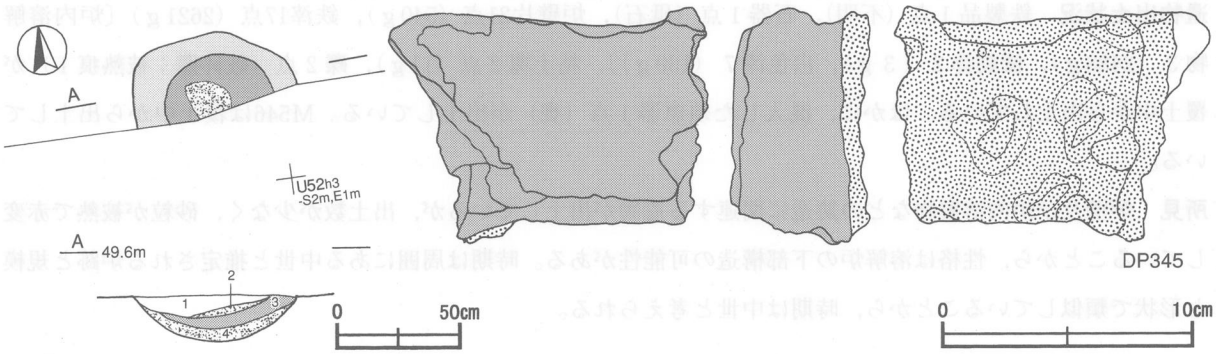
覆土　4層からなる。第1・2層は酸化により焼土化した層で，砂粒と鉄滓が混じっている。第3層は還元し硬化した層で，還元化した粘土の上に鉄滓が含まれている。第4層は被熱で赤変した粘土と砂粒の混じった層である。第1・2層は炉の覆土で，第3・4層が炉底部と推定される。各層とも人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　褐　　色　焼土粒子少量
2　赤　褐　色　焼土ブロック・鉄滓中量，砂粒少量
3　暗 青 灰 色　粘土ブロック多量，鉄滓少量（硬化している）
4　にぶい赤褐色　粘土ブロック・砂粒中量

遺物出土状況　炉壁片9点(1839ｇ)，鉄滓19点(228ｇ)〔炉内溶解物4(138ｇ)，流動滓15(90ｇ)〕，粘土塊1点（7ｇ），礫1点(円礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。DP346は写真と観察表のみを掲載した。

所見　性格は大きい炉壁片が出土していることから，溶解炉の可能性がある。周辺にある中世と推定される炉跡と類似しており，時期は中世と考えられる。



第223図　第6号炉跡・出土遺物実測図

第6号炉跡出土遺物観察表（第223図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP345	炉壁	(9.4)	(12.6)	(5.6)	(526.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入りと砂粒入りで貼り合わせ，内面は暗褐色で薄い半溶解状鉄が付着	覆土中	炉中端 PL95
DP346	炉壁	(17.3)	(11.8)	(3.8)	(1040.0)	砂粒・スサ	外面はスサ入りと砂粒入りの粘土で貼り付けられ，内面は薄い半溶解状の鉄で，粒状の錆が付着	覆土中	炉中端ヵ，実測図無し PL95

第7号炉跡（第224図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地している。

重複関係　第1号炉跡を掘り込んでいる。

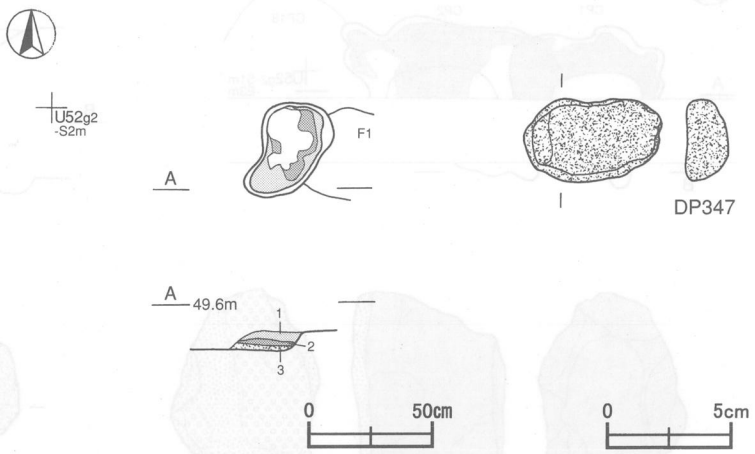
規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.42m，短径0.27mの不整楕円形で，深さは10cmであり，底面は平坦である。断面は浅いU字形状で，緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－36°－Eである。西部では確認されなかったが，東部では青灰色に還元し硬化している。還元面の周囲は酸化焔により焼土化して硬化している。この部分が炉底部と考えられる。この還元・酸化面の下方に深さ4cmの掘り込みがあり，多量の焼土・砂粒が堆積していた。これらの掘り込みは炉の防湿施設の下部構造と考えられる。

覆土　3層からなる。第1層は焼土ブロック・砂粒の混じった層で，粘性・締まりとも弱く，炉の防湿施設の下部構造である可能性がある。東部の第2層は被熱で粘土が焼土化した層で，第3層は粘土・砂粒が還元化した層である。第2・3層とも非常に硬化し，炉底部の可能性がある。西部は確認されなかった。粘土・砂粒を含む人為堆積である。

土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・砂粒少量（締まりは弱い）　　3　青　灰　色　粘土ブロック・砂粒中量(締まりは非常に強い)
2　橙　　色　焼土ブロック中量，粘土ブロック少量(締まりは非常に強い)

遺物出土状況　炉壁片24点（716ｇ），鋳型片２点（98ｇ），鉄滓42点（212ｇ）〔炉内溶解物25（126ｇ），流動滓17（86ｇ）〕，粘土塊13点（147ｇ），礫１点（破砕礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。

所見　土層断面では赤褐色と青灰色が層状になっていることから，性格は溶解炉の可能性がある。覆土中から出土した炉壁片及び炉内溶解物は細片であるが，中型の可能性がある鋳型が出土していることから，型に流し込んだ遺構が隣接している可能性がある。周辺にある同種類の遺構と類似していることから，時期は中世と考えられる。



第224図　第７号炉跡・出土遺物実測図

第７号炉跡出土遺物観察表（第224図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP347	鋳型	(3.3)	(5.4)	(2.1)	(35.0)	長石・石英	断面蒲鉾状で，平坦面は雑なナデ	覆土中	中型ヵ　PL92

イ　鋳造関連土坑

第１号鋳造関連土坑（第225図）

位置　東区北東部のＵ52ｇ2 区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第２号鋳造関連土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.62m，短径0.61m，不定形である。深さは12cmで，断面が浅いＵ字形状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。掘り込み部分には白色粘土が酸化焼成のために，焼土化した部分がわずかに確認されただけで，青灰色に還元し硬化した部分は確認されなかった。また，炉の防湿施設の下部構造は確認されなかった。長径方向はＮ－88°－Ｅである。

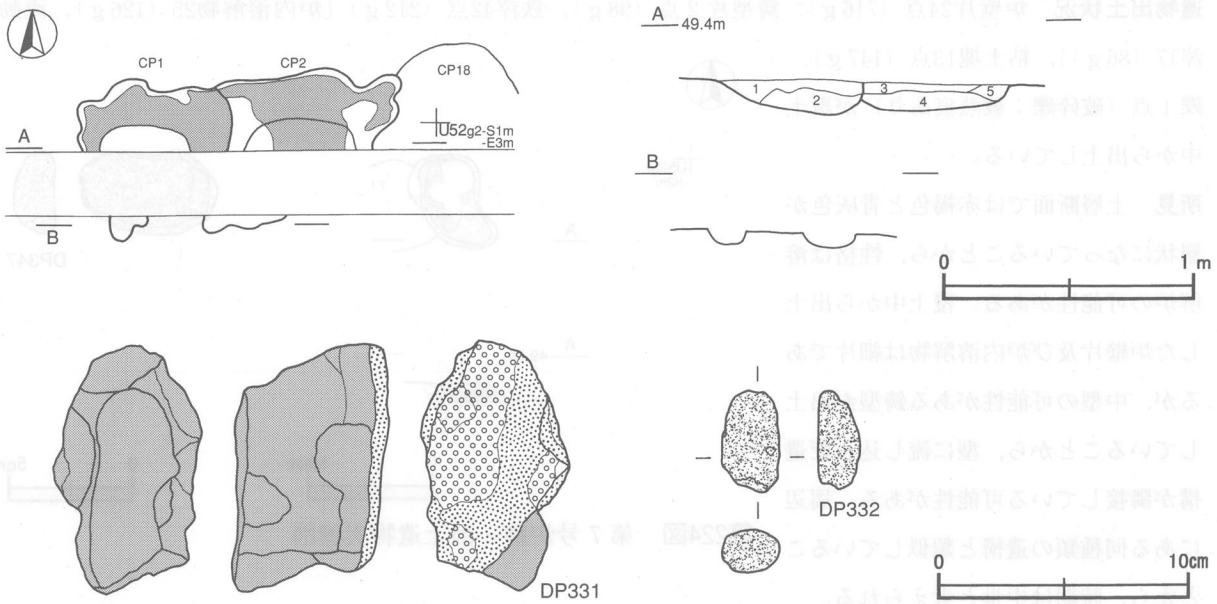
覆土　２層からなる。第１・２層は白色粘土が酸化焼成により焼土化した層である。粘土ブロック・焼土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説
1　灰　黄　色　焼土ブロック・粘土ブロック少量
2　にぶい黄色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量

遺物出土状況　炉壁片128点（979ｇ），鉄製品２点（不明），鉄滓220点（937ｇ）〔炉内溶解物74（376ｇ），流動滓99（388ｇ），白色滓47（173ｇ）〕，鋳型片１点（14ｇ），礫５点（破砕礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。このほかには，混入した須恵器１点（甕）が出土している。

所見　炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから，溶解炉と想定して調査を行った。他の遺構に比べ，炉壁片や炉内溶解物が少なく，青灰色に還元し硬化した部分が確認されなかったことと，覆土中から鋳型片が出土していることから，鋳造に関連する土坑と考えられる。時期は中世と推定される第２号鋳造関連土坑を掘り

込んでいるので，中世と考えられる。



第225図　第１・２号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

第１号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第225図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP331	炉壁	(9.9)	(5.8)	(6.2)	(257.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入り粘土で，雑なナデ調整，内面は暗褐色をした半溶解状鉄が薄く付着し，表面の一部に灰白色のものが付着	覆土中	
DP332	鋳型	(4.0)	2.3	(1.7)	(14.0)	砂粒	断面楕円形で，表面に灰白色の付着物あり	覆土中	中型ヵ

第２号鋳造関連土坑（第225図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第18号鋳造関連土坑を掘り込み，第１号鋳造関連土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第１号鋳造関連土坑に掘り込まれており，さらにトレンチャーよる撹乱を受けているため，確認された規模は長軸0.67m，短軸0.59mで，不整長方形と推定される。深さは10cmで，断面が浅いU字形状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN－86°－Eであり，掘り込み部分には白色粘土が酸化焼成のため焼土化した部分が，わずかに確認されただけで，青灰色に還元し硬化した部分は確認されなかった。また，炉の防湿施設の下部構造も確認されなかった。

覆土　３層からなる。白色粘土が酸化焼成のため焼土化した土層である。含有物の状況から人為堆積である。

土層解説
3　灰　黄　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック微量
4　にぶい黄色　粘土粒子多量，焼土ブロック少量
5　灰　黄　色　焼土粒子・粘土ブロック少量

遺物出土状況　陶器片１点（椀），炉壁片30点（224ｇ），鉄製品１点（不明），鉄滓58点（330ｇ）〔炉内溶解物47（289ｇ），流動滓６（19ｇ），白色滓５（22ｇ）〕，粘土塊20点（56ｇ），礫８点（破砕礫；すべて被熱痕あり）が覆土中から出土している。遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　炉壁片及び炉内溶解物が出土していることから，溶解炉と想定して調査を行った。他の遺構に比べ，炉

壁片や炉内溶解物が少なく，青灰色に還元し硬化した部分が確認されなかったことから，鋳造に関連する土坑と考えられる。陶器片が覆土中から出土していることと，中世と推定される第１号鋳造関連土坑に掘り込まれていることから，時期は中世と考えられる。

第３号鋳造関連土坑（第220・226図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第４号炉跡に掘り込まれている。

規模と形状　第４号炉跡に掘り込まれ，さらにトレンチャーによる攪乱を受けており，確認された規模は長径1.49m，短径1.29mで，不整楕円形と推測される。深さは18cmで，断面が浅いU字状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－89°－Wである。確認面から深さ36cmほど掘り込み，底面から８cmほどの厚さに粘土を平坦に埋め，その上に黒褐色土と被熱で赤変している粘土を互層にしている。また，東部から被熱されていない粘土が塊状で確認されている。

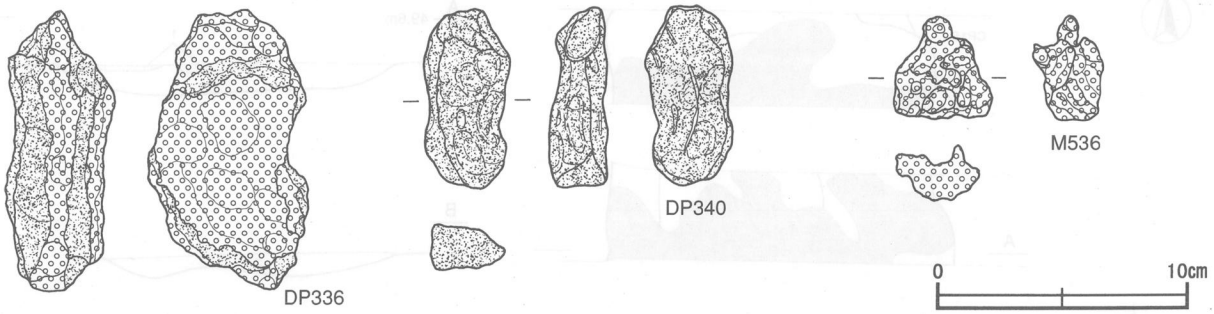
覆土　３層からなる。第４層は粘土を主体とする層で，西部の上面が被熱で赤変している。そのため炉の下部構造の可能性がある。第２層は焼土を含み，下部の粘土面が被熱で赤変していることから，この周辺で火気の使用がされた場所と考えられる。第３層は粘土を含む層で被熱痕がない。粘土ブロックや焼土ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

2	黒　褐　色	焼土ブロック中量，粘土ブロック少量	
3	黒　　色	粘土ブロック中量，焼土ブロック微量	
4	浅　黄　色	粘土ブロック多量，焼土ブロック少量	

遺物出土状況　石器１点（砥石），炉壁片137点（3287ｇ），羽口片６点（495ｇ），鋳型片３点（162ｇ），鉄滓164点（1395ｇ）〔炉内溶解物137（1237ｇ），流動滓５（６ｇ），白色滓22（152ｇ）〕，粘土塊32点（679ｇ），礫45点（破砕礫；被熱痕30）が覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片６点，須恵器片５点，瓦片２点が出土している。DP337・DP342は写真と観察表のみを掲載した。

所見　性格は炉壁片及び炉内溶解物などが出土していることと，粘土と黒褐色土が互層になり，確認面には不規則な形状の粘土塊が確認されていることから，粘土を保管した場所または粘土で炉壁や鋳型を作った場所の可能性があると考えられる。西部の被熱痕のある部分はその中でも火気が使用された場所と考えられる。時期は周囲にある同種類の遺構から中世と考えられる。



第226図　第３号鋳造関連土坑出土遺物実測図

第３号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第226図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP336	炉壁	(11.1)	(6.3)	(4.3)	(215.0)	砂粒	粘土と半溶解状鉄の互層で，粘土は暗赤褐色で，灰白色した半溶解状鉄で空気排出孔が多数あり	覆土中	PL95
DP337	炉壁	(9.3)	(6.2)	(3.2)	(152.0)	砂粒・スサ	外面は暗灰色のスサ入りの粘土で，内面は暗緑色の光沢のある半溶解状鉄	覆土中	炉中端ヵ，実測図無し PL95
DP340	粘土塊	(7.0)	(3.5)	(2.3)	(43.0)	長石・石英	多数の指頭圧痕あり	覆土中	
DP342	粘土塊	(10.4)	(7.0)	(4.6)	(235.0)	砂粒・スサ	表面剥離のため不明	覆土中	実測図無し PL96

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M536	白色滓	(4.0)	(3.9)	(2.8)	(22.0)	鉄	白色を呈し，瘤状の突起による凹凸あり，流動性も見られる	覆土中	PL99

第４号鋳造関連土坑（第227図）

位置　東区北東部のU52h2区に位置し，台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

重複関係　第15号鋳造関連土坑を掘り込んでいる。隣接する第12号鋳造関連土坑との重複部分がトレンチャーによる撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

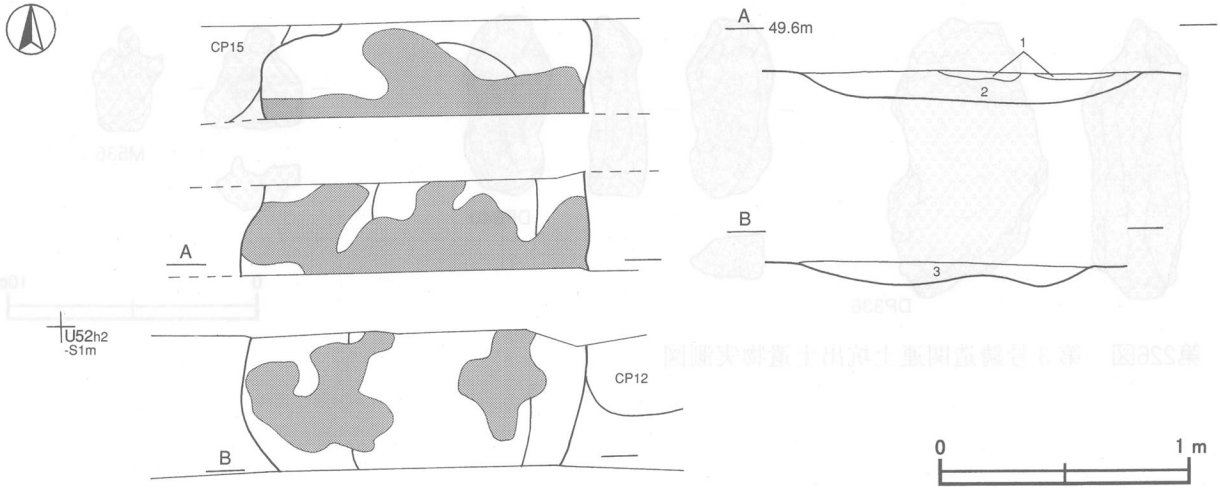
規模と形状　撹乱を受けているため，確認された規模は長軸1.79m，短軸1.39mで，不整長方形と推測される。深さは27cmで，断面が浅いU字状で，底面は平坦で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN－2°－Eである。

覆土　３層からなる。各層とも砂粒を中心に，さらに鉄滓や礫が混ざり合った瓦礫のような状態で，人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　灰　褐　色　砂粒・鉄滓中量（粘性・締まりとも非常に弱く，瓦礫のような状態）
2　赤　褐　色　砂粒多量，焼土ブロック・礫中量，炭化物少量（粘性・締まりとも非常に弱く，瓦礫のような状態）
3　赤　褐　色　焼土ブロック・砂粒多量，礫少量（粘性・締まりとも非常に弱い）

遺物出土状況　炉壁片50点（966ｇ），鉄滓72点（678ｇ）〔炉内溶解物30（326ｇ），流動滓31（178ｇ），白色滓11（102ｇ）〕，粘土塊19点（121ｇ），礫40点（破砕礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。このほかには，混入した弥生土器片１点，須恵器片１点が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。



第227図　第４号鋳造関連土坑実測図

所見　本跡は覆土中に多量の砂粒が含まれ，さらに鉄滓や礫などが混ざり合っていること，炉壁片及び炉内溶解物などが出土していることと，青灰色に還元し硬化している部分や酸化焔により焼土化している部分は確認できなかったことから，溶解炉跡や鋳型に鋳込みを行ったところ，または鋳型を作ったところではないかと考えられるが，詳細は不明である。時期は鋳造に関係する遺物が出土していることと，周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第５号鋳造関連土坑（第228図）

位置　東区北東部のU52h2区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第13号鋳造関連土坑を掘り込んでいる。

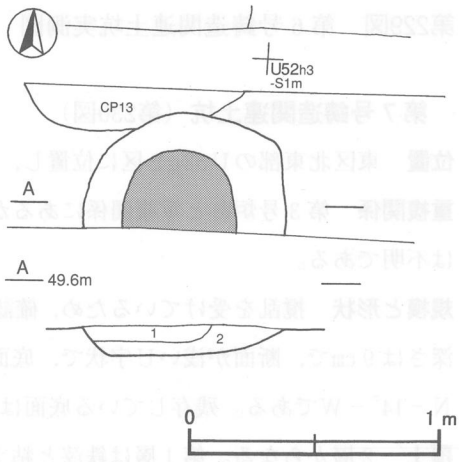
規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認できた規模は長径0.80m，短径0.48mで，楕円形と推測される。深さは12cmで，断面が浅いU字状で，底面は平坦で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－89°－Eである。

覆土　２層からなる。第１層は粘土の不規則な塊があり，第２層は被熱で赤変した粘土や焼土・礫を含み，粘性・締まりとも弱く，人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　にぶい赤褐色　砂粒中量，白色粘土ブロック少量（粘性・締まり弱い）
2　赤　褐　色　焼土粒子多量，粘土ブロック・礫中量（粘性・締まり弱い）

遺物出土状況　炉壁片14点（59ｇ），鉄滓６点（15ｇ）〔炉内溶解物１（７ｇ），鉄滓５（８ｇ）〕，礫４点（円礫；すべてに被熱痕あり）が覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片２点が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　性格は炉壁片及び炉内溶解物などが少なく，形状や堆積状況から鋳造に関連する土坑と考えられる。時期は鋳造に関係する遺物が出土していることと，周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第228図　第５号鋳造関連土坑実測図

第６号鋳造関連土坑（第229図）

位置　東区北東部のU52h1区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　重複関係にある第８号鋳造関連土坑とは重複部分が撹乱を受けているため，新旧関係については不明である。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長軸0.98m，短軸0.80mで，不整長方形あるいは不整方形と推測される。深さは９cmで，断面は西が浅く，東が深く壇状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長軸方向はN－９°－Eである。

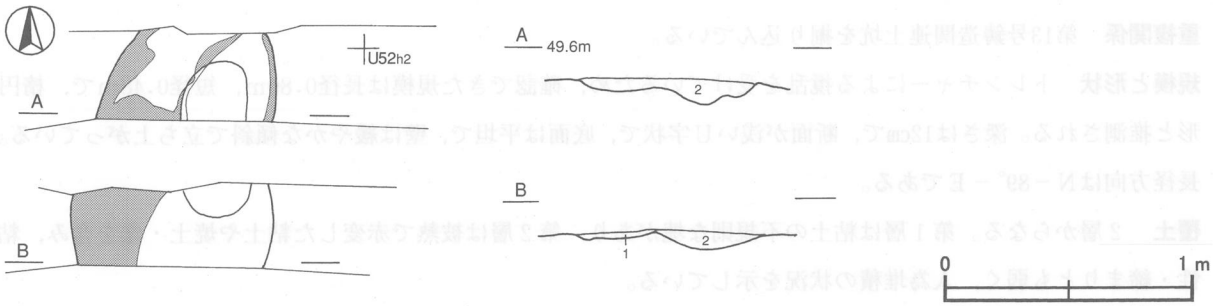
覆土　２層からなる。西側に位置する第１層は粘土層で，第２層は焼土ブロック・ロームブロック混じりの層である。各層とも人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　灰黄褐色　粘土ブロック多量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況　炉壁片27点（159ｇ），鉄滓26点（114ｇ）〔炉内溶解物５（18ｇ），流動滓16（78ｇ），白色滓５（18

g)〕，粘土塊２点（７ｇ），礫３点（破砕礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片２点（甕），須恵器片２点（甕）が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　性格は炉壁片及び炉内溶解物が細片で，還元焔により硬化した部分や酸化焔により焼土化した部分が無いことから，炉跡ではないと推測される。土層断面図中，西側の第１層は浅く粘土層であるのに対し，東側の第２層は深く粘土を含まない焼土を中心とした層であることから，何かを固定した可能性があり，鋳造に関連する土坑と考えられる。時期は炉壁片や白色滓などの鋳造に関係する遺物が出土していることと，周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第229図　第６号鋳造関連土坑実測図

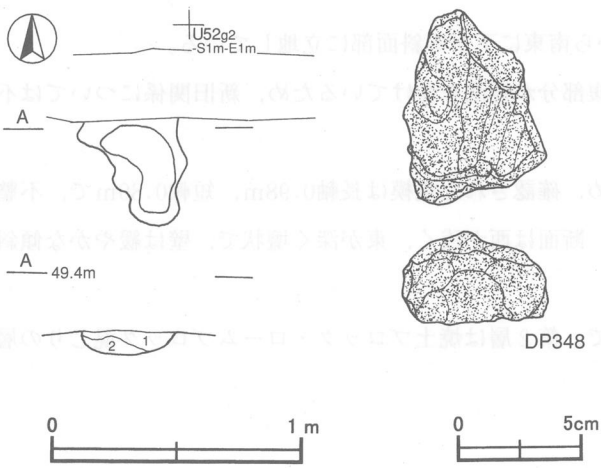
第７号鋳造関連土坑（第230図）

位置　東区北東部のＵ52g2区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第３号炉跡と重複関係にあるが，重複部分がトレンチャーによる撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.42m，短径0.39mで，不整楕円形と推測される。深さは９cmで，断面が浅いＵ字状で，底面はほぼ平坦で，壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はＮ－14°－Ｗである。残存している底面は酸化焼成により焼土化し，硬化している。

覆土　２層からなる。第１層は鉄滓と粘土を含む暗赤褐色土で，被熱で赤変して，硬化している。炉床の底面の可能性がある。第２層は掘り方へ埋土した層で，粘土の混じった黒褐色土をした層である。第１・２層とも鉄滓・粘土の混じった人為堆積の状況を示している。



第230図　第７号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・鉄滓中量，粘土粒子微量（粘性は弱く，締まりは非常に強い）
2	黒褐色	粘土ブロック少量（粘性・締まりとも普通）

遺物出土状況　鉄滓２点〔炉内溶解物（25ｇ）〕，羽口片１点（126ｇ）が覆土中から出土している。

所見　炉内溶解物及び羽口片が出土し，炉底部と考えられる赤変硬化した粘土が確認されていることから，溶解炉とも考えられたが，第３号炉跡と重複関係にあり，溶解炉に関連する付属施設の可能性があり，鋳造に関連する土坑と考えられる。時期は羽口片や炉内溶解物が出土していることと，周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第７号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第230図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　　考
DP348	羽口	(7.6)	(5.7)	(3.7)	(126.0)	砂粒・スサ	粘土は赤褐色をし，内面はヘラナデの際の指頭圧痕あり，外面は剥離し調整不明	覆土中	

第８号鋳造関連土坑（第231図）

位置　東区北東部のU52g1区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第15・17号鋳造関連土坑を掘り込んでいる。重複関係にある第６号鋳造関連土坑とは重複部分が撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径1.65m，短径1.39mで，不整楕円形と推測される。深さは74cmで，断面が逆台形状で，底面は平坦で，壁が外傾して立ち上がっている。確認面から４～８cmの深さが被熱で赤変硬化している部分があり，炉底の可能性があるが，不明である。長径方向はN－６°－Eである。

覆土　７層からなる。各層とも多量の炉壁片・鉄滓・砂粒・粘土などを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第１層上面が被熱でわずかに赤変硬化しているので，炉として使用された可能性がある。

土層解説

1　暗　褐　色　粘土ブロック中量，焼土ブロック・炭化物少量（粘性は強く，締まりは弱い）
2　明 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒中量，鉄滓少量（粘性は弱く，締まりは普通）
3　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒少量，炉壁・鉄滓微量（粘性・締まりとも普通）
4　にぶい黄褐色　焼土ブロック・粘土ブロック・鉄滓中量（粘性・締まりとも非常に弱い）
5　極 暗 褐 色　粘土ブロック中量，焼土ブロック少量（粘性は強く，締まりは普通）
6　にぶい黄褐色　焼土ブロック・鉄滓中量（粘性・締まりとも弱い）
7　黒　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック微量（粘性・締まりとも普通）

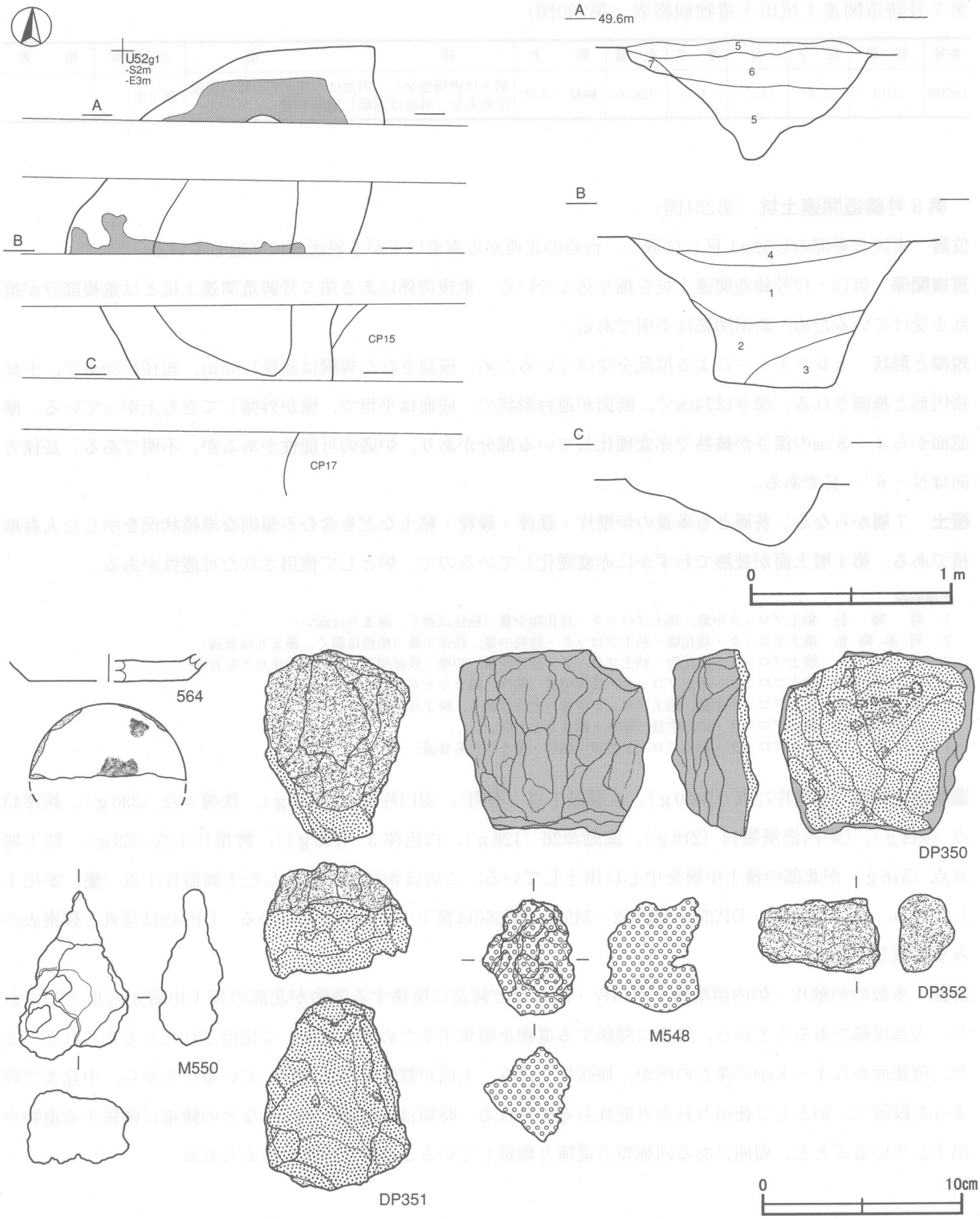
遺物出土状況　炉壁片73点（7420ｇ），土製品１点（不明），羽口片２点（270ｇ），鉄塊４点（330ｇ），鉄滓43点（444ｇ），〔炉内溶解物14（216ｇ），流動滓26（128ｇ），白色滓３（100ｇ）〕，鋳型片１点（53ｇ），粘土塊８点（516ｇ）が北部の覆土中層を中心に出土している。このほかには，混入した土師器片１点（甕）が出土している。564・DP349・DP350～DP352・M548・M550は覆土中から出土している。DP349は写真と観察表のみを掲載した。

所見　多数の炉壁片・炉内溶解物・羽口片・鋳型など鋳造に関係する遺物が北部の覆土中層から出土しており，人為堆積であることから，鋳造に関係する遺物を廃棄するための土坑として使用されたと考えられる。また，確認面から４～８cmの深さの所が，皿状にくぼみ，上面が被熱で赤変硬化していることから，中途まで埋まった段階で，炉として使用された可能性も考えられる。時期は炉壁片や羽口片などの鋳造に関係する遺物が出土していることと，周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第８号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第231図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
564	土師器	甕	－	(1.3)	[7.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，底部外面多方向のヘラ削り	覆土中	10% 底部外面朱墨痕 墨痕あり

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　考
DP349	炉壁	(17.7)	(19.5)	(6.1)	(2080.0)	砂粒	外面は赤褐色と青灰色で層状のスサ入りで，内面は青黒色をした半溶解鉄で，一部分が灰白色をし，粒状の錆付着	覆土中	実測図無し PL96



第231図　第８号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP350	炉壁	(9.1)	(9.3)	(4.3)	(250.0)	砂粒・スサ	外面は青灰色をしたスサ入り粘土で，内面は青黒色をした半溶解鉄で，粒状の鋳付着	覆土中	炉中端ヵ PL95
DP351	羽口	(9.5)	(7.2)	(5.6)	(206.0)	砂粒・スサ	内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で，ナデ調整されているが，大部分が剥離，外面は黒褐色をした半溶解状鉄が付着	覆土中	
DP352	鋳型	(3.7)	(6.2)	(2.6)	(53.0)	砂粒	内外面は赤褐色をしており，内面は砂粒が多い粘土が付着し，暗青灰色をした蝋状のものは剥離	覆土中	鍋型

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M548	白色滓	(5.8)	(4.5)	(4.7)	(83.0)	鉄	白色を呈し，瘤状の突起による凹凸あり，流動性も見られる	掘り方覆土中	PL99
M550	鉄塊	8.4	5.5	3.9	124.0	鉄	表面に亀裂のような筋がある	掘り方覆土中	PL100

第9号鋳造関連土坑（第232図）

位置　東区北東部のU52h2区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第11・12号鋳造関連土坑に掘り込まれている。重複関係にある第13号鋳造関連土坑とは重複部分がトレンチャーによる攪乱を受けているため，新旧関係は不明である。

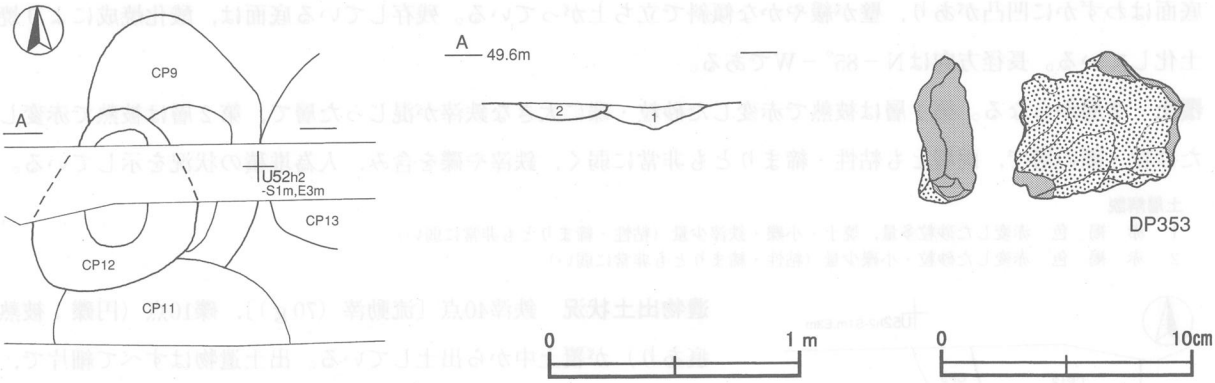
規模と形状　第11・12号鋳造関連土坑に掘り込まれており，確認された規模は長径1.07m，短径0.70mで，不整楕円形と推測される。深さは10cmで，断面が浅いU字状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は酸化焼成により焼土化している。長径方向はN－4°－Eである。

覆土　単一層である。砂粒を含む酸化焼成により焼土化している部分である。

土層解説
1　にぶい橙色　焼土ブロック・砂粒少量（粘性・締まり弱い）

遺物出土状況　炉壁片5点（85g），鉄滓1点〔流動滓（3g）〕が覆土中から出土している。

所見　酸化焔によりわずかに焼土化し，その中から炉壁片や鉄滓が出土していることから，性格は鋳造に関連した土坑と考えられる。また，時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第232図　第9・12号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

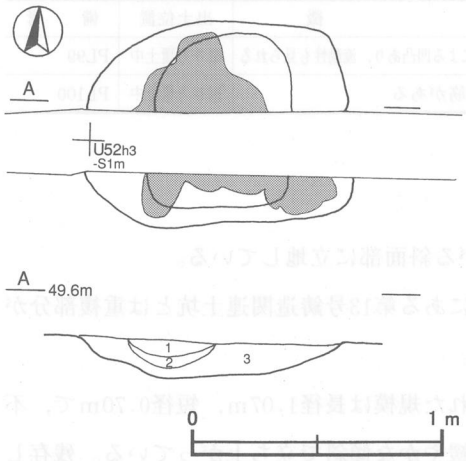
第9号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第232図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP353	炉壁	(5.9)	(6.7)	(2.3)	(56.0)	砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入り粘土で，雑なナデ調整がされ，内面は暗褐色をした半溶解状鉄が付着し，着磁性は弱い	覆土中	

第10号鋳造関連土坑（第233図）

位置　東区北東部のU52h3区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる攪乱を受けているため，確認された規模は長径1.05m，短径0.80mの不整楕円形と推測される。深さは15cmで，断面が浅いU字状で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は酸化焼成により焼土化している。長径方向はN－87°－Eである。



第233図　第10号鋳造関連土坑実測図

覆土　3層からなる。堆積状況はレンズ状を呈しているが，粘土ブロック・礫・砂粒・鉄滓などを含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　灰　褐　色　焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒少量（粘性・締まりとも弱い）
2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，粘土ブロック・砂粒・礫少量（粘性・締まりとも弱い）
3　にぶい赤褐色　赤変した砂粒中量，炭化物少量

遺物出土状況　鉄滓20点〔流動滓（55ｇ）〕，礫５点（円礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　覆土中の焼土には鉄滓が混じっており，詳細な使用方法については不明であるが，出土遺物から鋳造に関連する遺構と考えられる。時期は，周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第11号鋳造関連土坑（第234図）

位置　東区北東部のＵ52h2区に位置し，台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

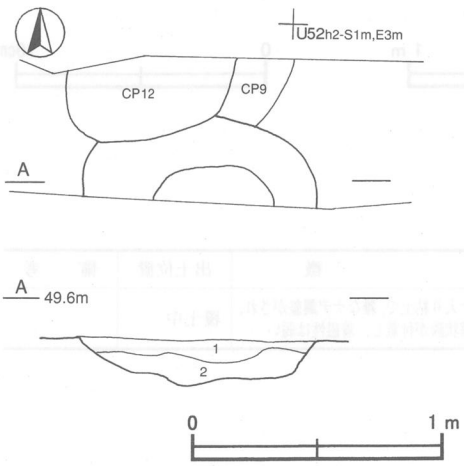
重複関係　第９号鋳造関連土坑を掘り込み，第12号鋳造関連土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第12号鋳造関連土坑に掘り込まれており，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.93m，短径0.34mで，不整楕円形と推測される。深さは18cmで，断面は浅いＵ字状で，底面はわずかに凹凸があり，壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は，酸化焼成により焼土化している。長径方向はＮ－85°－Ｗである。

覆土　２層からなる。第１層は被熱で赤変した砂粒・礫に大きな鉄滓が混じった層で，第２層は被熱で赤変した砂粒・礫の層で，両層とも粘性・締まりとも非常に弱く，鉄滓や礫を含み，人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　赤　褐　色　赤変した砂粒多量，焼土・小礫・鉄滓少量（粘性・締まりとも非常に弱い）
2　赤　褐　色　赤変した砂粒・小礫少量（粘性・締まりとも非常に弱い）



第234図　第11号鋳造関連土坑実測図

遺物出土状況　鉄滓40点〔流動滓（70ｇ）〕，礫10点（円礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　出土遺物は鉄滓や被熱痕のある礫が出土していることから，鋳造に関連する遺構であったと考えられる。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第12号鋳造関連土坑（第232図）

位置　東区北東部のU52h2区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第9・11号鋳造関連土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.72m，短径0.63mで，不整楕円形と推測される。深さは6cmで，断面が浅い逆台形状で，底面は平坦で，壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－6°－Eである。

覆土　単一層である。堆積状況は粘土ブロックを多く含む人為堆積を示している。重複関係にある第11号鋳造関連土坑の一部とも考えられたが，堆積状況から別の遺構と判断した。

土層解説
2　灰黄褐色　粘土ブロック多量（粘性強い・しまり普通）

遺物出土状況　出土遺物はない。

所見　他の周辺遺構との関連から鋳造遺構と考えられるが，その使用方法については出土遺物がなく，不明である。時期は周辺にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第13号鋳造関連土坑（第235図）

位置　東区北東部のU52h2区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

重複関係　第5号鋳造関連土坑に掘り込まれている。重複関係にある第9号鋳造関連土坑とは重複部分がトレンチャーによる撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

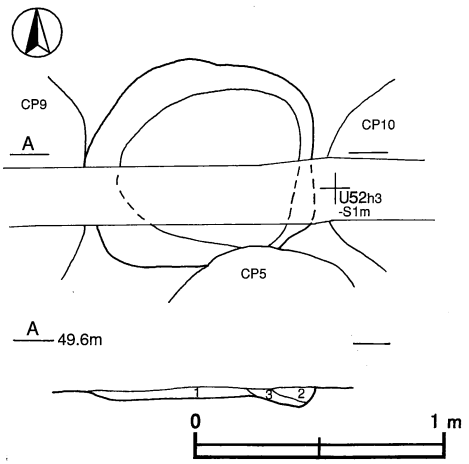
規模と形状　撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.90m，短径0.83mで，不整楕円形と推測される。深さは8cmで，断面が浅い逆台形状で，底面はほぼ平坦で，壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。残存している底面は酸化焼成により焼土化している。長径方向はN－89°－Wである。

覆土　3層からなる。各層とも砂粒を含み，赤褐色及び黒褐色をした層で，人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　にぶい橙色　焼土ブロック・砂粒少量（粘性・締まりとも非常に弱い）
2　赤　褐　色　砂粒多量（粘性・締まりとも非常に弱い）
3　黒　褐　色　炭化物・粘土ブロック少量

遺物出土状況　炉壁片1点（90g），礫2点（円礫；被熱痕あり）が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　覆土に砂粒を中心とした焼土ブロック・炭化物が混じっており，鋳造に関連した遺構と考えられるが，その使用方法については不明である。この底面の下方に深さ6cmの掘り込みがあり，焼土・砂粒を覆土としていた。掘り込みには砂粒が多いことから，炉の防湿施設の下部構造と考えられる。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第235図　第13号鋳造関連土坑実測図

第14号鋳造関連土坑（第236図）

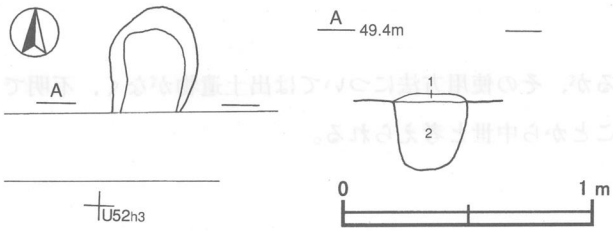
位置　東区北東部のU52g3区に位置し，台地の北西から南東に下がる斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.42m，短径0.35mで，不整楕円形と推測される。深さは27cmで，断面が深いU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－4°－Eである。

覆土　2層からなる。第1層は確認面上部のわずかな高まりを持つ粘土層，第2層は粘土ブロックの混じった層である。両層とも粘土と焼土を含む人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　灰黄褐色　粘土ブロック中量，焼土ブロック微量（粘性は弱く・締まりは強い）
2　黒　褐　色　粘土ブロック少量，焼土粒子微量（粘性・締まりとも普通）



第236図　第14号鋳造関連土坑実測図

遺物出土状況　出土遺物は確認されなかった。

所見　第2号炉跡や鋳造関連土坑に隣接しているので，鋳造に関連する遺構と考えられる。確認面に円形状に粘土塊が広がり，その下部の掘り込みの状況から，柱穴とも考えられたが，対応する柱穴が確認されていないので，性格は不明である。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

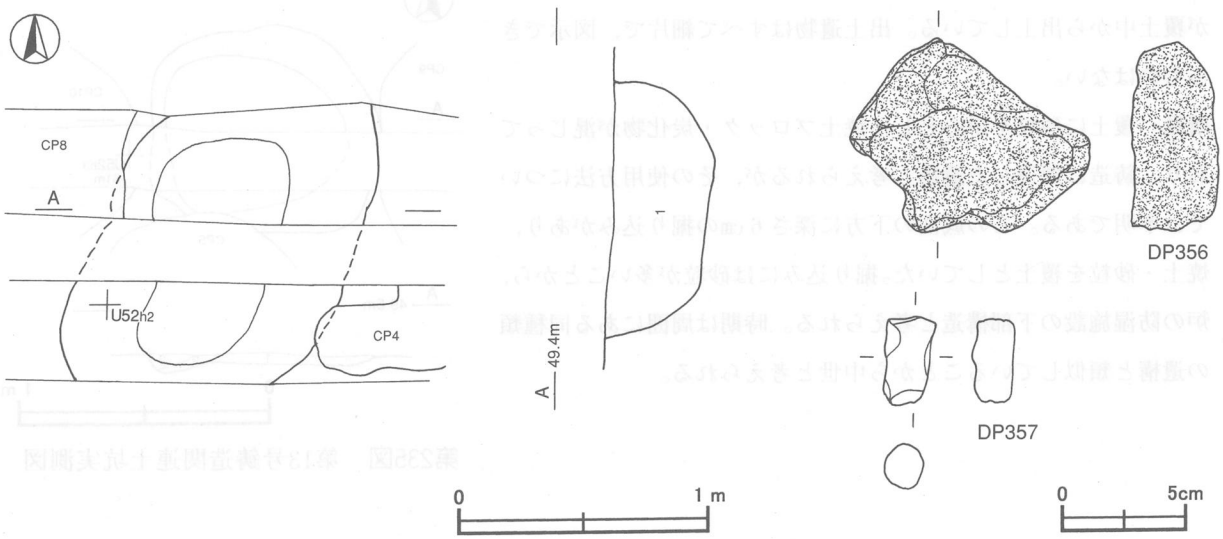
第15号鋳造関連土坑（第237図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

重複関係　第17号鋳造関連土坑を掘り込み，第4・8号鋳造関連土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第4・8号鋳造関連土坑に掘り込まれており，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径1.20m，短径0.97mで，不整楕円形と推測される。深さは42cmで，断面が逆台形状で，底面は平坦で，壁が緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－22°－Eである。

覆土　単一層である。焼土ブロック・粘土ブロック・砂粒を含み，不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積である。



第237図　第15号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

土層解説

1　明赤褐色　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック中量，鉄滓少量（粘性・締まりとも弱い）

遺物出土状況　炉壁片43点（551ｇ），鉄滓43点（580ｇ）〔炉内溶解物31（340ｇ），流動滓５（194ｇ），白色滓７（46ｇ）〕，鋳型片１点（196ｇ），粘土塊26点（93ｇ），礫２点（円礫；被熱痕あり）が中央部の覆土中から出土している。出土している鋳型は覆土中層周辺から出土している。DP356・DP357は覆土中から出土している。

所見　性格は焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック・砂粒とともに炉壁片及び炉内溶解物・鋳型片などの鋳造に関係する遺物が出土していることから，これらの廃棄土坑と考えられる。また，本跡の下部に位置している第17号鋳造関連土坑も廃棄土坑と考えられ，同じような場所に深く掘り込んでいることから，工房区域内に廃棄場所を決めていたと考えられる。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第15号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第237図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP356	鋳型	(7.6)	(9.7)	(3.6)	(196.0)	砂粒・スサ	内外面とも暗赤褐色をし，外面はスサが多く含み，内面は砂粒が多く含む粘土で，表面が剥離	覆土中	鍋型 PL92
DP357	不明	(3.6)	(2.0)	(1.7)	(12.0)	砂粒	円筒状で，上下部は欠損，ナデ調整	覆土中	詰物ヵ

第16号鋳造関連土坑（第238図）

位置　東区北東部のＵ52g2区に位置し，台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，確認された規模は長径0.88m，短径0.28mで，円形あるいは楕円形と推測される。深さは76cmで，断面が逆台形状で，底面がほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－88°－Ｅである。

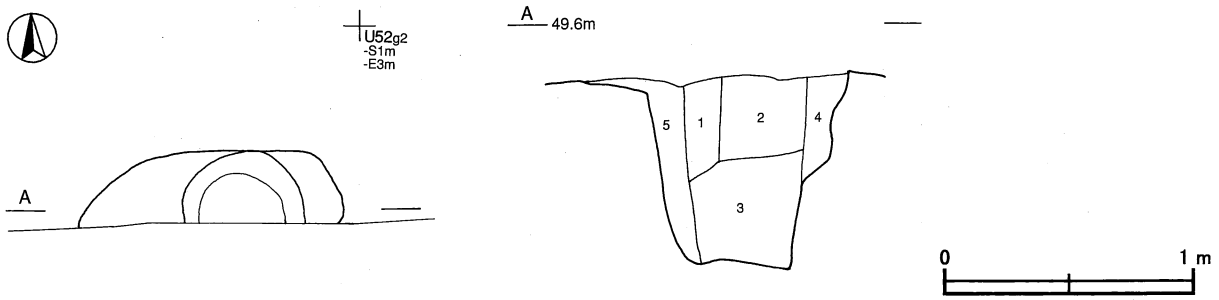
覆土　５層からなる。粘土ブロックを主とした焼土・炭化物・鉄滓を含む層で，人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　黒色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量
2　灰黄褐色　粘土粒子中量，炭化物微量
3　にぶい黄褐色　粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子・鉄滓微量
4　褐灰色　炭化粒子・粘土粒子微量
5　黒褐色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　出土遺物は確認されなかった。

所見　周辺に鋳造に関連する遺構があることと覆土の含有物から，鋳造に関連した遺構があったと考えられる。なお，時期は周辺にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。



第238図　第16号鋳造関連土坑実測図

第17号鋳造関連土坑（第239図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

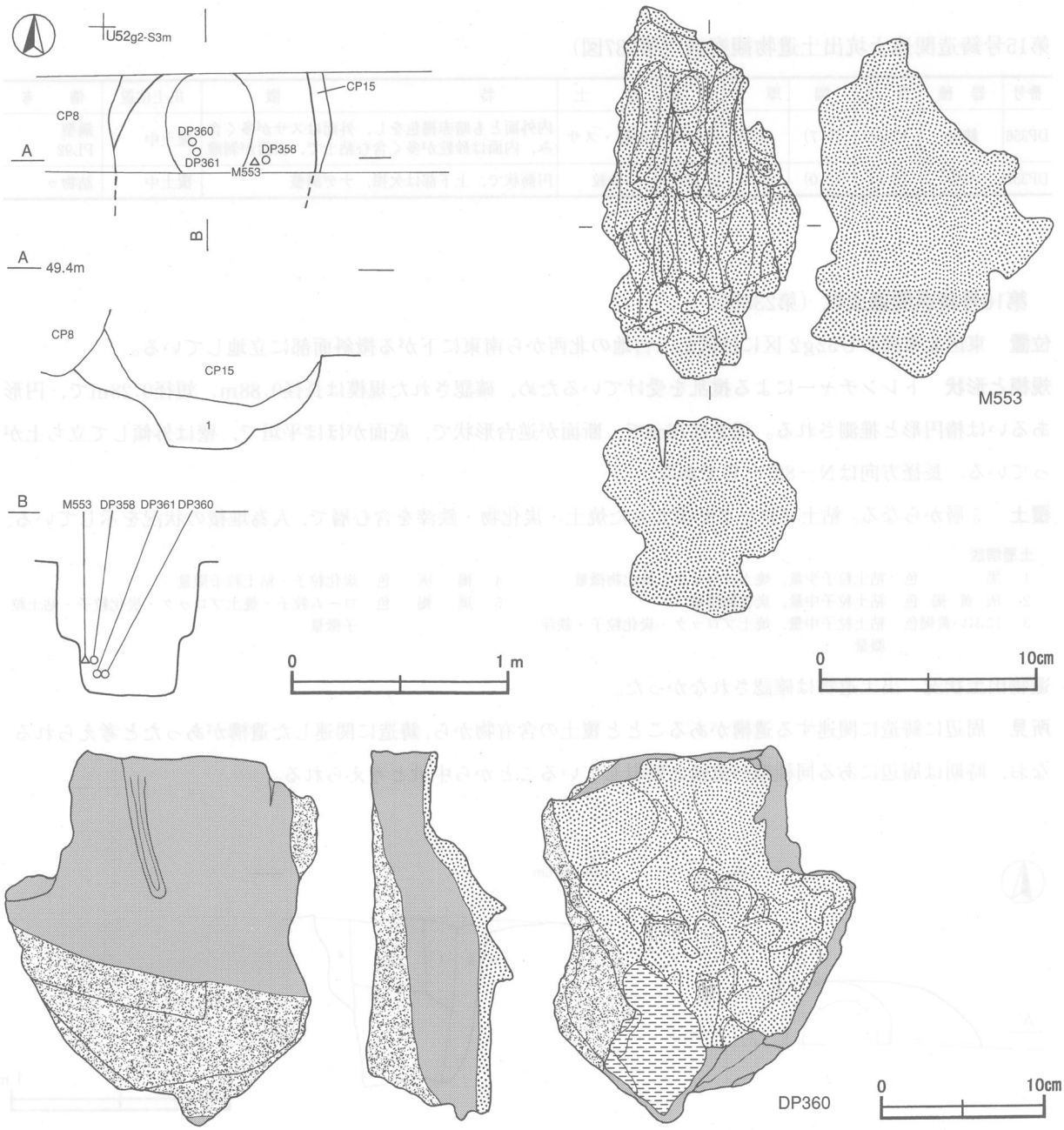
重複関係　第8・15号鋳造関連土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第15号鋳造関連土坑に掘り込まれており，確認された規模は長径1.17m，短径0.48mで，不整楕円形と推測される。深さは68cmで，断面が逆台形状で，底面はほぼ平坦で，壁が外傾して立ち上がっている。長径方向はN－89°－Eである。

覆土　単一層である。粘土を主とした焼土・炭化物を含む暗褐色土で，人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量，炉壁微量



第239図　第17号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　炉壁片28点（7492ｇ），羽口片１点（187ｇ），鉄滓６点〔炉内溶解物（844ｇ）〕，鋳型片２点（38ｇ）が中央部の底面を中心に出土している。DP358・DP360・DP361・M553は中央部の覆土下層から出土している。DP358・DP361は写真と観察表のみを掲載した。

所見　東区の鋳造関連遺構の中心にあり，円筒形に掘り込まれている。確認面から深さ68cmの比較的浅い位置から，湧水があることから当初は井戸として使用されたと考えられる。底面付近から炉壁片及び炉内溶解物などが出土していることから，その後破壊した炉壁を投棄した廃棄土坑として使用されるようになったと考えられる。また，東に広がる排滓場以外に鋳造関連遺構の中心に，廃棄をする場所が決められていたことが推測される。時期は周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第17号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第239図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	胎　土	特　　徴	出土位置	備　　考
DP358	炉壁	(14.2)	(18.5)	(4.3)	(1170.0)	砂粒・スサ	外面はスサ入りの粘土で，暗青灰褐色で，雑なナデ調整，内面は半溶解状鉄で，暗褐色で一部灰白色である	中央部下層	実測図無し PL96
DP360	炉壁	(22.4)	(19.1)	(9.0)	(1980.0)	砂粒・スサ	外面は暗褐色・赤褐色をしたスサ入り粘土でナデ調整，棒状の押圧痕が２か所，内面は黒褐色をした半溶解状鉄で，光沢があり流動性が見られ，下部の暗青灰色の鉄に着磁性が弱くあり，外径［49.6］cm	中央部下層	PL95
DP361	炉壁	(16.0)	(10.3)	(9.0)	(367.0)	スサ	外面はスサ入りの粘土で，大部分が赤褐色，一部は被熱で青灰褐色で変色し，内面は半溶解状鉄で，着磁性はわずかにある	中央部下層	実測図無し PL95

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　　考
M553	炉内溶解物	(12.1)	(9.0)	(11.6)	(164.3)	鉄	黒褐色を呈し，流動性が見られ，凹凸が多数	中央部下層	PL99

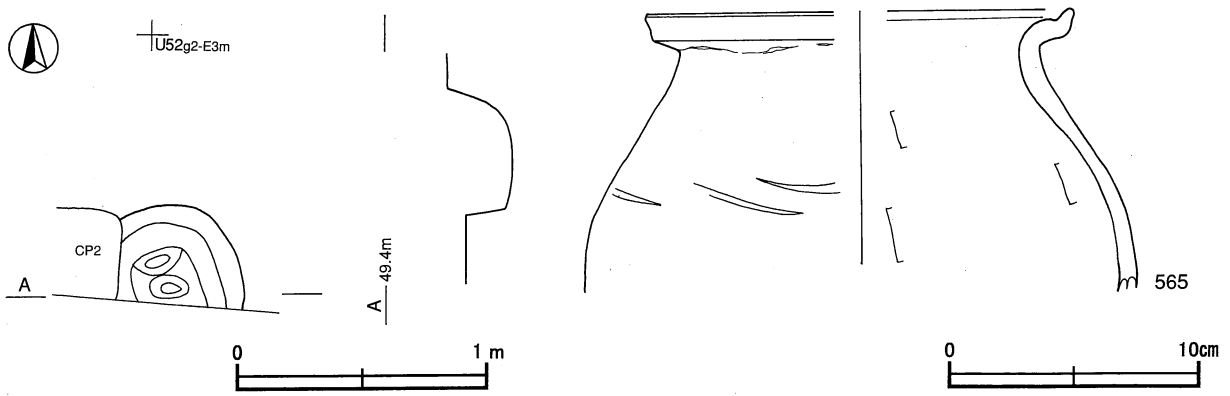
第18号鋳造関連土坑（第240図）

位置　東区北東部のU52g2区に位置し，台地の北西から南東に下がる微斜面部に立地している。

重複関係　第２号鋳造関連土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第２号鋳造関連土坑に掘り込まれており，確認された規模は長径0.64m，短径0.40mで，不整楕円形あるいは不整円形と推測される。深さは25cmで，断面がU字状で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－88°－Eである。

覆土　第２号鋳造関連土坑の一部と考え，調査を進めたため，土層は図示できるものがないが，人為堆積の状況を示している。



第240図　第18号鋳造関連土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片１点（甕）が本跡の下位から出土している。565は本跡の下位から出土している。

所見　覆土は砂粒を中心とした焼土ブロック・炭化物が混じった層で，鋳造に関連した土坑と考えられる。時期は本跡の下位から平安時代の土師器甕片が出土していることと，周囲にある同種類の遺構と類似していることから中世と考えられる。

第18号鋳造関連土坑出土遺物観察表（第240図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
565	土師器	甕	[16.7]	(11.2)	－	長石･石英･雲母	にぶい褐	普通	体部内外面ヘラナデ	覆土中	10%

ウ　方形竪穴遺構

第10号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央２区東部のU49f１区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第11号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。重複関係にある第12・13号方形竪穴遺構との重複部分は撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.26m，東西軸1.84mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは18cmで，東壁が直立し，南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN－0°である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。北部の中央部に長径60cm，短径44cmの楕円形のくぼみがあり，深さ５cmほどで，底面及びその周囲に焼土の広がりが確認された。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　単一層である。残存部分がロームブロックを含む堆積状況から人為堆積である。

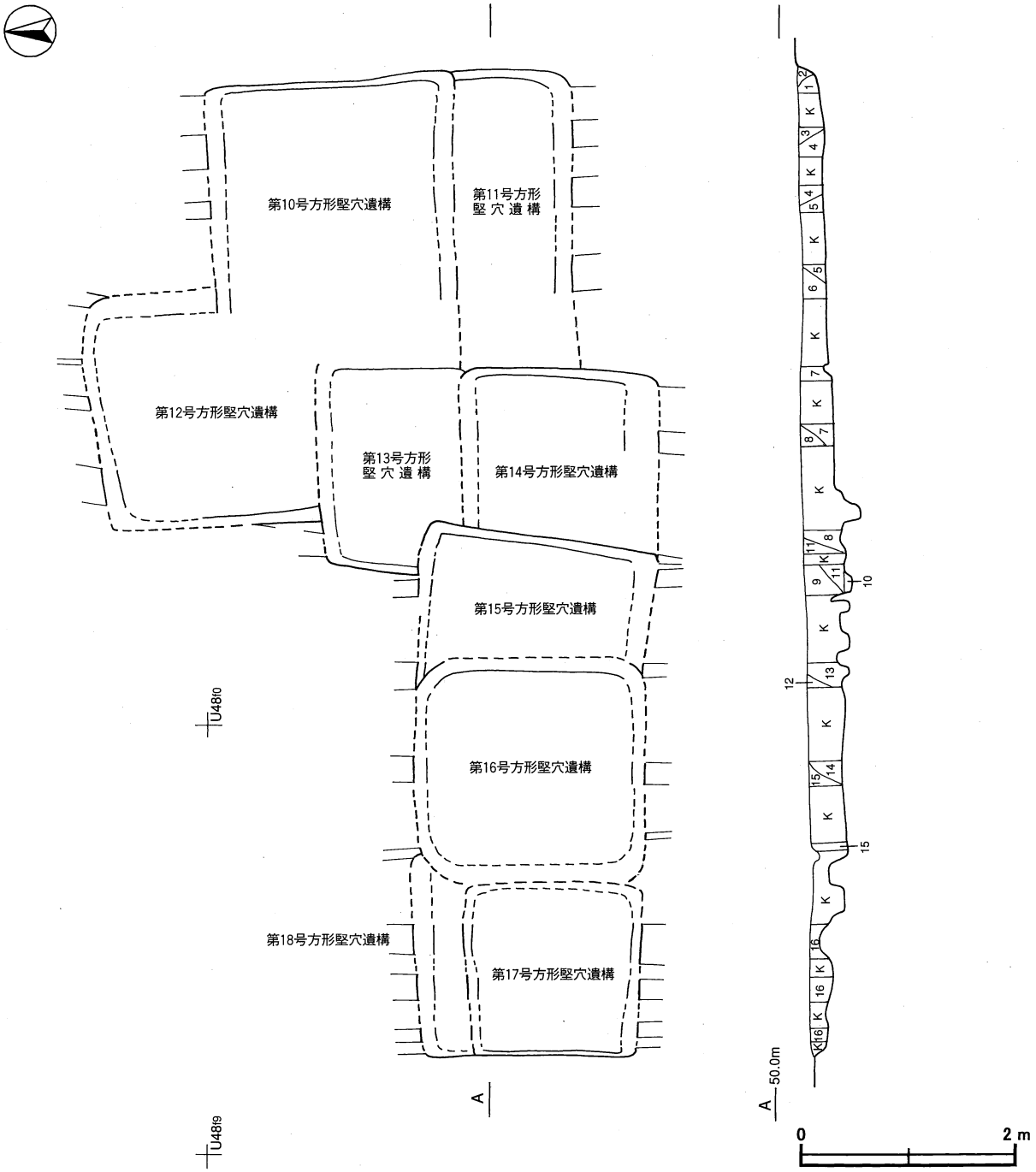
遺物出土状況　土師器片８点(坏１，甕７)，須恵器片１点(坏)，炉壁片739.8g，鉄滓3233.7g(製錬滓1360.9g，炉内溶解物1791.0g，流動滓13.0g，白色滓68.8g)，粘土塊105.7g，砂鉄552.0g，礫22点（被熱痕あり）が全域から散在した状態で出土している。出土遺物は細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。４m北に中世と推定される第７号溝跡があり，出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。第７号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第11～18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性があり，本跡の覆土から鋳造に関係すると考えられる白色滓以外に精錬滓が多量に出土していることから，鋳造だけでなく，製鉄も行われていた可能性がある。また，北部中央部のくぼみに確認された焼土の広がりが，炉の痕跡の可能性がある。

第11号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央２区東部のU49f１区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第10・14号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第12・13号方形竪穴遺構との重複部分は撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。



第241図　第10～18号方形竪穴遺構実測図

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.10m，東西軸2.74mで，方形あるいは長方形と推測される。深さは17cmで，壁が外傾して立ち上がっている。長軸方向である東西軸はN－85°－Eである。

床　ほぼ平坦で，遺存している部分は踏み固められているので，全体的に踏み固められていたと推定される。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	
3	褐　色	ロームブロック少量	
4	褐　色	ロームブロック少量	
5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	
6	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況　炉壁片537.0ｇ，鉄滓1537.6ｇ（精錬滓762.7ｇ，炉内溶解物729.0ｇ，流動滓12.0ｇ，白色滓33.9ｇ），羽口片115.0ｇ，鋳型片13.9ｇ，粘土塊54.8ｇ，鉄製品３点（不明），砂鉄962.0ｇ，礫２点（被熱痕あり）が出土している。出土遺物は細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。４ｍ北に中世と推定される第７号溝跡があり，出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。本跡から羽口片や鋳型片や白色滓が出土していることから，鋳造が行われ，遺構としては確認できなかったが溶解炉が本跡に付設されていた炉の可能性がある。また，第10号方形竪穴遺構同様に精錬滓が多量に出土していることから，鋳造だけでなく，製鉄または鍛冶も行われていた可能性もある。

第12号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央２区東部のＵ48ｅ0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第13号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第10号方形竪穴遺構との重複部分は撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.00ｍ，東西軸2.22ｍで，方形あるいは長方形と推測できる。深さは32㎝で，北壁が外傾して立ち上がり，確認された他の壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方向である東西軸はＮ－90°－Ｅである。

床　ほぼ平坦で，遺存している部分は踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　単一層である。ロームブロックを含む人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片３点（甕），須恵器片１点（長頸壺），炉壁片1165.7ｇ，鉄滓6946.9ｇ（精錬滓4084.4ｇ，炉内溶解物2753.0ｇ，流動滓24.6ｇ，白色滓120.9ｇ），羽口片318.2ｇ，鋳型片133.7ｇ，粘土塊187.1ｇ，砂鉄798.0ｇ，礫19点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。出土遺物は細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。４ｍ北に中世と推定される第７号溝跡があり，出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。第７号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第10・11・13～18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性があり，鋳造に関係する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから，鋳造だけでなく，製鉄も行われていた可能性がある。

第13号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央２区東部のＵ48ｆ0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第12号方形竪穴遺構を掘り込み，第14・15号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第10・11号方形竪穴遺構との重複部分は撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.32m，東西軸1.90mで，方形あるいは長方形と推測できる。深さは35cmで，確認された壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸方向はN－87°－Eである。

床　ほぼ平坦で，遺存している部分は踏み固められているので，全体的に踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　ロームブロックを含む単一層で，人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片９点（甕），陶器片１点（碗），炉壁片1219.7g，羽口片204.0g，鉄滓5773.9g（精錬滓4504.2g，炉内溶解物1151.6g，流動滓34.9g，白色滓83.2g），鋳型片77.2g，粘土塊87.8g，砂鉄157.0g，礫20点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。出土遺物は細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。４m北に中世と推定される第７号溝跡があり，出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。第７号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第10～12・14～18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。また，本跡の覆土から鋳造に関係する遺物以外に精錬滓も多量に出土していることから，鋳造だけでなく，製鉄・鍛冶も行われていた可能性がある。

第14号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央２区東部のU48f0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第13号方形竪穴遺構を掘り込み，第15号方形竪穴遺構に掘り込まれている。重複関係にある第10・11号方形竪穴遺構との重複部分がトレンチャーによる撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.84m，東西軸1.66mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは35cmで，南壁は緩やかな傾斜で立ち上がり，確認された他の壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸はN－10°－Eである。

床　ほぼ平坦で，遺存している部分は踏み固められているので，全体的に踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　２層からなる。焼土粒子・ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（甕），炉壁片982.0g，羽口片132.4g，鉄滓4910.4g（炉内溶解物4821.3g，流動滓27.2g，白色滓61.9g），鋳型片5.5g，粘土塊26.5g，鉄製品１点（不明；9.3g），砂鉄1699.0g，礫４点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。４m北に中世と推定される第７号溝跡があり，出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。第７号溝跡に投棄されていた炉壁片は本跡及びその周辺に広がる第10～12・14～18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。また，本跡の覆土から鋳造に関係する遺物が多量に出土していることから，鋳造が行われていたと考えら

れる。

第15号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央２区東部のU49f0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第13・14号方形竪穴遺構を掘り込み，第16号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.20m，東西軸1.22mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは16cmで，東壁が直立し，南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN－0°である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　４層からなる。焼土粒子やロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

8　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物微量
10　暗赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
11　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況　炉壁片3123.3g，羽口片915.1g，鉄製品４点（不明；86.0g），鉄滓5696.6g（製錬滓3190.7g，炉内溶解物2310.0g，流動滓33.9g，白色滓157.0g，コバルト色滓5.0g），粘土塊94.8g，砂鉄1581.0g，礫２点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は４m北にある第７号溝跡から出土している鋳造関連遺構の炉壁片や鉄滓・被熱痕のある礫などは南部から投棄された様相が見られることから，南部に位置する本跡及びその周辺に広がる第10～14・16～18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。また，遺存状態が不良で，さらに出土土器が少なく，すべてが細片であるため，時期判断は困難であるが，第７号溝跡に投棄されたものが，本跡周辺の方形竪穴遺構から出土していると考えると，中世の可能性がある。

第16号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央２区東部のU48f9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第15・18号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。重複関係にある第17号方形竪穴遺構と重複部分が撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸2.10m，東西軸2.08mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは18cmで，東壁が直立し，南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN－0°である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　４層である。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

12　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
13　暗赤褐色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化物・砂粒微量
14　暗赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化物・砂粒微量
15　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　炉壁片2861.0g，羽口片1022.8g，鉄製品２点（不明；26.2g），鉄滓11523.8g（製錬滓7068.7g，炉内溶解物4138.5g，流動滓49.5g，白色滓267.1g），鋳型片17.1g，粘土塊109.8g，砂鉄5816.0gが

出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり，出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。本跡及びその周辺に広がる第10～15・17・18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。鋳造に関係する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから，鋳造だけでなく，製鉄も行われていた可能性がある。

第17号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央2区東部のU48f9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第18号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。重複関係にある第16号方形竪穴遺構の重複部分がトレンチャーによる撹乱を受けているため，新旧関係は不明である。

規模と形状　撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.60m，東西軸1.60mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは38cmで，東側が直立し，南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN－0°である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　ロームブロックを含む単一層で，人為堆積である。

土層解説
16　暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　炉壁片300.0g，羽口片32.5g，鉄滓1669.5g（製錬滓1242.7g，炉内溶解物369.0g，白色滓57.8g），粘土塊31.5g，砂鉄723.0gが出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。4m北に中世と推定される第7号溝跡があり，出土している鋳造関係遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。本跡及びその周辺に広がる第10～16・18号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。鋳造に関係する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから，鋳造だけでなく，製鉄も行われていた可能性がある。

第18号方形竪穴遺構（第241図）

位置　中央2区東部のU48f9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第11・16・17号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状　撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は南北軸1.84m，東西軸0.48mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは24cmで，東壁が直立し，南・北壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はN－0°である。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　単一層である。ロームブロックを含む単一層で，人為堆積である。

遺物出土状況　炉壁片459.7ｇ，羽口片5.0ｇ，鉄滓2572.6ｇ（製錬滓1630.0ｇ，炉内溶解物821.5ｇ，流動滓20.5ｇ，白色滓100.6ｇ），鋳型片61.0ｇ，粘土塊22.2ｇ，砂鉄849.0ｇ，礫15点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は撹乱を受けているため，遺存状態は非常に悪く，遺構の確認も非常に難しい状態であった。４ｍ北に中世と推定される第７号溝跡があり，出土している鋳造関連遺物が南部から投棄されたものと考えられ，本跡周辺の方形竪穴遺構に伴うものと考えられることから，時期は中世と考えられる。本跡及びその周辺に広がる第10～17号方形竪穴遺構に付設されていた炉の可能性がある。鋳造に関連する遺物以外に精錬滓が多量に出土していることから，鋳造だけでなく，製鉄も行われていた可能性がある。

(8)　排滓場

第１号排滓場（第242・243図）

位置　東区東部のＵ52ｉ1 区からＶ52ｄ9 区に位置し，台地の北西から南東へ下がる微斜面部に立地しており，東部は低部で湿地になっている。

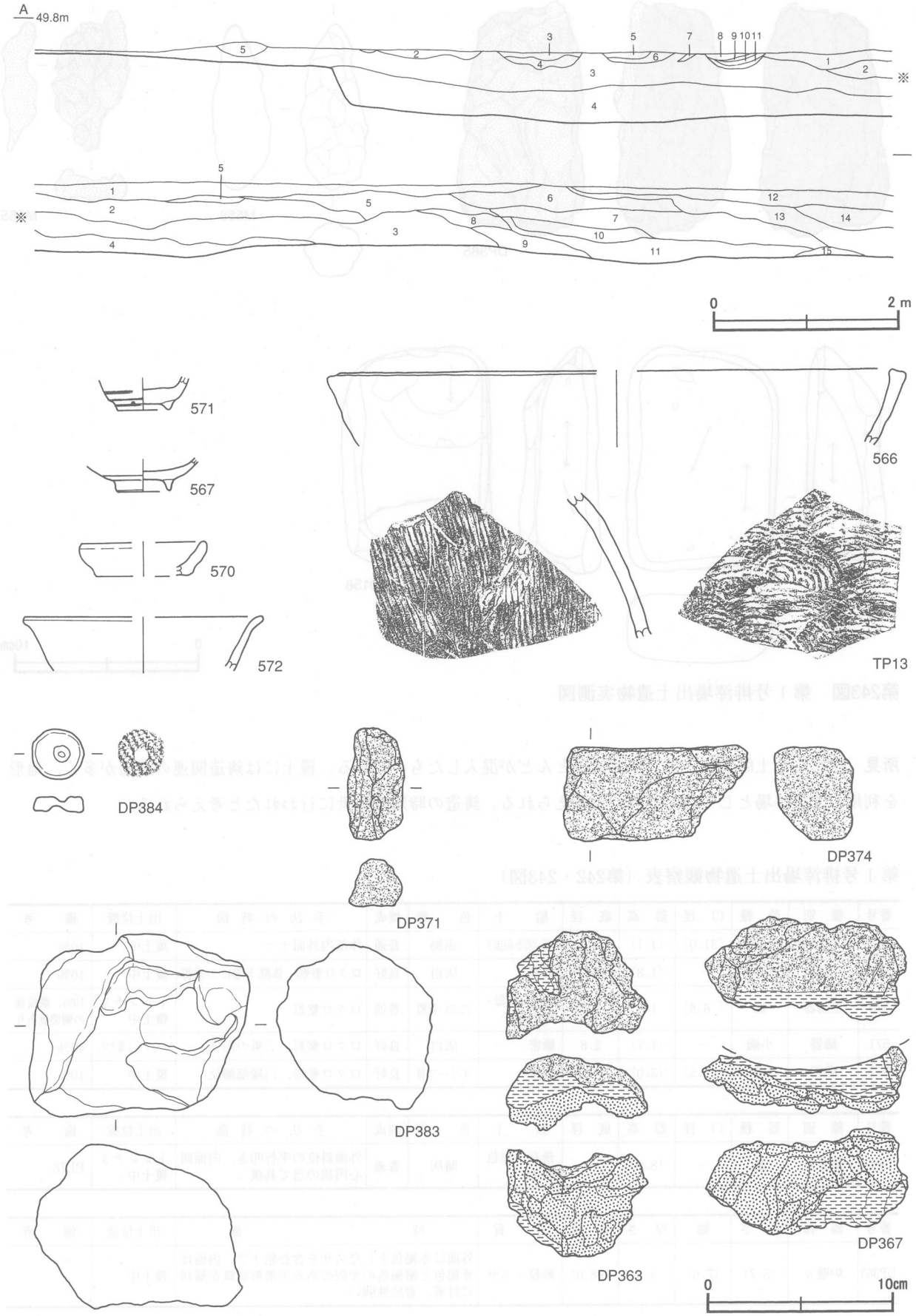
規模と形状　南北20ｍ，東西36ｍの東に広がる扇状を呈した範囲で確認されている。北西から南東になだらかに下がる斜面であり，南東部の調査区域際でも確認されていることから，調査区域の南東側にもその範囲が広がっていると考えられる。浅いところでは確認面から20㎝ほど掘り込むと湧水し，それ以下からも遺物が出土している。

覆土　15層からなる。南北方向にトレンチを設定し，土層観察を行った。表土周辺は近年の整地事業による土層が見られる。大部分が西部からの流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。

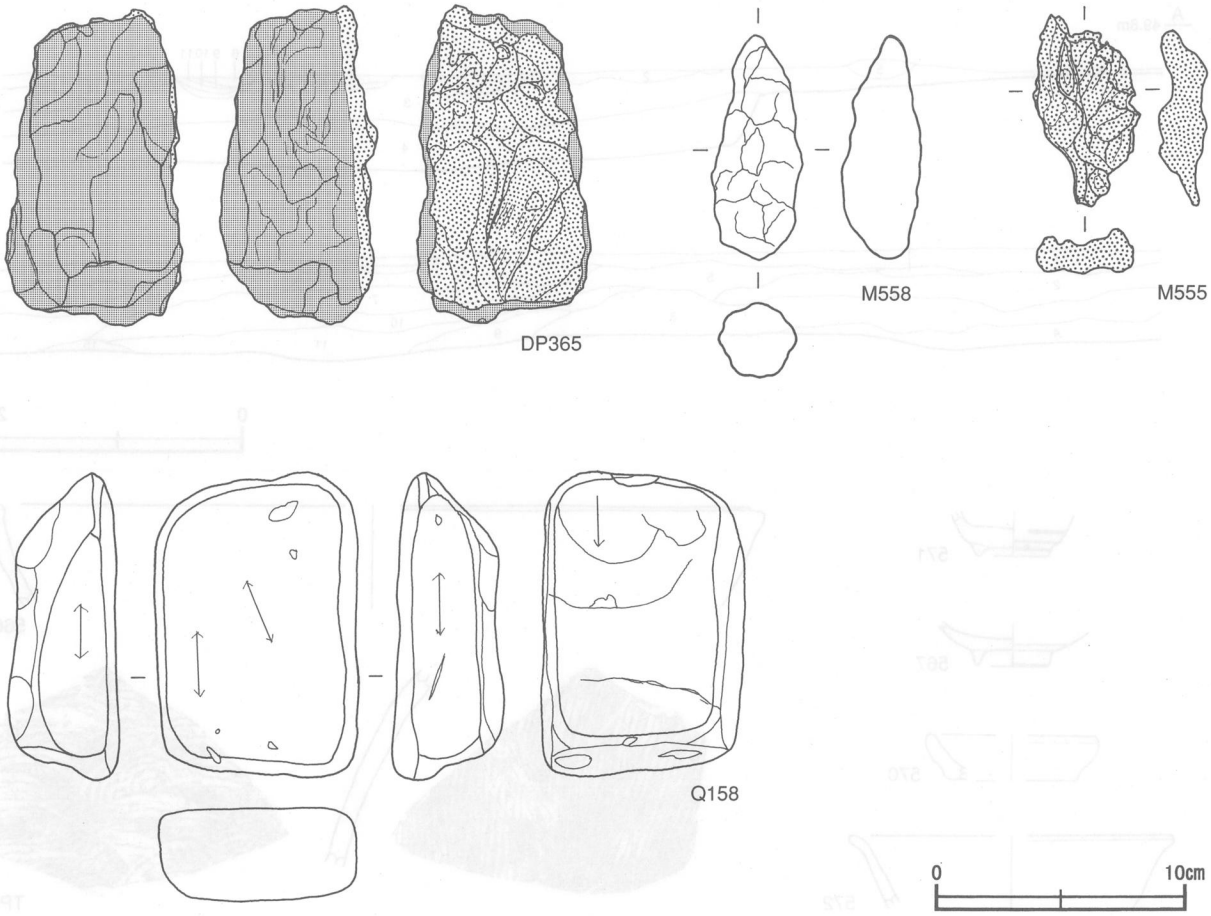
土層解説

1	灰褐色	砂粒中量，焼土ブロック少量，白色粒子微量	
2	暗褐色	焼土ブロック少量	
3	黒褐色	焼土粒子微量	
4	黒褐色	焼土粒子・白色粒子微量	
5	橙色	焼土ブロック中量，炭化物少量，砂粒微量	
6	灰褐色	焼土ブロック少量，砂粒・鉄滓微量	
7	明褐色	焼土ブロック中量，炭化物少量，砂粒・鉄滓微量	
8	黒褐色	焼土ブロック少量	
9	暗褐色	ローム粒子少量	
10	黒褐色	鉄滓中量，炭化物少量	
11	明赤褐色	焼土粒子少量，砂粒・鉄滓微量	
12	褐色	焼土ブロック少量	
13	暗褐色	鉄滓多量，焼土ブロック少量，炭化物微量	
14	褐色	焼土ブロック少量	
15	黒褐色	焼土ブロック少量，粘土粒子微量	

遺物出土状況　トレンチ１から炉壁片14点（63ｇ），鉄滓５点（129ｇ）〔炉内溶解物１（88ｇ），流動滓１（20ｇ），白色滓３（21ｇ）〕，鋳型片30点（236ｇ），土師器片14点（坏４・甕10），須恵器片６点（坏），灰釉陶器片２点，瓦質土器片２点，礫50点（破砕礫；被熱痕あり），トレンチ２から炉壁片６点（247ｇ），鉄滓８点（65ｇ）〔炉内溶解物４（45ｇ），流動滓４（20ｇ）〕，粘土塊91ｇ，縄文土器片２点（深鉢），土師器片25点（坏２・甕23），須恵器片７点（坏３・蓋１・甕３），瓦質土器片１点，石器２点（敲石），礫11点（破砕礫；被熱痕あり），トレンチ３から炉壁片3275ｇ，鉄滓75点（1362ｇ）〔炉内溶解物13（980ｇ），流動滓58（352ｇ），白色滓４（30ｇ）〕，羽口片２点（47ｇ），粘土塊27ｇ，縄文土器片３点（深鉢），土師器片115点（坏19・甕94・不明２），須恵器片50点（坏13・甕37），灰釉陶器片６点（壺），陶器片８点（椀），磁器片16点（碗９・皿７），石器３点（敲石１・砥石２），瓦片８点（平瓦），銅製品１点（煙管），礫53点（破砕礫；被熱痕あり），トレンチ４から土師器片15点（坏５・甕10），須恵器片３点（坏２・甕１），鉄製品１点（不明），排滓場の覆土中から炉壁片607点（28572ｇ），羽口片122点（2934ｇ），鉄滓475点（16277ｇ）〔炉内溶解物156（14113ｇ），流動滓25（126ｇ），白色滓283（1984ｇ），銅発色滓11（54ｇ）〕，鋳型片916ｇ，粘土塊3432ｇ，土師器片52点（坏19・甕33），須恵器片51点（坏19・甕32），陶器片２点（椀），磁器片３点（碗），瓦片１点（平瓦），礫８点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。DP370は写真と観察表のみを掲載した。



第242図　第１号排滓場・出土遺物実測図



第243図　第１号排滓場出土遺物実測図

所見　出土した土師器片・須恵器片はほとんどが混入したものである。覆土には鋳造関連の遺物が多く，地形を利用して排滓場として使用されたと考えられる。鋳造の時期は中世に行われたと考えられる。

第１号排滓場出土遺物観察表（第242・243図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	土師質土器	内耳鍋	[31.0]	(4.1)	－	長石・金雲母・赤色粒子	赤褐	普通	体部内外面ナデ	覆土中	10%
567	磁器	小碗	－	(1.8)	2.8	緻密	灰白	良好	ロクロ整形，体部下端に二重線	覆土中	10%
570	土師器	皿	[6.6]	1.8	[5.0]	長石・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形	トレンチ３覆土中	10%，焼成後の刺突痕あり
571	磁器	小碗	－	(1.7)	2.8	緻密	灰白	良好	ロクロ整形，三重の円文	トレンチ３覆土中	40%
572	磁器	碗	[12.5]	(3.0)	－	緻密	オリーブ黄	良好	ロクロ整形，口縁部端反	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP13	須恵器	甕	－	(8.0)	－	長石・黒色粒子	暗灰	普通	外面斜位の平行叩き，内面同心円状の当て具痕	トレンチ３覆土中	PL78

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP363	炉壁ヵ	(5.7)	(7.6)	4.0	(98.0)	砂粒・スサ	外面は赤褐色をしたスサを含む粘土で，内面は青褐色と暗褐色の光沢のある半溶解状鉄が層状に付着，着磁性弱い	覆土中	

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
DP365	炉壁	(12.6)	(6.8)	(6.3)	(456.0)	砂粒・スサ	外面はスサを含む粘土で暗青灰色をし，内面は光沢のある暗褐色の半溶解状の鉄で，着磁性弱い，粒状の錆付着	覆土中	PL95
DP367	羽口	(5.7)	(10.7)	(3.4)	(101.0)	砂粒	内面は暗赤褐色をした砂粒入りの粘土でヘラナデ調整，外面は半溶解状鉄が付着し，前方部は暗青灰色をし，着磁性があり，他の部分は黒褐色で流動性が見られ，着磁性がない，内径「19.0」cm	覆土中	
DP370	羽口	(10.9)	(14.1)	(5.2)	(728.0)	雲母・砂粒・スサ	内面は赤褐色をした砂粒を含む粘土で，ヘラナデ調整，外面は黒褐色をした半溶解状鉄付着，内径［9.8］cm	覆土中	実測図無し PL97
DP371	粘土塊	(6.1)	(3.1)	(2.6)	(42.0)	砂粒	2面が剥離，一部がナデ調整	覆土中	
DP374	鋳型	(5.1)	(9.9)	(4.2)	(206.0)	砂粒	全面が赤褐色をし，内面が剥離し，砂粒を含む粘土が露出し，外面はスサ入りの粘土	覆土中	PL92
DP383	粘土塊	(9.8)	(11.8)	(8.8)	(723.0)	長石・石英	灰黄褐色をした粘土塊で，全面が剥離	トレンチ3覆土中	PL96

番号	器　種	径	幅	厚　さ	重　量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
DP384	土器円板	(2.7)	－	0.8	(7.6)	長石・石英・雲母	各辺部研磨，凹部表1か所，裏1か所，未穿孔	トレンチ3覆土中	

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
Q158	砥石	11.1	8.4	3.8	576.1	砂岩	砥面3面，一方向に使用	覆土中	

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
M555	炉内溶解物	7.6	4.3	2.9	44.0	鉄	黒褐色を呈し，流動性が見られ，表面は凹凸あり，側面に空気排出孔あり	覆土中	PL98
M558	鉄塊	8.8	3.6	3.2	101.2	鉄	円錐形，暗褐色を呈し，表面に貫入状にひびが入る	覆土中	PL100

第2号排滓場（第244～246図）

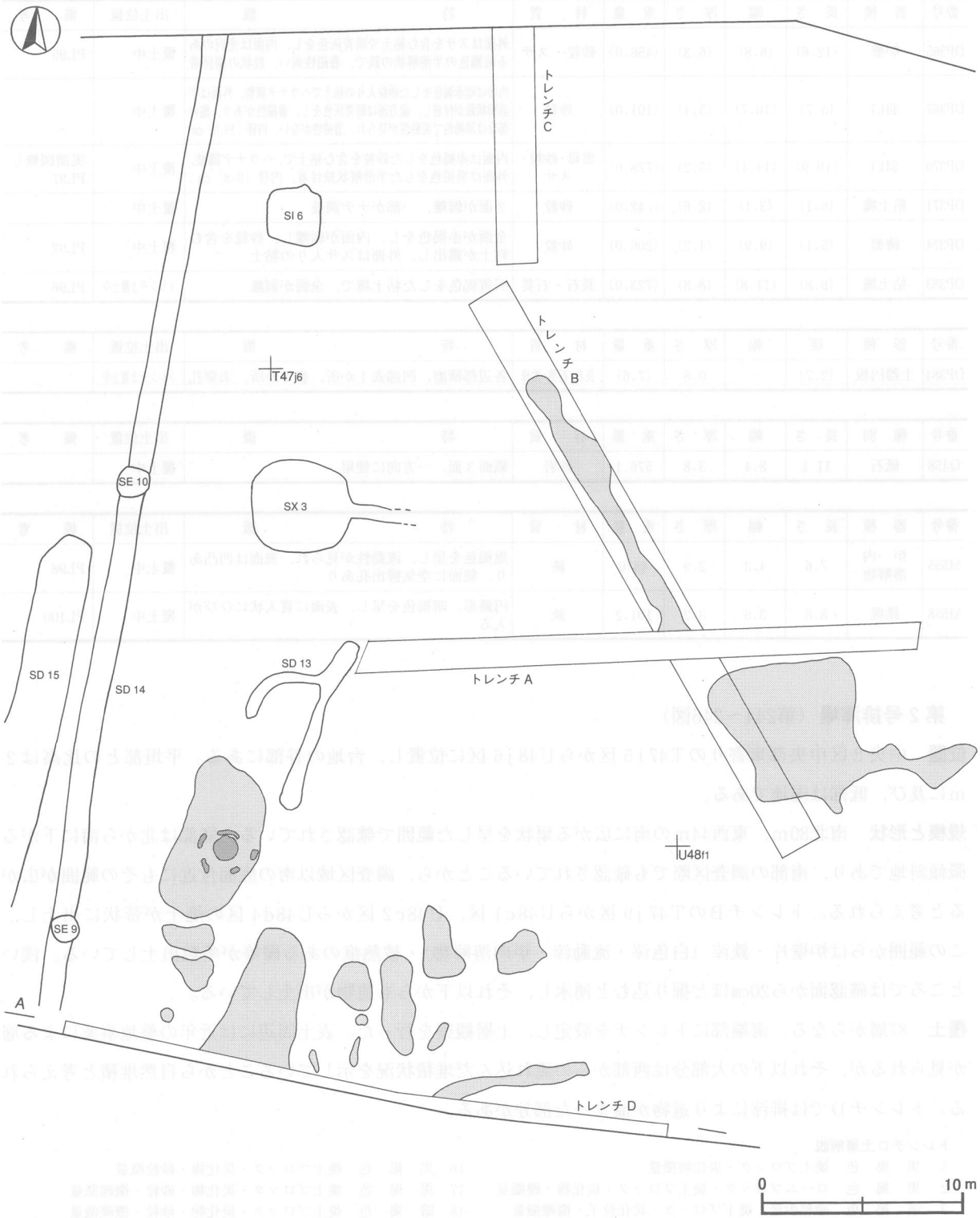
位置　中央2区中央部東寄りのT47i5区からU48j6区に位置し，台地の谷部にある。平坦部との比高は2mに及び，低部は湿地である。

規模と形状　南北80m，東西44mの南に広がる扇状を呈した範囲で確認されている。底部は北から南に下がる微傾斜地であり，南部の調査区際でも確認されていることから，調査区域以南の底面付近にもその範囲が広がると考えられる。トレンチBのT47j9区からU48c1区，U48c2区からU48d4区の焼土が帯状に出土し，この範囲からは炉壁片・鉄滓（白色滓・流動滓・炉内溶解物）・被熱痕のある礫等が多数出土している。浅いところでは確認面から20cmほど掘り込むと湧水し，それ以下からも遺物が出土している。

覆土　87層からなる。南端部にトレンチを設定し，土層観察を行った。表土周辺には近年の整地事業による層が見られるが，それ以下の大部分は西部からの流れ込んだ堆積状況を示していることから自然堆積と考えられる。トレンチDでは排滓により遺物が溜まった部分がある。

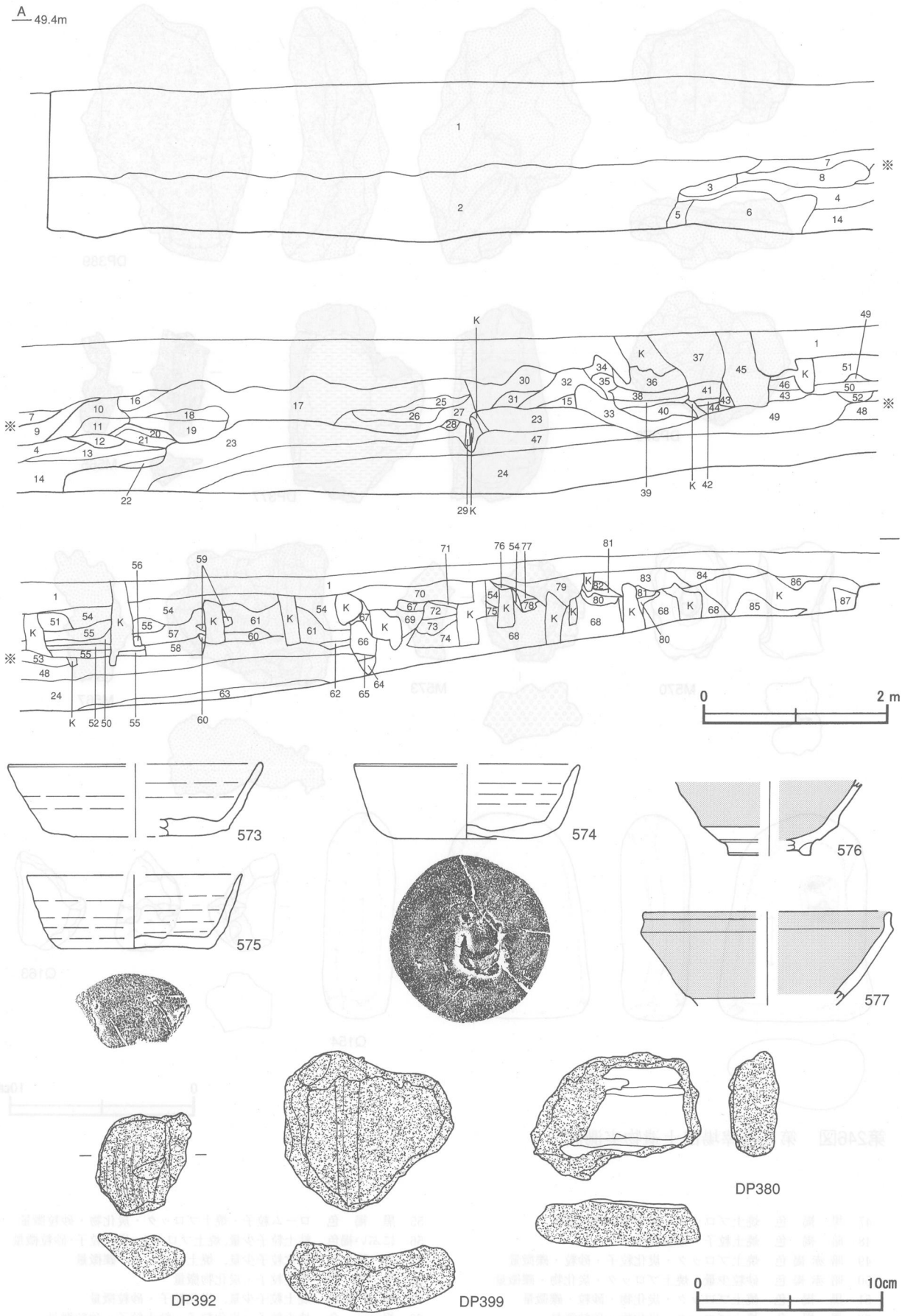
トレンチD土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・礫微量
3　暗　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・微礫微量
4　黒　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化物・微礫微量
5　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
6　極暗褐色　焼土粒子・炭化物・砂粒微量
7　黒　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・微礫微量
8　暗　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・微礫微量
9　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
10　褐　　色　焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
11　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒・微礫微量
12　明　褐　色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・微礫微量
13　黒　褐　色　砂粒・微礫・焼土ブロック・炭化物微量
14　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・砂粒少量，微礫微量
15　暗赤褐色　焼土粒子・砂粒少量，炭化物・粘土粒子微量
16　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
17　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒・微礫微量
18　暗　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒・微礫微量
19　橙　　色　焼土ブロック少量，炭化物・砂粒・微礫微量
20　明　褐　色　微礫少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・鉄滓微量
21　灰　褐　色　焼土粒子・粘土粒子少量，炭化物・砂粒・微礫微量
22　褐　灰　色　焼土ブロック少量
23　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
24　褐　　色　炭化物微量
25　暗　褐　色　砂粒・微礫少量，焼土ブロック・炭化物・鉄滓微量
26　にぶい赤褐色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化物・微礫・鉄滓微量
27　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・微礫微量
28　黒　褐　色　焼土粒子・砂粒微量
29　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
30　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒・微礫微量

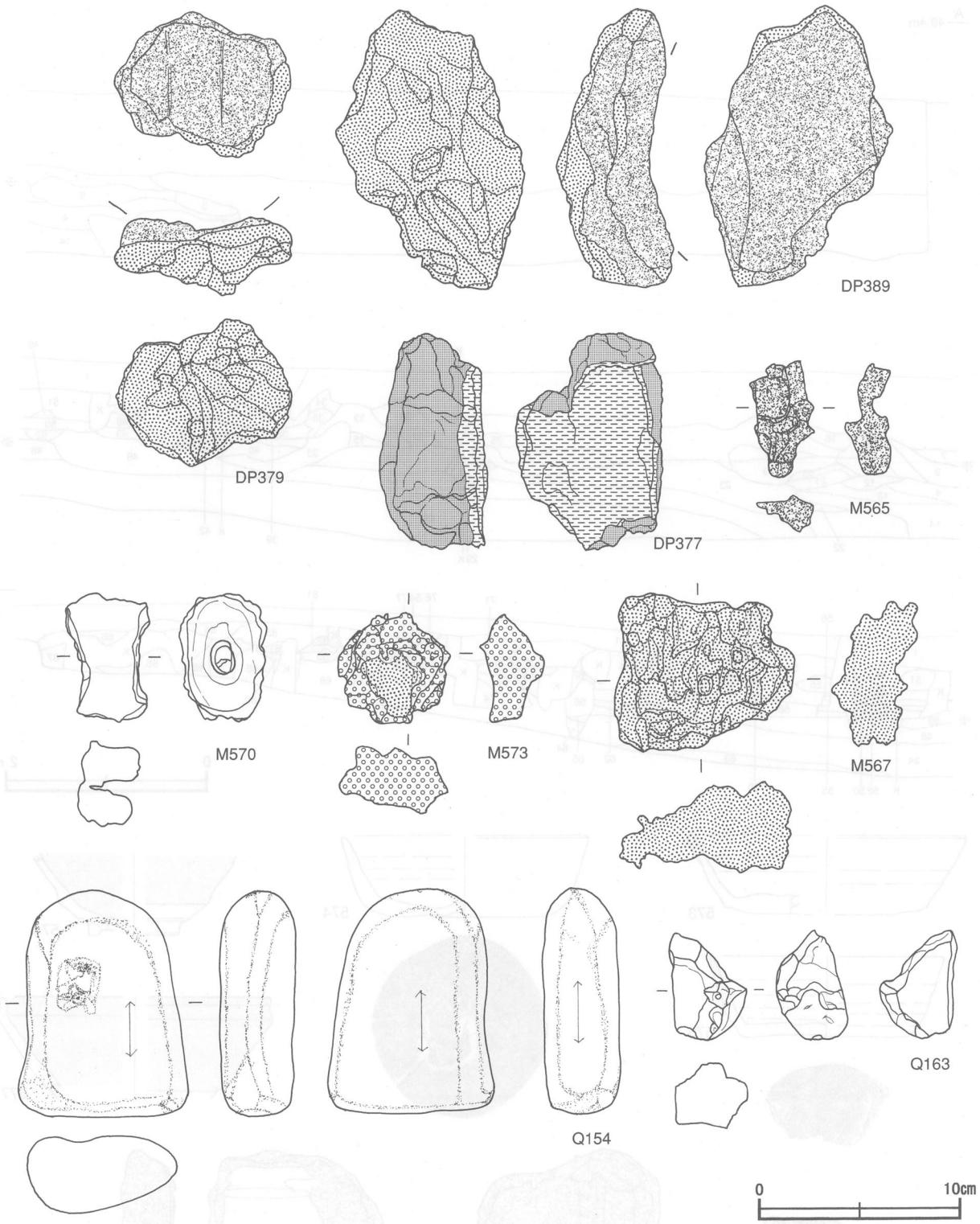


第244図　第２排滓場実測図

31　黒　褐　色　砂粒少量,焼土ブロック・炭化物・微礫・鉄滓微量
32　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒・微礫微量
33　黒　褐　色　砂粒少量,焼土ブロック・炭化物・微礫・粘土粒子微量
34　暗　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒・微礫微量
35　暗　褐　色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子微量
36　褐　　色　焼土粒子・砂粒少量，炭化粒子・微礫・鉄滓微量
37　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・微礫微量
38　赤　褐　色　焼土ブロック・砂粒少量，炭化物・微礫微量
39　赤　褐　色　焼土ブロック少量，炭化物・微礫微量
40　赤　褐　色　焼土ブロック・砂粒少量，炭化物・微礫微量
41　黒　褐　色　焼土粒子・砂粒少量，炭化物・粘土粒子微量
42　黒　褐　色　炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子・微礫微量
43　黒　褐　色　炭化粒子・砂粒少量，焼土粒子微量
44　暗　褐　色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化粒子・微礫微量
45　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒・微礫微量
46　黒　褐　色　焼土粒子・炭化物・砂粒微量



第245図　第２排滓場・出土遺物実測図



第246図　第２排滓場出土遺物実測図

47　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
48　暗　褐　色　焼土粒子・砂粒微量
49　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子・砂粒・礫微量
50　暗赤褐色　砂粒少量，焼土ブロック・炭化物・礫微量
51　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒・礫微量
52　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
53　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
54　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・砂粒・礫微量
55　黒　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
56　にぶい褐色　粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
57　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土ブロック・礫微量
58　黒　褐　色　焼土粒子・炭化物微量
59　暗赤褐色　焼土粒子少量，炭化粒子・砂粒微量
60　褐　　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
61　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
62　黒　褐　色　炭化粒子微量

63 黒 褐 色 ローム粒子微量
64 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
65 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
66 褐 灰 色 粘土粒子少量，焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
67 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
68 暗 褐 色 ローム粒子・炭化物・砂粒微量
69 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物・砂粒微量
70 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
71 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
72 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化物微量
73 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
74 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量
75 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
76 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量
77 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
78 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
79 黒 褐 色 ローム粒子・焼土ブロック・鹿沼パミス微量
80 黒 褐 色 ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
81 黒 褐 色 ローム粒子・焼土ブロック・鹿沼パミス微量
82 黒 褐 色 ローム粒子・炭化物・鹿沼パミス微量
83 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
84 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
85 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
86 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
87 黒 褐 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 トレンチＡから炉壁２点(7186ｇ)，羽口107点(2146ｇ)，鉄滓162点(2089ｇ)〔炉内溶解物63(1530ｇ)，流動滓70(350ｇ)，白色滓29(209ｇ)〕，鋳型２点(507ｇ)，土師器片３点(甕)，須恵器片２点(甕)，礫20点(破砕礫；被熱痕)，トレンチＢから炉壁25点(6239ｇ)，羽口９点(198ｇ)，鉄滓247点(4550ｇ)〔炉内溶解物169(4077ｇ)，流動滓38(190ｇ)，白色滓40(283ｇ)〕，粘土塊306ｇ，縄文土器片２点，土師器片29点(坏６，甕23)，須恵器片21点(坏16，甕５)，陶器片８点(椀６，皿２)，土製品１点(支脚)，瓦片３点(平瓦)，石器２点(砥石)，礫２点(破砕礫；被熱痕)，トレンチＣから炉壁４点(812ｇ)，鉄滓３点(炉内溶解物；67ｇ)，鋳型２点(13ｇ)，縄文土器片３点，土師器片52点(坏４，器台１，甕47)，須恵器片60点(坏29，甕31)，土製品１点(支脚)，礫10点(破砕礫；被熱痕８)，トレンチＤから炉壁95点(22805ｇ)，羽口28点(2618ｇ)，鉄滓478点(10524ｇ)〔炉内溶解物388(9323ｇ)，流動滓９(75ｇ)，白色滓81(1126ｇ)〕，鋳型13点(1263ｇ)，粘土塊93点(2214ｇ)，縄文土器片１点，土師器片21点(坏６，高台付坏２，甕13)，須恵器片30点(坏17，高台付坏４，甕９)，陶器片３点(碗２，不明１)，瓦片１点(平瓦)，石器３点(砥石２，磨石１)，礫60点(破砕礫；被熱痕35，流動滓付着１)，トレンチＥから炉壁185点(4444ｇ)，鉄滓135点(2071ｇ)〔炉内溶解物66(1593ｇ)，流動滓７(39ｇ)，白色滓62(439ｇ)〕，鋳型10点(320ｇ)，粘土塊560ｇ，土師器片22点(坏15，甕７)，トレンチＦから炉壁122点(2945ｇ)，羽口５点(602ｇ)，鉄滓90点(568ｇ)〔流動滓34(172ｇ)，白色滓56(396ｇ)〕，鋳型32点(573ｇ)，粘土塊117ｇ，土師器片１点(坏)，須恵器片１点(甕)，石器１点(砥石)，礫５点(破砕礫；被熱痕)，覆土中から炉壁1452点(34861ｇ)，羽口120点(2405ｇ)，鉄滓1038点(19277ｇ)〔炉内溶解物708(16994ｇ)，流動滓18(94ｇ)，白色滓312(2189ｇ)〕，鋳型15点(270ｇ)，粘土塊1638ｇ，土師器片71点(坏３，甕65，不明３)，須恵器片34点(坏16，甕18)，土師質土器片２点(焙烙)，磁器片４点(碗３，皿１)，石器３点(砥石)，鉄製品１点(不明)，土製品９点(不明)，礫３点(破砕礫；被熱痕)，褐鉄鉱90点(230ｇ) から出土している。573はトレンチＢ，574・575はトレンチＣ，576・577・Ｑ154・Ｑ163はトレンチＤから出土している。DP378・DP395・DP400・Ｑ160は写真と観察表のみを掲載した。

所見 最下層は８世紀代の土器片，下層から上層は中世の鋳造に関係する遺物，最上層は近世の陶磁器片が出土している。鋳造に関係する遺物が多量に出土しているので，排滓場の時期は中世であったと考えられる。また，第７号溝跡の西端で，扇状に焼土や被熱痕のある礫が出土しており，溝を流れたものが堆積したと考えられる。

第２号排滓場出土遺物観察表（第245・246図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
573	須恵器	坏	[13.4]	4.0	[9.8]	長石･雲母･赤色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後雑な削り	トレンチB覆土中	20%
574	須恵器	坏	[12.0]	(4.0)	7.8	長石・白色粒子	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り	トレンチＣ覆土中	75%，底部煤付着 PL76
575	須恵器	坏	[11.5]	4.0	8.0	長石･白色粒子	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	トレンチC覆土中	20% PL76
576	陶器	天目茶碗	－	(4.0)	[4.4]	長石	にぶい赤褐	普通	ロクロ整形，内外面施釉	トレンチD覆土中	10%
577	陶器	天目茶碗	[13.2]	(5.1)	－	緻密	にぶい赤褐	普通	ロクロ整形，内外面施釉	トレンチD覆土中	10%

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
DP377	炉壁	(10.6)	(7.3)	(5.4)	(320.0)	赤色粒子・砂粒・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入り粘土で，その外側に粘土貼り付け暗褐色化している，内面は灰白色をした半溶解状鉄で，表面に多数の空気排出孔あり	覆土中	PL95
DP378	炉壁	(17.0)	(12.5)	(4.7)	(797.0)	砂粒・スサ	外面は火熱により剝落し，内面は半溶解状の鉄で，暗褐色のガラス質で光沢あり	覆土中	実測図無し PL96
DP379	羽口	(7.3)	(8.6)	(4.0)	(113.0)	砂粒	内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で，幅の広いヘラ状工具によるナデ，外面は暗褐色をした半溶解状鉄で，流動による凹凸あり，内径「12.4」cm	覆土中	
DP380	鋳型	(6.9)	(9.1)	(2.6)	(129.0)	砂粒・スサ	内面は暗青灰色をした蝋状のものはわずかに残存し，その下部には赤褐色をした砂粒・スサ入りの粘土に貼り付けられる	覆土中	PL92
DP389	羽口	(13.7)	(9.3)	(5.8)	(353.0)	砂粒	粘土と半溶解状鉄の互層になり，内面は赤褐色をした砂粒入りの粘土で，ナデ調整，外面は暗褐色をした半溶解状鉄で，流動による凹凸あり	覆土中	PL97
DP392	鋳型ヵ	(5.5)	(5.1)	(2.4)	(2.4)	土	凹面に5条の線状の浮彫り，凸面に白色粘土付着	覆土中	PL92
DP395	羽口	(10.6)	(10.4)	(3.8)	(338.0)	砂粒・スサ	内面は砂粒を含む粘土で，ナデ調整，その下部はスサを含む粘土，外面は半溶解状の鉄が付着	覆土中	実測図無し PL97
DP399	羽口	(8.6)	(9.2)	(3.8)	(199.0)	砂粒	全面が赤褐色をし，内面はヘラ状工具によるナデ，外面はナデ，内径「12.6」cm	覆土中	
DP400	鋳型	(8.6)	(3.7)	(2.35)	(82.0)	砂粒・スサ	内面は灰色の蝋状のもの付着，その下部は砂粒を含む粘土，その下部はスサを含む粘土で3層である	覆土中	実測図無し PL92

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
Q154	砥石	11.1	8.4	3.8	576.1	砂岩	砥面3面，一方向に使用	ﾄﾚﾝﾁD覆土中	
Q160	砥石	10.8	7.1	4.1	435.0	泥岩	砥面2面，一方向に使用	覆土中	煤付着，実測図なし PL86
Q163	礫	5.3	3.8	3.5	215.0	泥岩	破砕礫，流動滓の付着	ﾄﾚﾝﾁD覆土中	PL87

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
M565	炉内溶解物	(5.6)	(3.3)	(2.3)	(18.2)	鉄	コバルト色を呈し，流動性が見られる	覆土中	PL98
M567	炉内溶解物	(7.9)	(9.0)	(4.5)	(205.1)	鉄	暗褐色を呈し，表面が瘤状の突起による凹凸あり	覆土中	PL98
M570	鉄滓	6.4	4.2	4.3	247.0	鉄	中央部に貫通孔あり，凹面がU字状にくぼむ	覆土中	
M573	白色滓	5.4	5.6	3.5	54.0	鉄	白色を呈し，一部破損による黒褐色面が露出	覆土中	PL99

4　近世の遺構と遺物

今回の調査で，墓壙50基，井戸跡4基，土坑1基を確認した。以下，確認された遺構と遺物について記述する。

(1)　墓壙

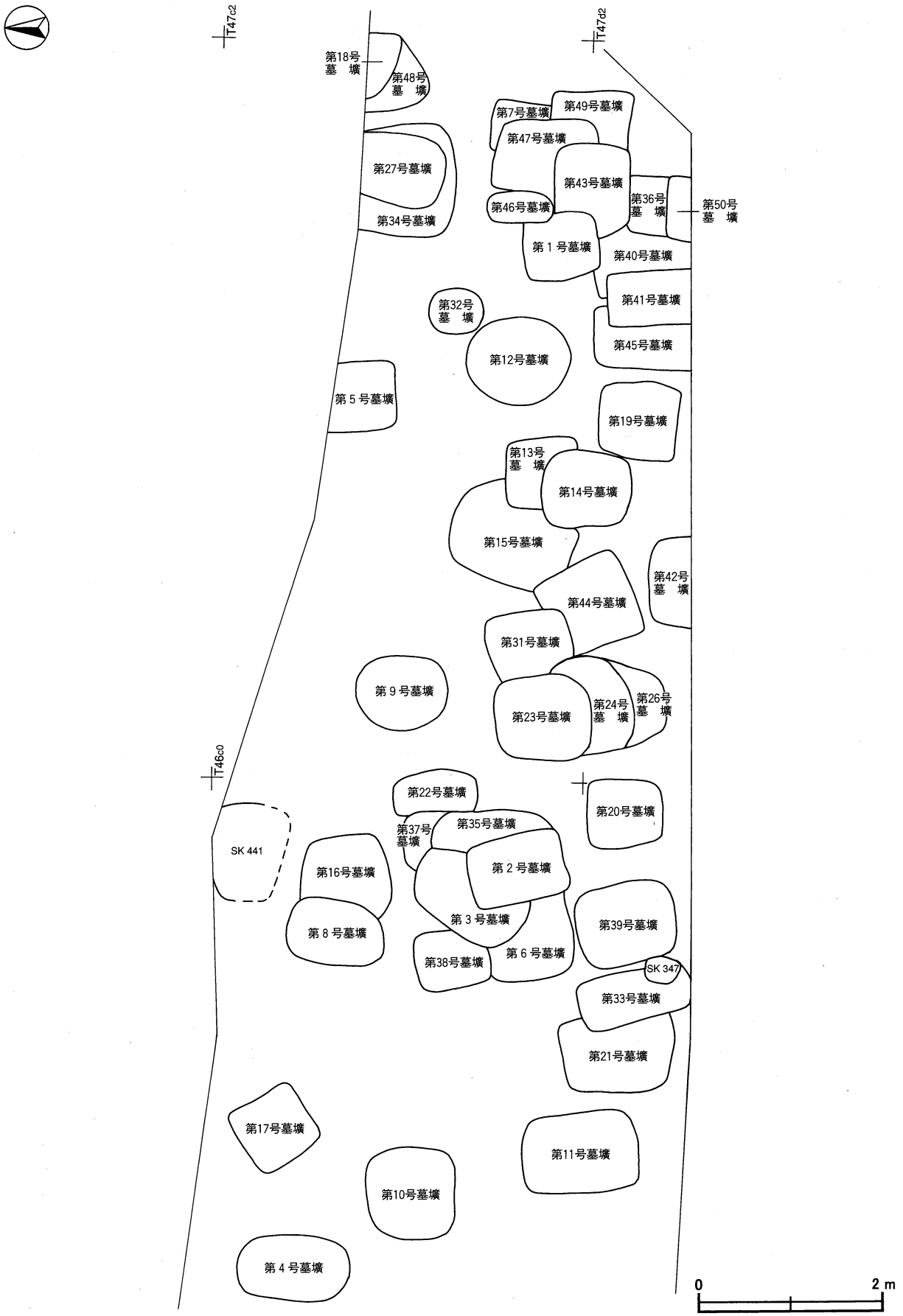
第1号墓壙（第248図）

位置　中央1区東部のT47c1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第40・43号墓壙を掘り込み，第46号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　長軸0.82m，短軸0.75mの方形で，深さは130cmであり，底面はわずかに凹凸で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－10°－Wである。

覆土　7層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。鹿沼パミス層まで掘り込んでいる。


T47c2
T47d2
T46c0
第18号墓壙
第48号墓壙
第7号墓壙
第49号墓壙
第47号墓壙
第27号墓壙
第43号墓壙
第36号墓壙
第50号墓壙
第46号墓壙
第34号墓壙
第1号墓壙
第40号墓壙
第41号墓壙
第32号墓壙
第45号墓壙
第12号墓壙
第5号墓壙
第19号墓壙
第13号墓壙
第14号墓壙
第15号墓壙
第42号墓壙
第44号墓壙
第31号墓壙
第9号墓壙
第23号墓壙
第24号墓壙
第26号墓壙
第22号墓壙
第20号墓壙
第37号墓壙
第35号墓壙
SK 441
第16号墓壙
第2号墓壙
第3号墓壙
第39号墓壙
第8号墓壙
第38号墓壙
第6号墓壙
SK 347
第33号墓壙
第21号墓壙
第17号墓壙
第11号墓壙
第10号墓壙
第4号墓壙
0
2 m

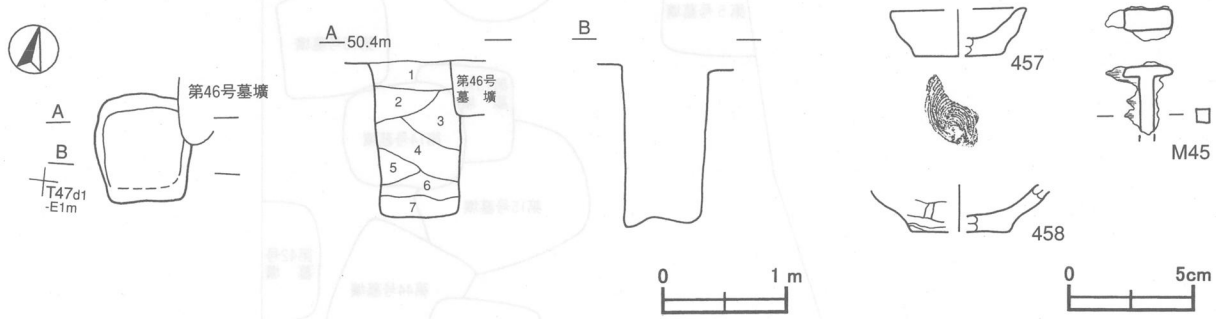
第247図　墓壙全体図

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック多量，鹿沼パミス中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
3　褐　　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量
4　暗　褐　色　鹿沼パミス少量，ロームブロック・粘土ブロック微量
5　黒　褐　色　粘土ブロック少量，ロームブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子・黒色粒子微量

遺物出土状況　土師質土器片２点（小皿），鉄製品１点（釘），人骨片が覆土中から出土している。このほかには，混入した弥生土器片１点，土師器片５点，須恵器片１点が出土している。457・458・M45は覆土中から出土している。人骨片は部位が不明である。M45は棺に使用されたものと考えられる。M45は本跡に伴う遺物である。

所見　周辺の墓壙と形状が類似していることと，457・458が近世の土師質土器小皿であることと，18世紀以降と推定される第43号墓壙を掘り込んでいるので，時期は18世紀以降と考えられる。



第248図　第１号墓壙・出土遺物実測図

第１号墓壙出土遺物観察表（第248図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
457	土師質土器	小皿	[5.2]	1.9	3.5	石英	にぶい褐	普通	体部内外面ナデ，底部回転糸切り	覆土中	40% 煤付着
458	土師質土器	小皿	－	(1.6)	[4.0]	白色粒子	橙	普通	体部外面ヘラナデ，底部回転糸切り後ナデ	覆土中	40%

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M45	釘	(2.8)	2.1	0.6	(5.3)	鉄	角釘，先端部欠損	覆土中	

第２号墓壙（第249図）

位置　中央１区東部のＴ46ｃ9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第３・６・35号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.04m，短軸0.75mの長方形で，深さは94cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－15°－Ｗである。

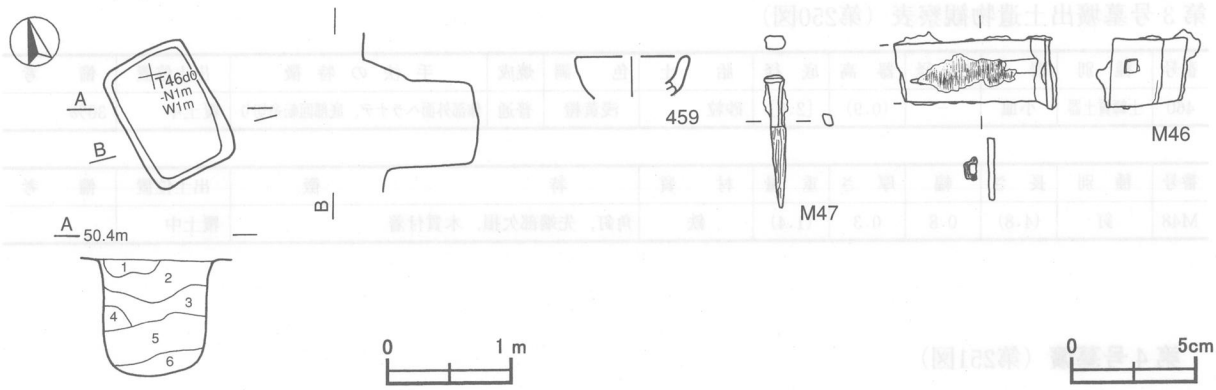
覆土　６層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　黄　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス多量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子・鹿沼パミス多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師質土器４点（小皿），鉄製品３点（釘１・不明２），粘土塊４，礫１点（円礫）が覆土中から出土している。このほかには，混入した縄文土器片１点，土師器片29点，須恵器片10点が出土している。459・M46・M47は覆土中から出土している。本跡に伴う遺物はない。

所見　時期は，周辺の墓壙と形状が類似していることと，近世の土師質土器小皿が出土していることから，近世と考えられる。



第249図　第２号墓壙・出土遺物実測図

第２号墓壙出土遺物観察表（第249図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
459	土師質土器	小皿	[4.3]	(1.6)	－	石英	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M46	飾金具ヵ	(6.4)	2.8	0.3	(17.4)	鉄	角釘状の部分に木質付着	覆土中	PL88
M47	釘	5.1	0.8	0.4	(3.0)	鉄	角釘，先端部に木質付着	覆土中	

第３号墓壙（第250図）

位置　中央１区東部のT46c9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

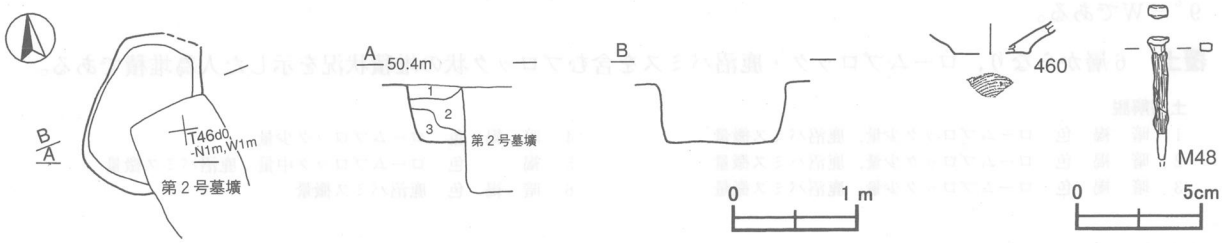
重複関係　第６・35・37・38号墓壙を掘り込み，第２号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　長軸1.26m，短軸0.74mの隅丸長方形で，深さは48cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－35°－Eである。

覆土　３層からなり，ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック中量，骨片
3　褐色　ロームブロック少量



第250図　第３号墓壙・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿），鉄製品１点（釘），炭化材が覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片15点，須恵器片６点が出土している。460・M48は覆土中から出土しており，本跡に伴う遺物はない。

所見　時期は，周辺の墓壙と形状が類似していることと，近世の土師質土器小皿が出土していることから，近世と考えられる。

第３号墓壙出土遺物観察表（第250図）

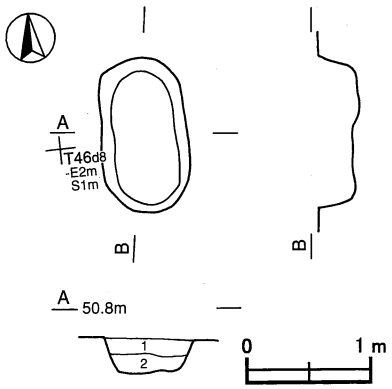
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
460	土師質土器	小皿	－	(0.9)	[2.9]	砂粒	浅黄橙	普通	体部外面ヘラナデ，底部回転糸切り	覆土中	30%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M48	釘	(4.8)	0.8	0.3	(1.4)	鉄	角釘，先端部欠損，木質付着	覆土中	

第４号墓壙（第251図）

位置　中央１区東部のＴ46ｃ8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長径1.22m，短径0.69mの楕円形で，深さは33cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－３°－Ｅである。



覆土　２層からなり，ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック少量
2　暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　須恵器片３点，炉壁１点が出土している。出土遺物はすべてが細片で，図示できるようなものはない。

所見　本跡は，骨片は確認できなかったが，周辺遺構の規模と形状から，近世の墓壙の可能性がある。

第251図　第４号墓壙実測図

第５号墓壙（第252図）

位置　調査区の中央１区東部のＴ47ｃ1区に位置し，緩やかな台地平坦部に立地している。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びるため，確認できた南北軸0.66m，東西軸0.73mで，平面形は長方形と推測される。深さは63cmで，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向と推測できる南北軸はＮ－９°－Ｗである。

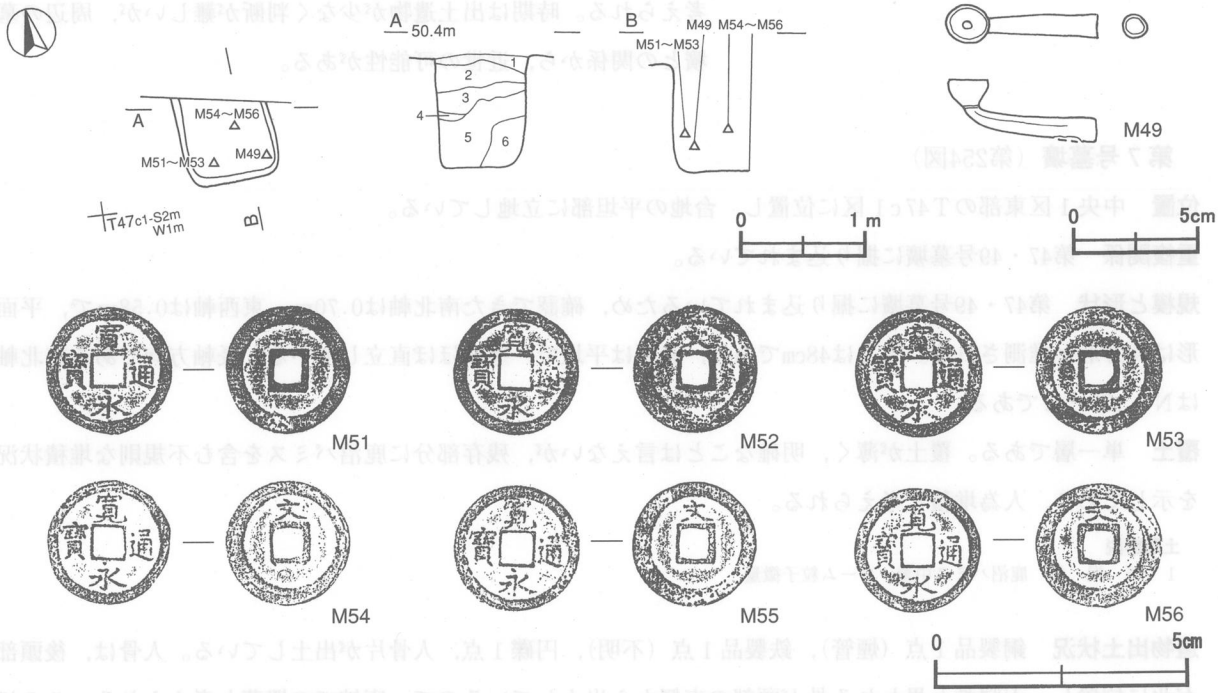
覆土　６層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
2　暗褐色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
3　暗褐色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
4　暗褐色　ロームブロック少量
5　褐色　ロームブロック中量，鹿沼パミス微量
6　暗褐色　鹿沼パミス微量

遺物出土状況　古銭６枚（寛永通寶），銅製品２点（煙管雁首，煙管吸口），鉄製品１点（釘），礫１点（円礫），

木片が出土している。このほかには，混入した土師器片４点，須恵器片１点が出土している。M49は南東部の覆土下層，M51～M53は南西部の覆土下層，M54～M56は中央部の覆土下層から出土している。M49～M56は出土状況から本跡に伴う遺物である。

所見　時期は，六道銭である寛永通寶に背文字に「文」のない新寛永銭であることから，17世紀後半以降で，喫煙習慣のあった人物の墓と考えられる。



第252図　第５号墓壙・出土遺物実測図

第５号墓壙出土遺物観察表（第252図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　　考
M49	煙管雁首	5.9	2.6	1.0	6.0	銅	接合部一部欠損，火皿楕円形	南東部下層	

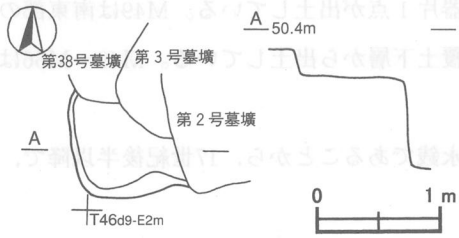
番号	銭　名	径	孔　幅	重　量	初鋳年	材　質	特　　徴	出土位置	備　　考
M51	寛永通寶	2.5	0.6	2.30	1679年	銅	無背文，新寛永	南西部下層	PL89
M52	寛永通寶	2.5	0.6	2.40	1668年	銅	背「文」	南西部下層	PL89
M53	寛永通寶	2.5	0.6	3.20	1679年	銅	無背文，新寛永	南西部下層	PL89
M54	寛永通寶	2.4	0.6	4.16	1668年	銅	背「文」	中央部下層	PL89
M55	寛永通寶	2.5	0.6	3.90	1668年	銅	背「文」	中央部下層	PL89
M56	寛永通寶	2.5	0.6	3.04	1668年	銅	背「文」	中央部下層	PL89

第６号墓壙（第253図）

位置　中央１区東部のＴ46ｃ9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第２・３・38号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　重複関係のため，確認できた南北軸は0.95m，東西軸は0.80mで，平面形は長方形と推測される。深さは22cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾に立ち上がっている。長軸方向である東西軸はＮ－75°－Ｅ



第253図　第６号墓壙実測図

である。

覆土　不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

遺物出土状況　粘土塊２点，鉄滓１点が出土している。このほかには，混入した土師器片９点が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　性格は，周辺の墓壙と形状が類似していることから墓壙と考えられる。時期は出土遺物が少なく判断が難しいが，周辺の墓壙との関係から，近世の可能性がある。

第７号墓壙（第254図）

位置　中央１区東部のＴ47ｃ1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第47・49号墓壙に掘り込まれている。

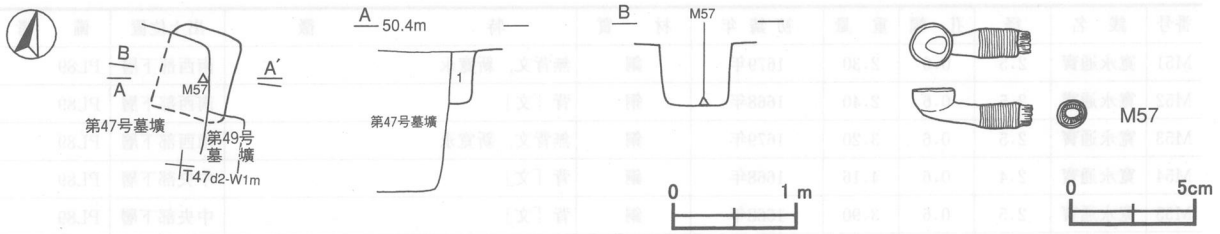
規模と形状　第47・49号墓壙に掘り込まれているため，確認できた南北軸は0.70m，東西軸は0.58mで，平面形は長方形と推測される。深さは48cmであり，底面は平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸はＮ－10°－Ｅである。

覆土　単一層である。覆土が薄く，明確なことは言えないが，残存部分に鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示しており，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　鹿沼パミス中量，ローム粒子微量

遺物出土状況　銅製品１点（煙管），鉄製品１点（不明），円礫１点，人骨片が出土している。人骨は，後頭部が北に位置し，大腿骨と思われる骨が頭部の南側から出土しているので，座棺での埋葬と考えられる。このほかには，混入した土師器片２点が出土している。M57は中央部の底面にある頭骨の脇から出土している。M57は出土状況から本跡に伴う遺物である。

所見　時期は，M57の形状から18世紀以降で，喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。



第254図　第７号墓壙・出土遺物実測図

第７号墓壙出土遺物観察表（第254図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M57	煙管雁首	4.0	1.7	1.1	6.2	銅	羅宇竹管残存，接合部に線刻，火皿部楕円形	中央部床面	

第８号墓壙（第255図）

位置　中央１区東部のＴ46ｃ9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第16号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.06m，短軸0.68mの長方形で，深さは83cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－４°－Ｅである。

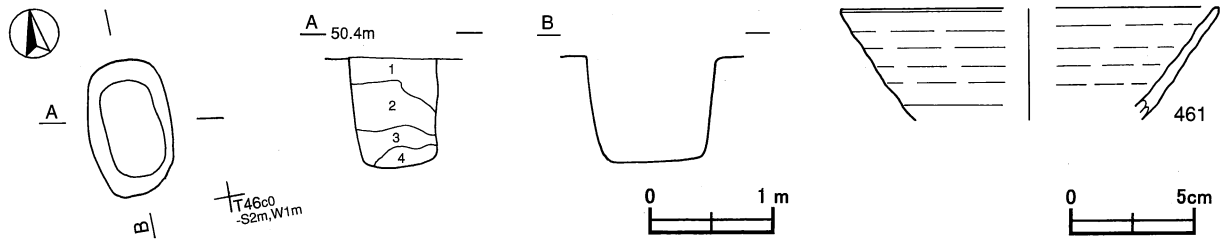
覆土　４層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量，骨片
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片20点（坏１，甕19），須恵器片12点（坏９，甕３），骨片が覆土中から出土している。461は覆土中から出土している。

所見　骨片が確認されており，周囲の墓壙の規模と形状に類似していることから，時期は近世と考えられる。



第255図　第８号墓壙・出土遺物実測図

第８号墓壙出土遺物観察表（第255図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
461	須恵器	坏	[14.8]	(4.4)	－	長石・石英	灰白	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土中	10%

第９号墓壙（第256図）

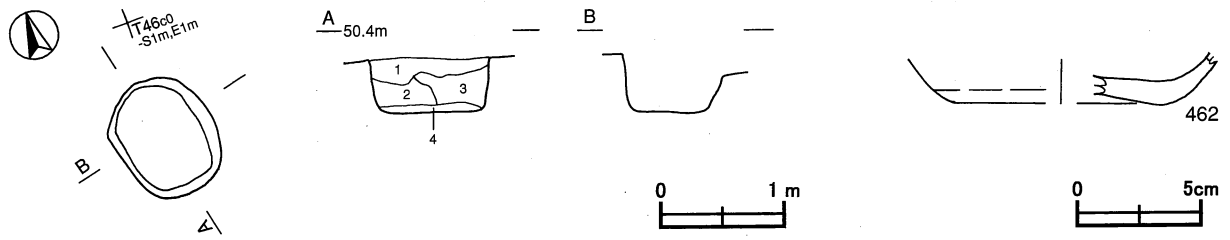
位置　中央１区東部のＴ46ｃ0 区に位置し，台地の緩斜面部に立地している。

規模と形状　長径0.98m，短径0.77mの楕円形で，深さは41cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長径方向はＮ－15°－Ｗである。

覆土　４層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量，焼土ブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子多量



第256図　第９号墓壙・出土遺物実測図

遺物出土状況　粘土塊１点，円礫１点，人骨片が覆土中から出土している。大腿骨の一部が長径方向に延びた状態で出土している。規模から座棺での埋葬と考えられる。このほかには，混入した土師器片12点，須恵器片４点が出土している。462は覆土中から出土し，埋葬の際に混入したものと考えられる。本跡に伴う出土遺物はない。

所見　時期は，形状と周囲の墓壙との関係から，18世紀代と考えられる。

第９号墓壙出土遺物観察表（第256図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
462	須恵器	坏	－	(2.0)	[8.4]	長石	オリーブ灰	普通	底部外面ヘラ削り後ナデ，内面指頭圧痕	覆土中	60% 二次焼成

第10号墓壙（第257図）

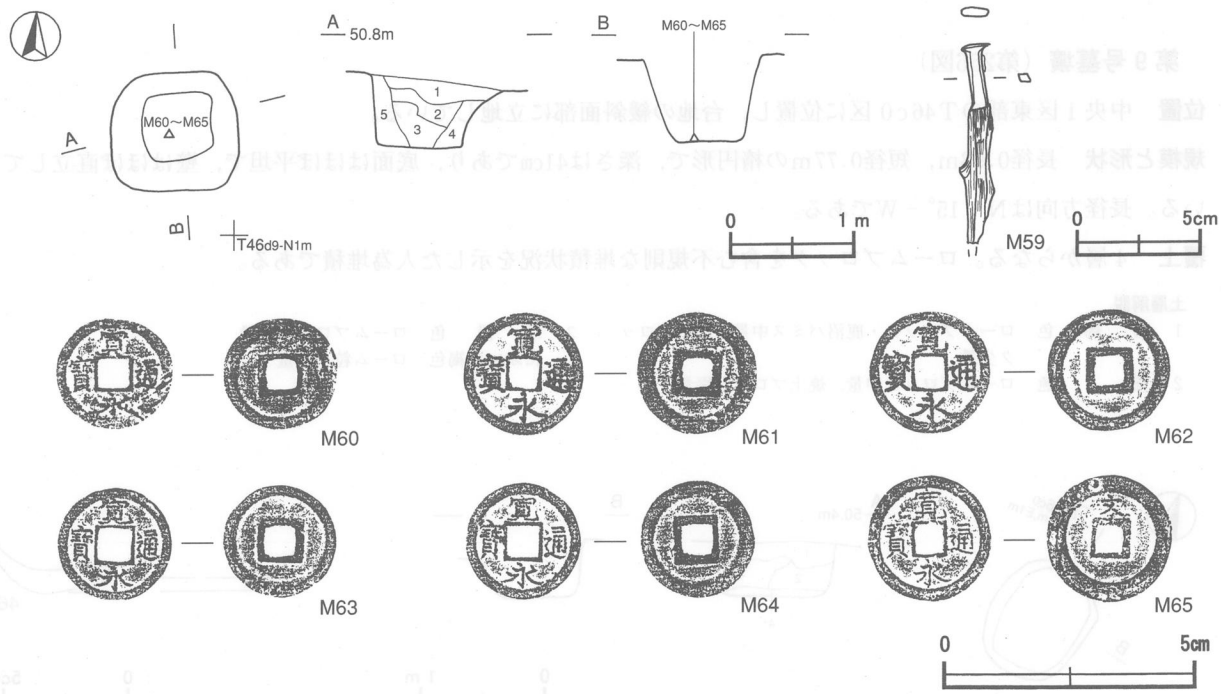
位置　中央１区南西部のＴ46ｃ8区に位置し，台地の緩斜面部に立地している。

規模と形状　長軸1.01m，短軸0.95mの方形である。深さは69cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はＮ－４°－Ｅである。

覆土　５層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黄　褐　色　ローム粒子多量

遺物出土状況　古銭６枚（寛永通寶），鉄製品３点（釘），人骨片，礫７点（破砕礫），炭化材，木片が底面から出土している。人骨は，頭骨が南東部に位置し，上腕骨と大腿骨が中央部に並ぶような状態で出土している



第257図　第10号墓壙・出土遺物実測図

ので，座棺での埋葬と考えられる。破砕礫７点が骨を取り囲むように出土している。このほかには，混入した土師器片７点，須恵器片３点が出土している。M59は覆土中，M60～65は中央部の底面から出土している。M60～M65は本跡に伴う遺物である。

所見　時期は，六道銭である寛永通寶は背文字に「文」のない新寛永銭を含むことから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。人骨を取り囲むように出土している破砕礫は棺を固定するのに使用した可能性が考えられる。

第10号墓壙出土遺物観察表（第257図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M59	釘	(8.0)	1.1	0.4	(8.0)	鉄	角釘，先端部欠損，木質付着	覆土中	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M60	寛永通寶	2.3	0.6	2.22	1697年	銅	無背文，新寛永	中央部床面	PL89
M61	寛永通寶	2.4	0.6	3.20	1636年	銅	無背文，真書，古寛永	中央部床面	PL89
M62	寛永通寶	2.5	0.6	3.52	1636年	銅	無背文，真書，古寛永	中央部床面	PL89
M63	寛永通寶	2.3	0.6	2.60	1697年	銅	無背文，真書，新寛永	中央部床面	PL89
M64	寛永通寶	2.3	0.6	2.22	1697年	銅	無背文，真書，新寛永	中央部床面	PL89
M65	寛永通寶	2.5	0.6	3.54	1668年	銅	背「文」，真書	中央部床面	PL89

第11号墓壙（第258図）

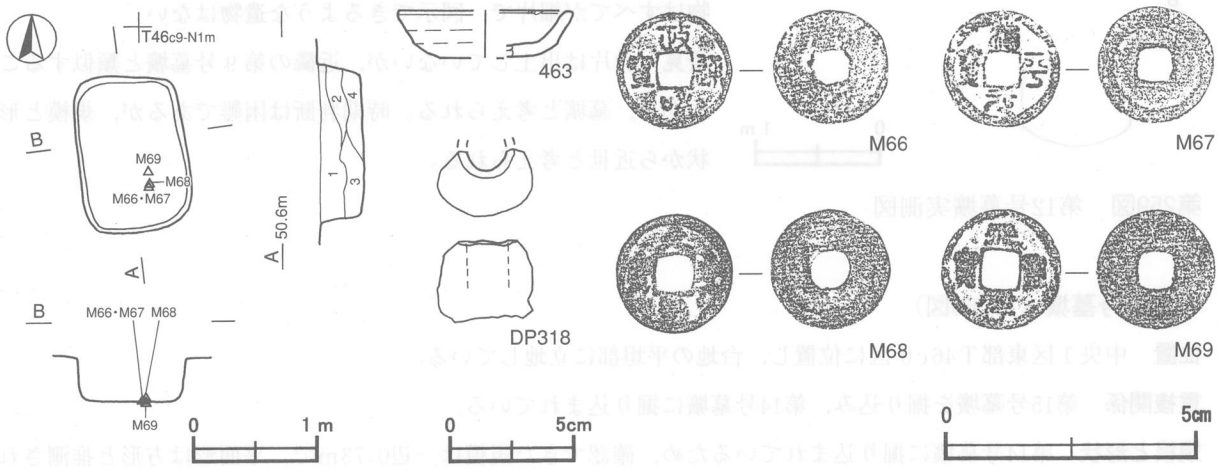
位置　中央１区東部のT46c8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長軸1.25m，短軸0.86mの長方形である。深さは36cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－10°－Wである。

覆土　４層からなり，ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ロームブロック中量
2　暗褐色　ロームブロック中量
3　暗褐色　ロームブロック少量
4　暗褐色　ロームブロック少量，骨片

遺物出土状況　土師質土器２点（小皿），古銭４枚（政和通寶１，治平元寶１，元豊通寶２），人骨片が出土している。人骨は，大腿骨が軸線に平行に出土している。また，古銭が人骨片とともに南東部から出土している。



第258図　第11号墓壙・出土遺物実測図

このほかには，混入した土師器片５点，須恵器片４点（坏１，甕２，錘１），円礫１点が出土している。463・DP318は覆土中から，M66～M69は南東部の底面から出土している。

所見　時期は，南東部の底面から骨片と共に政和通寶などが出土していることから，頭部が南東部に位置していた可能性がある。古銭は六道銭としての性格が考えられる。本邦銭は含まれず，北宋銭を含む渡来銭であることから，時期は17世紀前半以前と考えられる。

第11号墓壙出土遺物観察表（第258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
463	土師質土器	小皿	[6.8]	1.8	[4.6]	砂粒	浅黄	普通	体部内外面ナデ，底部回転糸切り後ヘラ削り	覆土中	40%，煤付着

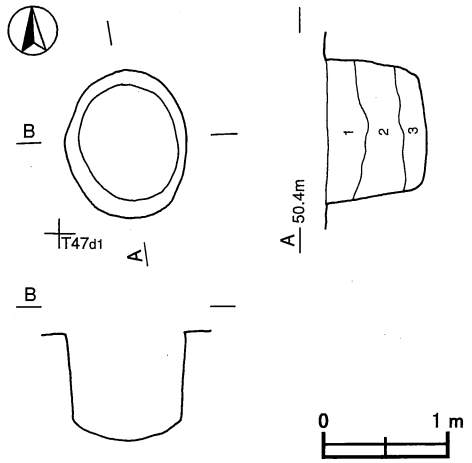
番号	種別	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP318	土錘	(3.8)	(1.3)	(3.1)	(8.5)	土製	須恵質，表面ナデ，自然釉付着，胎土；長石・黒色粒子	覆土中	20%

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M66	政和通寶	2.35	0.6	2.66	1111年	銅	無背文カ，真書	南東部床面	PL89
M67	治平元寶	2.4	0.6	2.64	1064年	銅	無背文，篆書	南東部床面	PL89
M68	元豊通寶	2.4	0.6	3.8	1078年	銅	無背文，行書	南東部床面	PL89
M69	元豊通寶	2.4	0.6	3.8	1078年	銅	無背文，行書	南東部床面	PL89

第12号墓壙（第259図）

位置　中央１区東部のＴ47ｃ1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長径1.16m，短径0.95mの楕円形で，深さは85cmであり，底面はほぼ平坦であり，壁はほぼ直立している。長径方向はＮ－９°－Ｗである。



第259図　第12号墓壙実測図

覆土　３層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量
2　褐　　色　ロームブロック多量，鹿沼パミス微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片１点，円礫１点が出土している。出土遺物はすべてが細片で，図示できるような遺物はない。

所見　骨片は出土していないが，近隣の第９号墓壙と類似することから，墓壙と考えられる。時期判断は困難であるが，規模と形状から近世と考えられる。

第13号墓壙（第260図）

位置　中央１区東部Ｔ46ｃ0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第15号墓壙を掘り込み，第14号墓壙に掘り込まれている。

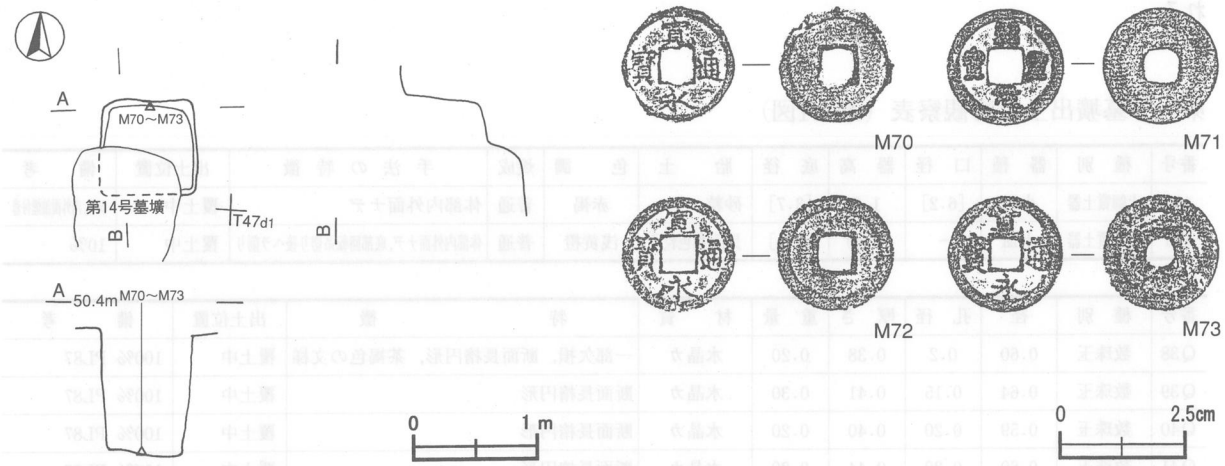
規模と形状　第14号墓壙に掘り込まれているため，確認できた規模は一辺0.73mで，平面形は方形と推測される。深さは95cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向と推測される東西軸はＮ－４°

－Wである。

覆土　不規則な堆積を示した人為堆積である。

遺物出土状況　古銭４枚（寛永通寶３，紹興元寶カ１）が出土している。M70～M73は北部の底面から出土している。M70～M73は本跡に伴う遺物である。

所見　時期は，寛永通寶が背文字に「文」のない新寛永銭であることから，17世紀末葉以降と考えられる。古銭は４枚であるが，六道銭としての性格が考えられる。



第260図　第13号墓壙・出土遺物実測図

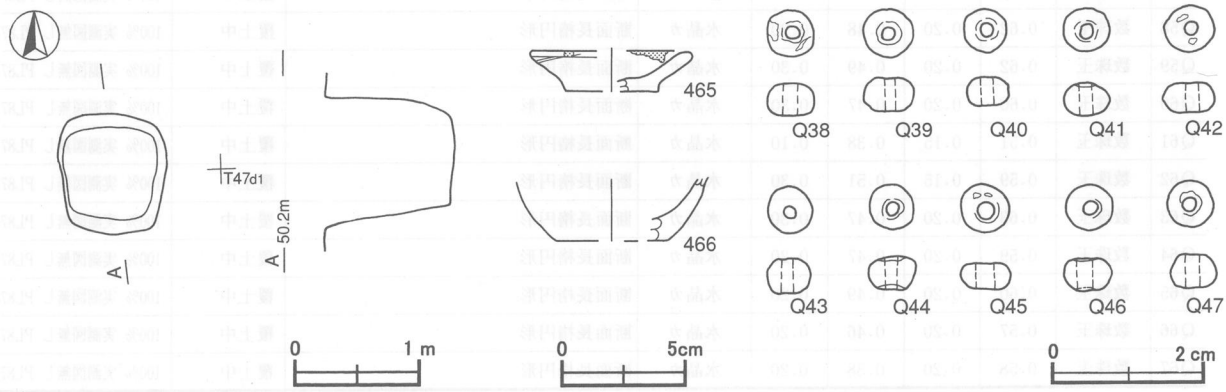
第13号墓壙出土遺物観察表（第260図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M70	寛永通寶	2.3	0.6	2.24	1636年	銅	無背文，真書，新寛永	北部床面	PL89
M71	紹興元寶カ	2.3	0.6	2.52	1131年	銅	無背文，篆書	北部床面	PL89
M72	寛永通寶	2.3	0.6	1.90	1636年	銅	無背文，真書，新寛永	北部床面	PL89
M73	寛永通寶	2.3	0.6	3.40	1636年	銅	無背文，真書，新寛永	北部床面	PL89

第14号墓壙（第261図）

位置　中央１区東部のT46c0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第13・15号墓壙を掘り込んでいる。



第261図　第14号墓壙・出土遺物実測図

規模と形状　長軸0.96m，短軸0.82mの不整長方形である。深さは130cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－3°－Eである。

覆土　ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

遺物出土状況　土師質土器4点（小皿），鉄製品1点（釘），数珠玉48点が覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片3点，須恵器片1点，炉壁片1点，粘土塊1点が出土している。465・466・Q38～Q85は覆土中から出土している。数珠玉は48点出土しているが，そのうち10点を掲載した。

所見　時期は，第13号墓壙を掘り込んでいることと，土師質土器の小皿の形状から18世紀以降の近世と考えられる。

第14号墓壙出土遺物観察表（第261図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
465	土師質土器	小皿	[6.2]	1.6	[3.7]	砂粒	赤褐	普通	体部内外面ナデ	覆土中	40%,内外面油煙付着
466	土師質土器	小皿	－	(2.4)	[4.4]	長石・黒色粒子	浅黄橙	普通	体部内外面ナデ,底部回転糸切り後ヘラ削り	覆土中	10%

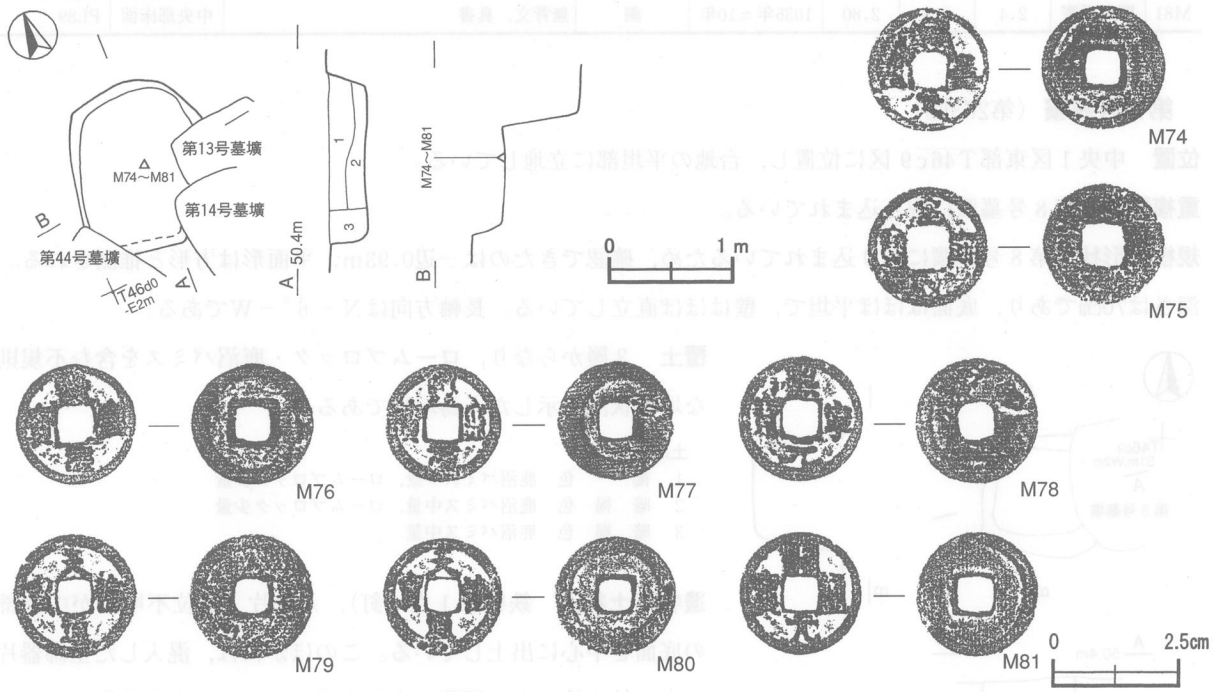
番号	種別	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	数珠玉	0.60	0.2	0.38	0.20	水晶カ	一部欠損，断面長楕円形，茶褐色の文様	覆土中	100% PL87
Q39	数珠玉	0.64	0.15	0.41	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q40	数珠玉	0.59	0.20	0.40	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q41	数珠玉	0.60	0.20	0.44	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q42	数珠玉	0.61	0.20	0.38	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q43	数珠玉	0.59	0.15	0.43	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q44	数珠玉	0.61	0.20	0.44	0.25	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q45	数珠玉	0.66	0.25	0.36	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q46	数珠玉	0.62	0.20	0.42	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q47	数珠玉	0.60	0.20	0.44	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% PL87
Q48	数珠玉	0.56	0.20	0.41	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q49	数珠玉	0.58	0.20	0.51	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q50	数珠玉	0.58	0.20	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q51	数珠玉	0.55	0.20	0.38	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q52	数珠玉	0.57	0.20	0.45	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q53	数珠玉	0.58	0.25	0.48	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q54	数珠玉	0.52	0.20	0.45	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q55	数珠玉	0.50	(0.20)	(0.22)	(0.10)	水晶カ	断面長楕円形，一部欠損	覆土中	50% 実測図無し PL87
Q56	数珠玉	0.54	0.20	0.48	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q57	数珠玉	0.60	0.20	0.41	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q58	数珠玉	0.62	0.20	0.48	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q59	数珠玉	0.62	0.20	0.49	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q60	数珠玉	0.60	0.20	0.47	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q61	数珠玉	0.51	0.15	0.38	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q62	数珠玉	0.59	0.15	0.51	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q63	数珠玉	0.63	0.20	0.47	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q64	数珠玉	0.59	0.20	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q65	数珠玉	0.60	0.20	0.49	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q66	数珠玉	0.57	0.20	0.46	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q67	数珠玉	0.58	0.20	0.38	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87

番号	種別	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q68	数珠玉	0.62	0.20	0.49	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q69	数珠玉	0.58	0.20	0.40	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q70	数珠玉	0.61	0.15	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q71	数珠玉	0.61	0.20	0.49	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q72	数珠玉	0.60	0.20	0.42	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q73	数珠玉	0.56	0.15	0.43	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q74	数珠玉	0.50	0.20	0.36	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q75	数珠玉	0.62	0.20	0.47	0.30	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q76	数珠玉	0.60	0.20	0.36	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q77	数珠玉	0.56	0.20	0.47	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q78	数珠玉	0.60	0.20	0.48	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q79	数珠玉	0.56	0.20	0.37	0.10	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q80	数珠玉	0.57	0.20	0.49	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q81	数珠玉	0.61	0.20	0.49	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q82	数珠玉	0.60	0.20	0.46	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q83	数珠玉	0.57	0.20	0.43	0.20	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q84	数珠玉	0.54	0.20	0.40	0.15	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87
Q85	数珠玉	0.59	0.20	0.43	0.15	水晶カ	断面長楕円形	覆土中	100% 実測図無し PL87

第15号墓壙（第262図）

位置　中央1区東部のT46c0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第13・14・44号墓壙に掘り込まれている。



第262図　第15号墓壙・出土遺物実測図

規模と形状　他の墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸1.28m，東西軸1.07mである。平面形は不整長方形と推測され，深さは30cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸はN－27°－Eである。

覆土　3層からなり，不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量

遺物出土状況　土師質土器1点（小皿），古銭8枚（開元通寶1，熙寧元寶1，天禧通寶2，□□元寶1，不明3），鉄製品1点（釘），人骨片（大腿部）が中央部の底面を中心に出土している。M74～M81は中央部の底面から出土し，本跡に伴う遺物と考えられる。

所見　時期は，古銭に本邦銭を含まず，判読できたものはすべて渡来銭であり，中世の可能性もあるが，第13・14・43号墓壙に掘り込まれていることから，17世紀末葉以降と考えられる。また，古銭は8枚であるが，六道銭としての性格が考えられる。

第15号墓壙出土遺物観察表（第262図）

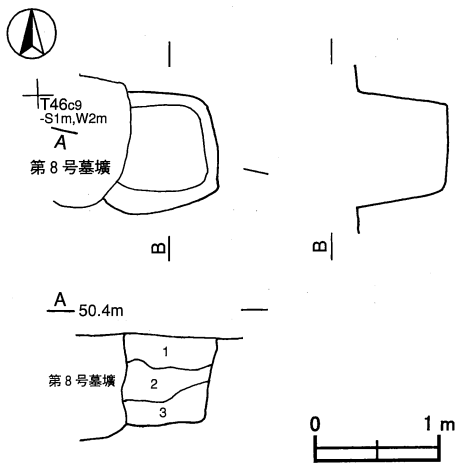
番号	銭　名	径	孔　幅	重　量	初鋳年	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M74	不明	2.5	0.7	2.76		銅	無背文	中央部床面	PL89
M75	不明	2.4	0.8	2.26		銅	無背文，篆書	中央部床面	PL89
M76	不明	2.4	0.7	3.26		銅	無背文，篆書カ	中央部床面	PL89
M77	□□元寶	2.4	0.6	2.82		銅	無背文，篆書	中央部床面	PL89
M78	熙寧元寶	2.5	0.7	2.78	1068年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL89
M79	天禧通寶	2.4	0.6	3.20	1017年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL89
M80	天禧通寶	2.4	0.6	3.20	1017年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL89
M81	開元通寶	2.4	0.6	2.80	1035年±10年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL89

第16号墓壙（第263図）

位置　中央1区東部T46c9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第8号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第8号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは一辺0.93m，平面形は方形と推測される。深さは70cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－6°－Wである。



第263図　第16号墓壙実測図

覆土　3層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　褐　　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量
2　暗　褐　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量
3　暗　褐　色　鹿沼パミス中量

遺物出土状況　鉄製品1点（釘），人骨片（部位不明）が中央部の底面を中心に出土している。このほかには，混入した土師器片4点，粘土塊2点，円礫1点が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　時期は形状と周辺の墓壙との関係から，近世と考えられる。

第17号墓壙（第264図）

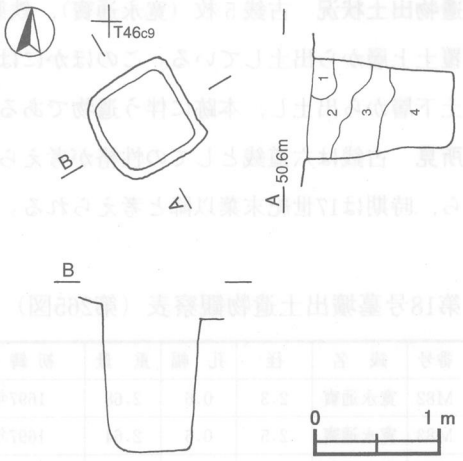
位置　中央１区東部のＴ46ｃ9 区に位置し，台地の緩斜面部に立地している。

規模と形状　長軸0.80m，短軸0.75mのほぼ方形である。深さは112cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－33°－Ｗである。

覆土　４層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
3　黒　褐　色　鹿沼パミス少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　鹿沼パミス少量，ロームブロック微量



第264図　第17号墓壙実測図

遺物出土状況　出土遺物は確認できなかった。

所見　時期は，形状と周辺の墓壙との関係から，近世と考えられる。

第18号墓壙（第265図）

位置　中央１区東部のＴ47ｃ1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

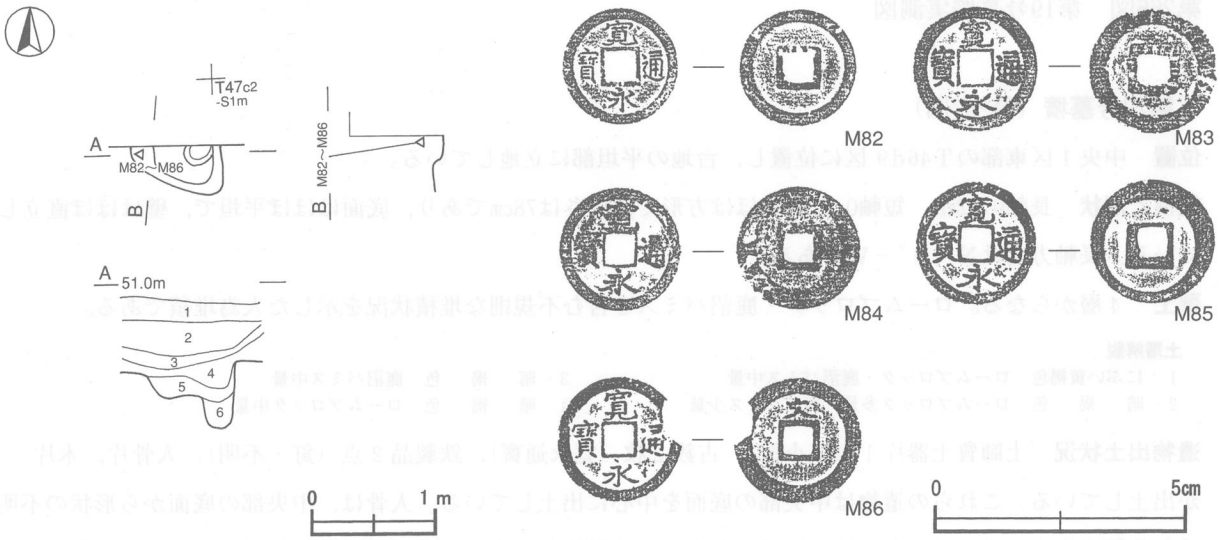
重複関係　第48号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びているため，確認できた長軸は0.74m，短軸は0.52mで，平面形は長方形と推測される。深さは90cmであり，底面に凹凸があり，壁はほぼ外傾して立ち上がっている。長軸方向はＮ－59°－Ｗである。

覆土　６層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量



第265図　第18号墓壙・出土遺物実測図

遺物出土状況　古銭５枚（寛永通寶），鉄製品１点（不明），礫２点が出土している。これらの遺物は北東部の覆土上層から出土している。このほかには，混入した土師器片３点が出土している。M82～M86は北西部の覆土下層から出土し，本跡に伴う遺物である。

所見　古銭は六道銭としての性格が考えられる。寛永通寶に背文字の「文」のない新寛永銭が含まれることから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。

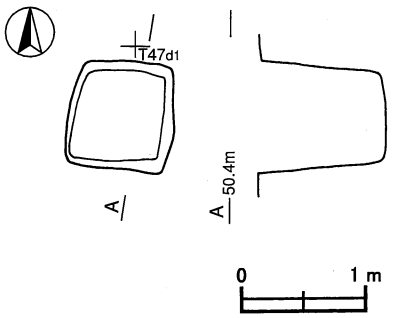
第18号墓壙出土遺物観察表（第265図）

番号	銭　名	径	孔　幅	重　量	初鋳年	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M82	寛永通寶	2.3	0.6	2.68	1697年	銅	無背文，真書，新寛永	北西部下層	PL89
M83	寛永通寶	2.5	0.6	2.64	1697年	銅	無背文，真書	北西部下層	PL89
M84	寛永通寶	2.5	0.6	2.86	1636年	銅	無背文，真書	北西部下層	PL89
M85	寛永通寶	2.5	0.6	3.16	1697年	銅	古寛永	北西部下層	PL89
M86	寛永通寶	2.5	0.6	2.48	1668年	銅	一部破損，背「文」，真書	北西部下層	PL89

第19号墓壙（第266図）

位置　中央１区東部のＴ46d0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長軸0.87m，短軸0.85mの方形で，深さは101cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－６°－Ｅである。



第266図　第19号墓壙実測図

覆土　ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

遺物出土状況　鉄製品１点（不明），木片が覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片３点，粘土塊１点が出土している。出土遺物のすべて細片で，図示できるものはない。

所見　時期は，周辺の墓壙と規模と形状が類似していることから，近世と考えられる。

第20号墓壙（第267図）

位置　中央１区東部のＴ46d9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長軸0.82m，短軸0.75mのほぼ方形で，深さは78cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－６°－Ｗである。

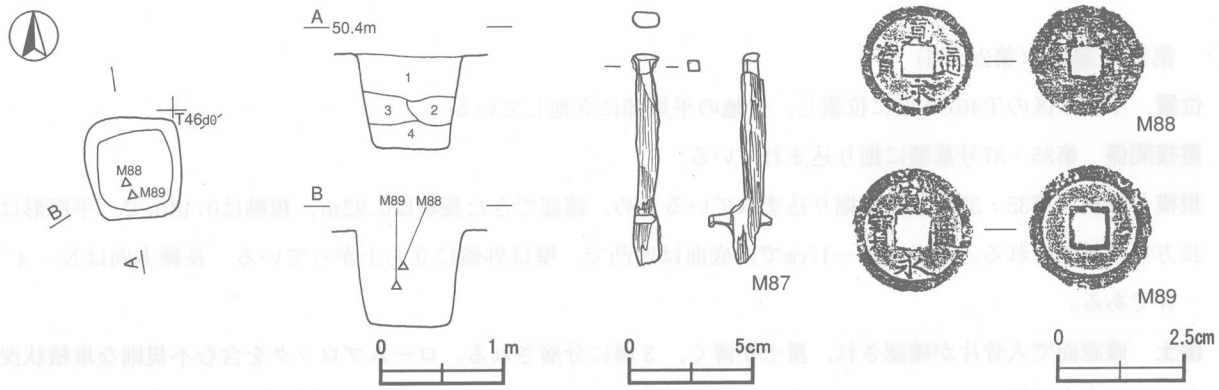
覆土　４層からなる。ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック・鹿沼パミス中量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，鹿沼パミス少量
3　暗　褐　色　鹿沼パミス中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿），古銭２枚（寛永通寶），鉄製品２点（釘・不明），人骨片，木片が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。人骨は，中央部の底面から形状の不明確な状態で出土している。このほかには，混入した土師器片５点，円礫１点が出土している。M87は覆土中，M88・M89は南西部の覆土中層から出土している。

所見　六道銭の性格が考えられる寛永通寶に新寛永銭が混じっていることから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。



第267図　第20号墓壙・出土遺物実測図

第20号墓壙出土遺物観察表（第267図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M87	釘カ	8.4	1.1	0.4	(8.4)	鉄	角釘，木質付着，鉄製の付着物あり	覆土中	PL88

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M88	寛永通寶	2.3	0.6	1.66	1697年	銅	無背文ヵ，真書，新寛永	南西部中層	PL89
M89	寛永通寶	2.5	0.6	2.12	1697年	銅	一部破損，無背文，真書，新寛永	南西部中層	PL89

第21号墓壙（第268図）

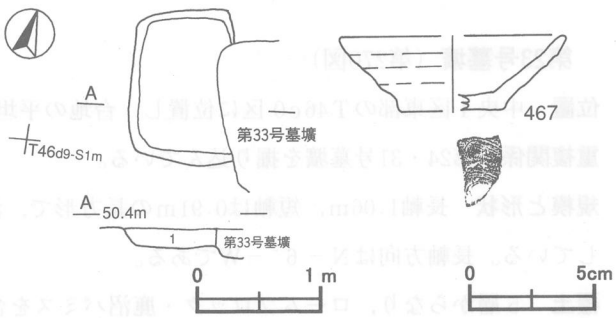
位置　中央1区東部のT46d9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第33号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第33号墓壙に掘り込まれているため，確認できた長軸は1.21m，短軸は0.80mで，平面形は長方形と推測される。深さは15cmであり，底面はほぼ平坦で，長軸方向はN－12°－Wである。壁はほぼ外傾に立ち上がっている。

覆土　確認面で人骨片が確認され，覆土が薄いが残存部分は単一層である。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量



第268図　第21号墓壙・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師質土器2点（小皿），人骨片が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。人骨は頭部が北東に位置し，大腿骨が南東部に延びるような状態で出土している。このほかには，混入した土師器片10点，須恵器片3点，鉄滓2点が出土している。467は覆土中から出土している。

所見　周辺の墓壙と規模や形状と類似していることと，出土した土師質土器小皿から，時期は18世紀以降と考えられる。

第21号墓壙出土遺物観察表（第268図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
467	土師質土器	小皿	[8.8]	3.0	[4.0]	白色粒子・赤色粒子	浅黄	普通	ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土中	20%

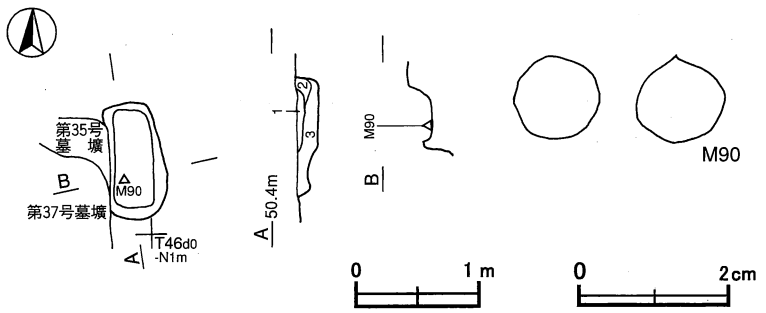
第22号墓壙（第269図）

位置　中央１区のＴ46ｃ9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第35・37号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第35・37号墓壙に掘り込まれているため，確認できた長軸は0.92m，短軸は0.48mで，平面形は長方形と推測される。深さは６～17cmで，底面は凹凸で，壁は外傾に立ち上がっている。長軸方向はＮ－４°－Ｗである。

覆土　確認面で人骨片が確認され，覆土が薄く，３層に分層される。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第269図　第22号墓壙・出土遺物実測図

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　鉄製品１点（火縄銃の弾カ），人骨片１体が出土している。人骨は頭部が北に位置し，大腿骨が南部に延びるような状態で出土している。このほかには，混入した土師器片２点が出土している。M90は南西部底面の骨片の間から出土している。

所見　周辺の墓壙に規模と形状が類似していることから，時期は18世紀以降と考えられる。

第22号墓壙出土遺物観察表（第269図）

番号	種別	径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M90	弾	1.2	－	1.2	7.1	鉄	球状	南西部床面	PL88

第23号墓壙（第270図）

位置　中央１区東部のＴ46ｃ0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

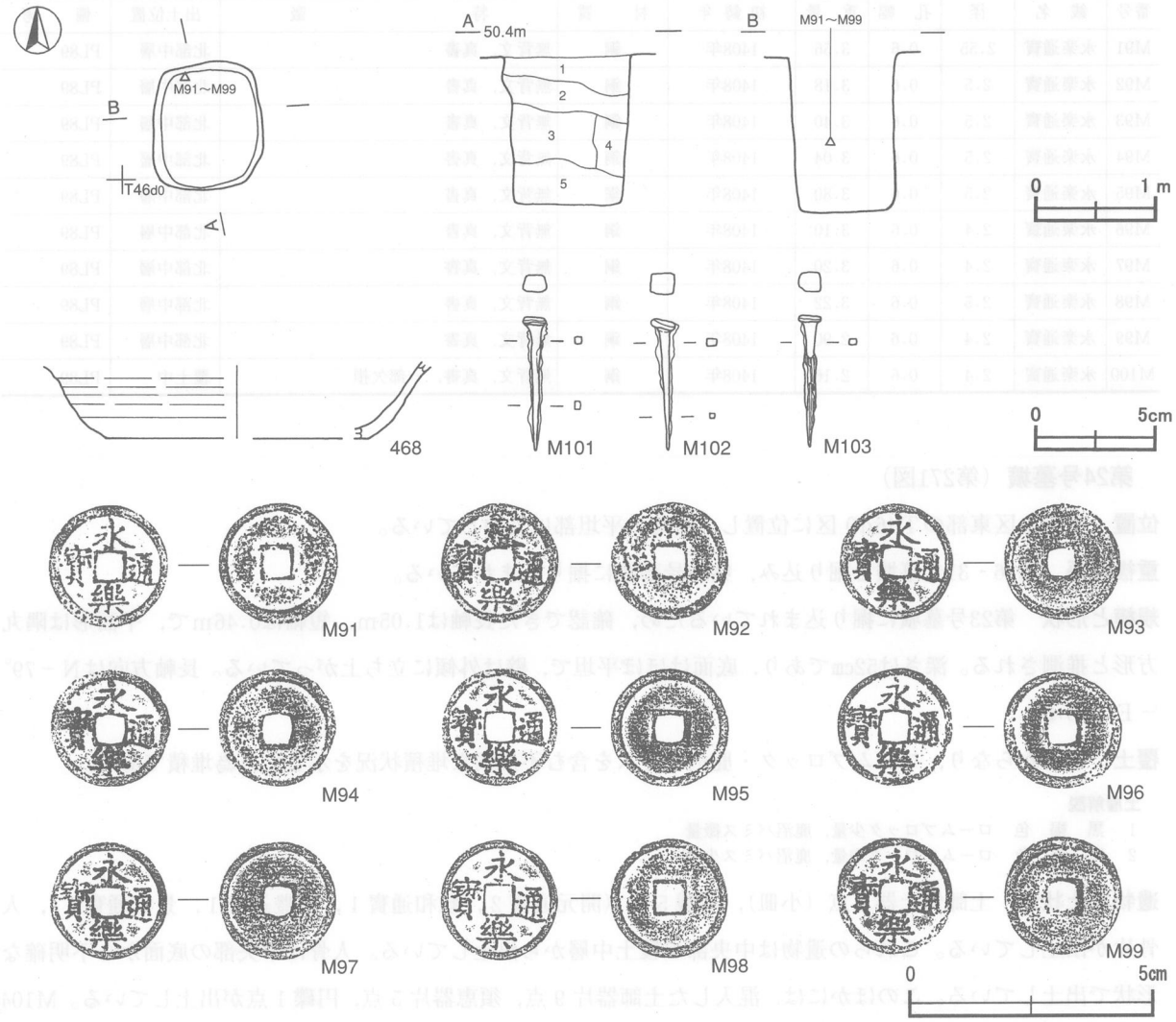
重複関係　第24・31号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.06m，短軸は0.91mの長方形で，深さは127cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－６°－Ｗである。

覆土　５層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量
2　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量
3　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
5　黒　褐　色　鹿沼パミス少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　古銭10枚（永楽通寶），鉄製品12点（釘），人骨片１体が中央部の底面を中心に出土している。人骨は中央部底面から不明確な状態で出土している。このほかには，混入した土師器片５点，須恵器片２点，



第270図　第23号墓壙・出土遺物実測図

粘土塊２点が出土している。468は覆土中，M91～M99は北部の覆土中層，M100～M103は覆土中から出土している。

所見　時期は，17世紀末葉以降の第24・31号墓壙を掘り込んでいることと，周辺の墓壙の規模と形状から17世紀末葉以降と考えられる。古銭が10枚出土し，その内９枚が永楽通寶であることから，確認できなかったが，本跡は同じ場所に中世の墓壙があり，それを壊して本跡が作られたことも考えられる。

第23号墓壙出土遺物観察表（第270図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
468	土師器	坏	－	(3.0)	[1.8]	赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	ロクロ整形，体部回転ヘラ削り，底部ヘラ切り後ナデ	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M101	釘	5.5	1.0	0.3～0.4	2.0	鉄	角釘	覆土中	
M102	釘	5.5	1.0	0.2～0.3	2.2	鉄	角釘	覆土中	
M103	釘	5.5	1.0	0.3	2.1	鉄	角釘，木質付着	覆土中	

番号	銭　名	径	孔　幅	重　量	初鋳年	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M91	永楽通寶	2.55	0.6	3.56	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M92	永楽通寶	2.5	0.6	3.18	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M93	永楽通寶	2.5	0.6	3.40	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M94	永楽通寶	2.5	0.6	3.04	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M95	永楽通寶	2.5	0.6	3.80	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M96	永楽通寶	2.4	0.6	3.10	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M97	永楽通寶	2.4	0.6	3.20	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M98	永楽通寶	2.5	0.6	3.22	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M99	永楽通寶	2.4	0.6	2.90	1408年	銅	無背文，真書	北部中層	PL89
M100	永楽通寶	2.4	0.6	2.16	1408年	銅	無背文，真書，一部欠損	覆土中	PL89

第24号墓壙（第271図）

位置　中央１区東部のＴ46d0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第26・31号墓壙を掘り込み，第23号墓壙に掘り込まれている。

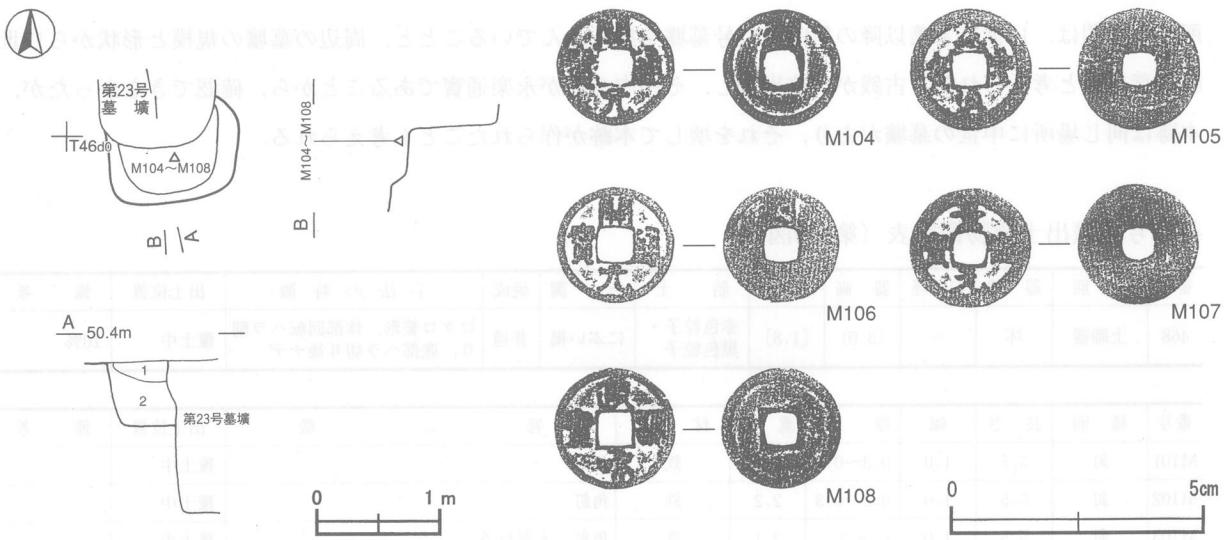
規模と形状　第23号墓壙に掘り込まれているため，確認できた長軸は1.05m，短軸は0.46mで，平面形は隅丸方形と推測される。深さは52cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾に立ち上がっている。長軸方向はＮ－79°－Ｅである。

覆土　２層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量

遺物出土状況　土師質土器１点（小皿），古銭５枚（開元通寶２，政和通寶１，元豊通寶１，景定通寶１），人骨片が出土している。これらの遺物は中央部の覆土中層から出土している。人骨は中央部の底面から不明確な形状で出土している。このほかには，混入した土師器片９点，須恵器片５点，円礫１点が出土している。M104～M108は中央部の覆土下層から出土している。

所見　六道銭としての性格が考えられる古銭５枚のうち３枚が渡来銭であるが，新寛永銭の出土している第31号墓壙を掘り込んでいることから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。



第271図　第24号墓壙・出土遺物実測図

第24号墓壙出土遺物観察表（第271図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M104	開元通寶	2.4	0.7	2.52	1035年±10年	銅	背文「□」，真書	中央部下層	PL89
M105	元豊通寶	2.45	0.7	2.72	1078年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL89
M106	開元通寶	2.4	0.6	3.08	1035年±10年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL89
M107	景定元寶	2.4	0.6	2.98	1260年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL90
M108	政和通寶	2.4	0.6	3.16	1111年	銅	無背文，篆書	中央部下層	PL90

第25号墓壙（第272図）

位置　中央２区東部のＵ49ｊ8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第17号住居跡を掘り込んでいる。

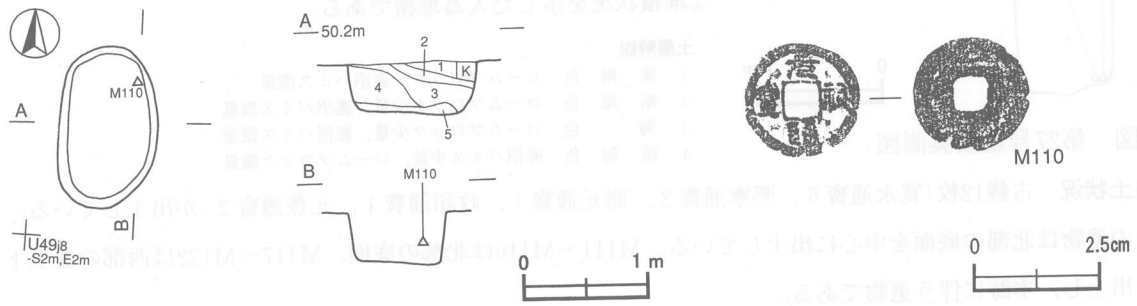
規模と形状　長径1.28m，短径0.77mの楕円形で，深さは47cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－10°－Ｅである。

覆土　５層からなり，ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　古銭１枚（元祐通寶），白色滓１点が出土している。このほかには，混入した土師器片10点，須恵器片１点が出土している。M110は北東部の覆土中層から出土している。

所見　六道銭としての性格が考えられる北宋銭１枚が出土しているので，中世の可能性もあるが，近世墓にも北宋銭が副葬される例がある。規模と形状からは中央１区で確認された近世の墓壙と規模と形状で類似していることから，時期は近世と考えられる。



第272図　第25号墓壙・出土遺物実測図

第25号墓壙出土遺物観察表（第272図）

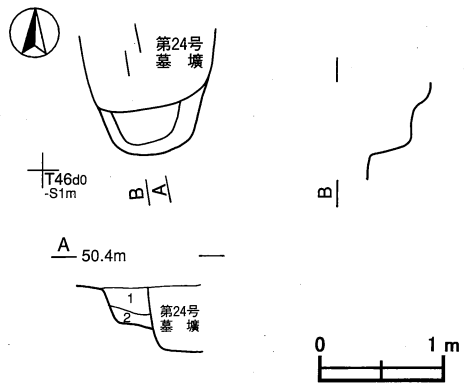
番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M110	元祐通寶カ	2.35	0.65	2.75	1080年	銅	無背文，篆書	北東部中層	PL90

第26号墓壙（第273図）

位置　中央１区東部のＴ46ｄ0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第24号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第24号墓壙に掘り込まれているため，確認できた南北軸は0.34m，東西軸は0.80mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは36cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾に立ち上がっている。長軸である東西軸方向はN－79°－Eである。



第273図　第26号墓壙実測図

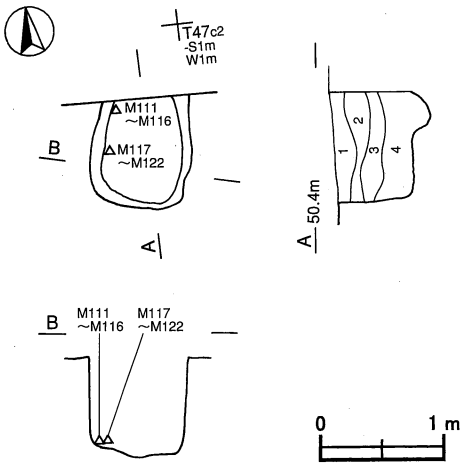
覆土　2層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　混入した須恵器片1点，白色滓1点，土製品4点（支脚2，土錘1，不明1），鉄製品2点（不明），剥片1点，礫1点が出土している。出土した遺物はすべてが細片で，図示できるような遺物はない。

所見　本跡は近隣の墓壙と規模と形状から類似していること，17世紀末葉以降と推定される第24号墓壙に掘り込まれていることから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。

第27号墓壙（第274・275図）



第274図　第27号墓壙実測図

位置　中央1区東部のT47c1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第34号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸0.85m，短軸0.80mのほぼ長方形で，深さは79cmであり，底面はわずかに凹凸で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－8°－Eである。

覆土　4層からなる。ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

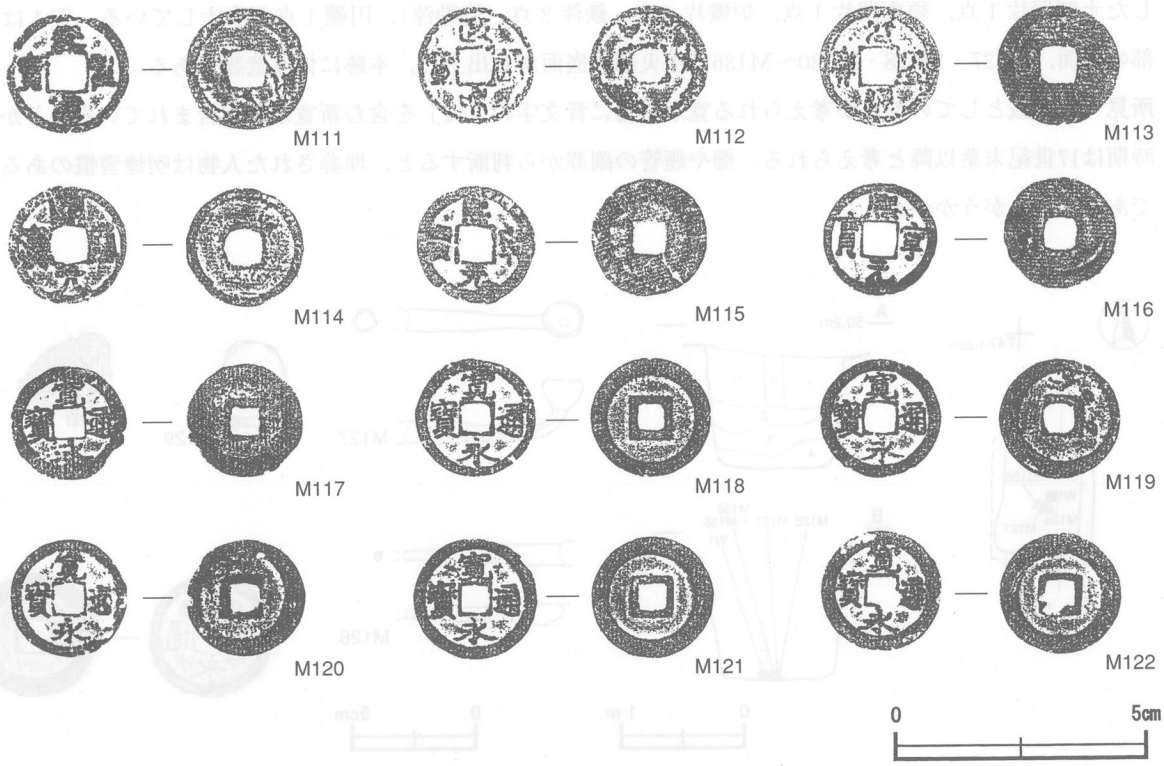
土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
4　暗　褐　色　鹿沼パミス少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　古銭12枚（寛永通寶6，熙寧通寶2，開元通寶1，政和通寶1，元豊通寶2）が出土している。これらの遺物は北部の底面を中心に出土している。M111～M116は北部の底面，M117～M122は西部の覆土下層から出土し，本跡に伴う遺物である。

所見　六道銭としての性格が考えられる寛永通寶6枚と開元通寶を含む渡来銭6枚が，墓壙内で出土地点を異にしている特異な例である。時期を異にして同一墓壙への埋葬があったかどうかについては，調査では分からなかった。時期は寛永通寶が古寛永銭であることから17世紀中葉以降と考えられる。

第27号墓壙出土遺物観察表（第275図）

番号	銭　名	径	孔　幅	重　量	初鋳年	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M111	元豊通寶	2.45	0.7	2.38	1078年	銅	無背文，篆書，一部欠損	北部床面	PL90
M112	政和通寶	2.3	0.6	2.16	1111年	銅	無背文，篆書	北部床面	PL90



第275図　第27号墓壙出土遺物実測図

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M113	元豊通寶	2.45	0.7	2.50	1078年	銅	無背文，篆書	北部床面	PL90
M114	開元通寶	2.4	0.7	2.46	1035年±10年	銅	無背文，真書	北部床面	PL90
M115	熙寧元寶	2.4	0.6	2.86	1068年	銅	無背文，真書	北部床面	PL90
M116	熙寧元寶	2.3	0.6	2.86	1068年	銅	無背文，真書	北部床面	PL90
M117	寛永通寶	2.4	0.6	2.20	1636年	銅	無背文，真書	西部下層	PL90
M118	寛永通寶	2.4	0.6	3.52	1636年	銅	無背文，真書	西部下層	PL90
M119	寛永通寶	2.4	0.6	2.90	1636年	銅	無背文，真書	西部下層	PL90
M120	寛永通寶	2.4	0.6	3.18	1636年	銅	無背文，真書	西部下層	PL90
M121	寛永通寶	2.5	0.6	3.74	1636年	銅	無背文，真書	西部下層	PL90
M122	寛永通寶	2.5	0.6	2.96	1636年	銅	無背文，真書	西部下層	PL90

第28号墓壙（第276図）

位置　中央2区中央部のT47i1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第40号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.07m，短軸0.80mのほぼ長方形で，深さは95cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－6°－Wである。

覆土　4層からなる。ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

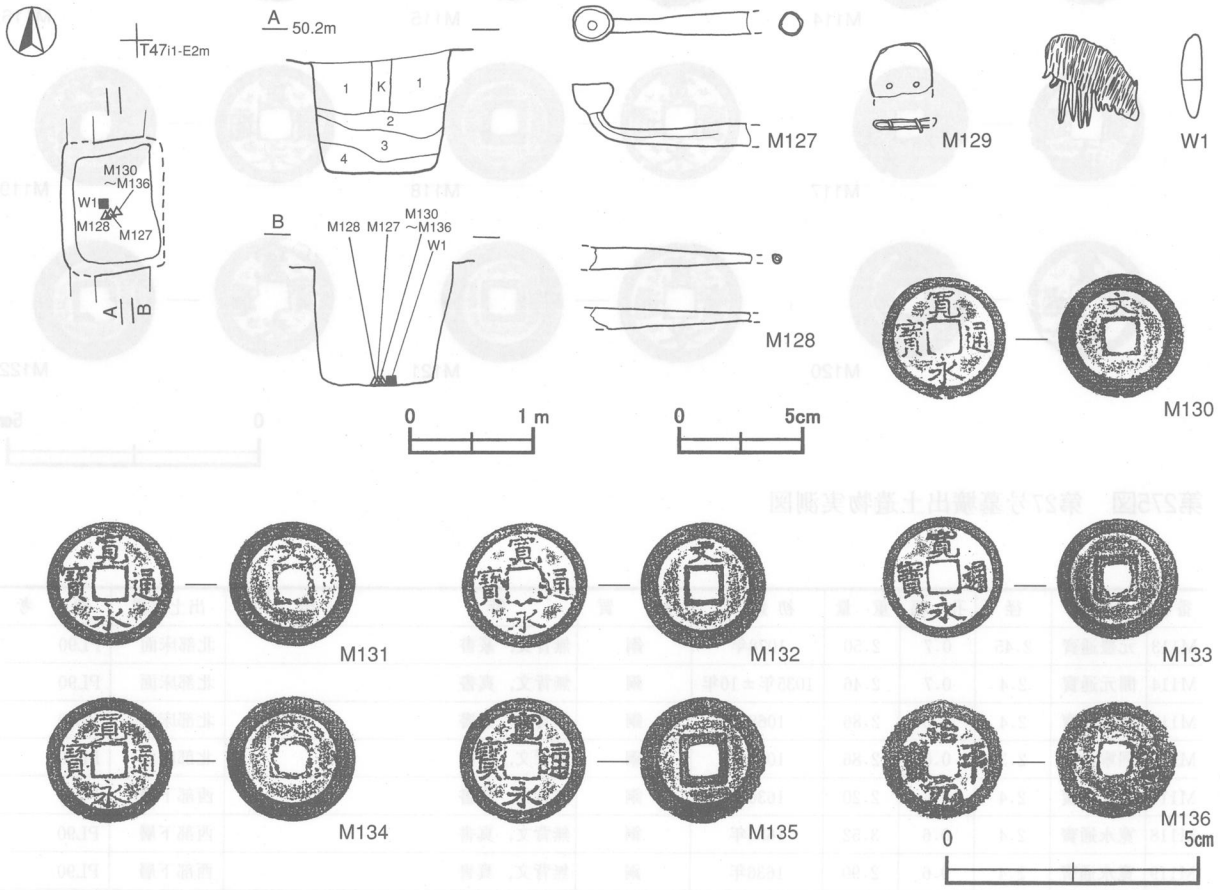
土層解説

1　にぶい黄褐色　鹿沼パミス中量，ローム粒子少量
2　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック・鹿沼パミス少量
3　黒　褐　色　鹿沼パミス中量，ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量

遺物出土状況　古銭7枚（寛永通寶6，治平元寶1），木製品1点（櫛），銅製品3点（鉈尾，煙管雁首，煙管吸口），人骨片が出土している。人骨は中央部の底面から不明確な状態で出土している。このほかには，混入

した土師器片１点，須恵器片１点，炉壁片４点，鉄滓２点（流動滓），円礫１点が出土している。Ｗ１は中央部の底面，M127・M128・M130～M136は中央部の底面から出土し，本跡に伴う遺物である。

所見　六道銭としての性格が考えられる寛永通寶に背文字の「文」を含む新寛永銭が含まれていることから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。櫛や煙管の副葬から判断すると，埋葬された人物は喫煙習慣のある女性であったことがうかがえる。



第276図　第28号墓壙・出土遺物実測図

第28号墓壙出土遺物観察表（第276図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M127	煙管雁首	(7.0)	2.6	0.9	(7.2)	銅	火皿部円形・径1.6cm，接合部円形	中央部床面	PL88
M128	煙管吸口	(6.4)	0.9	0.9	(2.3)	銅	接合部欠損，吸口部円形・径0.3cm，接着部あり	中央部床面	PL88
M129	鉈尾	(2.1)	2.3	0.4～0.6	(4.2)	銅	鋲留め２か所	覆土中	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M130	寛永通寶	2.5	0.6	3.00	1668年	銅	背「文」，真書，新寛永	中央部床面	PL90
M131	寛永通寶	2.55	0.6	3.82	1668年	銅	背「文」，真書，新寛永	中央部床面	PL90
M132	寛永通寶	2.5	0.6	3.12	1668年	銅	背「文」，真書，新寛永	中央部床面	PL90
M133	寛永通寶	2.4	0.5	3.64	1636年	銅	無背文，真書，古寛永	中央部床面	PL90
M134	寛永通寶	2.5	0.5	3.60	1668年	銅	背「文」，真書，新寛永	中央部床面	PL90
M135	寛永通寶	2.5	0.6	2.26	1636年	銅	無背文，真書，古寛永	中央部床面	PL90
M136	治平元寶	2.4	0.6	3.54	1064年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL90

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W1	櫛	(2.5)	2.2	0.5	(2.0)	木	わずかな残存	中央部床面	

第29号墓壙（第277図）

位置　中央2区中央部のU46b9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第51号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.12m，短軸1.05mの長方形で，深さは135cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－6°－Eである。

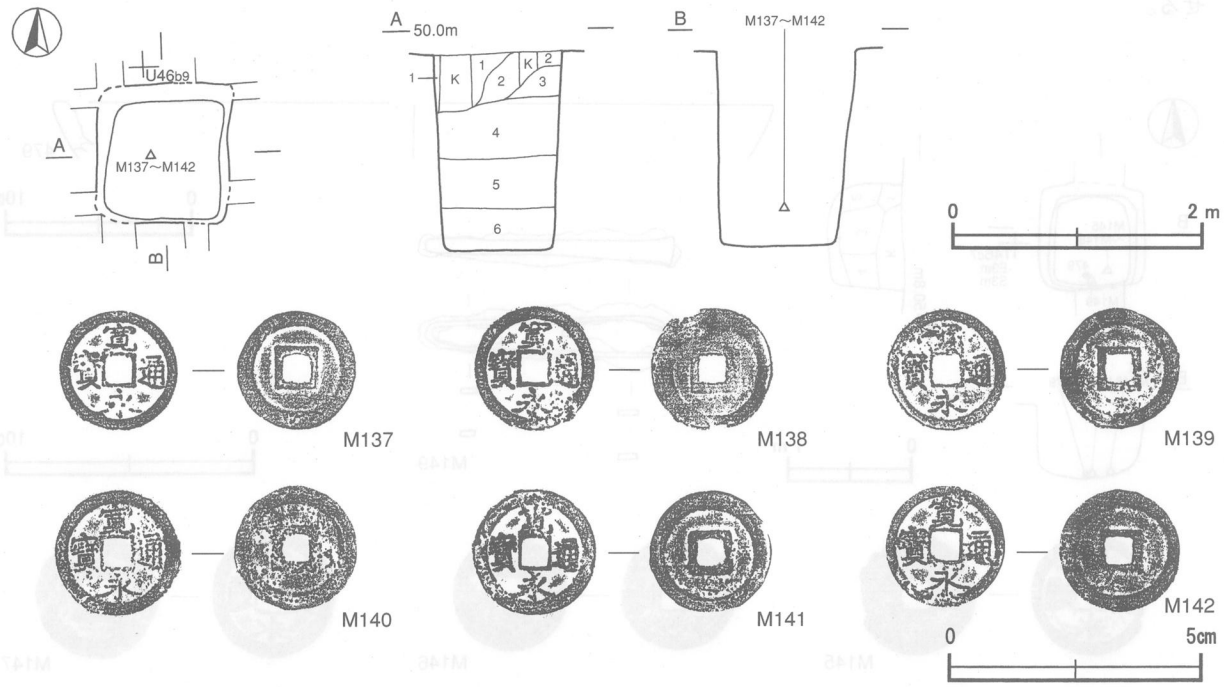
覆土　6層からなる。ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量
2　黒　褐　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
5　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
6　黒　褐　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量

遺物出土状況　古銭6枚（寛永通寶），鉄製品2点（釘），人骨が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。人骨は中央部から南東寄りの底面から不明確な状態で出土している。このほかには，混入した土師器片8点，鉄滓1点（流動滓），円礫1点が出土している。M137～M142は中央部の覆土下層から出土し，本跡に伴う遺物である。

所見　六道銭としての性格が考えられる寛永通寶がすべて古寛永銭であることから，時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第277図　第29号墓壙・出土遺物実測図

第29号墓壙出土遺物観察表（第277図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M137	寛永通寶	2.4	0.5	3.06	1636年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL90

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M138	寛永通寶	2.4	0.6	2.30	1636年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL90
M139	寛永通寶	2.4	0.6	3.72	1636年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL90
M140	寛永通寶	2.5	0.6	3.20	1636年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL90
M141	寛永通寶	2.5	0.6	4.20	1636年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL90
M142	寛永通寶	2.4	0.6	2.68	1636年	銅	無背文，真書	中央部下層	PL90

第30号墓壙（第278図）

位置　中央２区東部のT46c7区に位置し，台地の緩斜面部に立地している。

規模と形状　一辺0.85mの方形で，深さは59cmである。底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－0°である。

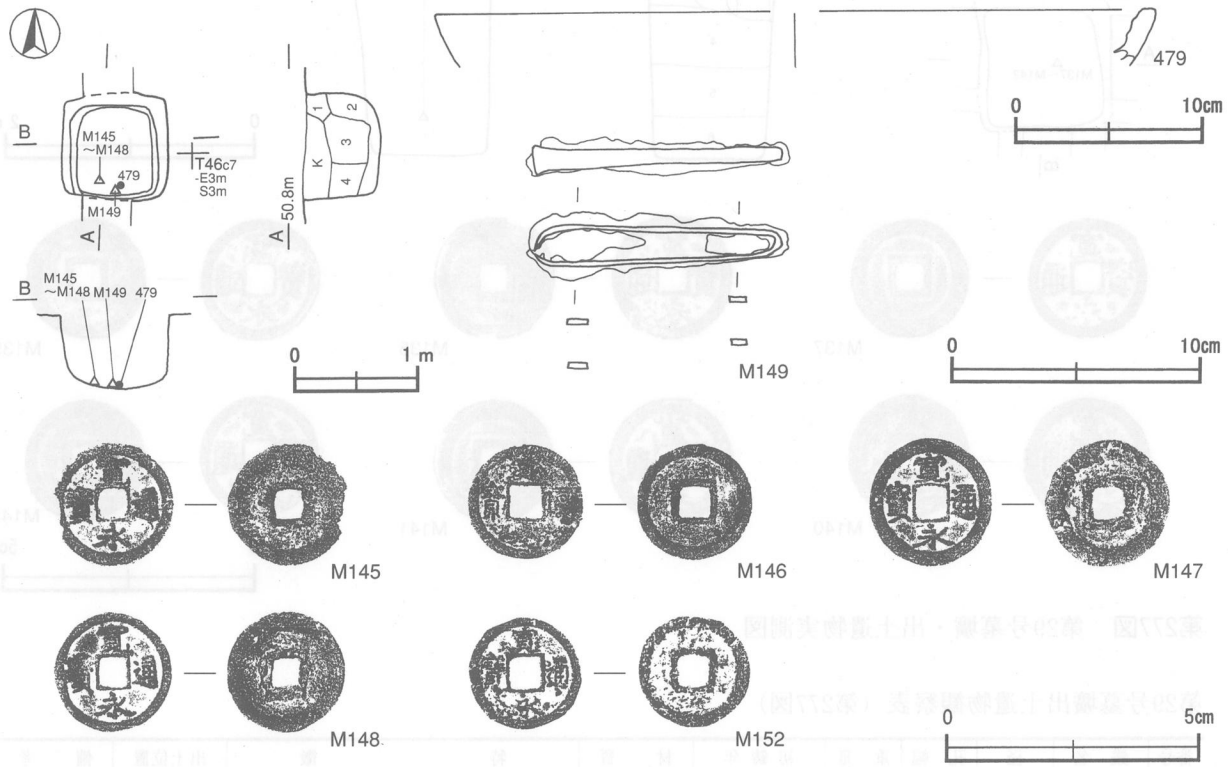
覆土　４層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師質土器片１点（焙烙），古銭５枚（寛永通寶），鉄製品２点（釘・毛抜き），人骨１体が出土している。人骨は頭骨が大腿骨などと重なり合うように中央部の底面から出土している。このほかには，混入した土師器片１点，須恵器片１点が出土している。479，M145～M149は南部の底面，M152は覆土中から出土している。

所見　六道銭としての性格と考えられる寛永通寶が古寛永銭であることから，時期は17世紀中葉以降と考えられる。毛抜きは当時，女性が眉を整えるための必需品であり，埋葬された人物は女性であったことをうかがわせる。



第278図　第30号墓壙・出土遺物実測図

第30号墓壙出土遺物観察表（第278図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
479	土師質土器	焙烙	[38.0]	(1.9)	－	石英・白色粒子	にぶい褐	普通	横ナデ	南部床面	5％

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M145	寛永通寶	2.4	0.6	2.62	1636年	銅	無背文，真書，一部欠損	南部床面	PL90
M146	寛永通寶	2.3	0.6	2.12	1636年	銅	無背文，真書	南部床面	PL90
M147	寛永通寶	2.5	0.6	2.56	1636年	銅	無背文，真書	南部床面	PL90
M148	寛永通寶	2.4	0.5	3.02	1636年	銅	無背文，真書	南部床面	PL90
M152	寛永通寶	2.3	0.6	2.02	1636年	銅	無背文，真書	覆土中	PL90

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M149	毛抜き	9.9	1.6	0.2	(17.4)	鉄	断面形長方形，全面錆付着	南部床面	PL88

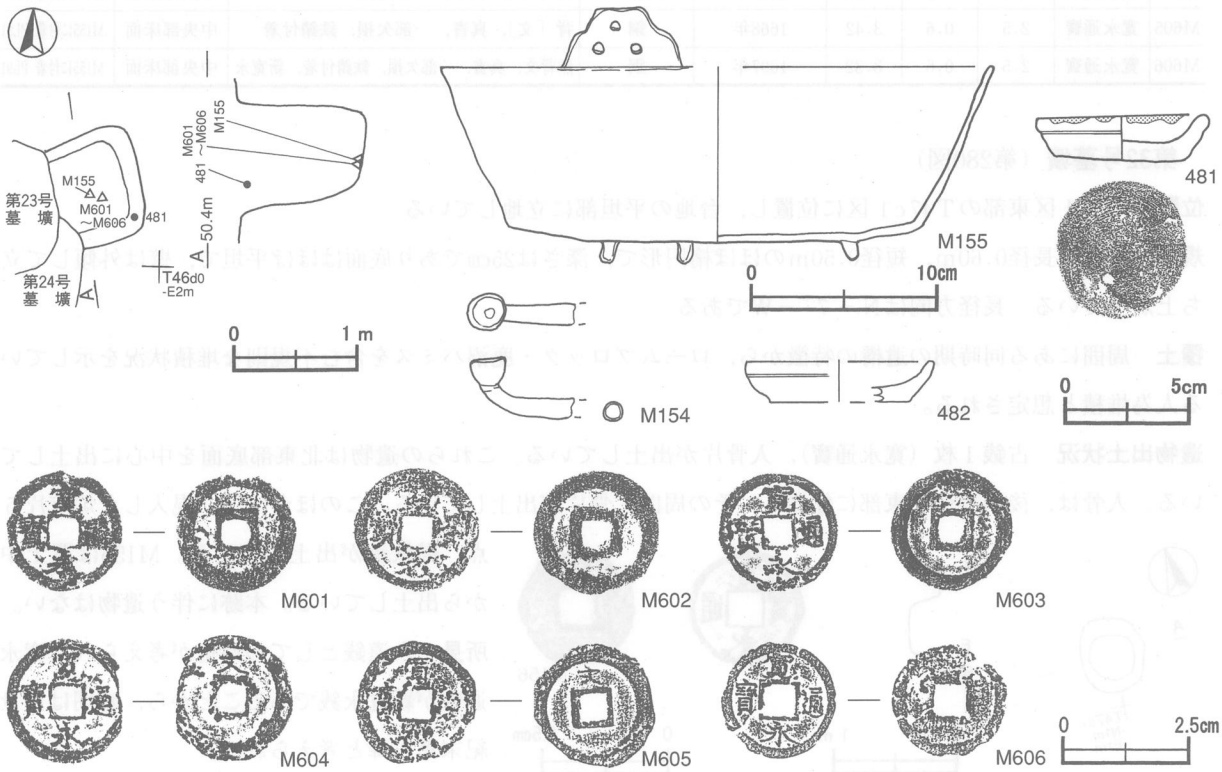
第31号墓壙（第279図）

位置　中央１区中央部のＴ46ｃ0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第44号墓壙を掘り込み，第23・24号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第23号墓壙に掘り込まれているため，確認できた南北軸は0.89m，東西軸は0.70mで，平面形は長方形と推測される。深さは102cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は直立または外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はＮ－15°－Ｗである。

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。



第279図　第31号墓壙・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師質土器片２点（小皿），古銭６枚（寛永通寶），鉄製品３点（鍋１，不明２），銅製品１点（煙管雁首），人骨片が出土している。これらの遺物は中央部の底面を中心に出土している。人骨は中央部の底面から頭部が鉄鍋で被せられた状態で確認されている。このほかには，混入した土師器片３点が出土している。481は南東部の覆土上層から，482・M154は覆土中，M155・M601～M606は中央部の底面から出土し，本跡に伴う遺物である。

所見　本跡の埋葬方法は鍋被り葬である。時期は，六道銭の性格が考えられる寛永通寶が背文字に「文」を有する新寛永銭であることから，17世紀末葉以降で，喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。

第31号墓壙出土遺物観察表（第279図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
481	土師質土器	灯明皿	6.1	1.9	5.0	金雲母・白色粒子・赤色粒子	明赤褐	普通	体部内外面ナデ，底部回転糸切り後ナデ・布目痕あり	南東部上層	95%口縁部油煙付着 PL74
482	土師質土器	小皿	[7.4]	1.6	[5.6]	雲母・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ，底部回転糸切り	覆土中	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M154	煙管雁首	(4.2)	(2.5)	0.8	(5.1)	銅	接合部一部欠損，火皿部円形，接合部円形	覆土中	

番号	種別	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M155	鍋	[29.3]	10.4	22.0	(852.0)	鉄	３か所の穿孔のある吊耳と鍋との境界に稜あり，短い三足が付く，吊り手状のものが器面に付着	中央部床面	PL88

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M601	寛永通寶	2.5	0.5	2.82	1697年	銅	無背文，真書，一部欠損	中央部床面	M155に付着 PL91
M602	寛永通寶ヵ	2.5	0.6	2.98	1636年	銅	無背文，真書，古寛永ヵ	中央部床面	M155に付着 PL91
M603	寛永通寶	2.5	0.6	2.72	1636年	銅	無背文，真書，一部欠損，古寛永	中央部床面	M155に付着 PL91
M604	寛永通寶	2.5	0.6	3.14	1668年	銅	背「文」，真書，一部欠損	中央部床面	M155に付着 PL91
M605	寛永通寶	2.5	0.6	3.42	1668年	銅	背「文」，真書，一部欠損，鉄錆付着	中央部床面	M155に付着 PL91
M606	寛永通寶	2.5	0.6	3.32	1697年	銅	無背文，真書，一部欠損，鉄錆付着，新寛永	中央部床面	M155に付着 PL91

第32号墓壙（第280図）

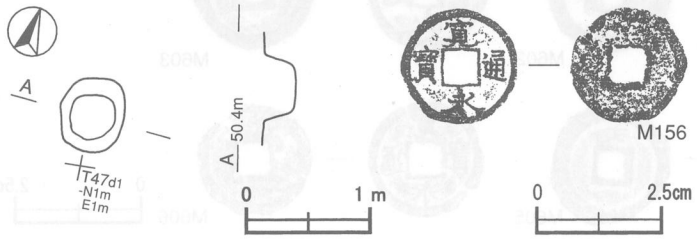
位置　中央１区東部のＴ47ｃ1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長径0.60m，短径0.50mのほぼ楕円形で，深さは25cmであり底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－７°－Ｗである。

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

遺物出土状況　古銭１枚（寛永通寶），人骨片が出土している。これらの遺物は北東部底面を中心に出土している。人骨は，後頭部が北東部に位置し，その周囲に骨片が出土している。このほかには，混入した炉壁片５点，褐鉄鉱が出土している。M156は覆土中から出土している。本跡に伴う遺物はない。

所見　六道銭としての性格が考えられる寛永通寶が新寛永銭であることから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。



第280図　第32号墓壙・出土遺物実測図

第32号墓壙出土遺物観察表（第280図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M156	寛永通寶	2.5	0.6	3.32	1697年	銅	無背文ヵ，真書，一部欠損，鉄錆付着	覆土中	PL90

第33号墓壙（第281・282図）

位置　中央１区東部のＴ46d9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

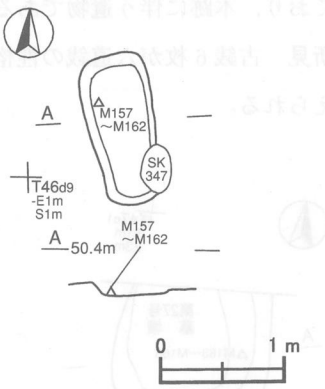
重複関係　第21号墓壙を掘り込み，第347号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸1.25m，短軸0.57mの隅丸長方形で，深さは22cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はＮ－16°－Ｗである。

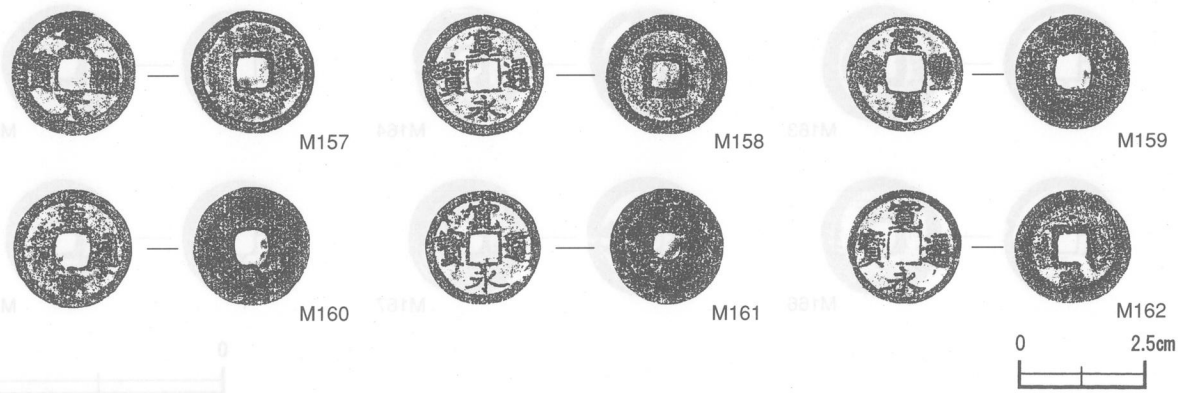
覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積と想定される。

遺物出土状況　古銭６枚（寛永通寶３，元豊通寶１，宋通元寶１，不明１），人骨が出土している。人骨は頭部が北東部に位置し，大腿骨が南西方向に寝せた状態で出土している。これらの遺物は北東部の底面から出土している。M157～M162は北西部の底面から出土し，方孔部分に布片が付着している。

所見　古銭は六道銭としての性格が考えられる最新銭が古寛永銭であることから，時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第281図　第33号墓壙実測図



第282図　第33号墓壙出土遺物実測図

第33号墓壙出土遺物観察表（第282図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M157	宋通元寶	2.5	0.6	3.36	960年	銅	無背文，真書	北西部床面	布片付着 PL90
M158	寛永通寶	2.45	0.65	3.22	1636年	銅	無背文，真書	北西部床面	PL90
M159	元豊通寶カ	2.35	0.7	2.74	1078年	銅	無背文，真書カ	北西部床面	PL90
M160	□□通寶	2.3	0.6	2.30	－	銅	無背文，真書	北西部床面	PL90
M161	寛永通寶	2.3	0.6	2.88	1636年	銅	無背文，真書	北西部床面	PL90
M162	寛永通寶	2.3	0.6	1.90	1636年	銅	無背文，真書，一部欠損	北西部床面	PL90

第34号墓壙（第283図）

位置　中央１区東部のＴ47c1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

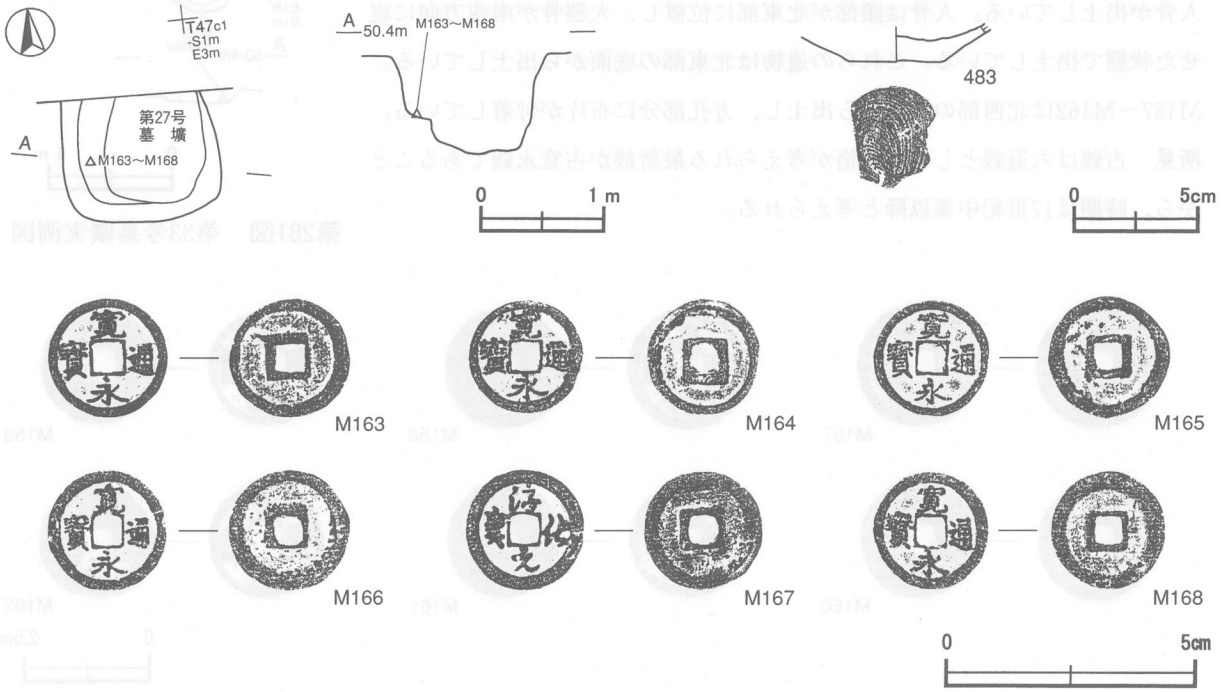
重複関係　第27号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第27号墓壙に掘り込まれているため，確認できた長軸1.24m，短軸1.03mで，平面形は不整長方形と推測される。深さは79cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である東西軸はN－83°－Wである

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

遺物出土状況　土師質土器１点（小皿），古銭６枚（寛永通寶５，淳化元寶１），鉄製品１点（不明），人骨片が出土している。人骨片は西部の底面で確認された。483は覆土中，M163～M168は南西部の底面から出土しており，本跡に伴う遺物である。

所見　古銭６枚が六道銭の性格と考えられる寛永通寶が古寛永銭であることから，時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第283図　第34号墓壙・出土遺物実測図

第34号墓壙出土遺物観察表（第283図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
483	土師質土器	小皿	－	(1.4)	3.8	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ，底部回転糸切り後ナデ	覆土中	50%

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M163	寛永通寶	2.4	0.6	4.48	1636年	銅	無背文，真書	南西部床面	PL90
M164	寛永通寶	2.3	0.6	4.08	1636年	銅	無背文，真書	南西部床面	PL90
M165	寛永通寶	2.4	0.6	4.78	1636年	銅	無背文，真書	南西部床面	PL90
M166	寛永通寶	2.45	0.6	4.16	1636年	銅	無背文，真書	南西部床面	PL90
M167	淳化元寶	2.44	0.6	3.46	1340年±10	銅	無背文，草書	南西部床面	PL90
M168	寛永通寶	2.3	0.55	2.18	1636年	銅	無背文，真書	南西部床面	PL90

第35号墓壙（第284図）

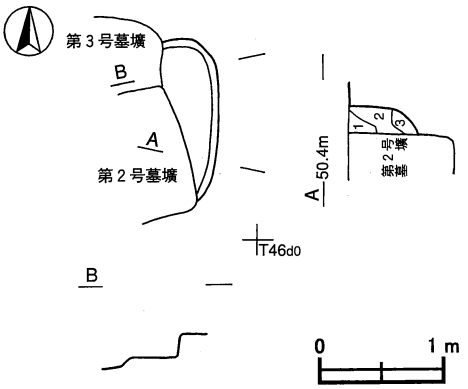
位置　中央１区東部のＴ46ｃ9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第22・37号墓壙を掘り込み，第２・３号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第２・３号墓壙に掘り込まれているため，確認できた長径は1.35m，短径は0.36mで，平面形は楕円形と推測される。深さは51cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長径方向はＮ－０°である。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量



第284図　第35号墓壙実測図

遺物出土状況　土師質土器片１点（小皿）が出土している。出土遺物は細片で，図示できるものではない。

所見　周囲の墓壙と規模と形状及び重複関係から，時期は近世と考えられる。

第36号墓壙（第285図）

位置　中央１区東部のＴ47ｄ1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第40号墓壙を掘り込み，第43・50号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第43・50号墓壙に掘り込まれているため，確認できた南北軸は0.48m，東西軸は0.70mで，平面形はほぼ方形と推測される。深さは101cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸はＮ－２°－Ｅである。

覆土　ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

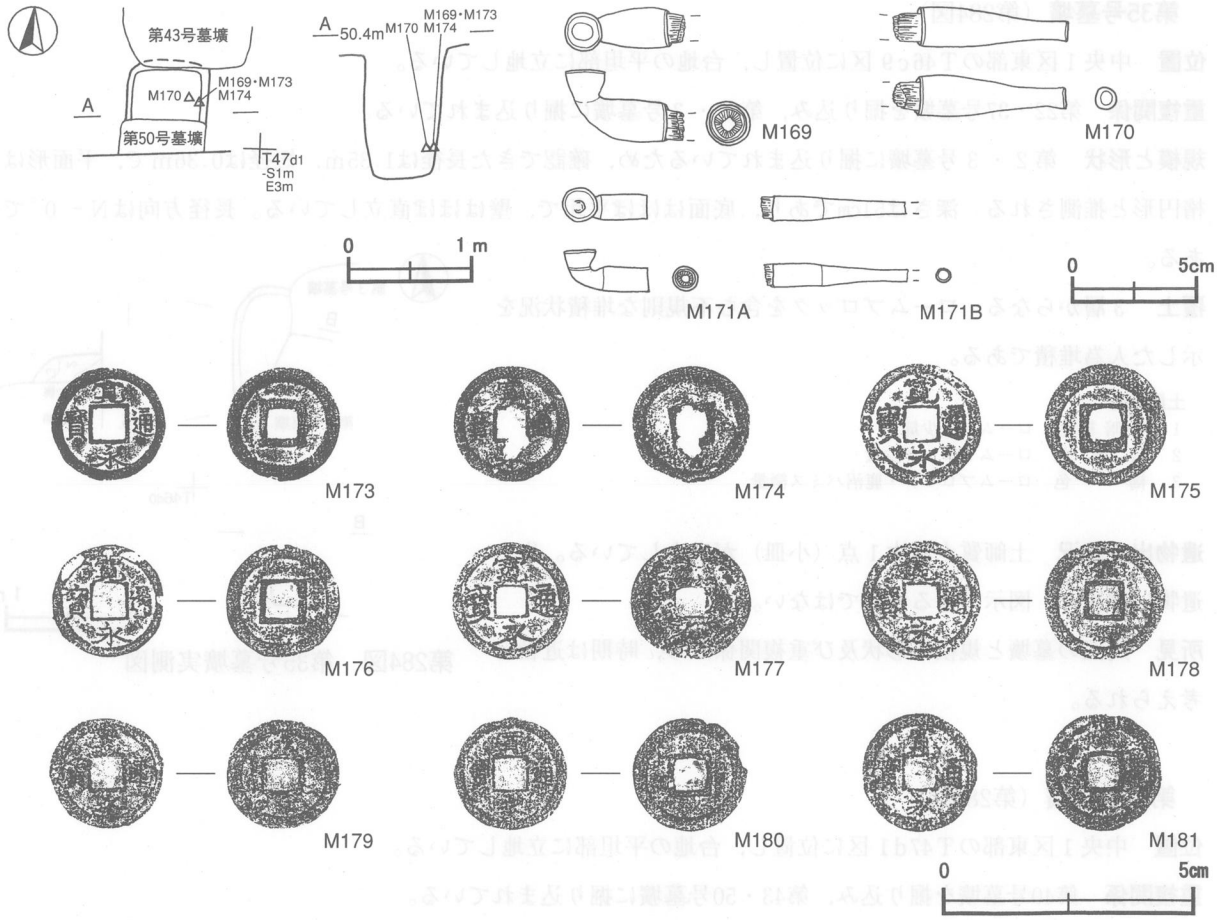
遺物出土状況　古銭９枚（寛永通寶），銅製品４点（煙管雁首２，煙管吸口２），鉄製品２点（不明），人骨片が出土している。人骨片は後頭部が北に位置し，大腿骨の一部が顔の前面に立ったような状態で出土しているので，座棺での埋葬と考えられる。このほかには，混入した土師器片２点が出土している。M169・M170・M173・M174は東部の覆土下層，M175～M181は覆土中から出土している。

所見　古銭９枚が六道銭の性格と考えられる寛永通寶に背文字の「元」のある新寛永銭を含んでいることから，時期は18世紀中葉以降で，喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。

第36号墓壙出土遺物観察表（第285図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M169	煙管雁首	4.7	2.9	1.5	13.2	銅	羅芋竹管残存，火皿部円形，接合部断面円形	東部下層	M170と同一個体 PL88
M170	煙管吸口	7.0	1.6	0.9	13.1	銅	羅芋竹管残存，吸口部断面円形・厚みあり	東部下層	M169と同一個体 PL88
M171A	煙管雁首	3.3	1.7	0.1	(8.2)	銅	羅芋竹管残存，火皿部下・接合部に接着面あり	覆土中	PL88
M171B	煙管吸口	(5.9)	0.5～0.7	0.1	(8.0)	鉄	断面方形，先端部・基部の欠損	覆土中	PL88

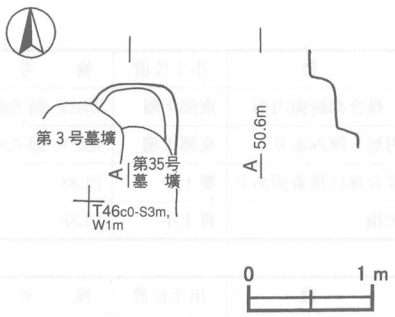
番号	銭　名	径	孔　幅	重　量	初鋳年	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M173	寛永通寶	2.3	0.6	2.44	1697年	銅	無背文，真書	東部下層	PL90



第285図　第36号墓壙・出土遺物実測図

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M174	寛永通寶	2.4	0.6	2.40	1636年	銅	無背文，真書，一部欠損	東部下層	
M175	寛永通寶	2.5	0.6	3.12	1636年	銅	無背文，真書，古寛永	覆土中	PL91
M176	寛永通寶	2.3	0.7	2.18	1697年	銅	無背文，真書	覆土中	PL91
M177	寛永通寶	2.4	0.6	3.30	1636年	銅	無背文，真書，古寛永	覆土中	PL91
M178	寛永通寶	2.5	0.6	3.52	1741年	銅	背「元」カ，真書	覆土中	PL91
M179	寛永通寶	2.3	0.6	2.14	1697年	銅	無背文，真書	覆土中	PL91
M180	寛永通寶	2.3	0.6	1.80	1697年	銅	無背文，真書	覆土中	PL91
M181	寛永通寶	2.4	0.6	2.14	1697年	銅	無背文，真書	覆土中	PL91

第37号墓壙（第286図）



第286図　第37号墓壙実測図

位置　中央１区東部のＴ46ｃ9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第22号墓壙を掘り込み，第３・35号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第３・35号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸0.32m，東西軸0.70mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは12cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である東西軸はＮ－85°－Ｅである。

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積と想定される。

遺物出土状況　出土していない。

所見　時期は，周辺の墓壙の規模と形状が類似していることから，近世と考えられる。

第38号墓壙（第287図）

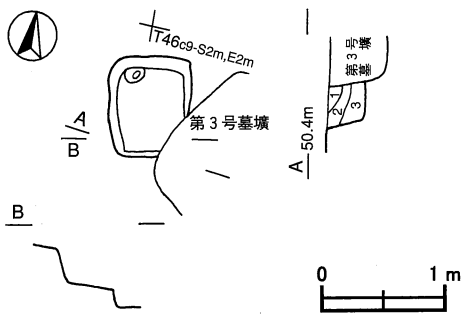
位置　中央１区東部のＴ46ｃ9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第６号墓壙を掘り込み，第３号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第３号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは長軸が0.95m，短軸が0.65mで，平面形は長方形と推測される。深さは30cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－14°－Ｗである。

覆土　３層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　極暗褐色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック微量



遺物出土状況　鉄製品１点（不明），木製品１点（不明），人骨片１体が出土している。人骨片は頭部が北西部に位置し，南東方向へ骨片が広がっていることから，仰向けの状態で埋葬されたと考えられる。出土遺物は細片で，図示できるものはない。

所見　時期は，周辺の墓壙の規模と形状と類似していることから，近世と考えられる。

第287図　第38号墓壙実測図

第39号墓壙（第288図）

位置　中央１区東部のＴ46ｄ9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第347号土坑に掘り込まれている。

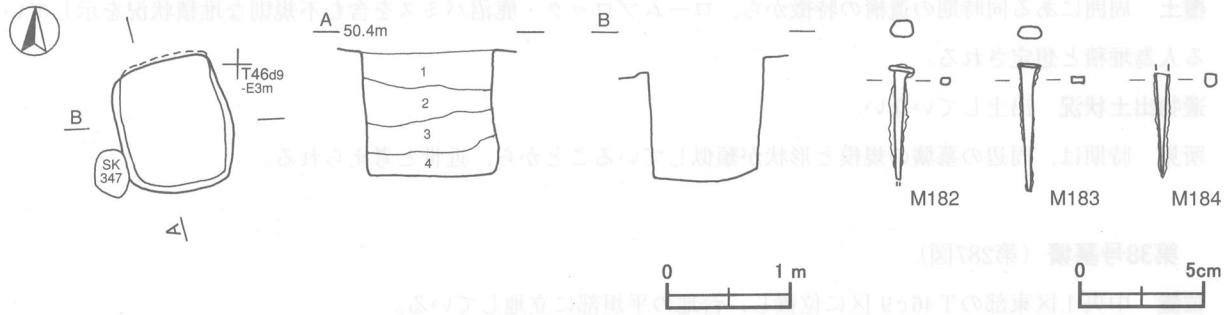
規模と形状　第347号土坑に掘り込まれており，長軸1.06m，短軸0.90mの長方形である。深さは102cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－14°－Ｗである。

覆土　４層からなる。ロームブロック・鹿沼パミスを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
2　黒　褐　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量
4　褐　　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量

遺物出土状況　鉄製品20点（釘）が出土している。人骨片は確認されなかった。M182～M184は棺の釘と考えられるが，人骨及び棺は確認されなかったので，朽ち果ててしまったと考えられる。

所見　釘などが出土していることから，性格は墓壙と考えられる。時期は近隣の墓壙と規模と形状で類似していることから，近世と考えられる。



第288図　第39号墓壙・出土遺物実測図

第39号墓壙出土遺物観察表（第288図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M182	釘	(4.6)	1.0	0.3	(2.0)	鉄	角釘，先端部一部欠損	覆土中	
M183	釘	5.1	0.9	0.3	2.0	鉄	角釘，断面長方形	覆土中	
M184	釘	(4.0)	0.5	0.5	(1.2)	鉄	角釘，基部欠損，断面長方形	覆土中	

第40号墓壙（第289図）

位置　中央１区東部のＴ47ｄ1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

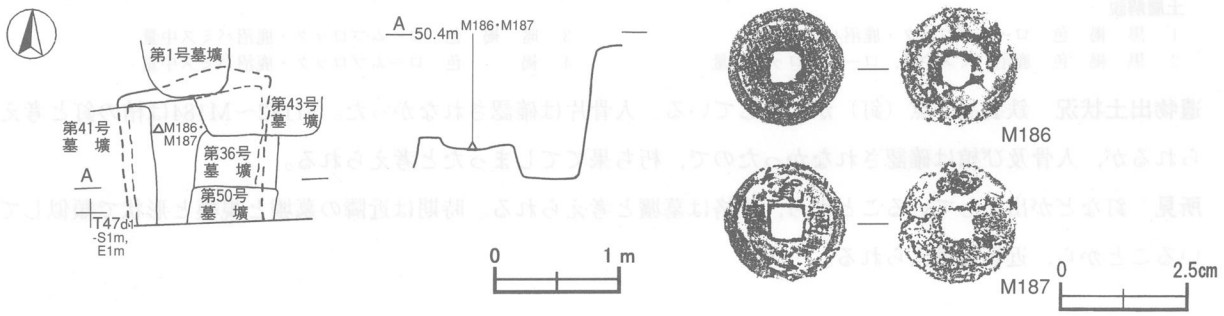
重複関係　第１・36・41・43・50号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第１・36・41・43・50号墓壙に掘り込まれているため，確認できた規模は南北軸が1.06m，東西軸が0.62mで，平面形は長方形と推測される。深さは75cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はＮ－４°－Ｗである。

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。

遺物出土状況　古銭５枚(寛永通寶)，鉄製品44点(釘)，人骨片１体が出土している。これらの遺物は北西部の底面から出土している。人骨片は頭骨が北西部に位置し，大腿骨が南東部の頭骨の前に位置した状態で出土しているので，座棺での埋葬と考えられる。このほかには，混入した須恵器片１点が出土している。M186・M187は北西部の底面から出土している。古銭は５枚出土しているが，３枚は破損がひどく，図示できなかった。

所見　六道銭の性格が考えられる古銭は寛永通寶が古寛永銭であることから，時期は17世紀中葉以降と考えられる。



第289図　第40号墓壙・出土遺物実測図

第40号墓壙出土遺物観察表（第289図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M186	寛永通寶	2.4	0.5	3.20	1636年	銅	背文不明，真書	北西部床面	PL91
M187	寛永通寶	2.4	0.6	2.46	1636年	銅	背文不明，真書，鉄錆付着	北西部床面	PL91

第41号墓壙（第290図）

位置　中央１区東部のT47d1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

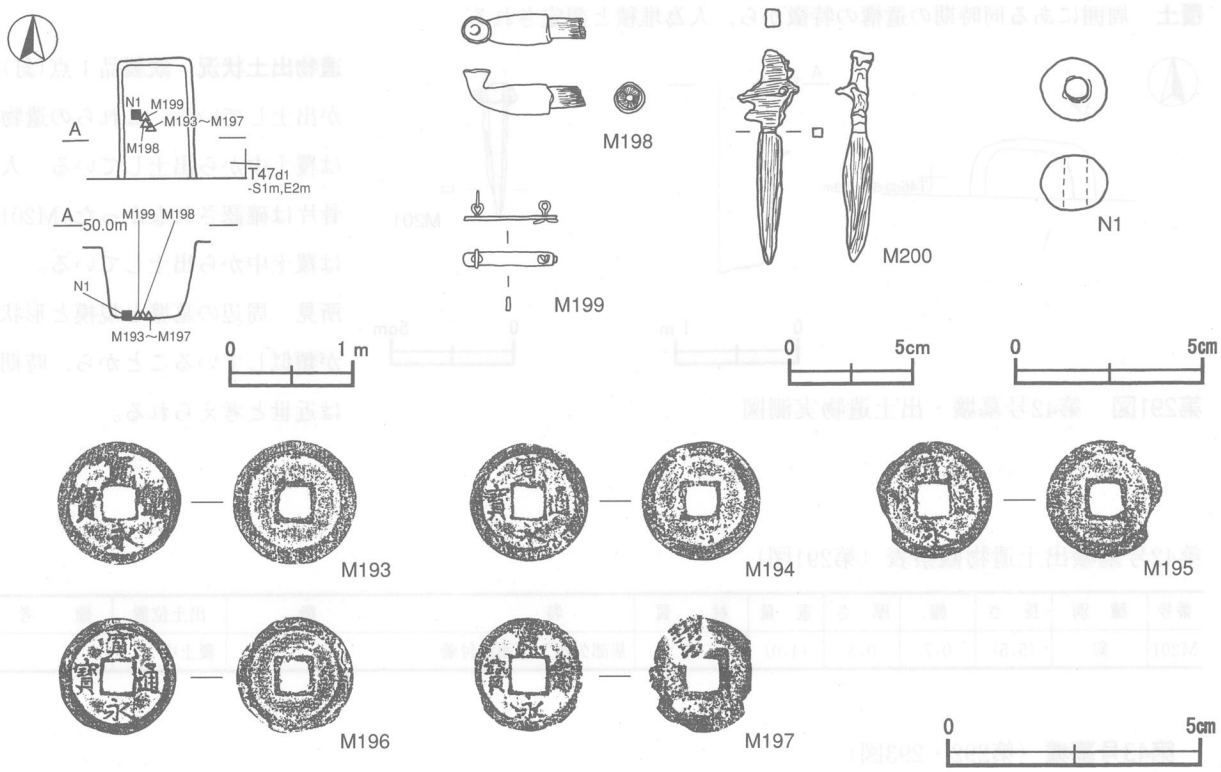
重複関係　第40・45号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びているため，確認できた長軸は0.93m，短軸は0.56mで，平面形は長方形と推測される。深さは53cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－5°－Wである。

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。

遺物出土状況　古銭５枚（寛永通寶），鉄製品１点（釘），銅製品５点（飾り金具３，煙管雁首１，煙管吸口１），珊瑚玉１点（煙草入れの緒締の玉カ），人骨片が出土している。これらの遺物は北部の底面を中心に出土している。人骨は頭部が北部に位置し，大腿骨が南部に延びた状態で出土している。M193～M198は中央部の底面，M199は中央部の覆土下層，M200は覆土中から出土している。Ｎ１の珊瑚玉は西部の底面から出土し，煙草入れの緒締の玉である可能性がある。

所見　六道銭としての性格が考えられる古銭は寛永通寶に背文字に「文」のない新寛永銭であることから，時期は17世紀末葉以降で，喫煙の習慣のあった人物の墓と考えられる。



第290図　第41号墓壙・出土遺物実測図

第41号墓壙出土遺物観察表（第290図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M198	煙管雁首	4.8	1.8	1.2	7.4	銅	接合部一部欠損，羅宇竹管残存，火皿部不整円形	中央部床面	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M199	飾金具	3.7	0.5	1.3	2.0	銅	吊り手鋲留め２か所	中央部下層	PL88
M200	釘	8.4	2.4	0.7	7.8	鉄	全面木質付着	覆土中	PL88

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M193	寛永通寳	2.5	0.6	3.02	1697年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL91
M194	寛永通寳	2.4	0.6	2.84	1697年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL91
M195	寛永通寳	2.4	0.6	1.90	1697年	銅	無背文，真書，一部欠損	中央部床面	PL91
M196	寛永通寳	2.4	0.6	2.38	1697年	銅	無背文，真書	中央部床面	PL91
M197	寛永通寳	2.3	0.6	1.48	1697年	銅	無背文，真書，一部欠損	中央部床面	PL91

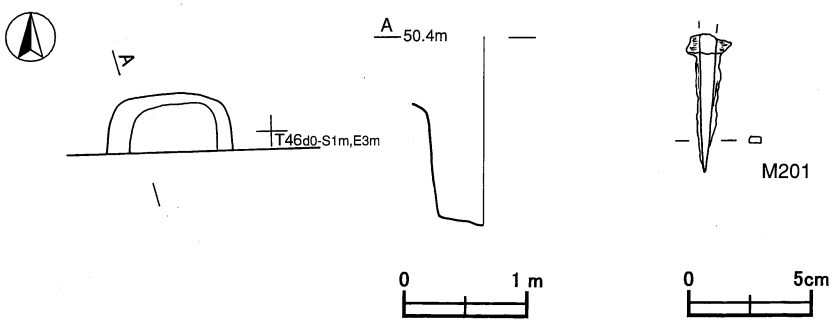
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
N1	珊瑚玉	1.7	0.6	1.4	12.0	珊瑚	両側からの穿孔	西部床面	

第42号墓壙（第291図）

位置　中央１区東部のＴ46d0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びているため，確認できた東西軸は0.98m，南北軸は0.50mで，平面形は長方形と推測される。深さは124cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸はＮ－84°－Ｗである。

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。



第291図　第42号墓壙・出土遺物実測図

遺物出土状況　鉄製品１点(釘)が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。人骨片は確認されなかった。M201は覆土中から出土している。

所見　周辺の墓壙と規模と形状が類似していることから，時期は近世と考えられる。

第42号墓壙出土遺物観察表（第291図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M201	釘	(5.5)	0.7	0.3	(4.0)	鉄	基部欠損，全面錆付着	覆土中	

第43号墓壙（第292・293図）

位置　中央１区東部のＴ47d1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

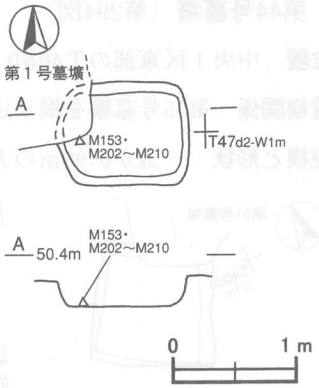
重複関係　第36・40・47・49号墓壙を掘り込み，第１号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第１号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは長軸が1.05m，短軸が0.80mで，平面形は長方形と推測される。深さは20cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はN－88°－Wである。

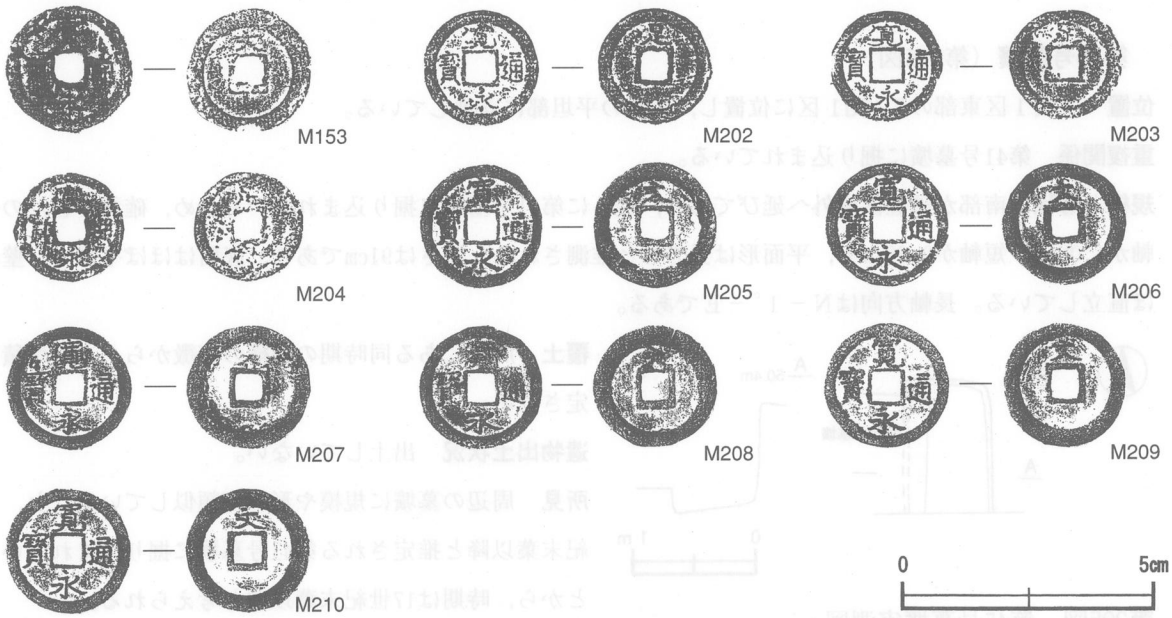
覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。

遺物出土状況　古銭10枚（寛永通寶），人骨片が出土している。人骨片は南部の底面から出土している。このほかには，混入した縄文土器片36点，土師器片345点，須恵器片９点，灰釉陶器片２点，土製品４点（支脚２，土錘１，不明１），鉄製品２点（不明），剥片１点，破砕礫１点が出土している。M153・M202～M210は西部の底面から出土し，本跡に伴う遺物である。

所見　古銭は10枚出土しているが，六道銭の性格が考えられる寛永通寶は背文字に「文」・「足」を有する新寛永銭であることから，時期は18世紀以降と考えられる。



第292図　第43号墓壙実測図



第293図　第43号墓壙出土遺物実測図

第43号墓壙出土遺物観察表（第293図）

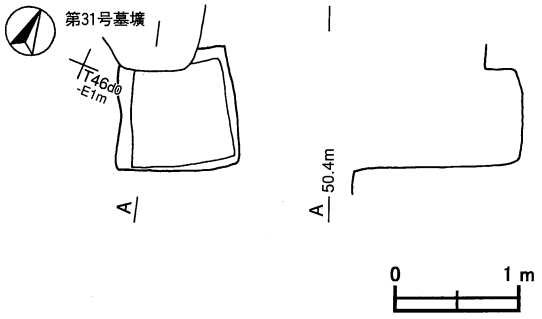
番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M153	寛永通寶	2.4	0.7	2.04	1636年	銅	背「文」，真書	西部床面	PL90
M202	寛永通寶	2.3	0.6	2.84	－	銅	背「足」，真書	西部床面	PL91
M203	寛永通寶	2.3	0.6	2.44	－	銅	背「足」，真書	西部床面	PL91
M204	寛永通寶	2.3	0.6	1.88	－	銅	背「足」，真書	西部床面	PL91
M205	寛永通寶	2.5	0.6	3.60	1668年	銅	背「文」，真書	西部床面	PL91
M206	寛永通寶	2.5	0.6	3.72	1668年	銅	背「文」，真書	西部床面	PL91
M207	寛永通寶	2.5	0.6	3.54	1668年	銅	背「文」，真書	西部床面	PL91
M208	寛永通寶	2.5	0.6	3.20	1668年	銅	背「文」，真書	西部床面	PL91
M209	寛永通寶	2.5	0.6	3.08	1668年	銅	背「文」，真書	西部床面	PL91
M210	寛永通寶	2.5	0.6	3.26	1668年	銅	背「文」，真書	西部床面	PL91

第44号墓壙（第294図）

位置　中央１区東部のＴ46ｄ0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第15号墓壙を掘り込み，第31号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　一辺が0.92ｍの方形で，深さは129cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－24°－Ｗである。



第294図　第44号墓壙実測図

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。

遺物出土状況　出土していない。

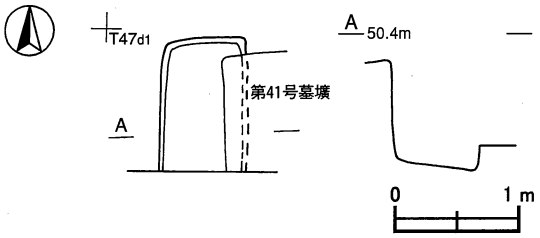
所見　周辺の墓壙と規模と形状で類似していること，17世紀末葉以降と推定される第31号墓壙に掘り込まれていることから，時期は17世紀末葉以前と考えられる。

第45号墓壙（第295図）

位置　中央１区東部のＴ47ｄ1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第41号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びており，さらに第41号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは長軸が1.08ｍ，短軸が0.69ｍで，平面形は長方形と推測される。深さは91cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－１°－Ｅである。



第295図　第45号墓壙実測図

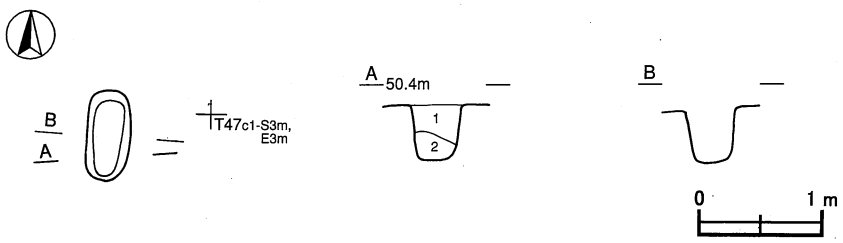
覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。

遺物出土状況　出土していない。

所見　周辺の墓壙に規模や形状が類似していること，17世紀末葉以降と推定される第41号墓壙に掘り込まれていることから，時期は17世紀末葉以前と考えられる。

第46号墓壙（第296図）

位置　中央１区東部のＴ47ｃ1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。



第296図　第46号墓壙実測図

重複関係　第１・47号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　長径0.71ｍ，短径0.35ｍのほぼ楕円形で，深さは42cmで，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長径方向はＮ－４°－Ｗである。

覆土　２層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　鹿沼パミス粒子少量，ロームブロック微量　　2　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量

遺物出土状況　出土していない。

所見　周辺の墓壙と規模や形状が類似していること，18世紀代と推定される第47号墓壙を掘り込んでいることから，時期は18世紀以降と考えられる。

第47号墓壙（第297図）

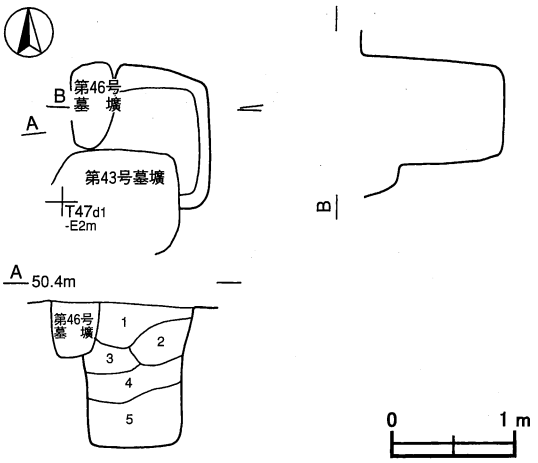
位置　中央１区東部のＴ47ｃ１区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第７・40・49号墓壙を掘り込み，第43・46号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　第43・46号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは長軸が1.08m，短軸が0.90mで，平面形は長方形と推測される。深さは112cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－５°－Ｗである。

覆土　５層からなる。鹿沼ブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　鹿沼パミス中量
2　褐　　色　鹿沼パミス中量
3　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
4　褐　　色　鹿沼パミス中量，ローム粒子少量
5　褐　　色　鹿沼パミス少量



第297図　第47号墓壙実測図

遺物出土状況　人骨片が出土している。

所見　人骨が出土していることから，墓壙と考えられる。周辺の墓壙に規模や形状が類似していること，18世紀以降と推定される第７号墓壙を掘り込み，18世紀以降と推定される第43号墓壙に掘り込まれていることから，時期は18世紀代と考えられる。

第48号墓壙（第298図）

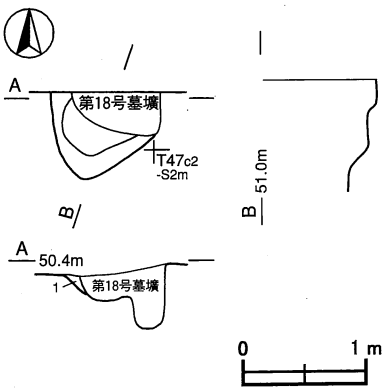
位置　中央１区東部のＴ47ｃ１区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第18号墓壙に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びており，さらに第18号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは東西が0.60m，南北が0.70mで，平面形は長方形と推測される。深さは14cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向である南北軸はＮ－28°－Ｗである。

覆土　単一層である。第18号墓壙に掘り込まれているため，残存部が少なく，ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量



第298図　第48号墓壙実測図

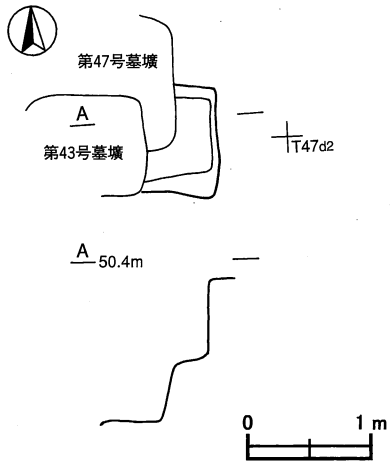
遺物出土状況　出土していない。

所見　周辺の墓壙に規模や形状で類似していること，17世紀末葉以降と推定される第18号墓壙に掘り込まれていることから，時期は17世紀末葉以前と考えられる。

第49号墓壙（第299図）

位置　中央１区東部のＴ47ｃ1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第７号墓壙を掘り込み，第43・47号墓壙に掘り込まれている。



第299図　第49号墓壙実測図

規模と形状　第43・47号墓壙に掘り込まれているため，確認できたのは南北軸が0.87m，東西軸が0.56mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。深さは65cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向である南北軸はＮ－３°－Ｅである。

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。

遺物出土状況　人骨片が出土している。人骨片は後頭部が北に位置していたものが，南東部に転倒したものと考えられる。

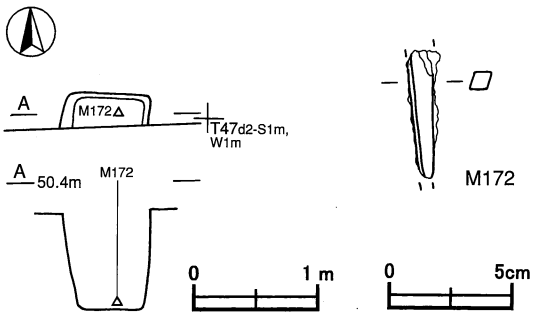
所見　周辺の墓壙に規模や形状が類似していること，18世紀以降と推定される第７号墓壙を掘り込み，18世紀以降と推定される第43号墓壙に掘り込まれていることから，時期は18世紀代と考えられる。

第50号墓壙（第300図）

位置　中央１区東部のＴ47ｄ1 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第36号墓壙を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びており，確認できたのは南北軸が0.29m，東西軸が0.70mで，平面形はほぼ方形と推測される。深さは60cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向である東西軸はＮ－86°－Ｅである。



第300図　第50号墓壙・出土遺物実測図

覆土　周囲にある同時期の遺構の特徴から，人為堆積と想定される。

遺物出土状況　鉄製品１点（釘），人骨片１体が出土している。M172は北部の覆土下層から出土している。

所見　周辺の墓壙に規模や形状が類似していること，17世紀末葉以降と推定される第36号墓壙を掘り込んでいることから，時期は17世紀末葉以降と考えられる。

第50号墓壙出土遺物観察表（第300図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M172	釘	(5.2)	0.8	0.8	(6.0)	鉄	先端部・基部欠損，全面錆付着	北部下層	

(2) 井戸跡

第３号井戸跡（第301図）

位置　中央１区東部のＶ50d5 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第５号井戸跡を掘り込んでいる。

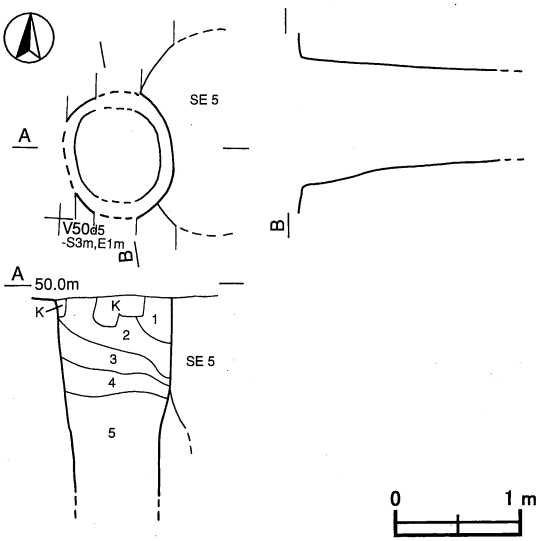
規模と形状　確認面は，長径1.02m，短径0.88mの楕円形で，長径方向はＮ－24°－Ｗである。円筒形に掘り込まれているが，確認面から1.70mまで掘り込んだ時点で湧水のため，それ以下の調査を中止した。

覆土　５層からなり，ロームブロック・鹿沼パミスを含むブロック状の人為堆積の状況を示している。

土層解説
1　黒　褐　色　鹿沼パミス少量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
5　灰　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量

遺物出土状況　出土していない。

所見　時期は中世以降と考えられる第５号井戸跡を掘り込んでいること，当遺跡の近世の井戸に規模や形状が類似していることから，近世と考えられる。



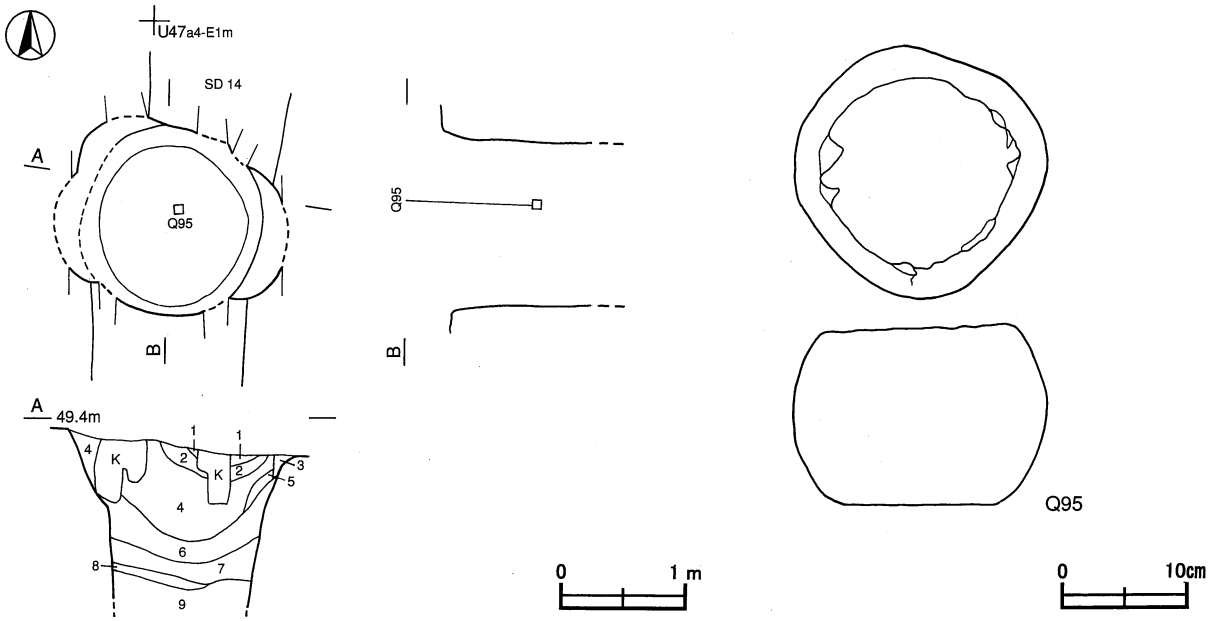
第301図　第３号井戸跡実測図

第10号井戸跡（第302図）

位置　中央２区中央部のＵ47a4 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第14号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けており，確認できた規模は確認面が，長径1.86m，短径1.50mの楕円形で，長径方向はＮ－48°－Ｗである。確認面から深さ0.48mまでわずかに漏斗状に掘り込み，下部は長



第302図　第10号井戸跡・出土遺物実測図

径1.24m，短径1.16mの円筒形に掘り込まれている。確認面から1.28mまで掘り込んだ時点で湧水のため，以下の調査を中止した。

覆土　9層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　にぶい褐色　ローム粒子・鹿沼パミス微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
3　明　褐　色　鹿沼パミス多量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス微量
6　暗　褐　色　鹿沼パミス少量，ローム粒子微量
7　褐　　色　鹿沼パミス少量，ローム粒子微量
8　褐　　色　鹿沼パミス粒子中量，ローム粒子微量
9　暗　褐　色　鹿沼パミス少量

遺物出土状況　土師器片2点（坏），須恵器片2点（坏，甕），青磁片1点（碗），石製品1点（五輪塔水輪）が覆土下層を中心に出土している。Q95は中央部の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，鋳造遺構関係遺物の出土がなく，覆土下層からQ95の五輪塔部材が出土していることから，近世と考えられる。

第10号井戸跡出土遺物観察表（第302図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
Q95	五輪塔	14.4	20.4	19.9	8320.0	花崗岩	上部に一部破損	中央部下層	水輪 PL87

第11号井戸跡（第303図）

位置　中央2区中央部のT45i3区に位置し，台地の平坦部に立地している。

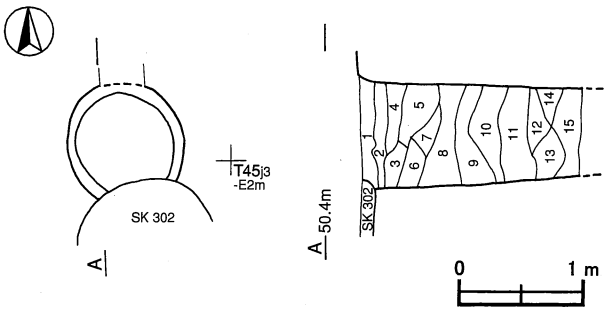
重複関係　第302号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認面は長径0.99m，短径0.92mの円形で，長径方向はN－25°－Wである。下部は長径0.84m，短径0.76mの円筒形に掘り込まれている。確認面から1.76mまで掘り込んだ時点で湧水のため，以下の調査を中止した。

覆土　15層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，粘土ブロック微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
6　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼パミス微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　暗　褐　色　ローム粒子多量
13　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量
14　黒　褐　色　ロームブロック少量
15　黒　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス少量



第303図　第11号井戸跡実測図

遺物出土状況　土師器片4点（甕），炉壁片4点，褐鉄鉱3点，円礫1点（被熱痕）が覆土中から出土している。出土した遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　周辺にある近世以降の井戸の形状に類似していることから，時期は近世以降と考えられる。

第12号井戸跡（第304図）

位置　中央１区西部のＳ44h2 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　確認面は長径1.43m，短径1.23mの楕円形で，長径方向はＮ－68°－Ｗである。確認面から深さ0.8mまではわずかに漏斗状に掘り込み，下部は長径0.88m，短径0.84mの円筒形に掘り込まれている。確認面から2.0mまで掘り込んだ時点で湧水のため，以下の調査を中止した。

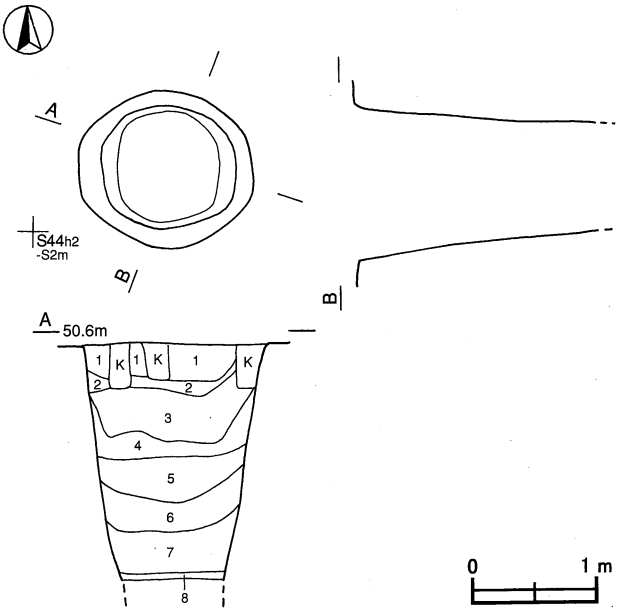
覆土　８層からなり，ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子・鹿沼パミス微量
2	黒	褐	色	鹿沼パミス少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
4	黒	褐	色	鹿沼パミス少量，ロームブロック微量
5	黒	褐	色	ロームブロック・粘土粒子・鹿沼パミス少量，焼土粒子微量
6	褐		色	ロームブロック中量
7	黒		色	ローム粒子微量
8	灰	褐	色	粘土粒子多量

遺物出土状況　出土していない。

所見　当遺跡で確認されている近世と推定される井戸跡の形状と類似していることと，炉壁片や鉄滓などの鋳造に関係する遺物が出土していないことから，時期は近世以降と考えられる。



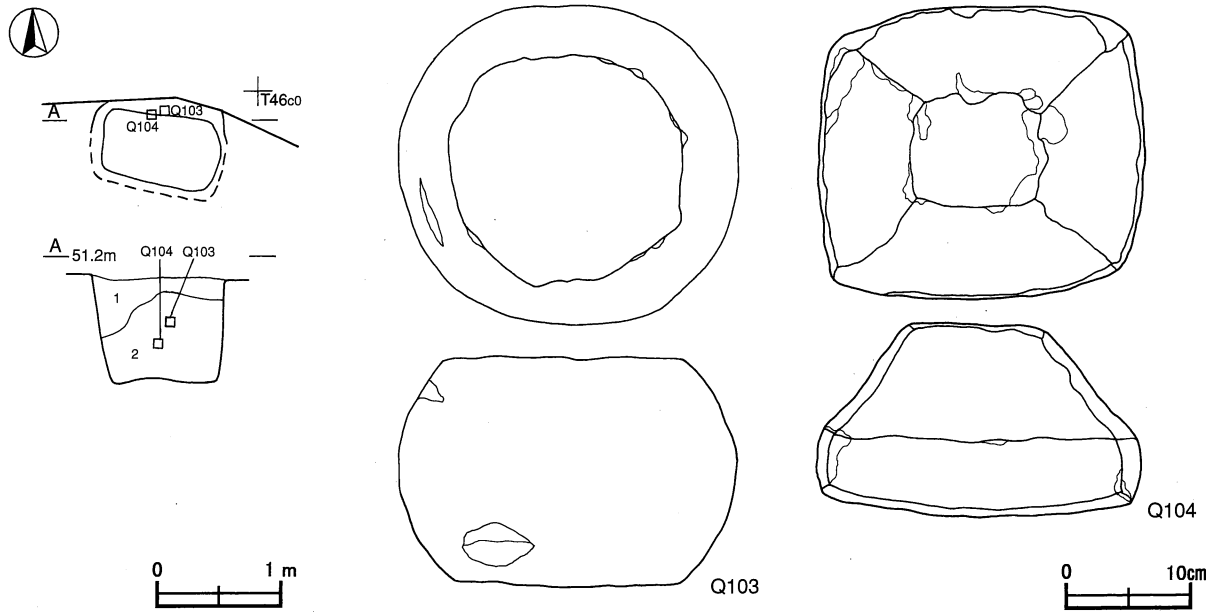
第304図　第12号井戸跡実測図

(3)　土坑

第441号土坑（第305図）

位置　中央１区北東部のＴ46c9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長軸1.04m，短軸0.39mの長方形で，深さは81cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち



第305図　第441号土坑・出土遺物実測図

上がっている。長軸方向はN－78°－Wである。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量

遺物出土状況　石製品2点（五輪塔火輪，五輪塔水輪）が覆土中層から出土している。Q103・Q104の五輪塔部材は第2層の上部から出土しており，本跡を埋め戻す過程で混入したものと考えられる。

所見　本跡は現表土面からローム面をわずかに掘り込んだ深さの土坑である。Q103・Q104は大きさから別個の五輪塔部材といえ，本跡を埋め戻す過程で混入したものと考えられ，周辺の墓壙群と五輪塔の形状から考え，中世末の墓壙に伴って建てられたもので，土地の利用状況の変化に伴って埋められたと考えられる。時期は近世以降と考えられる。

第441号土坑出土遺物観察表（第305図）

番号	種　別	外　径	内　径	高　さ	重　　量	石　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
Q103	五輪塔	26.9	18.4	18.4	(18200.0)	花崗岩	下部側面一部欠損	北部中層	水輪 PL87

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　　量	石　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
Q104	五輪塔	23.3	25.6	15.3	(12200.0)	花崗岩	上部・側面の一部が欠損	北部中層	火輪 PL87

5　その他の遺構と遺物

今回の調査で，時期不明の竪穴住居跡15軒，方形竪穴遺構5基，掘立柱建物跡1棟，井戸跡1基，土坑359基，溝跡5条，ピット群7か所，ピット列3条，不明遺構4基，遺物包含層1か所が確認されている。以下，遺構と遺物について記述する。

(1)　竪穴住居跡

第18号住居跡（第306図）

位置　中央2区東部のU49 j 9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第127号土坑を掘り込み，第4・5・9・18・60・61号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　規模は長軸4.92m，短軸4.52mの方形で，主軸方向はN－82°－Wである。壁高は43cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が特に踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈・炉　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

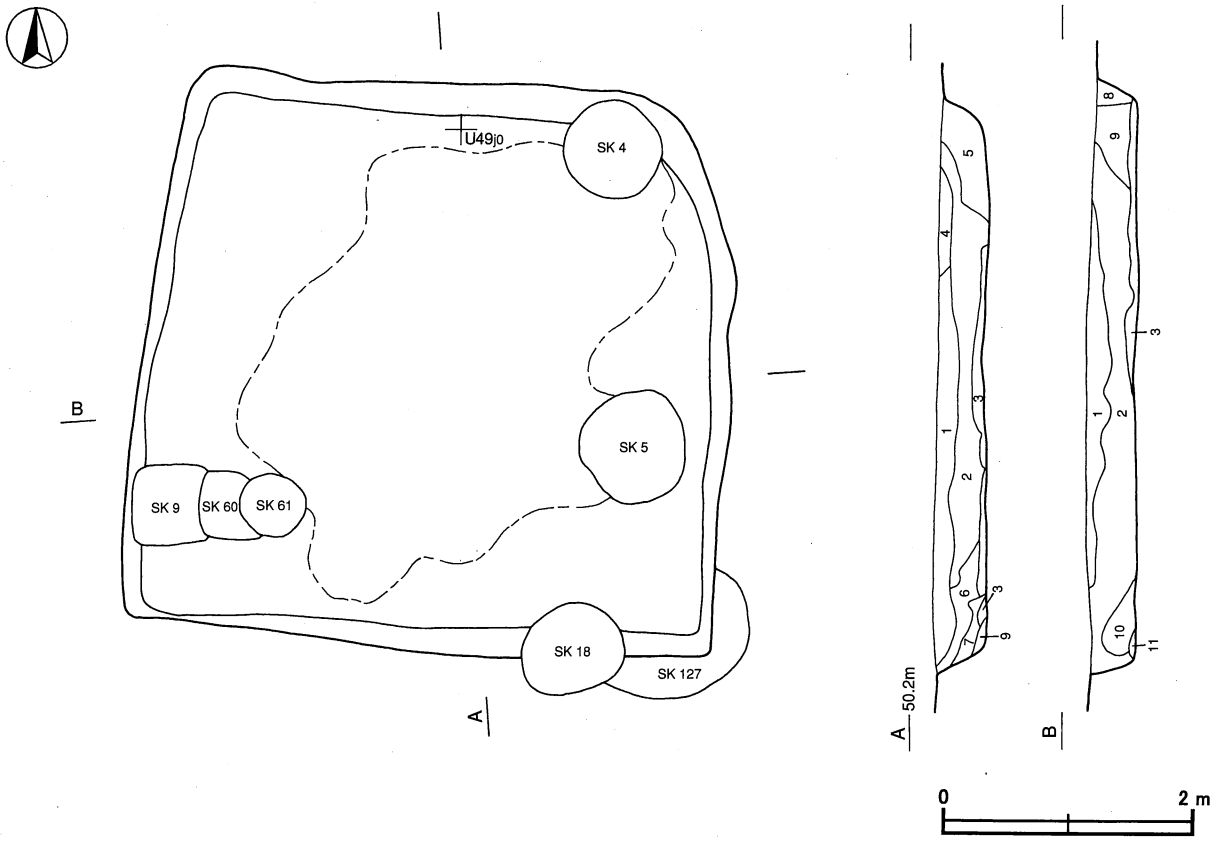
覆土　11層からなる。レンズ状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　極暗褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量
9　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片74点（椀1，甕73），須恵器片19点（坏13，蓋2，甕3，短頸壺1），礫7点（破砕礫）が出土している。これらの遺物は全域にわたって散在した状態で覆土中層から下層を中心に出土している。こ

のほかには，混入した縄文土器片19点，弥生土器片３点が出土している。本跡に伴う土器はない。出土遺物のすべてが細片で，図示できるものはない。

所見　出土遺物が体部片で，さらに細片であるため，時期は不明である。



第306図　第18号住居跡実測図

第47号住居跡（第307図）

位置　中央２区中央部のU46b7区に位置し，台地の微斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.30m，短軸2.85mで，平面形は長方形と推測される。長軸方向はN－90°－Wである。壁高は24～40cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認できなかった。南東コーナー付近の床面から焼土が確認され，わずかではあるが被熱のため赤変していた。

竈・炉　確認できなかった。

ピット　確認できなかった。

覆土　９層からなる。ロームブロックを多く含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

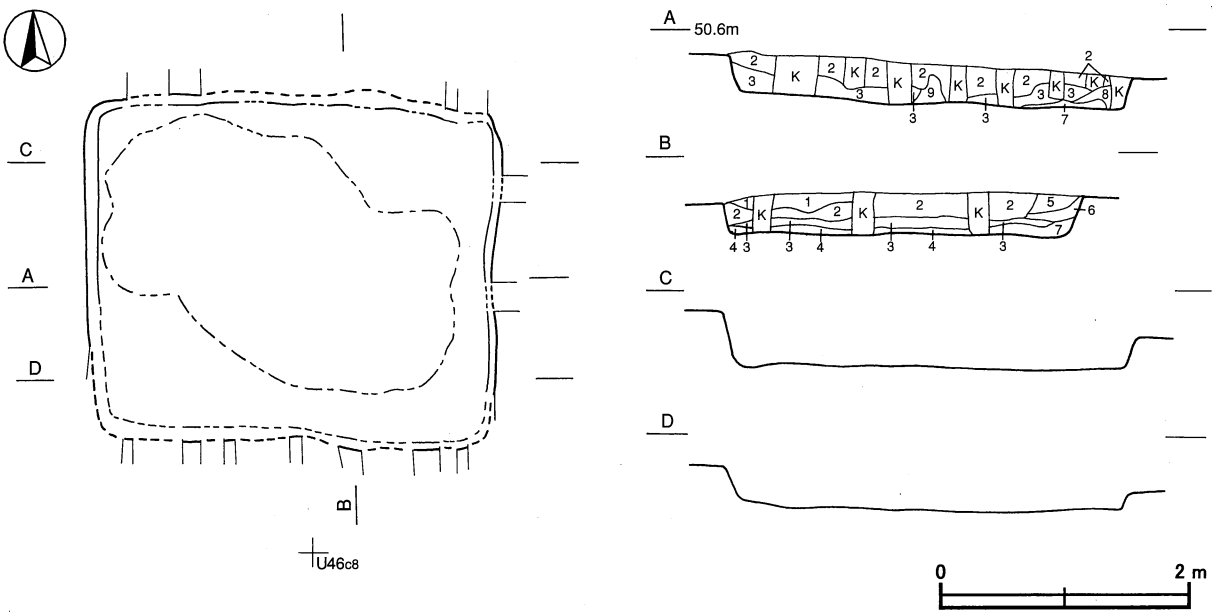
土層解説

1	灰　褐　色	ロームブロック多量	
2	暗　褐　色	ロームブロック少量	
3	暗　褐　色	ロームブロック中量	
4	暗　褐　色	ロームブロック中量	
5	にぶい黄褐色	ロームブロック多量	
6	黄　褐　色	ロームブロック多量	
7	黄　褐　色	ローム粒子多量	
8	黒　褐　色	ロームブロック微量	
9	暗　褐　色	ロームブロック少量	

遺物出土状況　土師器片58点（坏４，甕54），須恵器片４点（蓋１，盤１，甕２），瓦片２点（平瓦），礫27点

（破砕礫；被熱痕12）が出土している。これらの遺物は南東コーナー部の覆土下層を中心に出土している。このほかには，混入した石器１点，撹乱により混入した陶器片１点，鉄滓４点が出土している。南東コーナー部付近の床面から焼土と共に土師器甕片が出土している。出土した遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　炉が確認されていないことから工房跡の可能性があるが，中央部の床面は踏み固められていること，土師器片や須恵器片が出土していることから，住居として使用されていたと考えられる。出土した土器のすべてが細片であるため，時期は不明である。



第307図　第47号住居跡実測図

第59号住居跡（第308図）

位置　中央２区中央部のＴ46ｆ2区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びているため，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，確認できた規模は長軸が3.56m，短軸が1.60mで，平面形は方形または長方形と推測される。主軸方向はＮ－１°－Ｗである。壁高は30～35cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面が確認できなかった。壁溝は深さ８cmほどで，確認された壁際を巡っている。

ピット　Ｐ１は深さ16cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

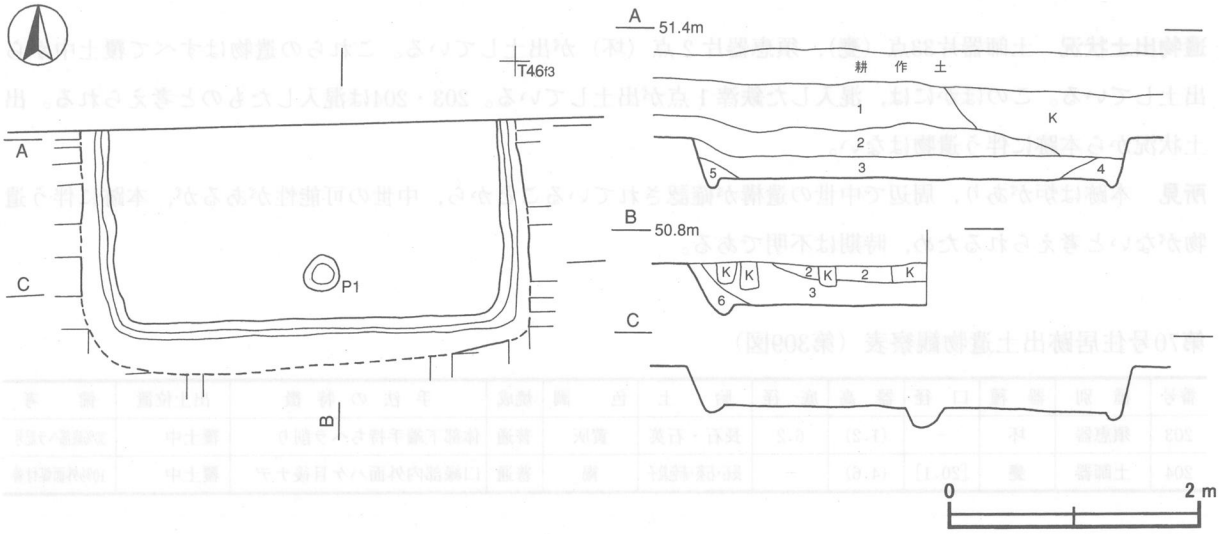
覆土　６層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック微量	4	にぶい黄褐色	ローム粒子中量
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量	5	黒	褐	色	ロームブロック少量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量	6	黒	褐	色	ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片10点（甕），須恵器片９点（甕・甑９）が出土している。これらの遺物は中央部及び東部の覆土上層を中心に出土している。このほかには，撹乱による混入した陶器片１点が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。本跡に伴う土器はない。

所見　本跡は周辺の同規模の住居跡から平安時代の可能性もあるが，本跡に伴うと考えられる土器が少なく，時期は不明である。



第308図　第59号住居跡実測図

第70号住居跡（第309図）

位置　中央２区中央部のU45b9区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第433号土坑を掘り込み，第380・428号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　規模は長軸2.43m，短軸2.32mの方形で，長軸方向はN－0°である。壁高は20cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

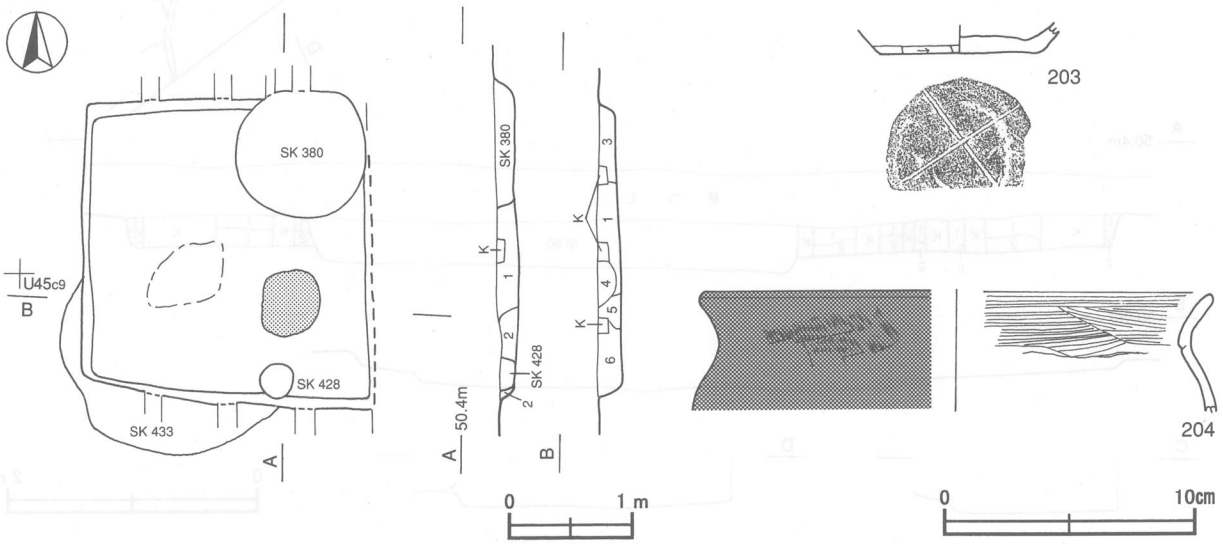
炉　ほぼ中央部の南東寄りに位置している。攪乱を受けているため，確認できたのは長径60cm，短径44cmで，平面形が楕円形と推測される。床面をわずかに掘りくぼめられた地床炉で，炉底は焼土の広がりが見られる程度である。

ピット　確認されなかった。

覆土　６層からなる。不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック微量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック微量



第309図　第70号住居跡・出土遺物実測図

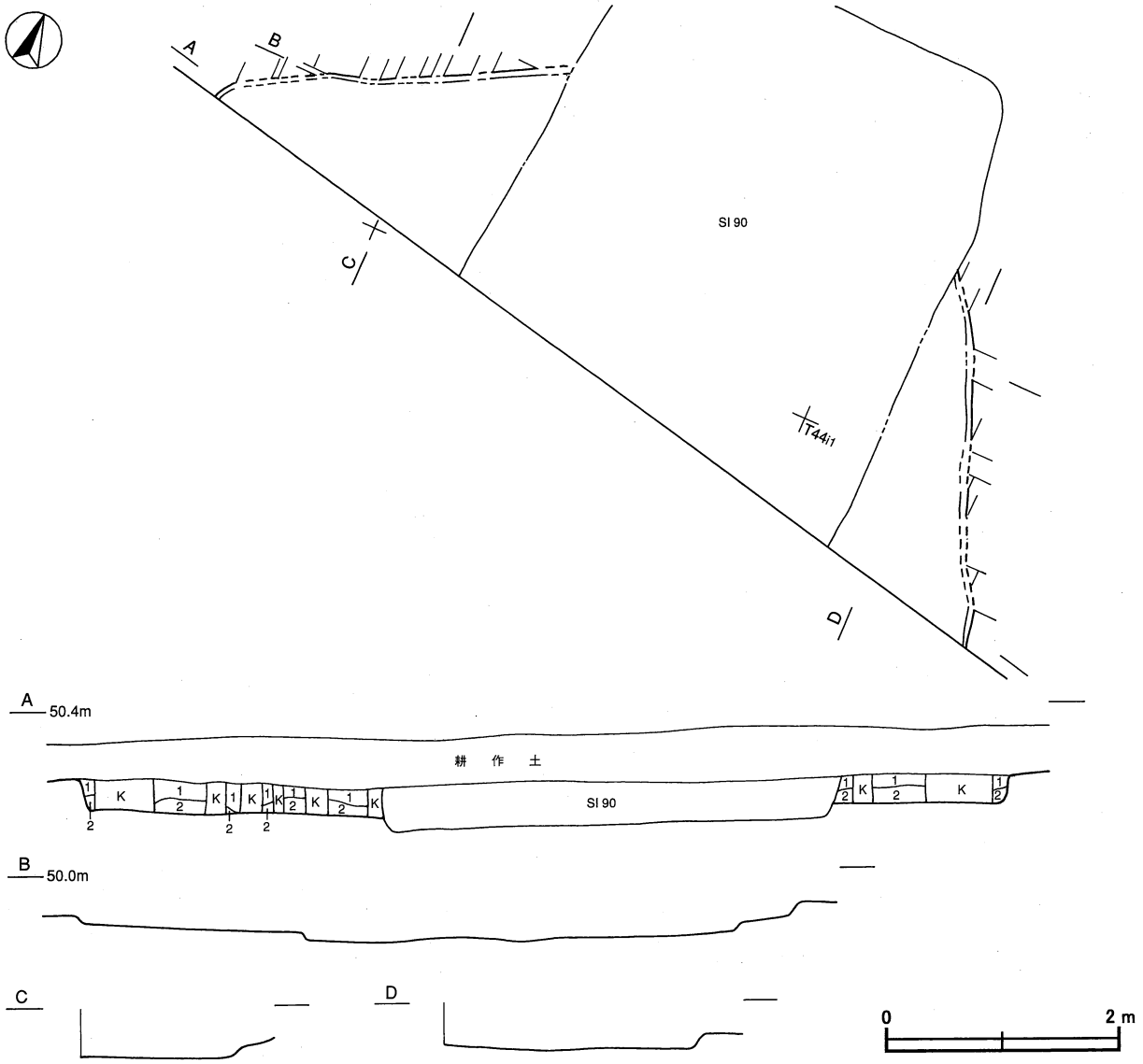
遺物出土状況　土師器片33点（甕），須恵器片２点（坏）が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。このほかには，混入した鉄滓１点が出土している。203・204は混入したものと考えられる。出土状況から本跡に伴う遺物はない。

所見　本跡は炉があり，周辺で中世の遺構が確認されていることから，中世の可能性があるが，本跡に伴う遺物がないと考えられるため，時期は不明である。

第70号住居跡出土遺物観察表（第309図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
203	須恵器	坏	－	(1.2)	6.2	長石・石英	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	30%底部ヘラ記号
204	土師器	甕	[20.1]	(4.6)	－	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口縁部内外面ハケ目後ナデ	覆土中	10%外面煤付着

第75号住居跡（第310図）



第310図　第75号住居跡実測図

位置　中央２区西部のＴ43h0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第90号住居に掘り込まれている。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びており，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，確認できた規模は長軸が6.00m，短軸が4.88mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はＮ－65°－Ｅである。壁高は24cmほどで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。硬化面，壁溝は確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　２層からなる。覆土が少なく，残存部分がレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　出土していない。

所見　当遺跡で確認されている古墳時代前期の住居に規模と形状が類似しているが，出土遺物がなく，さらに重複関係にある第90号住居跡も時期不明であるため，時期は不明である。

第80号住居跡（第311図）

位置　中央２区中央部のＵ45a2 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第81号住居に掘り込まれている。

規模と形状　第81号住居に掘り込まれ，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸3.40m，短軸2.96mで，平面形は長方形と推測される。長軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は７～10cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。

炉　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

覆土　５層からなる。覆土が薄く，残存部分がロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片４点（坏１，甕３），須恵器片１点（甕），炭化材が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できる遺物はない。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　重複関係にある第81号住居跡が時期不明であり，さらに本跡に伴うと考えられる出土土器もなく，時期は不明である。

第81号住居跡（第311・312図）

位置　中央２区中央部のＵ45a3 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第80号住居跡を掘り込み，第341・356～358・366号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第341・356～358・366号土坑に掘り込まれ，トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が3.98m，短軸が3.87mで，平面形は方形と推測される。長軸方向は

N－5°－Wである。壁高は12～17cmほどで，外傾して立ち上がっている。

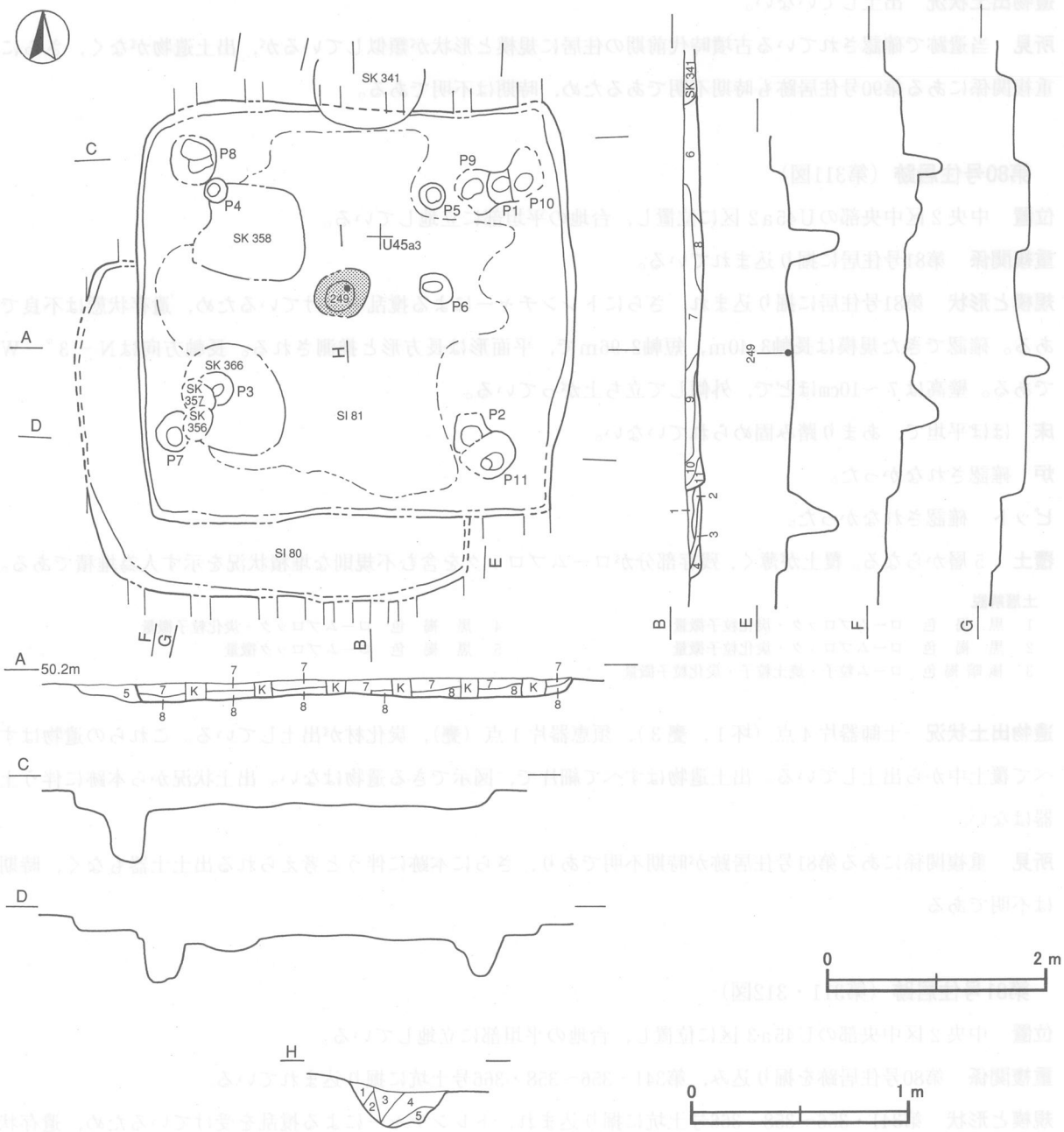
床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉　中央部に付設されている。長径0.42m，短径0.40mの円形である。床面とわずかに掘りくぼめられた地床炉で，炉底は被熱でわずかに赤変している部分が確認されている。

炉土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

ピット　11か所。P1～P4は深さ37～65cmで，各コーナー寄りに位置する主柱穴と考える。P1～P4に掘り込まれているP7～P9・P11は深さ40～54cmで，コーナー寄りに位置することから主柱穴と考えられる。



第311図　第80・81号住居跡実測図

P7～P9・P11がP1～P4に作り替えが行われたと考えられる。P5・P10は深さ50cmで，対応する柱穴がないことから，性格は不明である。

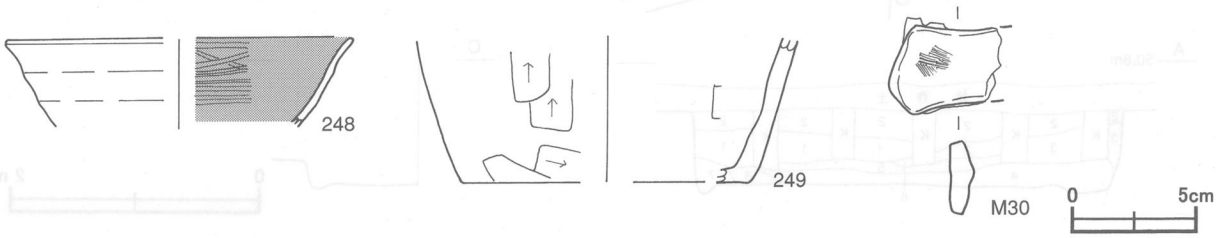
覆土　6層からなる。覆土が薄く，残存部分がロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

6　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
11　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片16点（坏2，甕14），須恵器片3点（坏2，甕1），鉄製品1点（不明），礫1点（破砕礫；被熱痕あり）鉄滓4点，炉壁片1点が出土している。これらの遺物はほとんどが覆土中で，他は中央部の覆土下層を中心に出土している。248は覆土中，249は炉底，M30はP6の覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　工房跡とも住居跡とも考えられるが，本跡に伴うと考えられる遺物がないため，時期及び性格は不明である。



第312図　第81号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡出土遺物観察表（第312図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
248	土師器	坏	[13.7]	(3.6)	－	雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロ整形，体部内面ヘラ磨き	覆土中	10% 内面黒色処理
249	土師器	甕	－	(5.6)	[11.4]	白色粒子・赤色粒子・微礫	橙	普通	体部外面・底部ヘラ削り	炉底面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	不明	(4.5)	(3.5)	1.0	(39.6)	鉄	断面台形，木質付着	覆土中	

第82号住居跡（第313図）

位置　中央2区中央部のU45b1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びており，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸が3.28m，南北軸が1.02mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はN－5°－Wである。壁高は18～21cmほどで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦である。全体的に踏み固められている。壁溝は4～6cmで，確認された壁際を巡っている。

炉　確認されていない。

ピット　2か所。P1・P2は深さ63・59cmで，北東・北西コーナー寄りに位置する主柱穴の可能性があるが，本跡の全容が不明であるので，性格は不明である。

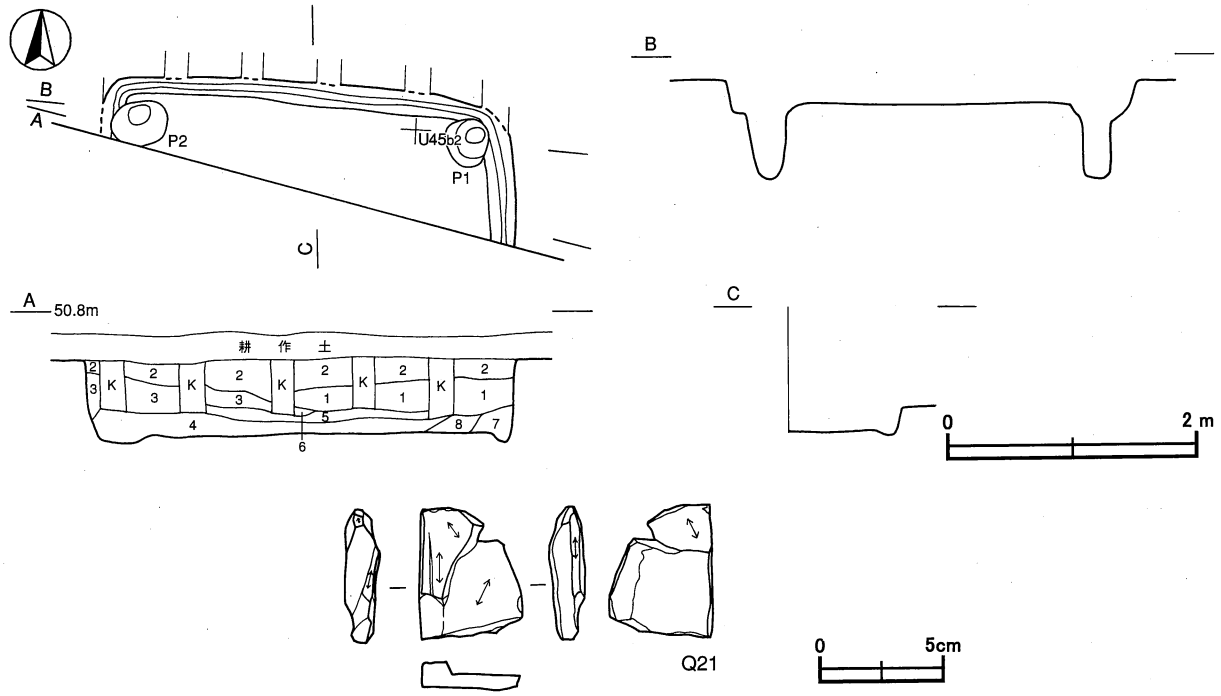
覆土　8層からなる。レンズ状を呈した自然堆積である。

土層解説

1 黒　　色　ローム粒子少量
2 黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
3 黒　　色　ロームブロック微量
4 黒　褐　色　ロームブロック・粘土粒子微量
5 黒　褐　色　ロームブロック微量
6 黒　　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
7 黒　褐　色　ローム粒子少量
8 黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片１点（甕），石器１点（砥石），炉壁片１点，礫１点（破砕礫；被熱痕あり）が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。Q21はＰ２の覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　鉄に関連する遺構の可能性もあるが，確認された部分が少なく，さらに本跡に伴うと考えられる土器がないため，時期及び性格は不明である。



第313図　第82号住居跡・出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表（第313図）

番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q21	砥石	(5.3)	(4.1)	1.4	(23.0)	泥岩	砥面４面，多方向の使用	覆土中	

第83号住居跡（第314図）

位置　中央２区中央部のＵ45b2 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びており，さらにトレンチャーによる攪乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸が2.88m，南北軸が1.24mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はＮ－78°－Ｗである。壁高は10cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈・炉　確認されていない。

ピット　確認されていない。

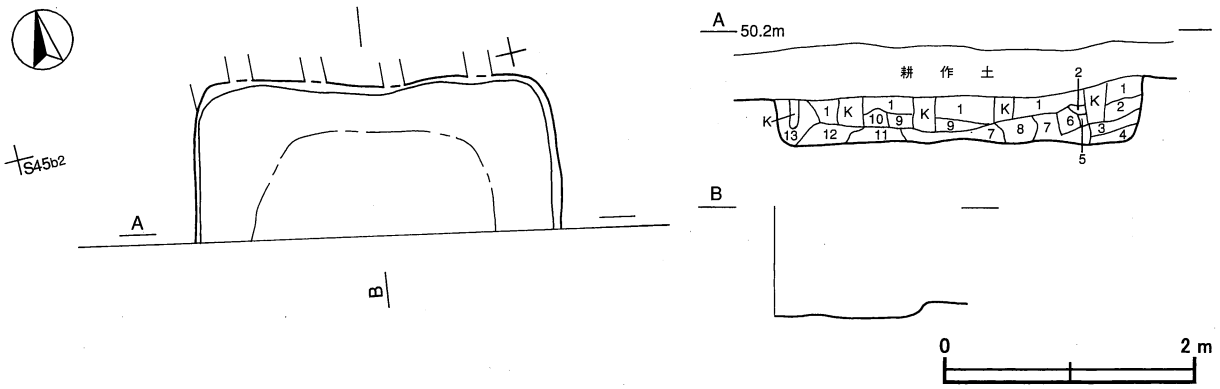
覆土　13層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ローム粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　黒　　色　ロームブロック・焼土粒子微量
10　黒　褐　色　ロームブロック微量
11　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
12　黒　褐　色　ロームブロック微量
13　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　須恵器片１点(甕)が出土している。この遺物は覆土中から出土している。出土遺物は細片で，図示できる遺物はない。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　出土土器が少なく，さらに細片であるため，時期は不明である。



第314図　第83号住居跡実測図

第84号住居跡（第315図）

位置　中央２区中央部のＴ44ｆ8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びており，トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.04m，短軸2.85mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は19～21cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ８～10cmで，確認された壁際を巡っている。

炉・竈　確認されていない。

ピット　３か所。Ｐ1・Ｐ2は深さ86・60cmで，中央部から南東・南西コーナー寄りに位置し，Ｐ1とＰ2が対応することから主柱穴と考えられる。Ｐ3は深さ39cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

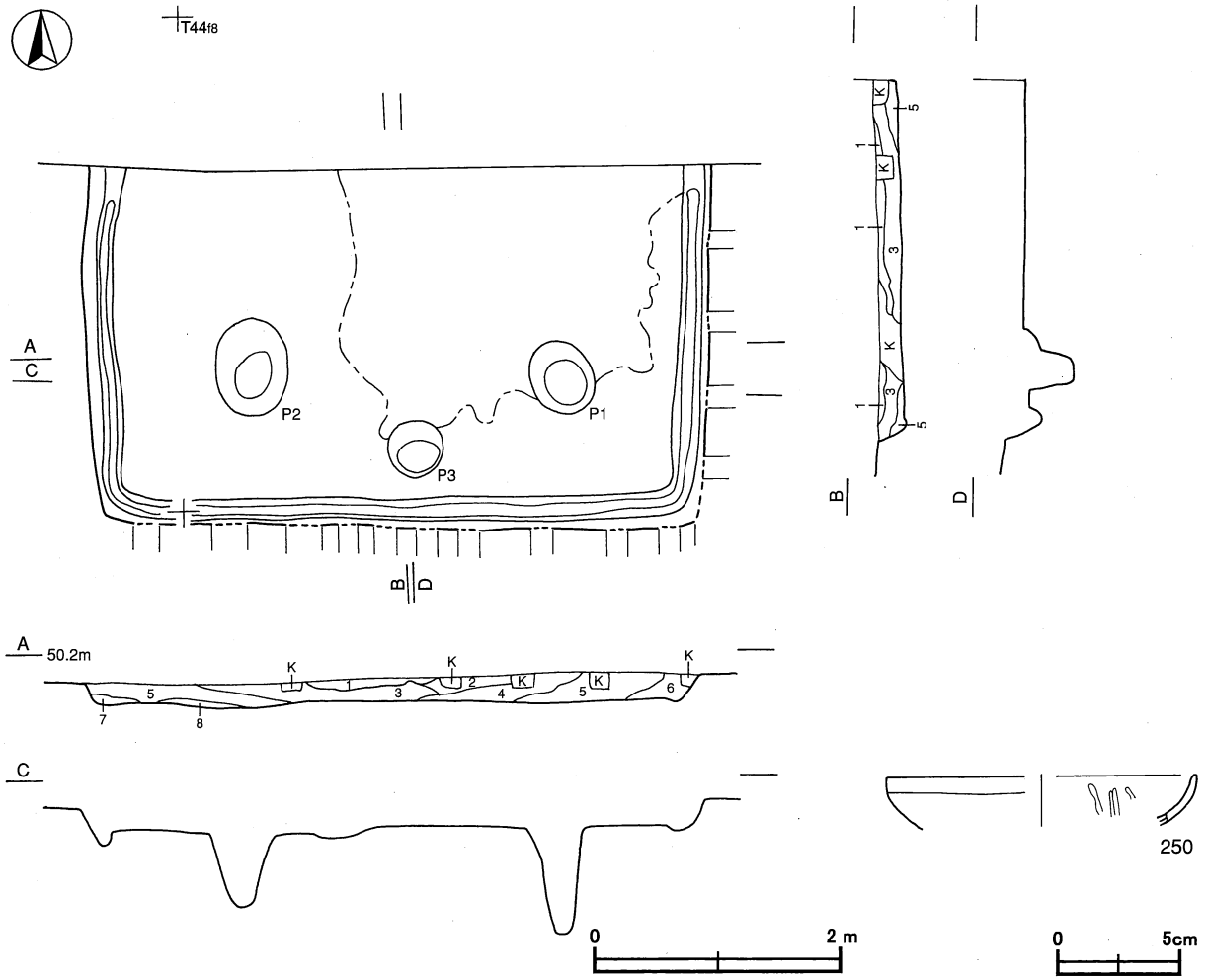
覆土　８層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子中量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片19点（坏３，甕16）が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。このほかには，混入した縄文土器片６点が出土している。250は覆土中から出土している。

所見　本跡は規模と形状から平安時代の住居跡の可能性があるが，出土土器が少なく，さらにすべてが細片であるため，時期は不明である。



第315図　第84号住居跡・出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表（第315図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
250	土師器	坏	[12.4]	(2.2)	－	石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き	覆土中	10%

第85号住居跡（第316図）

位置　中央２区西部のＴ44ｆ4区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第86号住居に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びており，第86号住居に掘り込まれているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸が3.55m，南北軸が1.11mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はＮ－87°－Ｅである。壁高は13～16cmほどで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。壁溝は確認されていない。

炉・竈　確認されていない。

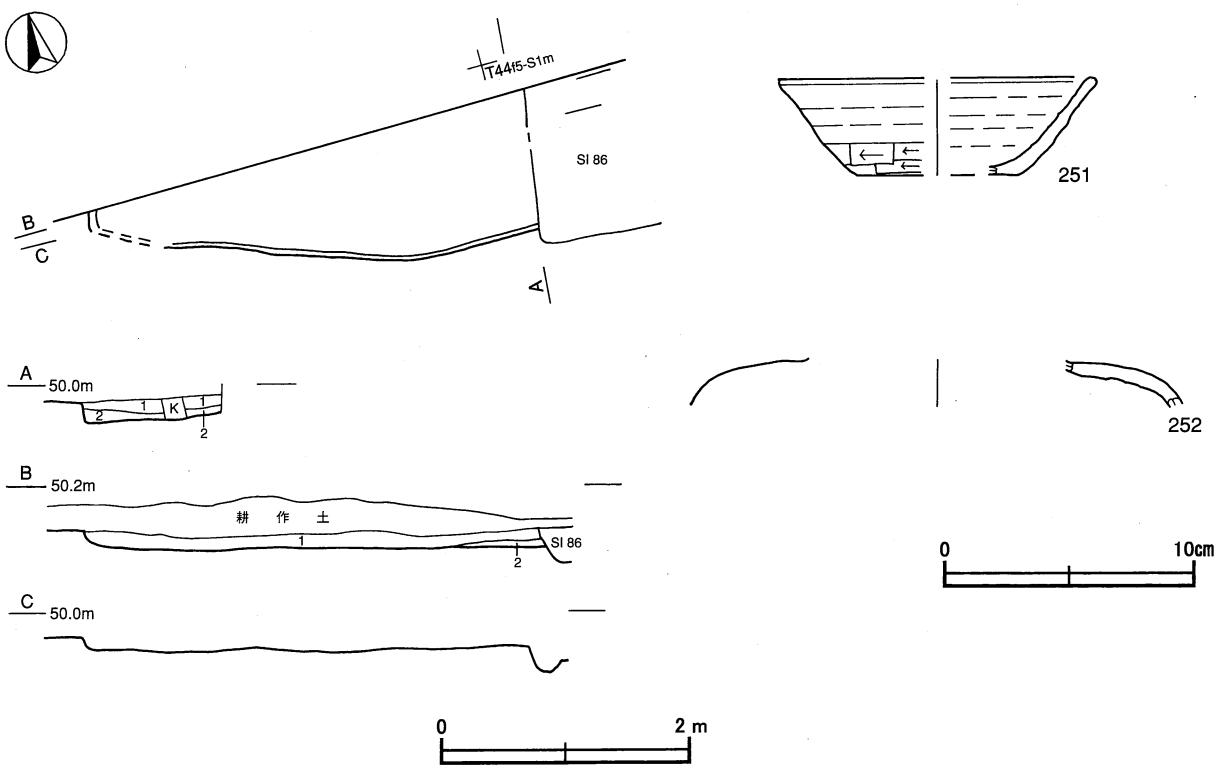
ピット　確認されていない。

覆土　２層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量　　2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片34点（甕），須恵器片16点（坏６，蓋１，甕７，短頸壺２），礫２点（破砕礫）が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。このほかには，混入した土師器片１点が出土している。251・252は覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　本跡は９世紀中葉と推定される第86号住居に掘り込まれているので，９世紀中葉以前と考えられるが，本跡に伴うと考えられる土器がないため，時期は不明である。



第316図　第85号住居跡・出土遺物実測図

第85号住居跡出土遺物観察表（第316図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
251	須恵器	坏	[12.4]	3.8	[6.4]	白色粒子	灰	普通	ロクロ整形，体部下端手持ちヘラ削り	覆土中	10%　火襷
252	須恵器	短頸壺	－	(1.8)	－	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形	覆土中	10%

第90号住居跡（第317図）

位置　中央２区西部のＴ43h0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第75号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びるため，確認できた規模は長軸4.00m，短軸3.70mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向はＮ－５°－Ｗである。壁高は20～28cmほどで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，西部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

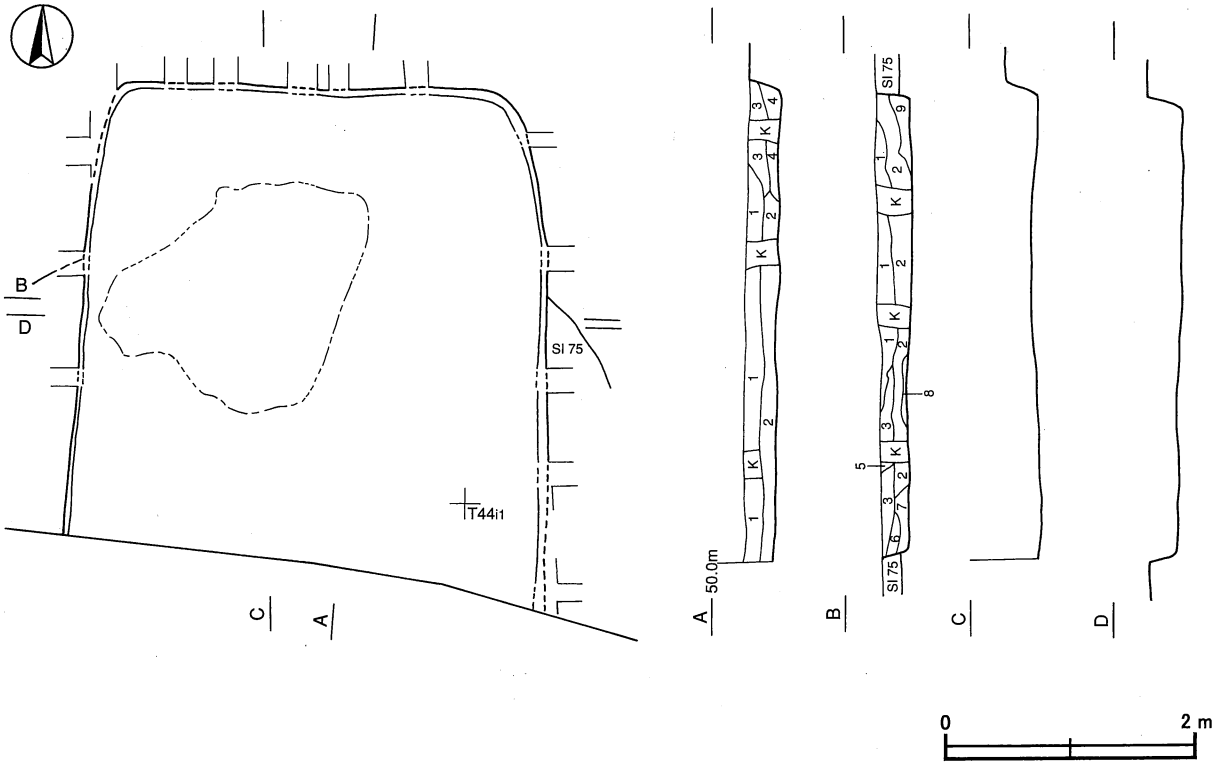
覆土　9層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼パミス微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・粘土ブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・粘土ブロック少量，鹿沼パミス微量
8　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック微量
9　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片9点（坏7，甕2），須恵器片2点（坏，甕）が出土している。これらの遺物は東部の覆土下層を中心に出土している。出土土器はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　本跡は出土土器が少なく，さらにすべて細片であるため，時期は不明である。



第317図　第90号住居跡実測図

第93号住居跡（第318図）

位置　中央1区西部のT46b6区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びており，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が4.82m，短軸が1.44mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。主軸方向はN－8°－Eである。壁高は12cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。壁溝は深さ8cmほどで，確認された壁際を巡っている。

炉・竈　確認されていない。

ピット　P1は深さ12cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

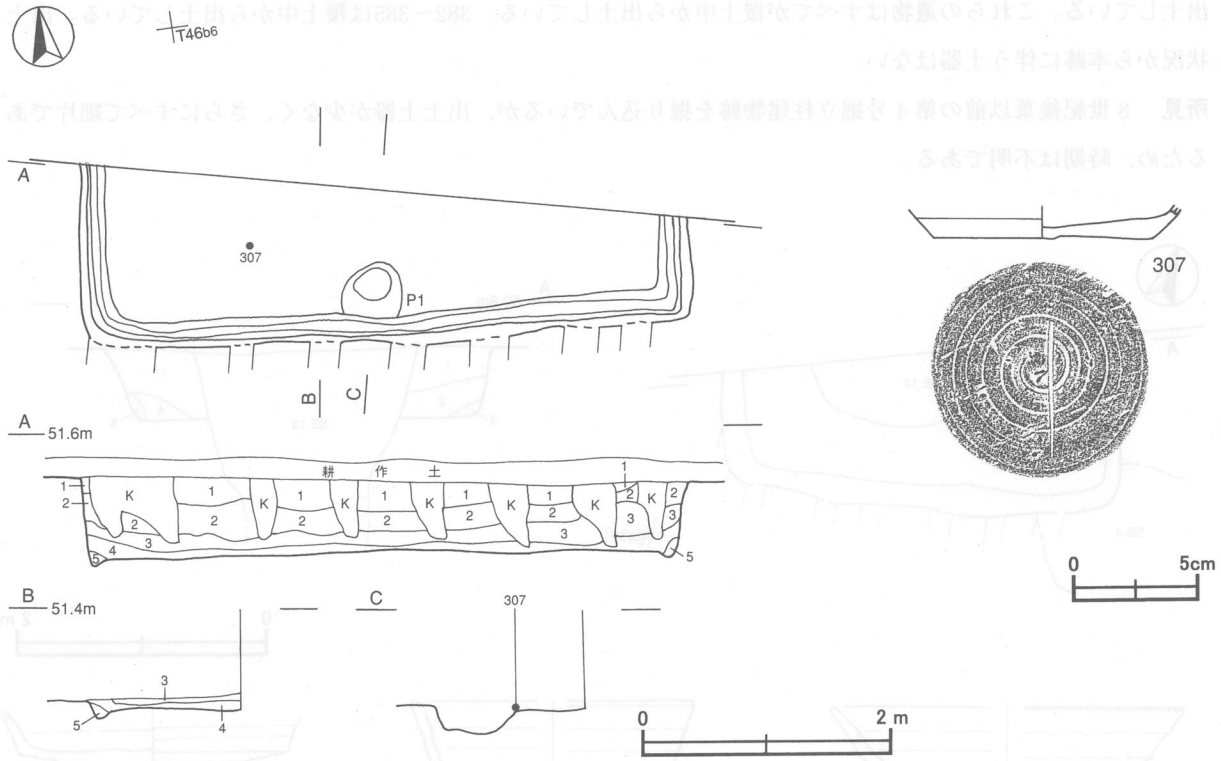
覆土　5層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（甕），須恵器片１点（坏）が出土している。これらの遺物は南西部の覆土下層を中心に出土している。307は南西部の覆土下層から出土している。

所見　規模と形状から平安時代の可能性があるが，遺構の全容が不明で，出土土器も少なく，さらにすべて細片であるため，時期は不明である。



第318図　第93号住居跡・出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表（第318図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
307	須恵器	坏	－	(1.2)	8.7	長石・石英	灰白	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り	南西部下層	30% ヘラ書き PL82

第106号住居跡（第319図）

位置　中央１区西部北寄りのＳ43d8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第４号掘立柱建物跡を掘り込み，第13号井戸に掘り込まれている。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びており，中央部が第13号井戸に掘り込まれているため全容は不明であり，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は東西軸が3.14m，南北軸が1.37mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はＮ－75°－Ｗである。壁高は58cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

炉・竈　確認されていない。

ピット　確認されていない。

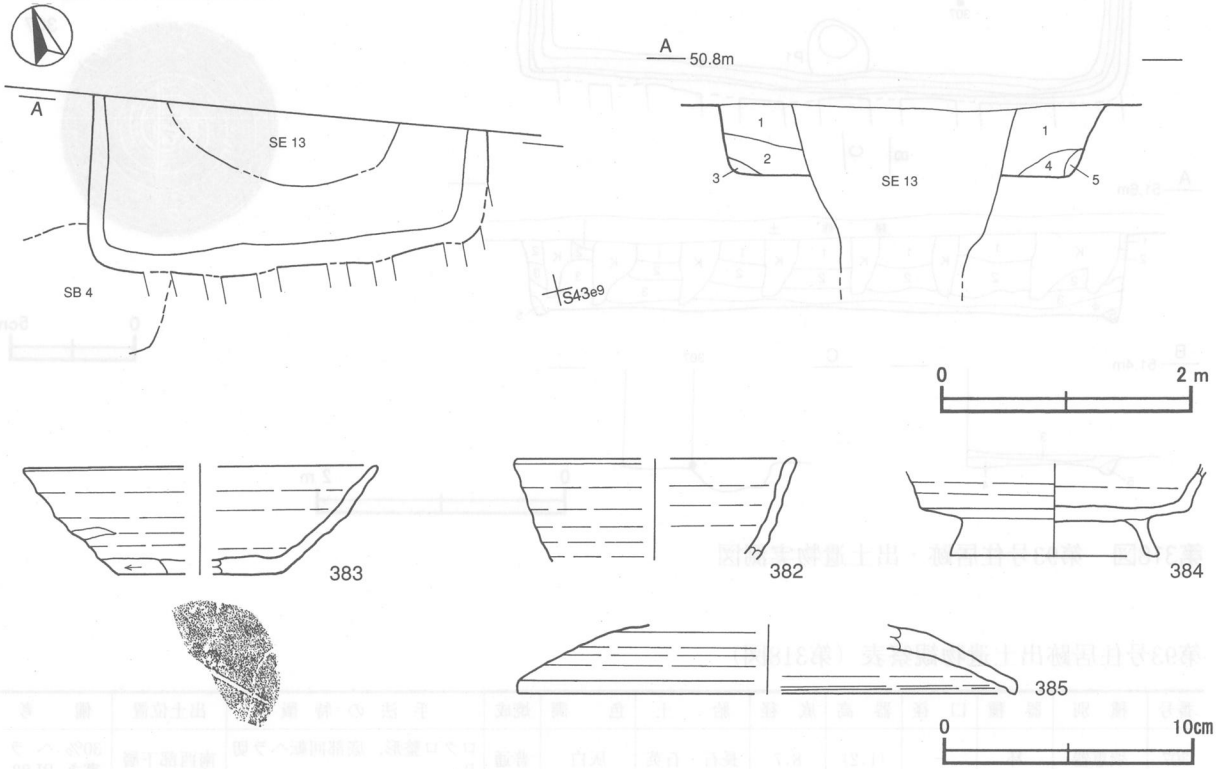
覆土　5層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片25点（坏９，甕16），須恵器片55点（坏35，蓋10，盤１，甕９），礫３点（破砕礫）が出土している。これらの遺物はすべてが覆土中から出土している。382～385は覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　８世紀後葉以前の第４号掘立柱建物跡を掘り込んでいるが，出土土器が少なく，さらにすべて細片であるため，時期は不明である。



第319図　第106号住居跡・出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表（第319図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
382	須恵器	坏	[11.0]	(4.0)	－	長石・雲母・黒色粒子	灰白	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
383	須恵器	坏	[13.8]	(4.3)	[6.4]	長石	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	覆土中	20%　ヘラ記号「－」
384	須恵器	高台付坏	－	(3.3)	[8.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，ナデ	覆土中	60%
385	須恵器	蓋	[19.8]	(2.7)	－	白色粒子・微礫	灰	普通	ロクロ整形，天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%

第107号住居跡（第320図）

位置　中央１区西部北寄りのＳ43c6区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びており，トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良で

ある。確認できた規模は東西軸が3.85m，南北軸が1.36mで，平面形は方形あるいは長方形と推測される。長軸方向である東西軸はN－98°－Eである。壁高は44cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は深さ10cmで，確認された壁際を巡っている。

炉・竈　確認されていない。

ピット　確認されていない。

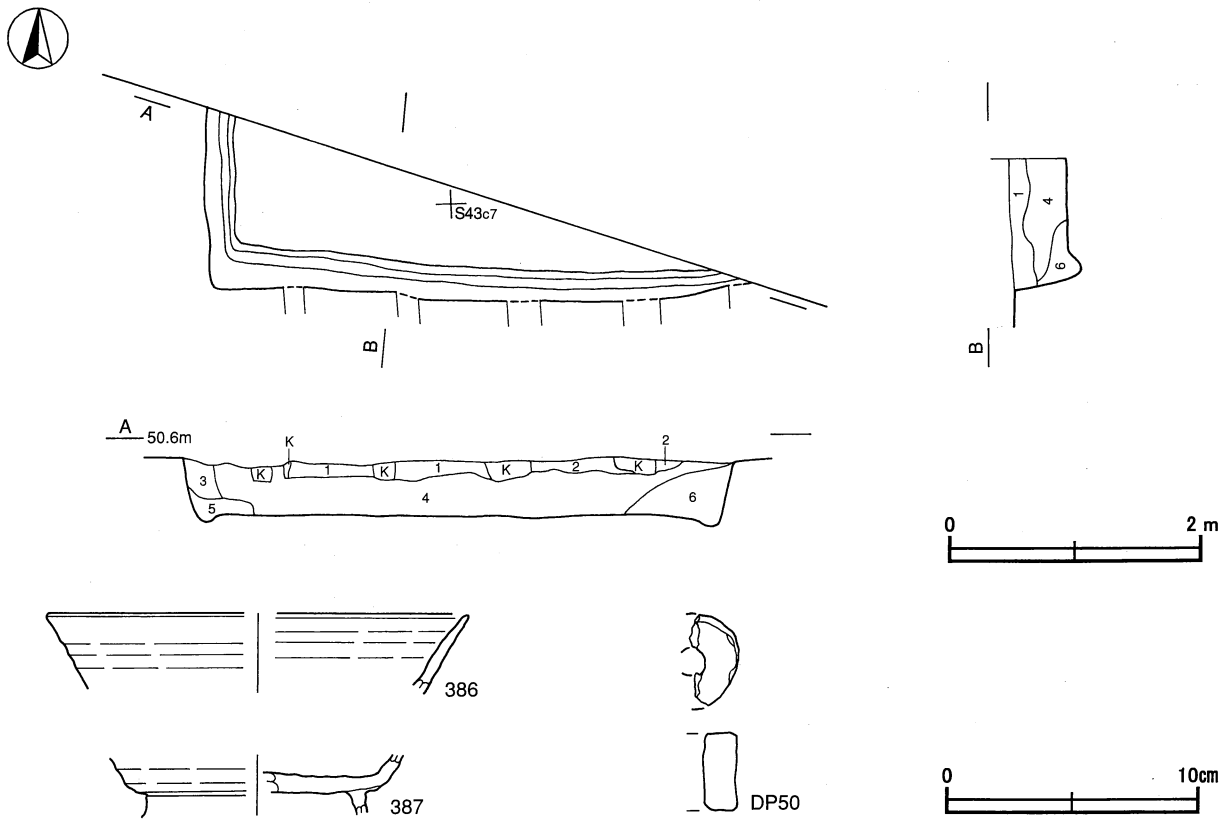
覆土　6層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック・粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量,焼土粒子･炭化粒子･粘土粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	にぶい黄褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量	6	にぶい黄褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片28点（坏2，甕26），須恵器片16点（坏9，甕7），土製品1点（紡錘車），礫5点（破砕礫）が出土している。これらの遺物は386・387・DP50を含めほとんどが覆土中から出土している。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　本跡に伴う土器がなく，時期は不明である。



第320図　第107号住居跡・出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表（第320図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
386	土師器	坏	[16.4]	(3.1)	－	長石･黒色粒子	にぶい黄橙	普通	ロクロ整形	覆土中	10%
387	須恵器	高台付坏	－	(2.4)	－	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後高台貼り付け，ナデ	覆土中	10%

番号	器　種	最大径	孔　径	厚　さ	重　量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　　考
DP50	紡錘車	[3.4]	[1.0]	3.1	(24.7)	土製	円柱形，ナデ	覆土中	

第114号住居跡（第321図）

位置　中央２区東部のU49ｉ8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第17号住居・第20号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第17号住居に掘り込まれているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸が4.54m，短軸が4.51mで，平面形は方形と推測される。長軸方向はN－17°－Wである。壁高は10～14cmほどで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦であり，あまり踏み固められていない。壁溝は確認されなかった。

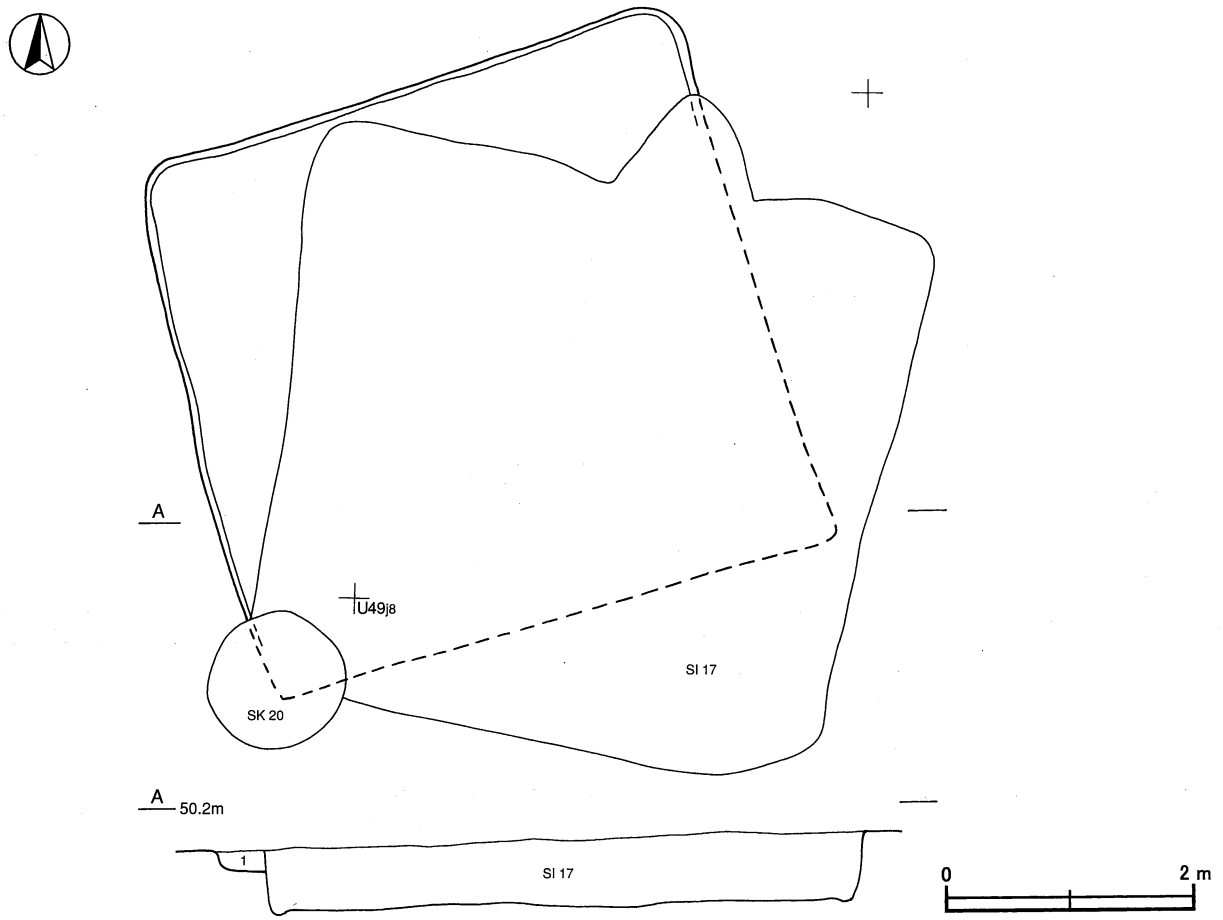
ピット　確認されなかった。

覆土　単一層である。覆土が薄く，残存部分が流れ込んだ様相が見られることから自然堆積と考える。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片５点（甕），炭化材が出土している。これらの遺物はほとんどが覆土中から出土している。出土した土器はハケ目調整がある土師器甕の体部細片であるが，図示できるような遺物はない。

所見　９世紀中葉の第17号住居に掘り込まれていることから，９世紀中葉以前である。出土土器からは古墳時



第321図　第114号住居跡実測図

代前期の可能性も考えられる。

(2) 方形竪穴遺構

第５号方形竪穴遺構（第322図）

位置　中央２区中央部のＵ49ｅ3 区に位置し，台地の微斜面部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているが，遺存状態は比較的良好である。規模は長軸3.35m，短軸2.67mの長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は浅く４～９cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部がわずかに踏み固められている。壁溝は確認されていない。床面の中央部から北東コーナー寄りに，被熱で赤変した部分が確認されている。確認できた規模は，南北軸が130cm，東西軸が13cmの長方形であるが，撹乱で残存部分が少なく，全容は不明である。位置・規模や形状から炉とは考えにくく，赤変の状況から長期間・長時間に火気が使用されたのではなく，一時的な使用と考えられる。

被熱部分土層解説

1　明赤褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2　明赤褐色　焼土粒子少量，ロームブロック微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

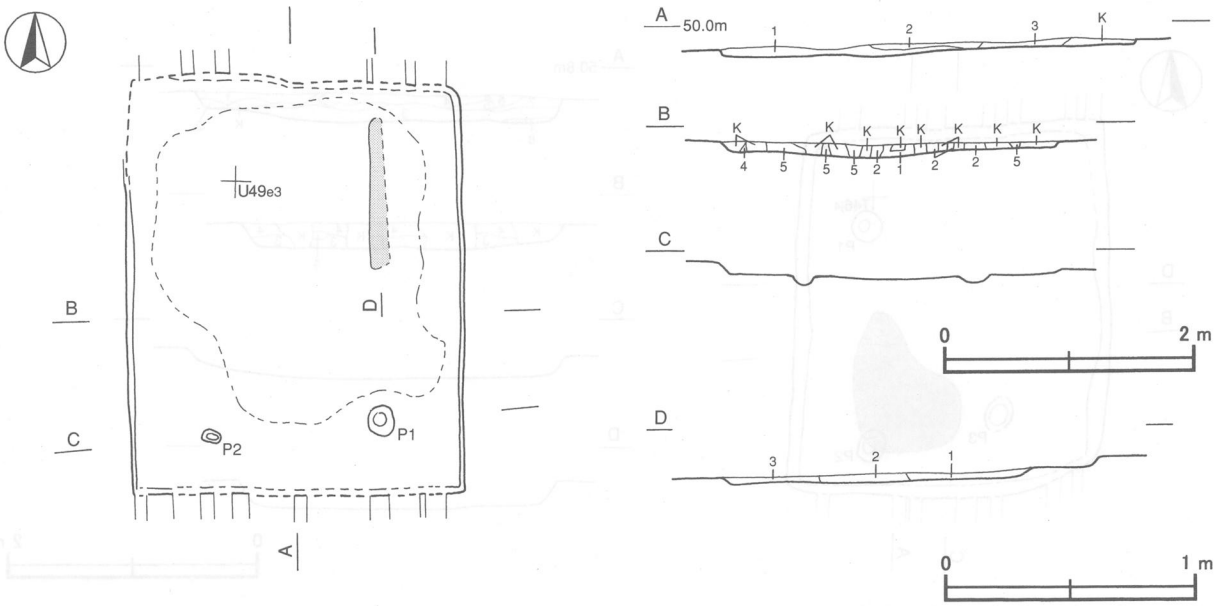
ピット　２か所。Ｐ1・Ｐ2とも深さ７cmと浅く，中央部から南東コーナー部寄り・南西コーナー部寄りにそれぞれ位置することから主柱穴と考えられるが，対応する柱穴が確認されず，その性格は不明である。

覆土　５層からなる。覆土が浅いが，ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック微量
3　黒褐色　ローム粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子少量，ロームブロック微量
5　暗褐色　ローム粒子少量，ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片38点（坏５，甕33），須恵器片６点（坏３，甕３），陶器片１点（皿），瓦質土器片１点（鉢），鉄滓９点，礫６点（破砕礫；被熱痕５）が出土している。これらの遺物は北東部の覆土下層を中心に出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。



第322図　第５号方形竪穴遺構実測図

所見　出土土器が細片であるため，時期は不明である。周辺の住居跡と形状が異なり，北東コーナー部の床面から被熱による赤変した部分が確認されていることと，本跡が第10～18号方形竪穴遺構などの鋳造関連遺構群から東へ２ｍの位置にあることから，鋳造関連遺構群との関係も考えられる。

第６号方形竪穴遺構（第323図）

位置　中央部西寄りのＴ46ｊ3区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第156号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　規模は長軸2.94m，短軸2.51mの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁高は16～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，あまり踏み固められていない。壁溝は確認されなかった。粘土の広がりが中央部から南東コーナー部にかけて確認された。その用途については不明である。図示できなかったが，中央部が掘りくぼめられ，その部分にロームブロックを含む暗褐色土を埋土し，床面が構築されている。

竈　確認されなかった。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ11～27cmで，中央部からコーナー部寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。

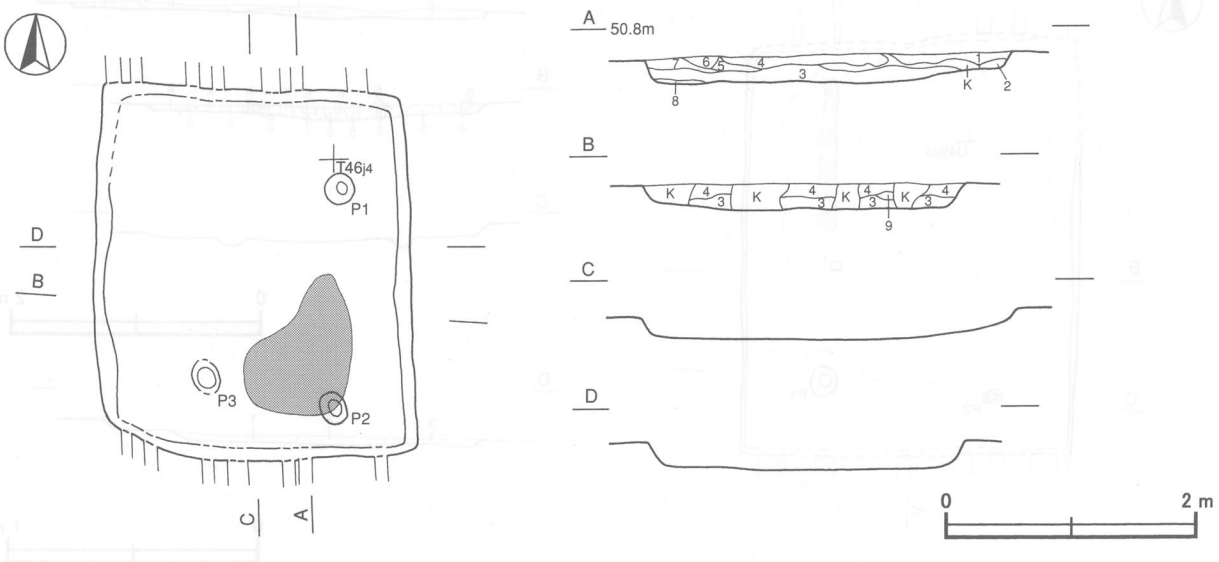
覆土　９層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量	
2	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	
3	暗　褐　色	ロームブロック少量	
4	暗　褐　色	ローム粒子少量	
5	黒　褐　色	ロームブロック少量	
6	にぶい黄褐色	ロームブロック少量	
7	にぶい黄褐色	ロームブロック中量	
8	黒　褐　色	ロームブロック微量	
9	黒　褐　色	ロームブロック微量	

遺物出土状況　土師器片21点（高坏１，甕20），須恵器片５点（坏２，甕３），陶器片１点（椀），粘土塊１点，礫８点（破砕礫；被熱痕５）が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土遺物は細片で，図示できるようなものはない。

所見　出土土器は細片であり，時期の判断は困難である。性格は床面が硬化していないことや日常雑器の出土



第323図　第６号方形竪穴遺構実測図

が少ないことから，住居跡のように日常的に使用された場所ではないと考えられる。また，中央部の床面下で確認された第156号土坑は本跡の付随する施設の可能性がある。

第７号方形竪穴遺構（第324図）

位置　中央２区中央部のＴ45ｉ３区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第162・168・302号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第162・168・302号土坑に掘り込まれ，さらにトレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状況は不良である。確認できた規模は長軸3.15m，短軸3.10mの方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁高は８～16cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

竈・炉　確認されなかった。

ピット　８か所。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ７は深さ22・23・40cmで，北東・北西・南東コーナー付近に位置することから主柱穴と考えられる。Ｐ２・Ｐ３は深さ22・36cmで，Ｐ１とＰ７の間，Ｐ１とＰ４の間に位置することから，補助柱穴の可能性があり，Ｐ５・Ｐ６・Ｐ８は対応する柱穴が確認できないことから，その性格は不明である。

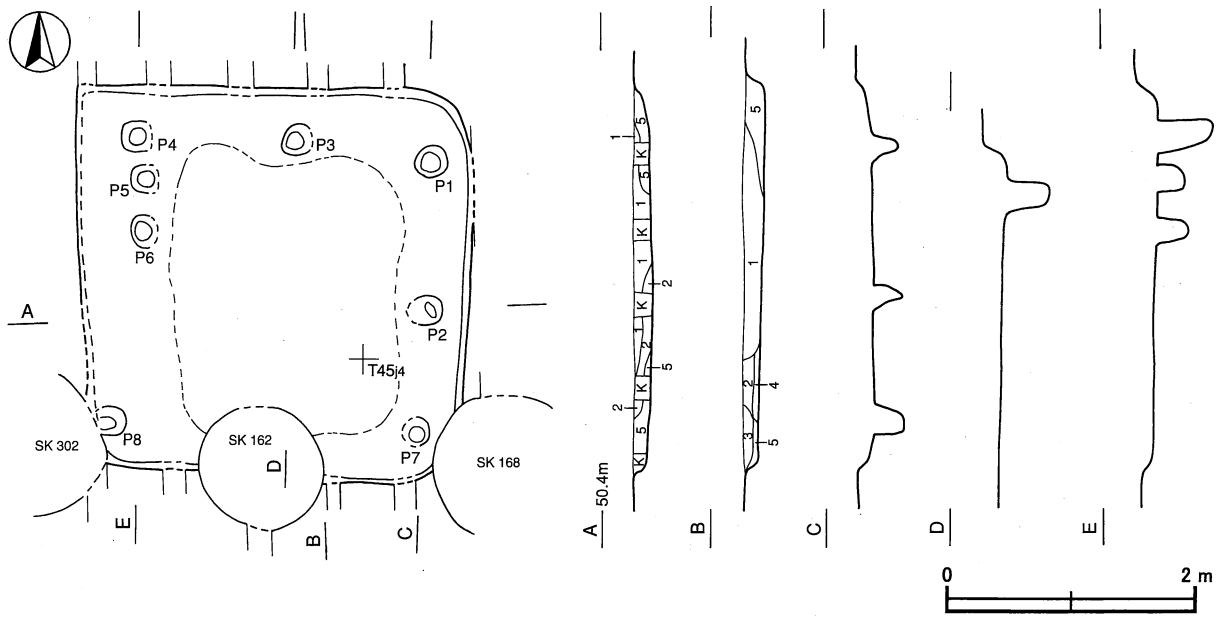
覆土　５層からなる。覆土が薄く，わずかな残存部分からロームブロックを含む不規則な堆積状況を示している人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片５点（坏１，甕４），粘土塊１点が出土している。これらの遺物はすべて覆土中から出土している。出土遺物はすべてが細片で，図示できるものはない。出土状況から本跡に伴う土器はない。

所見　出土土器が少なく，さらに細片であるため，時期は不明である。性格は炉・竈がないが，床面は踏み固められ，柱穴が南方向に開くコの字状になっていることから，通常の住居ではなく何らかの施設であった可能



第324図　第７号方形竪穴遺構実測図

性がある。柱穴がこのような配置である遺構は当遺跡では唯一である。

第８号方形竪穴遺構（第325図）

位置　中央２区西部のＴ43g0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　規模は長軸3.94m，短軸3.91mの方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｅである。壁高は13～20cmほどで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は確認されなかった。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ46～58cmで，各コーナー寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。

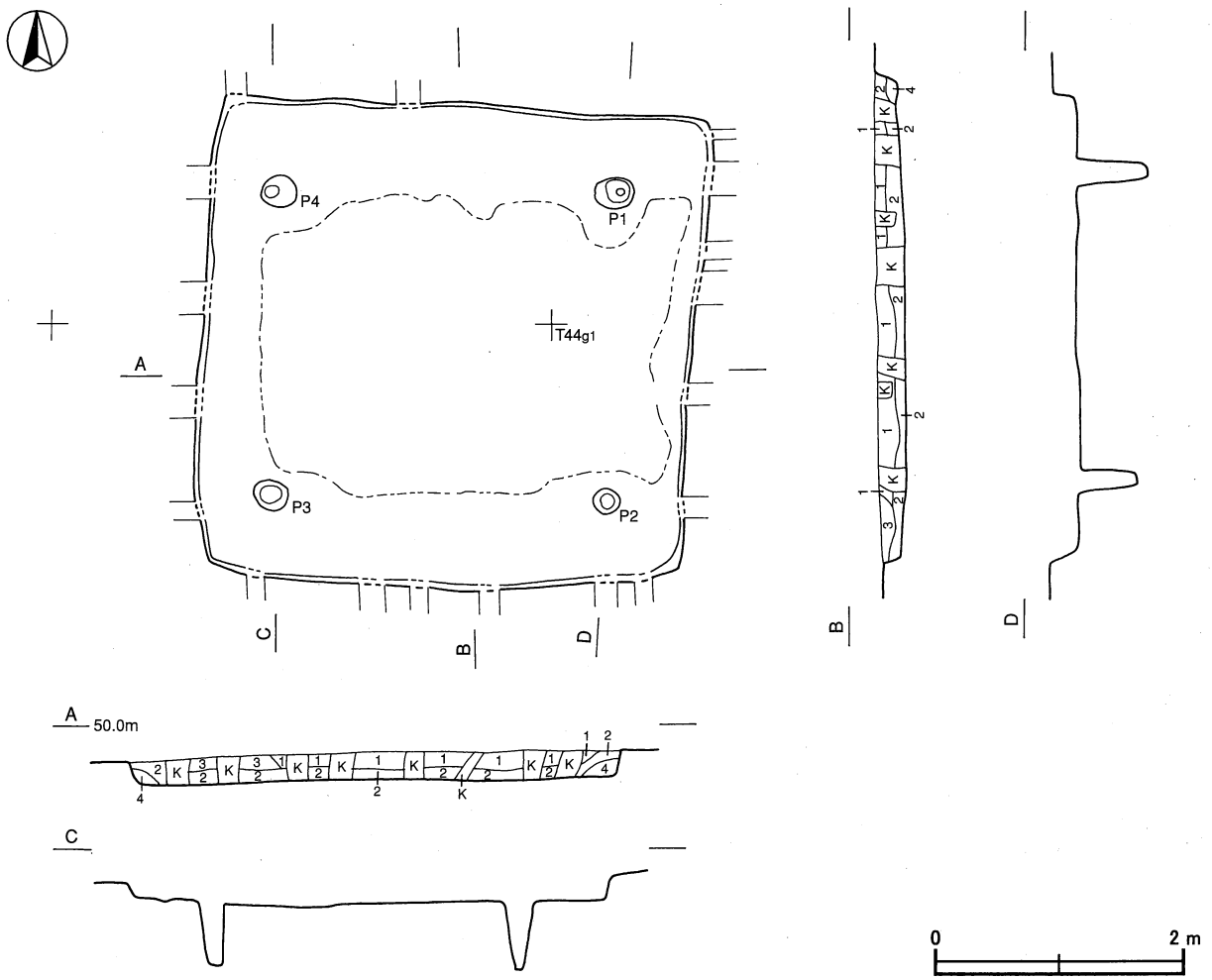
覆土　４層からなる。ロームブロックを含む人為堆積を示している。

土層解説

1	黒褐色　ロームブロック微量	3	黒褐色　ロームブロック微量
2	黒褐色　ロームブロック微量	4	暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片３点（坏２，甕１），須恵器片３点（坏１，甕２）が出土している。これらの遺物は覆土中から出土している。出土土器はすべて細片で，図示できるようなものはない。

所見　本跡は中央部の床面が硬化しているが，炉・竈は確認されていない。一般の住居とは異なる様相を持ち，その使用目的については不明である。出土土器が少なく，さらにすべて細片であるため，時期は不明である。



第325図　第８号方形竪穴遺構実測図

第９号方形竪穴遺構（第326図）

位置　中央１区中央部のＴ44d2区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているが，遺存状態は比較的良好である。規模は長軸2.60m，短軸2.40mの方形で，壁高は60cmである。主軸方向はＮ－３°－Ｅで，壁はほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

炉・竈　確認されなかった。

ピット　確認されなかった。

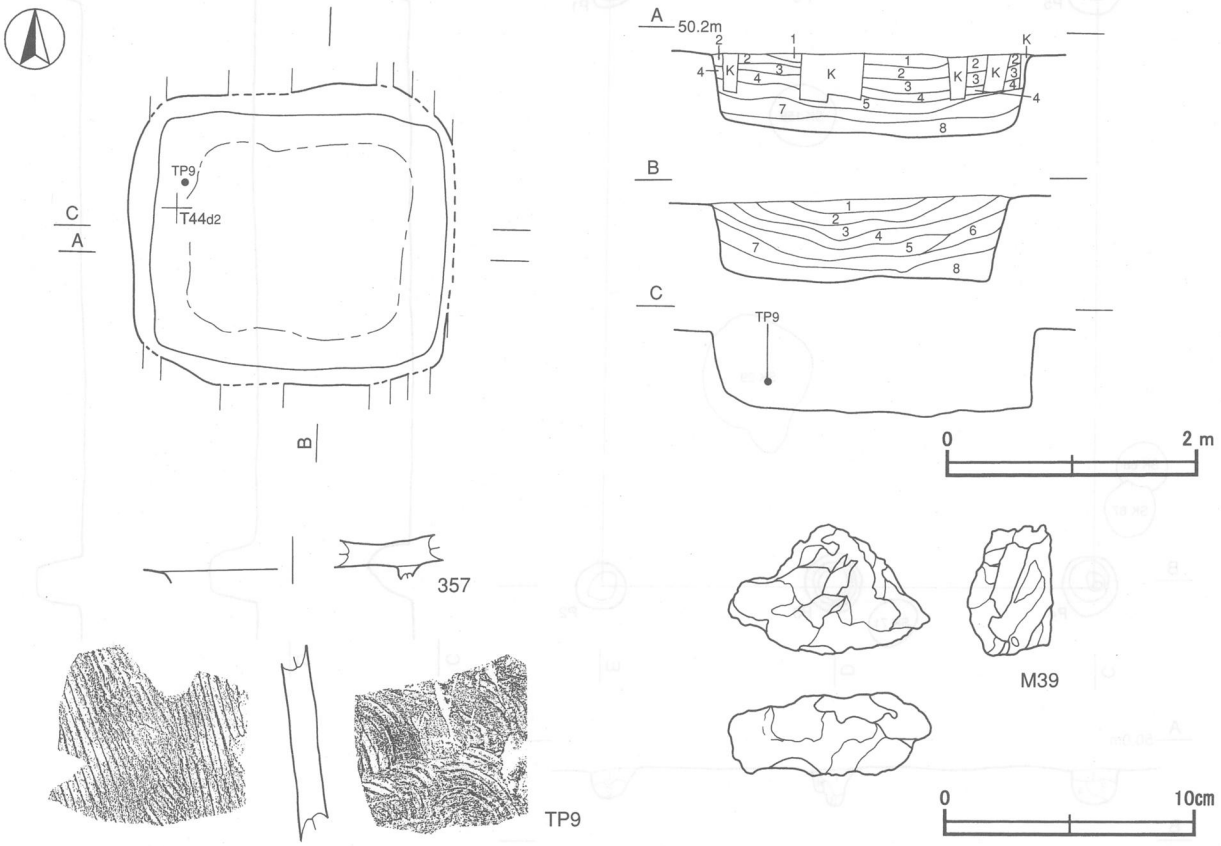
覆土　８層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック少量
2	黒	褐	色	ロームブロック中量
3	黒	褐	色	ロームブロック多量
4	暗	褐	色	ロームブロック中量
5	褐		色	ロームブロック少量
6	暗	褐	色	ロームブロック少量
7	黒	褐	色	ロームブロック少量
8	にぶい黄褐色			ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片20点（坏４・甕16），須恵器片12点（坏６，盤１，甕５），鉄製品１点（不明），鉄滓１点（流動滓），礫３点（破砕礫）が出土している。これらの遺物は北西部の覆土下層を中心に出土している。357・M39は覆土中，TP９は北西コーナー部の覆土下層から，それぞれ出土している。出土状況から本跡に伴うものはない。

所見　出土土器が少なく，細片であるため，時期は不明である。性格は規模と形状及び出土遺物などから，住居跡ではなく，工房や貯蔵施設などのような場所であった可能性がある。



第326図　第９号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第９号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第326図）

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
357	須恵器	高台付坏	－	(0.7)	－	長石・石英・黒色粒子	灰白	普通	ロクロ整形	覆土中	10%　見込み自然釉

番号	種　別	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴	出土位置	備　考
TP 9	須恵器	甕	－	(8.0)	－	長石	灰	普通	外面は斜位の平行叩き，内面は同心円状の当て具痕	北西部下層	PL77

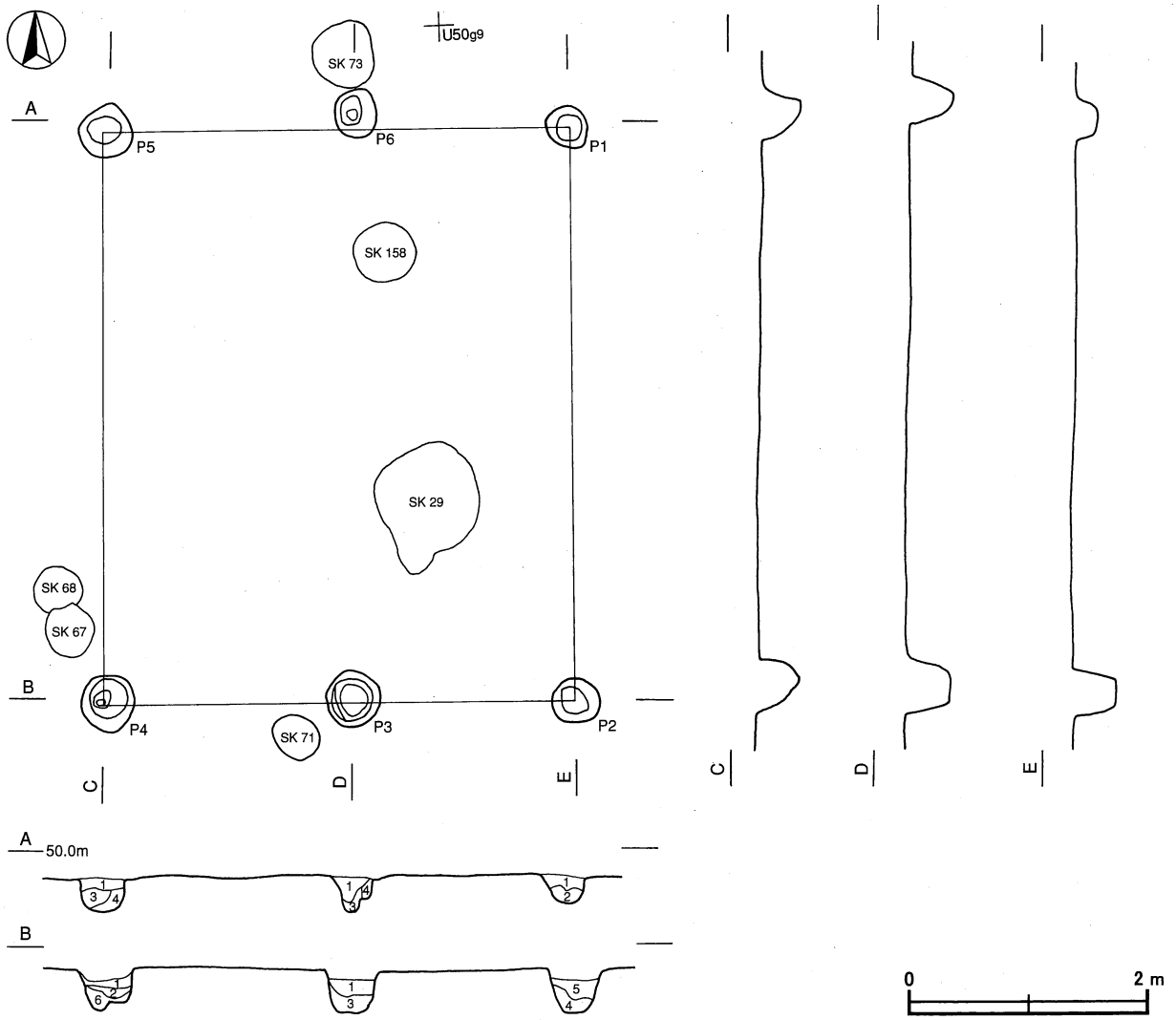
番号	器　種	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M39	鉄滓	(7.9)	(5.2)	(3.4)	(96.0)	鉄	空気排出孔が多数，一部錆付着	覆土中	PL100

(3)　掘立柱建物跡

第２号掘立柱建物跡（第327図）

位置　東区のＵ50ｇ8 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　重複している第29・67・68・71・73・158号土坑とは切り合いがなく，新旧関係は不明である。



第327図　第２号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行１間（4.8m），梁間２間（3.9m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－２°－Ｅの南北棟である。柱間寸法は桁行4.8m，梁間約1.95mで，面積は18.72㎡である。

柱穴　６か所（Ｐ１～Ｐ６）で，平面形は長径0.36～0.48，短径0.34～0.45mの楕円形または円形である。断面形は逆台形あるいはＵ字状を呈し，深さ16～36cmである。なお，柱痕や柱の抜き取り痕は確認できなかった。柱材の寸法は不明である。

土層解説

1　黒　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片１点（高坏）がＰ６から出土している。出土遺物は細片で，図示できるものではない。

所見　掘り方の規模と柱間寸法には規則性があるが，性格などについては不明である。また，桁行の柱間１間で，他の掘立柱建物跡とは異なることから，時期も明確ではない。

(4)　井戸跡

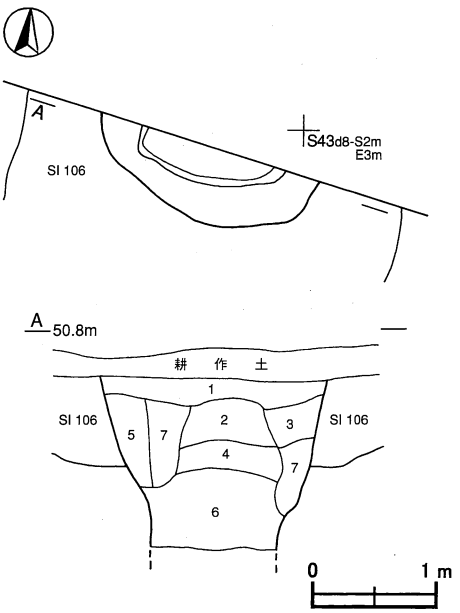
第13号井戸跡（第328図）

位置　中央１区北西部のＳ43d8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第106号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びているため，確認できた規模は上部が長径1.81m，短径0.58mで，平面形は楕円形と推測でき，長径方向はＮ－71°－Ｗである。確認面から深さ1.08mまで漏斗状に掘り込み，下部は長径1.04m，短径0.24mで，平面形は楕円筒形あるいは円筒形に掘り込まれていると推測できる。確認面から1.34mまで掘り込んだ時点で湧水のため，それ以下の調査を中止した。

覆土　７層からなり，ロームブロック・粘土ブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



第328図　第13号井戸跡実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量

遺物出土状況　出土遺物はない。

所見　８世紀中葉以降の第106号住居跡が完全に埋没した後に掘り込んでいることから，時期は８世紀中葉以降であるが，詳細は不明である。

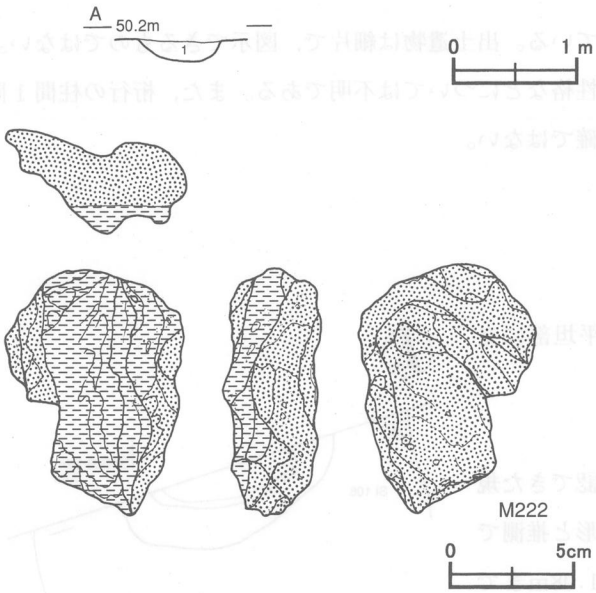
(5) 溝跡

第２号溝跡（第329図・付図）

位置　東区西部のU51g3区からV51h4区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第５号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　V51h4区以南は調査区域外に延びている。V51h4区から北西方向（N－12°－W）にほぼ直線的に延びている。規模は長さ42.0mで，上幅0.35～0.80m，下幅0.10～0.40m，深さ17～20cmである。形状は底面がほぼ平坦で，壁面が外傾に立ち上がり，逆台形状をしている。



第329図　第２号溝跡・出土遺物実測図

覆土　単一層である。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片59点（坏９，甕48，高坏２），須恵器片20点（坏12，蓋３，甕５），炉壁片10点（262ｇ），鉄滓10点（313ｇ）〔炉内溶解物９（177ｇ），流動滓１（136ｇ）〕，石器３点（砥石），粘土塊１点，礫７点，貝片１点（二枚貝）が出土している。M222は覆土中から出土している。

所見　出土遺物は，いずれも流れ込みによって混入したもので，時期及び性格は不明である。等高線に直交して位置し，台地から低地へ向かっているので，排水的役割を持っていた可能性がある。

第２号溝跡出土遺物観察表（第329図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M222	流動滓	(9.8)	(7.2)	(3.9)	(136.1)	鉄	黒褐色をしたガラス質の光沢と青灰色の着磁性のある部分あり	覆土中	

第４号溝跡（第330・331図・付図）

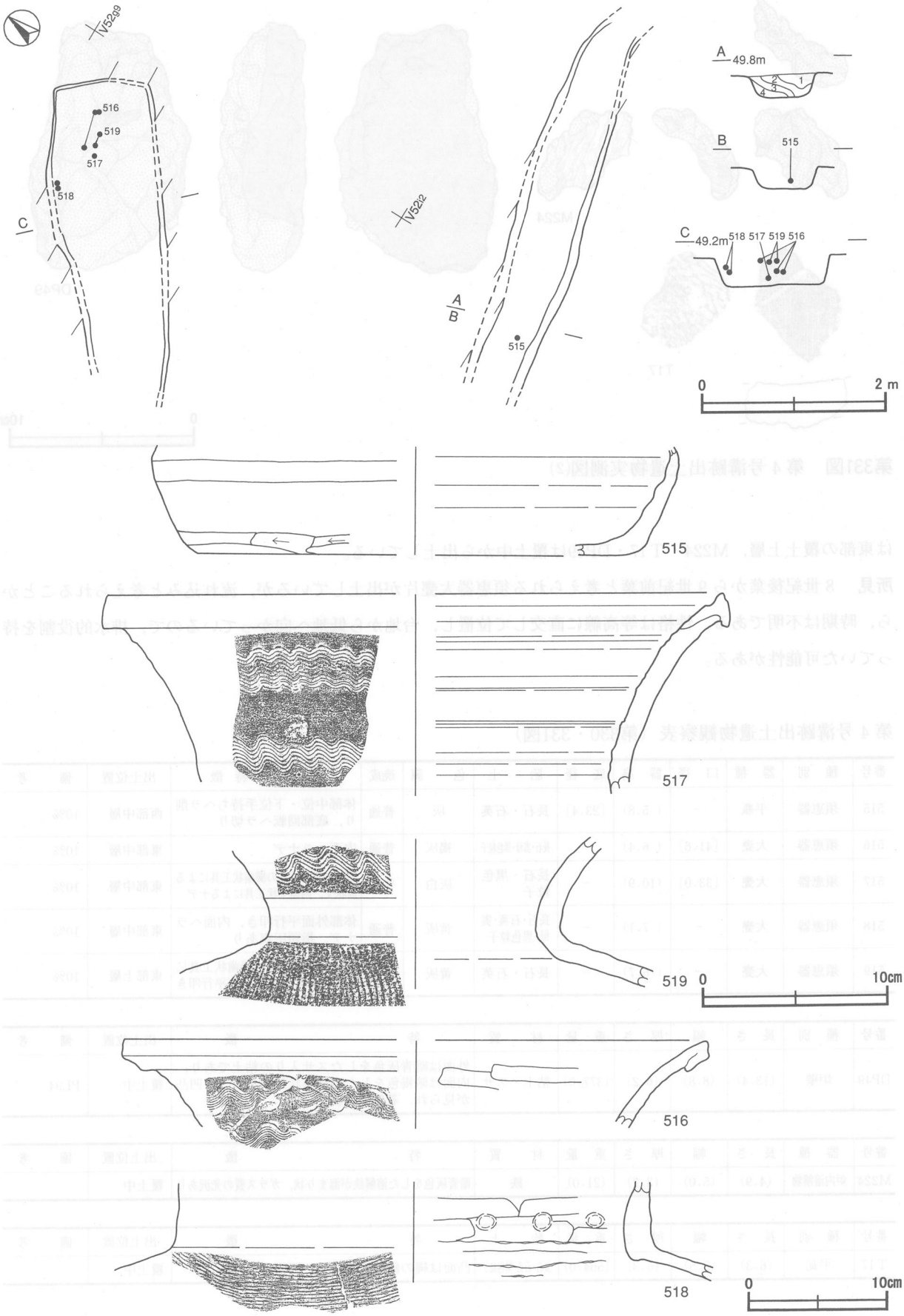
位置　東区南東部のV52g8区からV51i0区に位置し，台地の斜面部に立地している。

規模と形状　V51i0区から東方向（N－75°－E）にほぼ直線的に延びている。規模は長さ37.68mで，上幅0.31～1.24m，下幅0.18～1.12m，深さ22～25cmである。形状は底面がほぼ平坦で，壁面が外傾して立ち上がり，逆台形状を呈している。

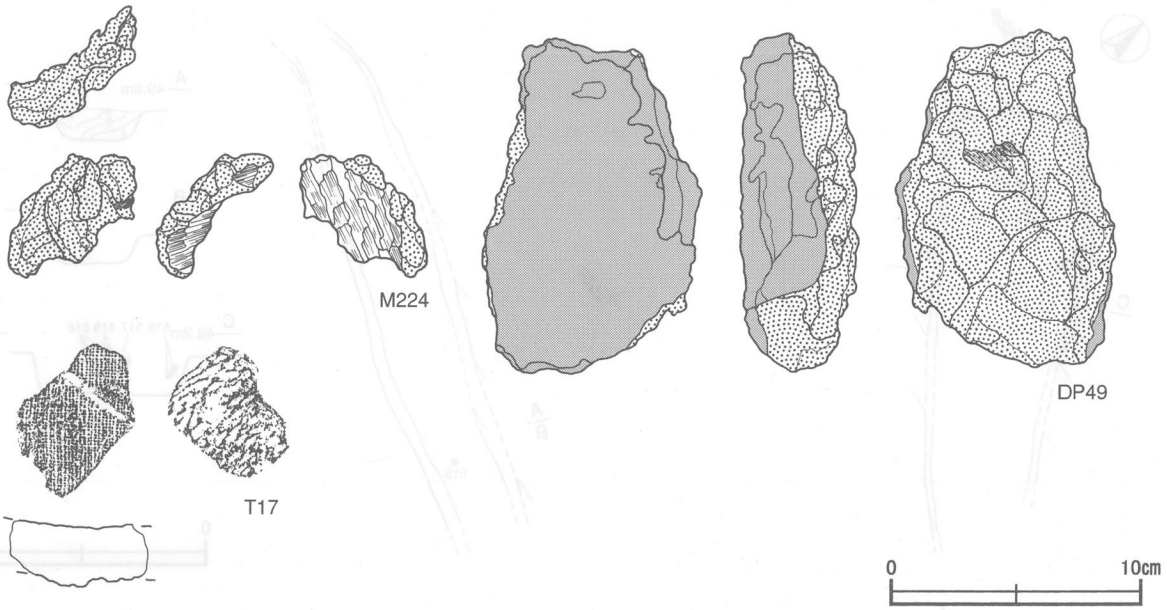
覆土　４層からなる。北西部から流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片29点（坏３，甕26），須恵器片120点（坏４，短頸壺２，甕114），炉壁片30点（1324ｇ），鉄滓11点（91ｇ）〔炉内溶解物３（29ｇ），流動滓７（52ｇ），白色滓１（10ｇ）〕，瓦片１点（平瓦），礫16点（破砕礫）が全域にわたって散在した状態で出土している。515は西部の覆土中層，516～518は東部の覆土中層，519



第330図　第４号溝跡・出土遺物実測図(1)



第331図　第４号溝跡出土遺物実測図(2)

は東部の覆土上層，M224・T17・DP49は覆土中から出土している。

所見　８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる須恵器大甕片が出土しているが，流れ込みと考えられることから，時期は不明である。性格は等高線に直交して位置し，台地から低地へ向かっているので，排水的役割を持っていた可能性がある。

第４号溝跡出土遺物観察表（第330・331図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
515	須恵器	平瓶	－	(5.8)	[23.4]	長石・石英	灰	普通	体部中位・下位手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り	西部中層	10%
516	須恵器	大甕	[41.6]	(6.4)	－	長石・雲母・黒色粒子	褐灰	普通	内面ヘラナデ	東部中層	10%
517	須恵器	大甕	[33.0]	(10.9)	－	長石・黒色粒子	灰白	普通	頸部10条１単位の櫛歯状工具による波状文，内面平状工具によるナデ	東部中層	10%
518	須恵器	大甕	－	(7.1)	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	普通	体部外面平行叩き，内面ヘラナデ，指頭圧痕あり	東部中層	10%
519	須恵器	大甕	－	(6.7)	－	長石・石英	黄灰	普通	頸部10条１単位の櫛歯状工具による波状文，体部外面平行叩き	東部上層	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP49	炉壁	(13.4)	(8.8)	(6.2)	(377.0)	粘土・スサ	外面は暗青灰色をしたスサ入りの粘土であり，内面は暗褐色をした半溶解状鉄が付着し，凹凸が見られ，着磁性は弱い	覆土中	PL94

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M224	炉内溶解物	(4.9)	(5.0)	(3.2)	(21.0)	鉄	暗青灰色をした溶解鉄が溜まり状，ガラス質の光沢あり	覆土中	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T17	平瓦	(6.3)	(5.5)	(6.3)	(564.0)	長石・石英・黒色粒子	凸面は縄の斜位の叩き目，凹面は布目痕	覆土中	

第13A号溝跡（第332図・付図）

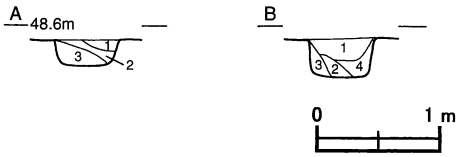
位置　中央2区中央部のU47d5区からU47c6区に位置し，台地の斜面部に立地している。

重複関係　第13B号溝に掘り込まれている。

規模と形状　U47d5区から北東方向（N－58°－W）にほぼ直線的に延び，さらにU47c6区で北方向（N－80°－W）に屈曲し，第13B号溝跡と繋がる。確認できた規模は長さ6.95mで，上幅0.39～0.58m，下幅0.27～0.40m，深さ20cmである。形状は底面がほぼ平坦で，壁面が外傾して立ち上がり，逆台形状である。底面は北西から南東へ下がる。

覆土　3層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量



第332図　第13A・B号溝跡実測図

遺物出土状況　土師器片7点(坏1，甕6)，須恵器片2点(坏)，礫12点(被熱痕あり)，炉壁片50点(1105g)，羽口片1点(25g)，鉄滓54点（558g）〔炉内溶解物42（471g），流動滓1（13g），白色滓11（74g）〕，粘土塊2点（8g）が出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　中央2区中央部にある埋没谷の西側の斜面部に位置し，斜面の等高線に直交して位置していること，断面逆台形状を呈していながら，第13B号溝跡同様に不規則な形状をしていることから，排水的役割を持っていたと考えられる。この施設は確認できなかったが，第2号排滓場に流れ込んでいることから，鋳造に関連した遺構の可能性が考えられる。出土遺物が細片であり，時期については不明である。

第13B号溝跡（第332図・付図）

位置　中央2区中央部のU47e6区からU47c6区に位置し，台地の斜面部に立地している。

重複関係　第13A号溝を掘り込んでいる。

規模と形状　U47d5区から北西方向（N－21°－E）にほぼ直線的に延び，第13A号溝跡と繋がる。確認できた規模は長さ7.95mで，上幅0.48～0.97m，下幅0.33～0.80m，深さ30cmである。形状は底面がほぼ平坦で，壁面が外傾して立ち上がり，逆台形状である。底面は北西から南東へ下がる。

覆土　4層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　中央2区中央部にある埋没谷の西側の斜面部に位置し，斜面の等高線に直交して位置していること，断面逆台形状を呈していながら，第13A号溝跡同様に不規則な形状をしていることから，排水的役割を持っていたと考えられる。この施設は確認できなかったが，第2号排滓場に流れ込んでいることから，鋳造に関連した遺構の可能性が考えられる。時期については不明である。

第16号溝跡（第333図・付図）

位置　中央2区中央部のT46i9区からT47j1区に位置し，台地の斜面部に立地している。

重複関係　第41号住居跡・第4号不明遺構を掘り込んでいる。

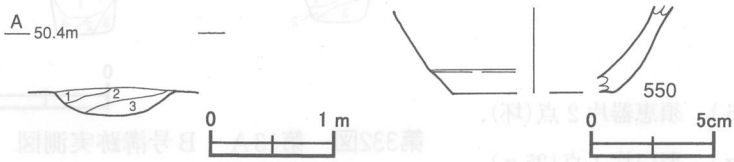
規模と形状　T47j1区から北西方向（N－58°－W）へ直線的に延びている。長さは9.60mである。規模は上幅0.36～1.14m，下幅0.27～0.42m，深さ18～30cmである。形状は底面が皿状，壁面は緩やかな傾斜で立ち上がり，U字状を呈している。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　弥生土器片2点（壺），土師器片7点（甕），須恵器片4点（坏3，甕1），陶器片3点（椀），瓦片1点（平瓦），鉄製品2点（不明；56g），炉壁片18点（242g），鉄滓10点（285g）〔炉内溶解物8（273g），流動滓2（12g）〕，礫4点（被熱痕あり1）が全域の覆土上層を中心に出土している。550は覆土中から出土している。



第333図　第16号溝跡・出土遺物実測図

所見　9世紀前葉以降と推定される第41号住居跡を掘り込んでいるので，詳細な時期については不明である。

第16号溝跡出土遺物観察表（第333図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
550	陶器	碗	－	(3.4)	[6.4]	緻密	暗赤褐	普通	ロクロ整形，内外面施釉	覆土中	10%

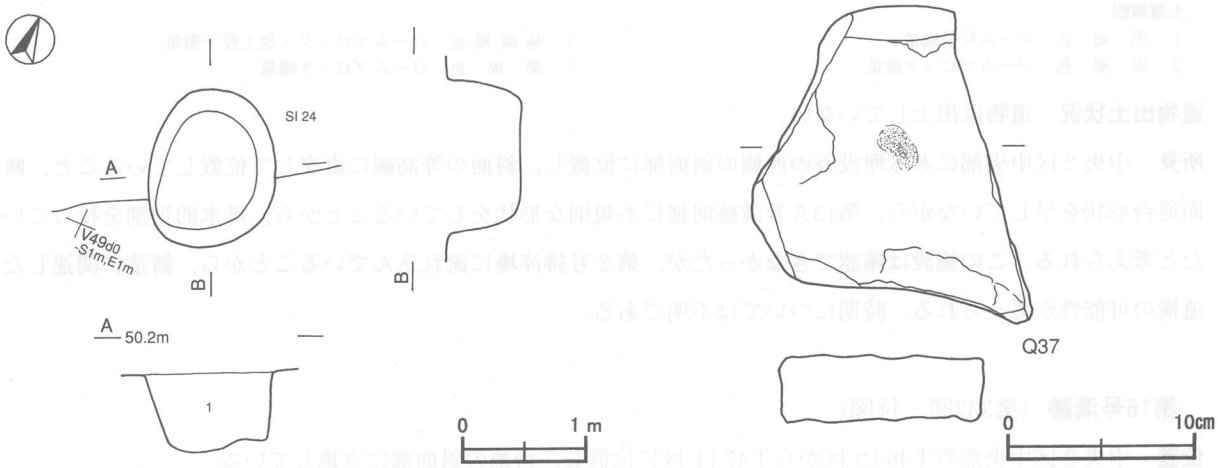
(6)　土坑

当遺跡では今回の調査で，368基の土坑が確認された。そのうち形状が特徴的なものや遺物が出土している17基を取り上げ，その他の性格及び時期の不明な土坑については一覧表で示す。

第24号土坑（第334図）

位置　中央2区東部のV49d0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第24号住居跡を掘り込んでいる。



第334図　第24号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　長径0.57m，短径0.50mの楕円形である。深さは32cmであり，底面は皿状で，壁は直立している。長径方向はN－26°－Wである。

覆土　単一層である。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　石器1点（砥石）が覆土中から出土している。

所見　4世紀後半の第24号住居跡を掘り込んでいることから，時期は4世紀後半以降であるが，詳細な時期及び性格は不明である。

第24号土坑出土遺物観察表（第334図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q37	凹石	16.8	14.9	5.5	1380.0	泥岩	凹面1か所，下部剝離	覆土中	

第62号土坑（第335図）

位置　東区のV52f1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第118号土坑に掘りこまれている。

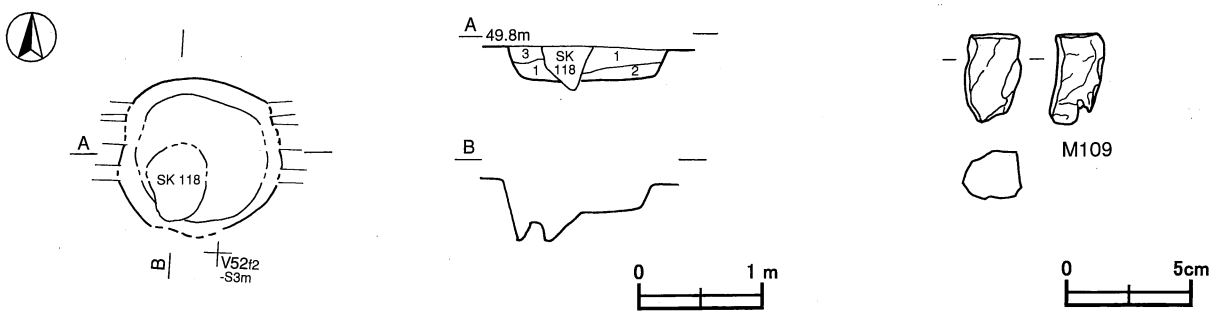
規模と形状　径1.32mの円形で，深さは48cmである。底面はわずかに凸凹があり，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ロームブロック微量
2　黒　　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片5点（甕），須恵器片7点（坏2・甕5），鉄製品1点（不明），炉壁片7点が覆土中から出土している。

所見　遺物は人為堆積による混入であり，時期及び性格は不明である。



第335図　第62号土坑・出土遺物実測図

第62号土坑出土遺物観察表（第335図）

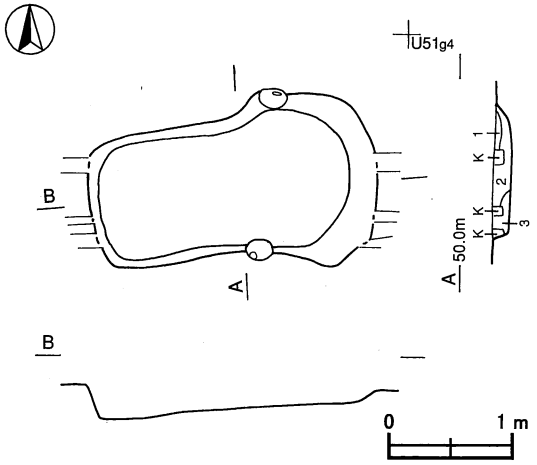
番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
M109	不明	(3.5)	(2.3)	(1.9)	(11.0)	鉄	全面破断面	覆土中	PL100

第92号土坑（第336図）

位置　東区西部のU51g3区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長軸2.30m，短軸1.05mの長方形である。深さは26cmで，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－79°－Eである。ピットが南・北壁の中央部にそれぞれ付設されている。ピットは径20cmの円形で，深さは32cmであり，本跡に伴うものと考えられるが，その性格は不明である。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。



第336図　第92号土坑実測図

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片2点（甕），須恵器片1点（坏）が覆土中から出土している。これらの遺物は埋没過程で混入したものと考えられ，出土状況から本跡に伴う遺物はない。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　南北両壁の中央部にピットを有した長方形の土坑である。出土している土師器片・須恵器片は混入したものであり，時期は不明である。近隣には中世の遺構が確認されており，中世の遺構との関連が考えられる。

第94号土坑（第337図）

位置　東区のV51f4区に位置し，台地の平坦部に立地している。

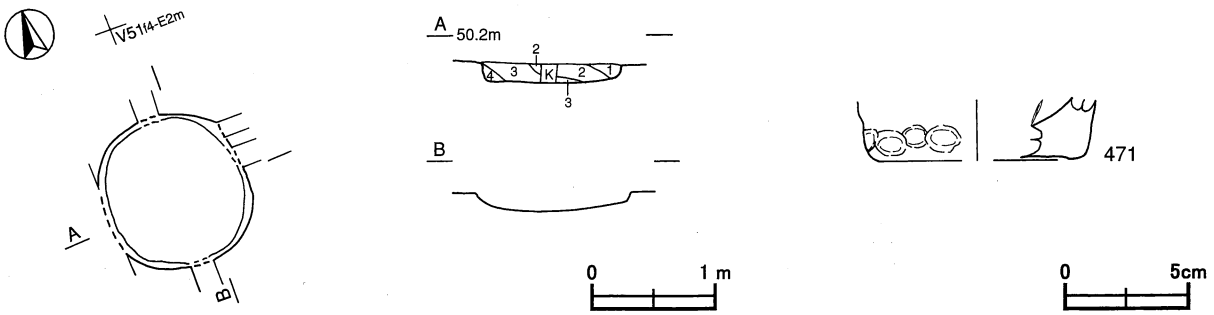
規模と形状　長径1.27m，短径1.14mの楕円形である。深さは15cmで，底面はほぼ平坦で，壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。長径方向はN－22°－Wである。

覆土　4層からなる。西部から流れ込んだ堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片1点（手捏土器）が覆土中から出土している。471は底部外面に木葉痕を有し，また体部外面下端に指頭圧痕がある。

所見　時期及び性格については不明である。



第337図　第94号土坑・出土遺物実測図

第94号土坑出土遺物観察表（第337図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
471	土師器	手捏土器	－	(2.4)	[8.6]	長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端指頭圧痕，内面多方向ヘラナデ	覆土中	10% 底部木葉痕

第114号土坑（第338図）

位置　中央２区南東部のU50ｊ4区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第113号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.30m，短軸1.67mの長方形である。深さは32cmで，底面にわずかに凸凹が見られ，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－4°－Wである。

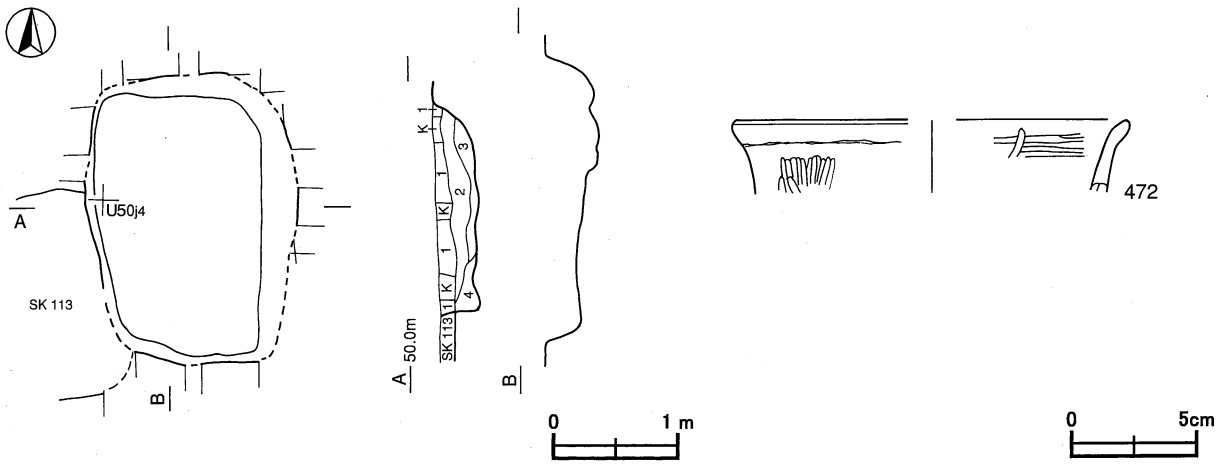
覆土　４層からなる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　炭化物中量，ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片13点（坏３・高坏１・甕９），須恵器片３点（坏２・短頸壺１）が覆土中から出土している。

所見　遺物は人為堆積により混入したもので，時期及び性格については不明である。



第338図　第114号土坑・出土遺物実測図

第114号土坑出土遺物観察表（第338図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
472	土師器	甕	[15.4]	(2.9)	－	黒色粒子・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内外面ヘラ磨き	覆土中	10%

第182号土坑（第339図）

位置　東区のV49ａ8区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第210・266・267号土坑を掘り込み，第209号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.15m，短径0.85mの楕円形である。深さは19cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して

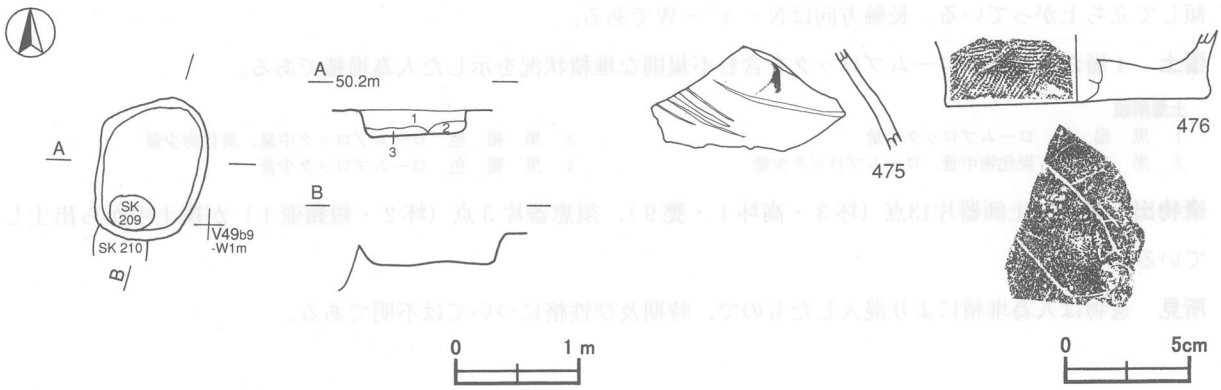
立ち上がっている。長径方向はN－7°－Eである。

覆土　3層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片1点（壺），土師器片11点（坏1・甕10），須恵器片11点（坏8・甕3）が覆土中から出土している。475は土師器甕の体部片で，判読不明の墨書（「□」）がある。出土状況から本跡に伴うものはない。

所見　時期及び性格については不明である。

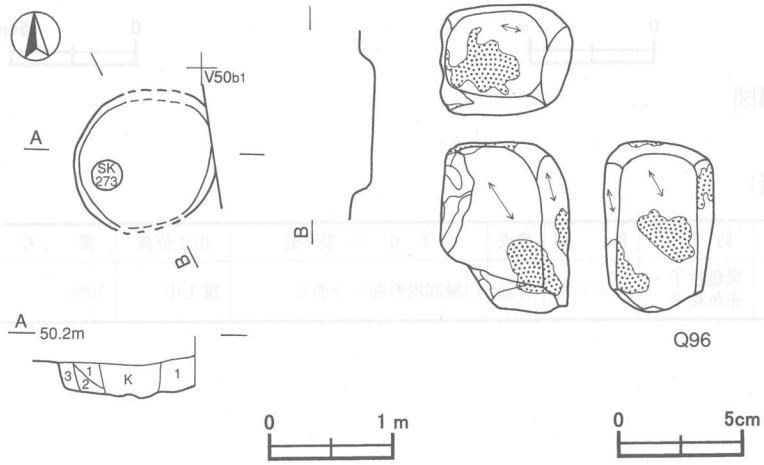


第339図　第182号土坑・出土遺物実測図

第182号土坑出土遺物観察表（第339図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
475	土師器	甕	－	(3.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土中	5% 墨書「□」
476	弥生土器	壺	－	(2.6)	[10.2]	長石・石英・微礫	灰黄	普通	付加条一種（付加2条）の縄文を施文	覆土中	5% 木葉痕

第194号土坑（第346図）



第340図　第194号土坑・出土遺物実測図

位置　東区のV49b0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第273号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.16m，短径1.09mの楕円形である。深さは25cmで，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－30°－Eである。

覆土　3層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片４点（甕），石器１点（砥石）が覆土中から出土している。Q96は覆土中から出土している。

所見　遺物は人為堆積による混入したもので，時期及び性格は不明である。

第194号土坑出土遺物観察表（第340図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　質	特　　徴	出土位置	備　考
Q96	砥石	(6.8)	(5.2)	(4.3)	(234.0)	泥岩	砥面３面二方向	覆土中	流動滓付着 PL86

第304号土坑（第341図）

位置　中央１区東部のＴ45ｃ3区に位置し，台地の平坦部に立地している。

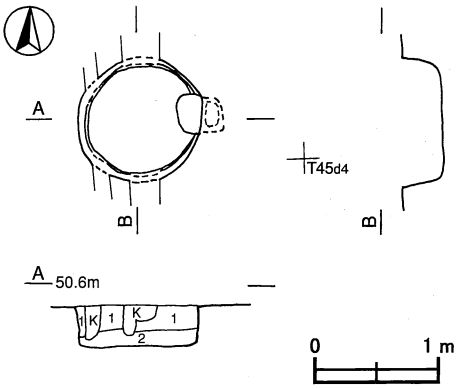
規模と形状　長径1.03m，短径0.99mの円形である。深さは34cmであり，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長径方向はＮ－45°－Ｅである。東部の底面から斜め下位へ掘り込まれたピットが確認された。ピットの規模は長径0.24m，短径0.18mの楕円形で，長さ0.32m，比高差0.12mである。ピットの長径方向はＮ－88°－Ｅである。底面は緩やかな傾斜をしており，奥壁は直立して立ち上がった後，内傾している。

覆土　２層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　出土遺物がなく，時期及び性格については不明である。周辺には同様な形状をした第306・308・316・317号土坑があり，それらとの関係が考えられる。特に第317号土坑から人骨が出土しており，墓壙の可能性もある。



第341図　第304号土坑実測図

第306号土坑（第342図）

位置　中央１区のＴ45ｃ0区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長径1.03m，短径0.99mの円形である。深さは34cmで，底面はほぼ平坦で，壁は直立している。長径方向はＮ－85°－Ｗである。ピットの長径方向はＮ－77°－Ｅである。底面は緩やかな傾斜をしており，奥壁は垂直に立ち上がった後，内傾して確認面にいたる。

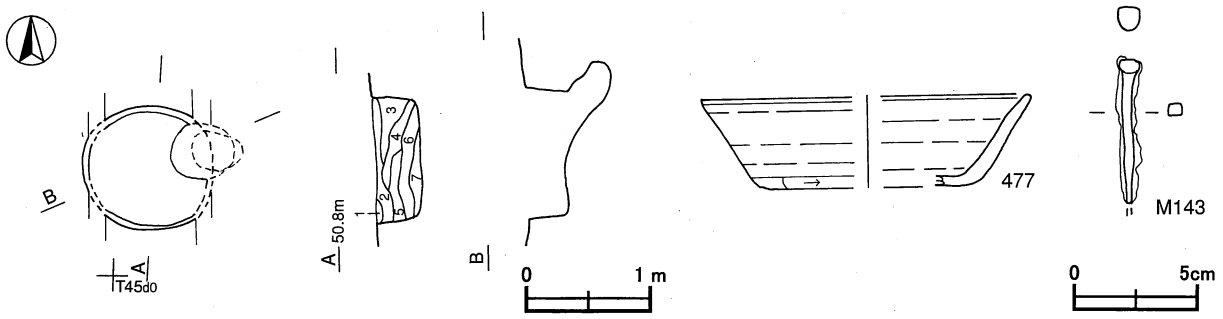
覆土　７層からなる。ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量
7　明　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片１点（甕），須恵器片２点（坏・甕），鉄製品１点（釘），骨片が覆土中から出土している。M143は覆土中から出土している。

所見　時期及び性格については不明である。８世紀代の須恵器坏片が出土しているが，周囲には墓域があり，

さらに同様の形状をしている第317号土坑の底面から人骨片が出土していることから，墓壙の可能性もある。



第342図　第306号土坑・出土遺物実測図

第306号土坑出土遺物観察表（第342図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
477	須恵器	坏	[12.9]	3.6	[8.4]	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部多方向ヘラ削り	覆土中	10%

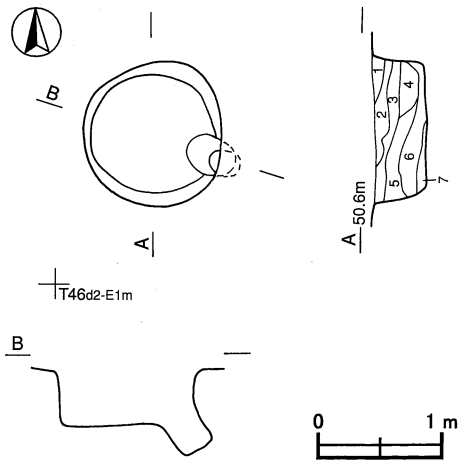
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M143	釘	(5.7)	1.0	0.5	(7.1)	鉄	角釘，先端部欠損	覆土中	

第308号土坑（第343図）

位置　中央１区東部のＴ46ｃ2 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長径1.17m，短径1.14mの円形である。深さは45cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は直立している。長径方向はＮ－17°－Ｅである。東部の壁面から底面の境界部の斜め下位へ掘り込まれたピットが確認されている。ピットの規模は長径0.40m，短径0.24mの楕円形である。長さは0.40m，比高差0.32mで，長径方向はＮ－69°－Ｅである。底面は平坦で，奥壁は底面から直立して内傾気味に立ち上がり確認面にいたる。

覆土　７層からなる。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。



第343図　第308号土坑実測図

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片２点（坏・甕），須恵器片４点（坏），鉄製品２点（不明）が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　出土遺物が少なく，細片であるため，時期及び性格については不明である。周辺には同様な形状をした第304・306・316・317号土坑があり，それらとの関係が考えられる。特に第317号土坑から人骨が出土しており，墓壙の可能性もある。

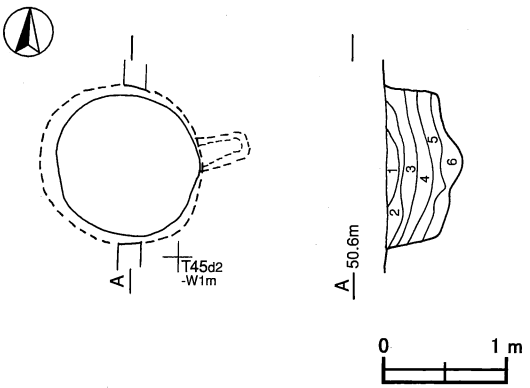
第316号土坑（第344図）

位置　中央１区東部のＴ45ｃ1区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けており，確認できた規模は長径1.30m，短径1.25mの円形である。深さは62cmであり，底面は中央部がわずかにくぼみ，壁はわずかに外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－48°－Ｗである。東部の壁面と底面の境界部の斜め下位へ掘り込まれたピットが確認された。ピットの規模は径0.24mの円形であり，長さは0.40mである。長径方向はＮ－80°－Ｅである。底面はほぼ平坦で，奥壁は垂直に立ち上がり，内傾して確認面にいたる。

覆土　６層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　黄　褐　色　ロームブロック多量



第344図　第316号土坑実測図

遺物出土状況　土師器片５点（甕），鉄製品１点（不明）が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるものはない。

所見　出土遺物が少なく，細片であるため，時期及び性格については不明である。周辺には同様な形状をした第304・306・308・317号土坑があり，それらとの関係が考えられる。特に第317号土坑から人骨が出土しており，墓壙の可能性もある。

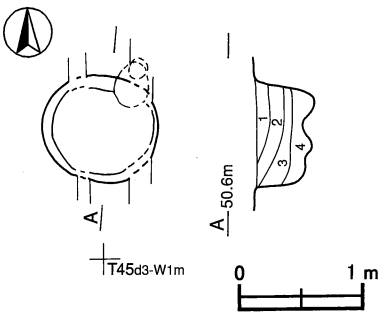
第317号土坑（第345図）

位置　中央１区東部のＴ45ｃ2区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長径0.93m，短径0.81mの楕円形である。深さは45cmであり，底面はわずかに凸凹で，壁はほぼ直立している。長径方向はＮ－77°－Ｗである。北壁の壁面と底面の境界部の斜め下位へ掘り込まれたピットが確認された。ピットの規模は径0.20mの円形である。長さは0.38mであり，長径方向がＮ－20°－Ｅである。底面はほぼ平坦で，奥壁は底面から垂直に立ち上がった後，内傾して確認面にいたる。

覆土　４層からなる。ロームブロックを含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物・骨片微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，骨片微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量



第345図　第317号土坑実測図

遺物出土状況　骨片が出土している。出土遺物は人骨片だけで，図示できるような状況でない。

所見　本跡は人骨片が出土していることから，墓壙の可能性がある。他の出土遺物がないため，時期は不明である。周辺には同様な形状をした第304・306・308・316号土坑があり，それらとの関係が考えられる。

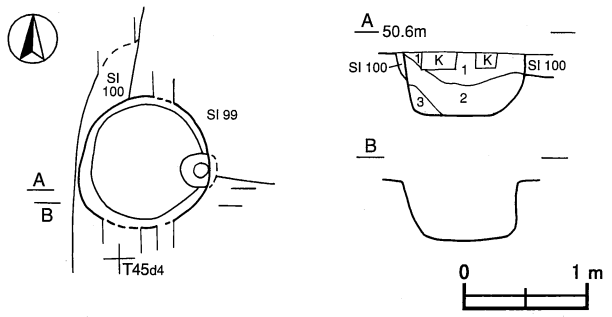
第318号土坑（第346図）

位置　中央２区のＴ45ｃ4 区に位置し，緩やかな傾斜の台地平坦部に立地している。

重複関係　第99・100号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.05m，短径1.00mの円形である。深さは45cmで，底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長径方向はＮ－23°－Ｅである。

覆土　３層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。



第346図　第318号土坑実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片１点（甕），鉄製品３点（不明）が覆土中から出土している。

所見　９世紀中葉と推定される第99号住居跡を掘り込んでいることから，時期はそれ以降と考えられるが，詳細については不明である。

第334号土坑（第347図）

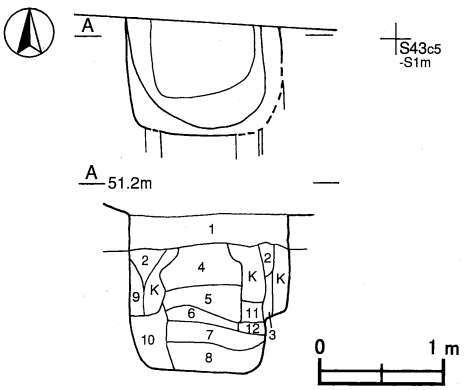
位置　中央１区北西際のＳ43ｃ4 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　北部が調査区域外へ延びており，確認できた規模は長軸1.39m，短軸0.90mで，平面形は長方形あるいは方形と推測される。深さは確認面から74cmで，調査区域際の土層から125cmであったと推定される。底面はほぼ平坦で，壁はほぼ直立している。長軸方向はＮ－86°－Ｗである。

覆土　12層からなる。第１層は耕作土で，第２～６層は締まりの弱い層であるのに対して，第７～12層はロームを含み締まりが強く，黒褐色土と暗褐色土が互層になっている。すべての土層は不規則な堆積状況を示していることから人為堆積であり，掘立柱建物跡の柱穴の可能性がある。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ロームブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
10　黒　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　褐　　色　ロームブロック少量



第347図　第334号土坑実測図

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は今年度報告をする調査区域の北西際にあり，全容が不明な上に出土遺物がなく，時期判断は困難である。性格は覆土の状況と周辺に８世紀中葉と推定される掘立柱建物跡が５棟あり，その柱穴の土層と類似しており，埋土と考えられる第７～12層が黒褐色土と暗褐色土が互層であることなどから，掘立柱建物跡の柱穴と考えられる。南東部への伸長は見られず，北西部へ延びていると考えられる。

第360号土坑（第348図）

位置　中央２区西部のＵ45b3 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第359号土坑を掘り込んでいる。

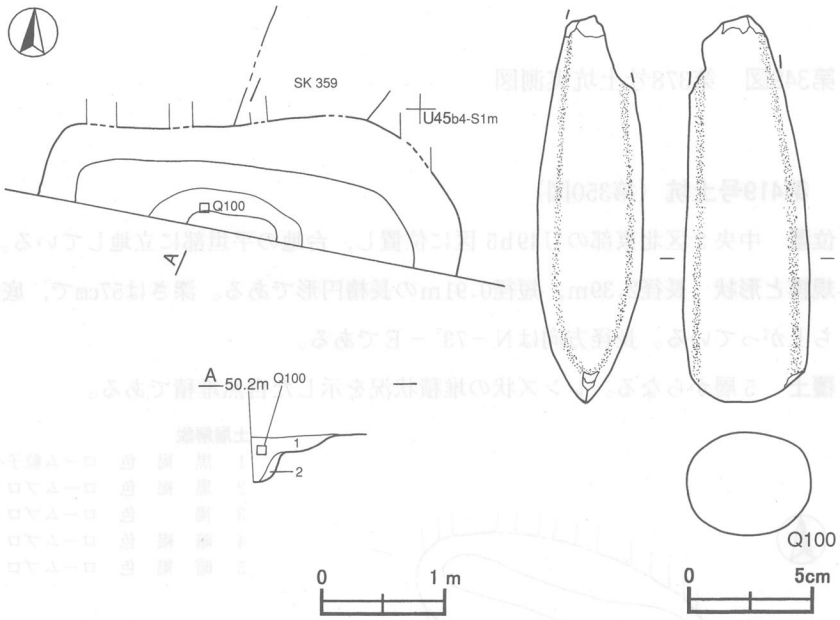
規模と形状　長径3.19m，短径1.11mで，平面形は楕円形あるいは円形と推測される。深さは53cmであるが，底面は調査区域外にあり，確認できなかった。壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－86°－Ｗである。

覆土　２層からなる。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片１点（甕），石器１点（磨製石斧）が覆土中から出土している。Q100は中央部の覆土上層から出土しているので，混入したものと考えられる。

所見　出土遺物からの時期判断は困難である。形状は大形で円形を呈すると推測されることから，隣接する第14号井戸跡と類似する井戸跡の可能性もある。



第348図　第360号土坑・出土遺物実測図

第360号土坑出土遺物観察表（第348図）

番号	種　別	長　さ	幅	厚　さ	重　量	石　質	特　　徴	出土位置	備　　考
Q100	磨製石斧	(15.4)	5.0	4.2	(480.0)	緑泥岩	蛤刃型，基部欠損	中央部上層	PL87

第378号土坑（第349図）

位置　中央２区中央部西寄りのＵ45a5 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第78号住居・第379号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径2.09m，短径0.46mの長楕円形である。深さは72cmであり，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－22°－Ｗである。

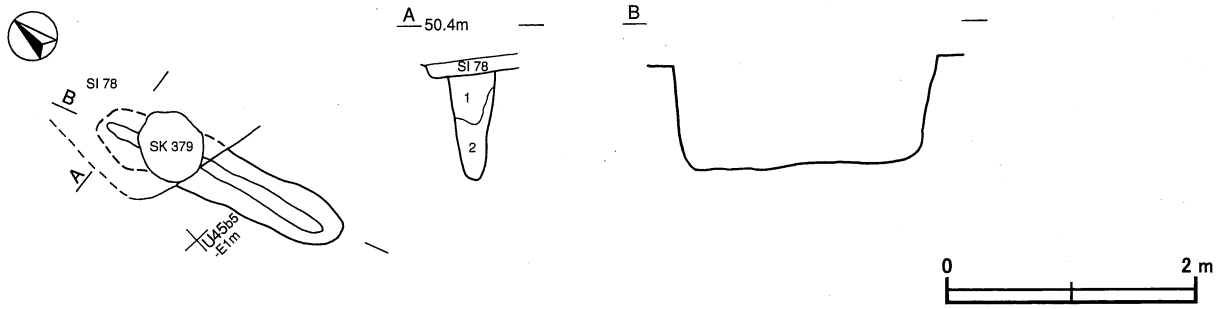
覆土　２層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量　　2　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　規模と形状から縄文時代の陥し穴の可能性があるが，出土遺物がなく，時期及び性格については不明である。周辺から石鏃や磨製石斧・敲石・磨石などの石器が住居跡に混入していることや，表面採集がされていることから，調査区域及びその周辺は縄文時代の狩り場で，周辺に縄文時代の集落が形成されていたと考えら

れる。



第349図　第378号土坑実測図

第419号土坑（第350図）

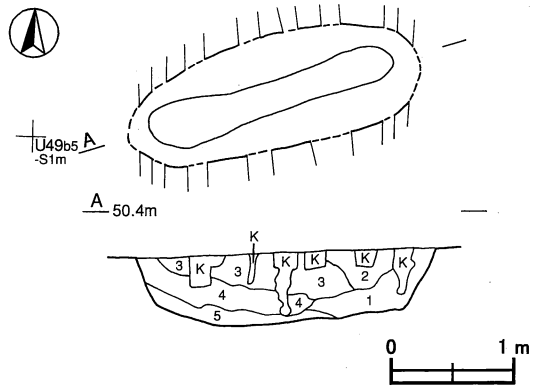
位置　中央２区北東部のＵ49b5 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　長径2.39m，短径0.91mの長楕円形である。深さは57cmで，底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－73°－Ｅである。

覆土　５層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量



第350図　第419号土坑実測図

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　規模と形状から縄文時代の陥し穴の可能性があるが，出土遺物がなく，時期及び性格については不明である。周辺から石鏃や磨製石斧･敲石･磨石などの石器が住居跡に混入していることや，表面採集がされていることから，調査区域及びその周辺は縄文時代の狩り場で，差ほど遠くない場所に縄文時代の集落が形成されていたと考えられる。

(7)　ピット群

第１号ピット群（付図）

位置　中央１区北西部のＳ43ｊ5 区からＳ43h7 区に位置し，台地の平坦部に立地している。第111・112号住居跡の東部，第４号掘立柱建物跡の南側に広がっている。

規模と形状　南北８ｍ，東西11mの長方形の範囲に13か所のピットが確認された。ピットの規模は長径23～50cm，短径17～47cmの円形及び楕円形で，深さが36～82.5cmであり，断面Ｕ字状をしている。

覆土　柱の抜き取り痕などは確認されず，土層観察での堆積や締まりの状況などから，すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　ピットの深さや配列などに規則性がないため，掘立柱建物跡や柵跡とは考えにくく，ピット群としてと

らえた。出土遺物がないため，時期及び性格については不明である。

第２号ピット群（付図）

位置　中央２区東部のＴ49ｉ1 区からＵ49ｂ7 区に位置し，台地の平坦部に立地している。第28号住居跡の周辺と第36号住居跡の東部に広がっている。

規模と形状　南北８ｍ，東西７ｍの長方形の範囲に31か所のピットが確認された。ピットの規模は長径18～43cm，短径17～39cmの円形及び楕円形で，深さが６～36cmであり，断面Ｕ字状をしている。

覆土　柱の抜き取り痕などは確認されず，土層観察での堆積や締まりの状況などから，すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　31か所のピットの内，Ｐ4・Ｐ6・Ｐ16・Ｐ17は方形に配置された状態を示している。周辺には中世の第７・11号溝跡で方形に区画されている内側（北側）に当たり，鉄鍋の鋳型が出土している第５号方形竪穴遺構が確認されていること，Ｐ4 の西側には第16号井戸跡が位置していることなどから，中世の鋳造関連の作業場的な簡易に作られた掘立柱建物跡の可能性も考えられた。しかし硬化面などが確認されてなく，その性格は不明であり，他のピット同様に，深さや配列などに規則性がないため，掘立柱建物跡や柵列跡ではなく，ピット群としてとらえた。出土遺物もないため，時期及び性格は不明である。

第３号ピット群（付図）

位置　中央１区中央部西寄りのＳ44ｈ9 区からＳ44ｊ0 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　南北５ｍ，東西４ｍ四方の範囲に10か所のピットが確認された。ピットの規模は長径38～63cm，短径29～59cmの円形及び楕円形で，深さが29～57cmであり，断面はＵ字状を呈している。

覆土　柱の抜き取り痕などは確認されず，土層観察での堆積や締まりの状況などから，すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　ピットの深さや配列などに規則性がないため，掘立柱建物跡とは考えにくく，ピット群としてとらえた。出土遺物がないため，時期及び性格は不明である。

第４号ピット群（付図）

位置　中央１区北西部のＳ43ｄ4 区からＳ43ｅ4 区に位置し，台地の平坦部に立地している。第４号掘立柱建物跡の西側に広がっている。

規模と形状　南北７ｍ，東西２ｍの長方形の範囲に６か所のピットが確認された。ピットの規模は長径24～45cm，短径17～40cmの円形及び楕円形で，深さが18～39cmであり，断面Ｕ字状をしている。

覆土　柱の抜き取り痕などは確認されず，土層観察での堆積や締まりの状況などから，すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　本跡の東側に位置する第４号掘立柱建物跡との関連があるのではないかと考え調査を行ったが，ピットの深さや配列などに規則性がないため，第４号掘立柱建物跡との関連する施設とは考えにくく，さらに柵跡とも考えにくいことから，ピット群としてとらえた。出土遺物がないため，時期及び性格については不明である。

第５号ピット群（付図）

位置　中央２区中央部のＵ45b2 区からＵ45b8 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第77号住居跡を掘り込んでいる。第20号溝跡の東側と第17・19・20号溝跡で方形に区画された区域に広がる。

規模と形状　南北８ｍ，東西32ｍの長方形の範囲に45か所のピットが確認された。ピットの規模は長径19～57cm，短径16～51cmの円形及び楕円形で，深さが５～46cmであり，断面Ｕ字状をしている。

覆土　柱の抜き取り痕などは確認されず，土層観察での堆積や締まりの状況などから，すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　ピットの深さや配列などに規則性がないため，掘立柱建物跡や柵列跡とは考えにくく，ピット群としてとらえた。出土遺物がないため，時期及び性格については不明である。

第６号ピット群（付図）

位置　中央１区北西部のＳ43e7 区からＳ43f8 区に位置し，台地の平坦部に立地している。第１号円形周溝状遺構と第４号掘立柱建物跡の東側に広がっている。

規模と形状　４ｍ四方の範囲に９か所のピットが確認された。ピットの規模は長径30～117cm，短径24～111cmの円形及び楕円形で，深さ４～44cmであり，断面はＵ字状を呈している。

覆土　柱の抜き取り痕などは確認されず，土層観察での堆積や締まりの状況などから，すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　ピットの深さや配列などに規則性がないため，掘立柱建物跡や柵列跡とは考えにくく，ピット群としてとらえた。出土遺物がないため，時期及び性格については不明である。

第７号ピット群（付図）

位置　東区西部のＵ50ｊ4 区からＶ50a5 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第20号住居跡，第77・113・114号土坑，第９号溝跡・第１号不明遺構を掘り込んでいる。

規模と形状　南北８ｍ，東西12ｍの長方形の範囲に24か所のピットが確認された。ピットの規模は長径24～43cm，短径20～72cmの円形及び楕円形で，深さが10～60cmであり，断面Ｕ字状をしている。

覆土　柱の抜き取り痕などは確認されず，土層観察での堆積や締まりの状況などから，すべて柱の抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　中世と推定される第９号溝跡を掘り込こんでいることから，時期は中世以降と考えられるが，詳細は不明である。また，他のピットには規則性がないことから，第３号掘立柱建物跡に関係する施設に伴う可能性がある。

(8)　ピット列

今回の調査では，２か所のピット列が確認された。第１号ピット列は第22号溝跡，第２号ピット列は第19号溝跡と重複し，溝の南側斜面を掘り込んでいることから，柵跡などが推測されたが，ピットの間隔やピットの

重複などから柵跡であることが明確にとらえられないため，ピット列とした。以下，遺構の概要については記述する。

第１号ピット列（付図）

位置　中央１区西部Ｓ43ｊ3 区から中央部のＳ44ｊ3 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第22号溝跡の南側を掘り込んでいる。

規模と構造　確認された長さは80m，長軸方向はＮ－90°－Ｅで，柱間寸法が0.1～1.4mである。

柱穴　99か所（Ｐ1 ～Ｐ99）が確認され，深さ70～141cmで，断面Ｕ字状をしている。溝の壁面を掘り込んだ部分でわずかに１層だけが確認された。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　性格は第22号溝跡の南壁及び底面から多くのピットが確認された。溝と複合した施設で，柵のような施設であったと考えられる。また，第２号ピット列も同様に溝跡の南壁を掘り込んでいる。本跡の覆土は第22号溝跡の南壁際の覆土とほぼ同じであることから，第22号溝跡が埋没過程に構築されたと考えられる。第22号溝跡は９世紀中葉以降と推定されることから，時期は９世紀中葉以降と考えられるが，詳細は不明である。

第２号ピット列（付図）

位置　中央２区西部のＴ45h1 区からＴ45g5 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第19号溝の南側を掘り込んでいる。

規模と構造　確認された長さは60m，長軸方向はＮ－90°－Ｅであり，柱間寸法は0.1～0.92mである。

柱穴　47か所（Ｐ1 ～Ｐ47）が確認され，深さ20～92cmで，断面Ｕ字状をしている。溝の壁面を掘り込んだ部分でわずかに１層だけが確認された。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　第19号溝跡の南壁及び底面から多くのピットが確認された。溝と複合した施設で，柵のような施設であったと考えられる。覆土は第19号溝跡の南壁際の覆土とほぼ同じであることから，第19号溝と同時期あるいは埋没間もない時期に構築されたと考えられる。新旧関係から８世紀中葉以降と推定される第19号溝跡を掘り込んでいるので，時期は８世紀中葉以降であるが，９世紀中葉以降と推定される第１号ピット列と長軸方向の方向性が同一であることから，９世紀中葉以降の可能性も考えられる。

第３号ピット列（付図）

位置　中央２区西部のＴ44h8 区からＴ44ｉ9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第17号溝跡の南側を掘り込んでいる。

規模と構造　南部が調査区域外へ伸びる可能性があり，確認された長さは5.4m，長軸方向はＮ－５°－Ｅであり，柱間寸法は0.16～1.20mである。

柱穴　６か所（Ｐ1 ～Ｐ6 ）が確認され，深さ18～55cmで，断面Ｕ字状をしている。溝の底面を掘り込んだ部分でわずかに１層だけが確認された。

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　本跡は第17号溝跡の底面からピットが確認された。溝と複合した施設で，柵のような施設であったと考えられる。ピット列の覆土は第17号溝跡の覆土とほぼ同じであることから，第17号溝と同時期あるいは埋没間

もない時期に構築されたと考えられる。長軸方向は第１・２号ピット列とも東西方向に対して，本跡は南北方向であり，長軸方向から異なった時期と考えられるが，方形の区画溝である第17・19号溝跡を掘り込むように構築されているので，第２号ピット列と同時期の可能性がある。

(9) 不明遺構

第１号不明遺構（第351図）

位置　東区西部のU50ｊ6区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第３号掘立柱建物跡を掘り込み，第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸6.12ｍ，短軸4.84ｍの不定形で，長軸方向はＮ－６°－Ｅである。壁高は７～16cmほどで，外傾して立ち上がっている。

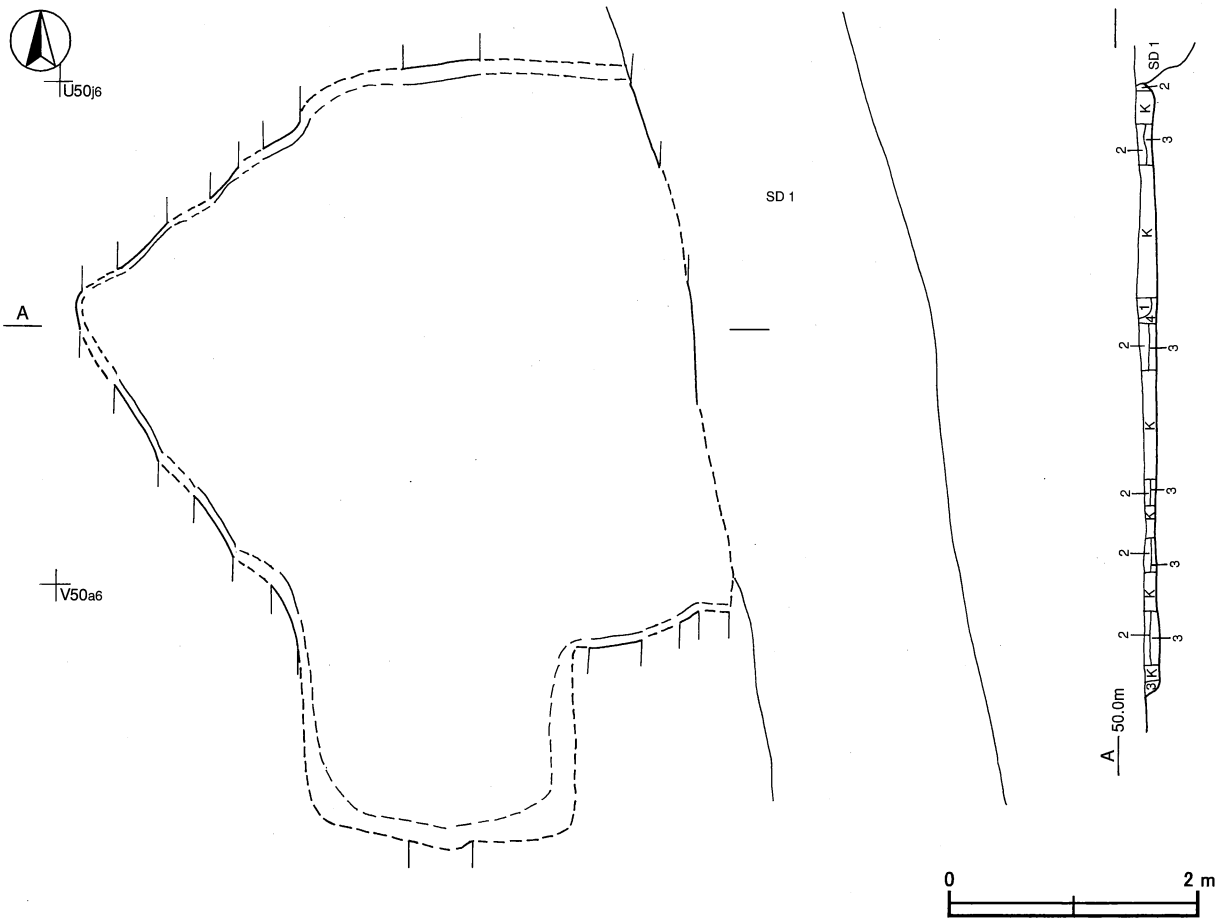
床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

覆土　４層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量	3	黒褐色	ローム粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片22点（坏２，甕20），礫１点が覆土中から出土している。出土遺物はすべて細片で，図示できるようなものはない。



第351図　第１号不明遺構実測図

所見　中世と推定される第１号溝に掘り込まれているので，中世以前と考えられるが，出土遺物がなく遺構の形状が不定形のため，時期は不明である。また，性格は第２・４号不明遺構とも溝跡に掘り込まれているので，溝と関連する遺構の可能性があるが，詳細については不明である。

第２号不明遺構（第352図）

位置　東区西部のＶ50ｃ7 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸5.84ｍ，短軸2.85ｍの不定形で，長軸方向はＮ－25°－Ｗである。壁高は10～18cmほどで，壁は外傾して立ち上がっている。

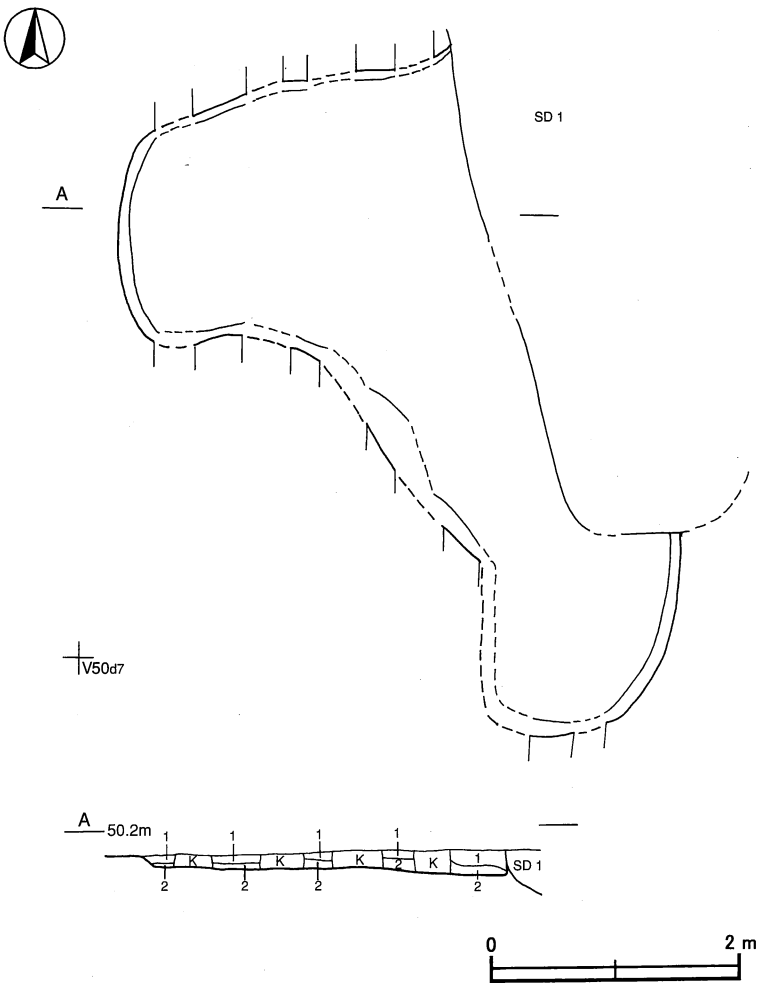
床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

覆土　２層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説
1　灰　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　中世と推定される第１号溝に掘り込まれ，周辺に中世の遺構が確認されていることから，時期は中世以前と考えられる。遺構の形状が不定形であり，床面は平坦で踏み固められているが，出土遺物がなく，居住空間としての様相も見られないことから，その性格については不明である。



第352図　第２号不明遺構実測図

第４号不明遺構（第353図）

位置　中央２区中央部のＴ46ｉ9 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

重複関係　第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状　トレンチャーによる撹乱を受けているため，遺存状態は不良である。確認できた規模は長軸4.24ｍ，短軸2.48ｍの不定形で，長軸方向はＮ－87°－Ｅである。壁高は７～20cmほどで，壁は外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，壁際が部分的に踏み固められている。

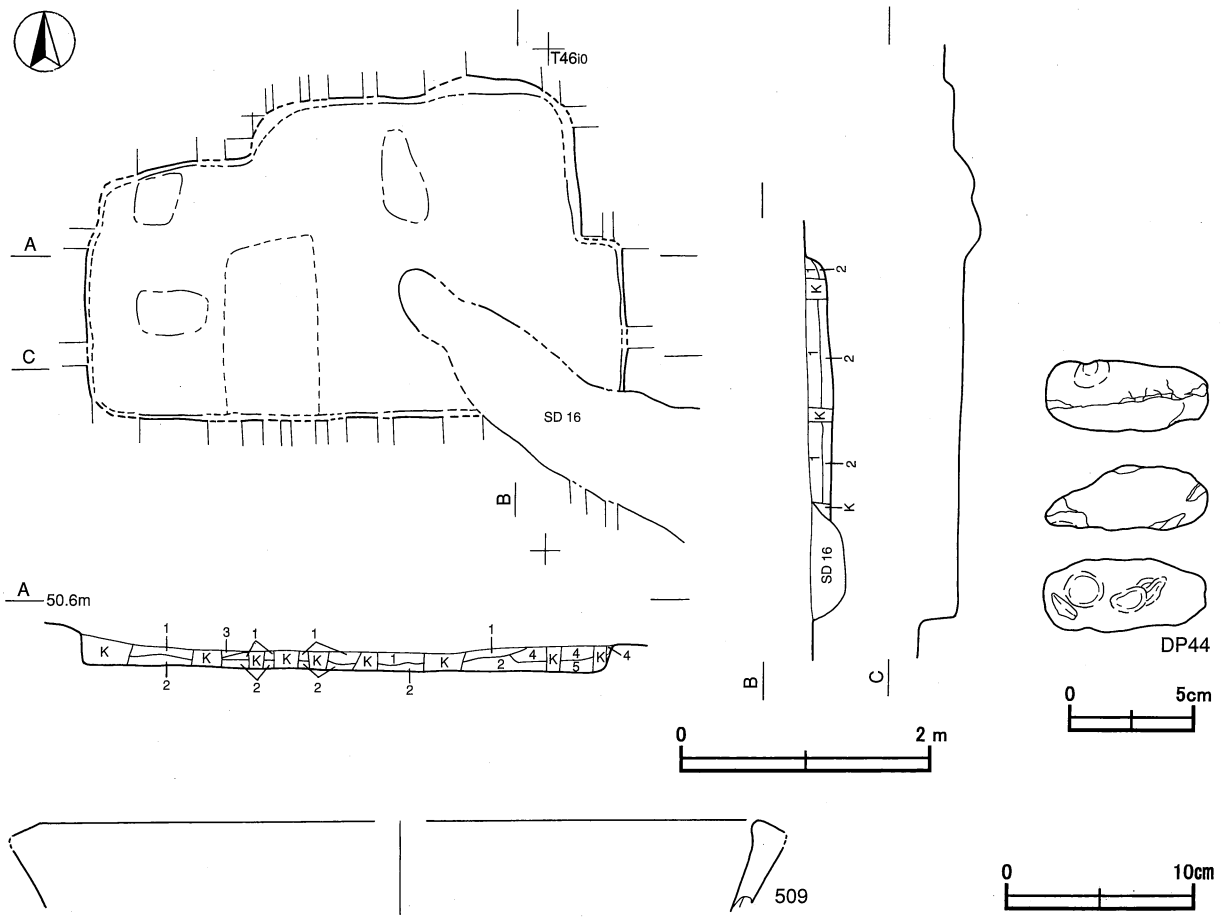
覆土　５層からなる。レンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢），土師器片５点（甕），須恵器片５点（坏１，甕４），土師質土器片１点（焙烙），陶器片１点（椀），炉壁片１点，土製品１点（不明），礫２点（破砕礫；被熱痕１）が覆土中から出土している。

所見　本跡は第１・２号不明遺構と同様に，形状が不定形で，床面の一部が踏み固められていること，出土遺物が少なく居住空間としての様子は感じられないことから，工房や非日常的な空間であった可能性があるが，詳細な性格は不明である。また，第１・２号不明遺構と同様に溝に掘り込まれていることから，溝との関係が考えられる。本跡周辺は中世と推定される遺構が確認されていることから，中世の可能性があるが，出土遺物が少なく，時期は不明である。



第353図　第４号不明遺構・出土遺物実測図

第４号不明遺構出土遺物観察表（第353図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
509	土師質土器	焙烙	[38.0]	(4.9)	－	長石･石英･金雲母	にぶい褐	普通	内外面ナデ	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP44	不明	6.4	2.9	2.6	43.0	長石･赤色粒子	不規則な指頭圧痕	覆土中	

第５号不明遺構（第354図）

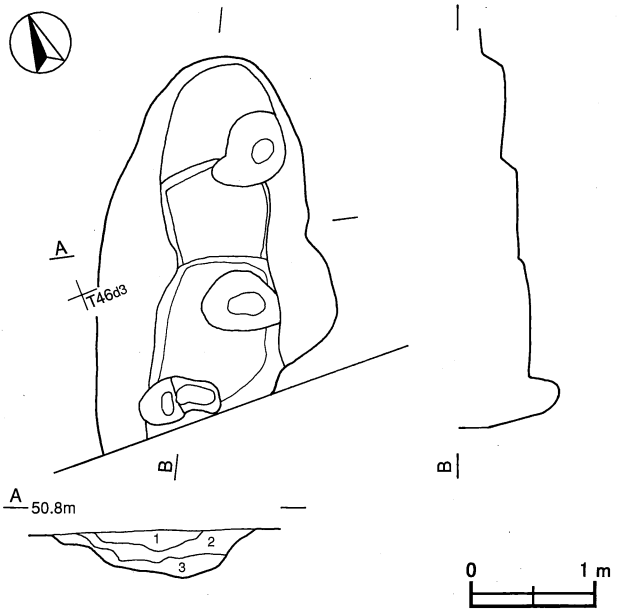
位置　中央１区のＴ46d3 区に位置し，台地の平坦部に立地している。

規模と形状　南部が調査区域外へ延びているため，確認できた規模は長軸2.87m，短軸1.87mの不定形であり，長軸方向はＮ－23°－Ｅである。壁高は17～36cmほどで，緩やかな傾斜で立ち上がっている。

床　わずかに段状になっており，３面の平坦部になっている。踏み固められた面はなく，壁際の床面から３か所のくぼみが確認されている。

覆土　３層からなる。レンズ状を呈しているが，ロームブロックを含むしまりの強い堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量



第354図　第５号不明遺構実測図

遺物出土状況　出土遺物は確認されていない。

所見　性格及び時期は出土遺物がなく，不定形の形状をしていることから不明である。

(10)　遺物包含層

第１号遺物包含層（第355・356図・付図）

位置　中央２区中央部北寄りのＴ47g8 区に位置し，緩やかな傾斜の台地谷部に立地している。

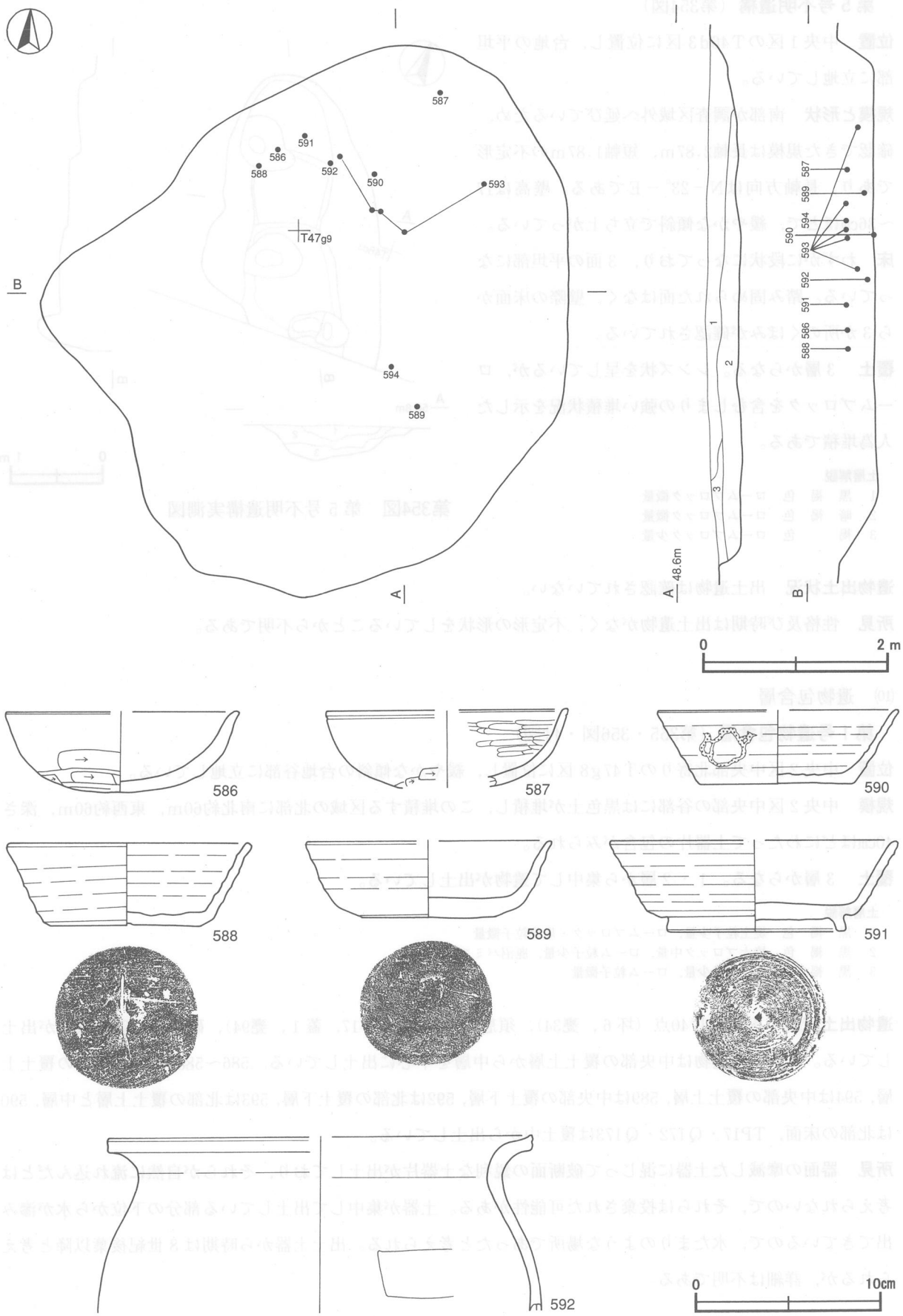
規模　中央２区中央部の谷部には黒色土が堆積し，この堆積する区域の北部に南北約60m，東西約60m，深さ40cmほどにわたって土器片の包含がみられる。

覆土　３層からなる。１・２層から集中して遺物が出土している。

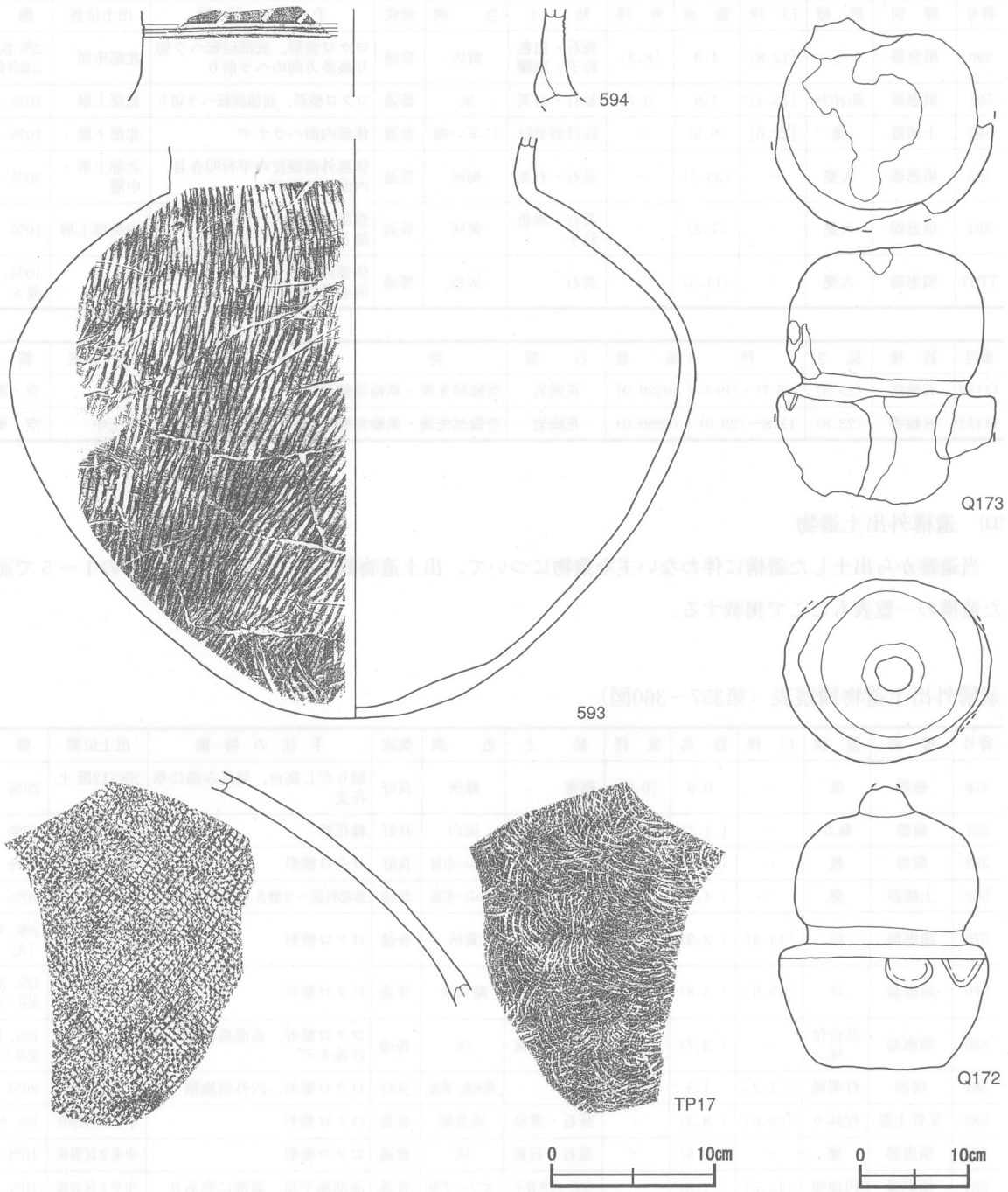
土層解説
1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片40点（坏６，甕34），須恵器片112点（坏17，蓋１，甕94），礫４点（破砕礫）が出土している。これらの遺物は中央部の覆土上層から中層を中心に出土している。586～588・591は北部の覆土上層，594は中央部の覆土上層，589は中央部の覆土下層，592は北部の覆土下層，593は北部の覆土上層と中層，590は北部の床面，TP17・Q172・Q173は覆土中から出土している。

所見　器面の摩滅した土器に混じって破断面の鋭利な土器片が出土しており，それらが自然に流れ込んだとは考えられないので，それらは投棄された可能性がある。土器が集中して出土している部分の下位から水が滲み出てきているので，水たまりのような場所であったと考えられる。出土土器から時期は８世紀後葉以降と考えられるが，詳細は不明である。



第355図　第１号遺物包含層・出土遺物実測図(1)



第356図　第１号遺物包含層出土遺物実測図(2)

第１号遺物包含層出土遺物観察表（第355・356図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
586	土師器	坏	[12.4]	4.4	－	長石･石英･雲母･赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り，内面丁寧なナデ	北部上層	20%
587	土師器	坏	[13.0]	(4.1)	－	長石･赤色粒子･黒色粒子	明赤褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り，内面ヘラ磨き	北部上層	10%
588	須恵器	坏	12.8	4.4	8.1	長石・微礫	灰黄褐	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り	北部上層	70% 底部ヘラ記号「メ」PL76
589	須恵器	坏	[13.1]	4.1	7.3	長石・黒色粒子	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	中央部下層	30% PL76

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	須恵器	坏	[12.8]	4.0	[8.3]	長石・白色粒子・微礫	黄灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	北部床面	20% 体部・底部に鉄付着 PL76
591	須恵器	高台付坏	[15.4]	4.9	9.7	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形，底部回転ヘラ切り	北部上層	40% PL76
592	土師器	甕	[22.6]	(9.5)	－	長石・礫・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラナデ	北部下層	10%
593	須恵器	大甕	－	(35.5)	－	長石・石英	褐灰	普通	体部外面縦位の平行叩き目，内面ヘラナデ	北部上層・中層	50% PL76
594	須恵器	大甕	－	(7.2)	－	長石・黒色粒子	黄灰	普通	頸部内面ナデ，外面3条の沈線と櫛歯による波状文	中央部上層	10%
TP17	須恵器	大甕	－	(14.3)	－	長石	灰色	普通	体部外面格子目状叩き，内面同心円状の当て具	覆土中	10%，転用硯ヵ PL78

番号	器種	長さ	径	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q172	五輪塔	(25.8)	(16.7)～(19.0)	(9520.0)	花崗岩	空輪部先端・風輪部側面欠損	覆土中	空・風輪
Q173	五輪塔	(23.8)	17.8～(20.0)	(8990.0)	花崗岩	空輪部先端・風輪部側面欠損	覆土中	空・風輪

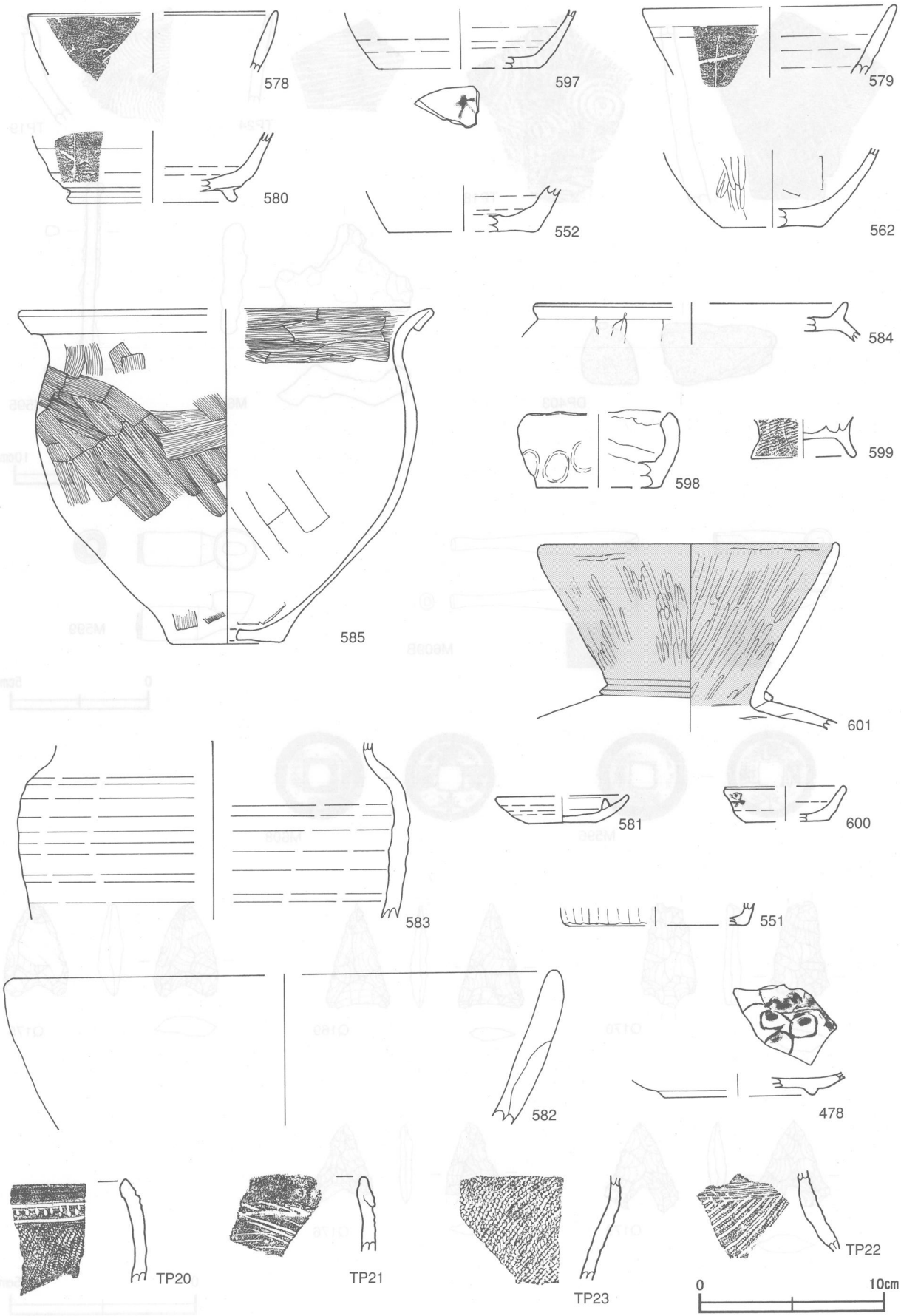
(11) 遺構外出土遺物

当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について，出土遺物観察表で記載する。本節の1～5で記述した遺構の一覧表もここで掲載する。

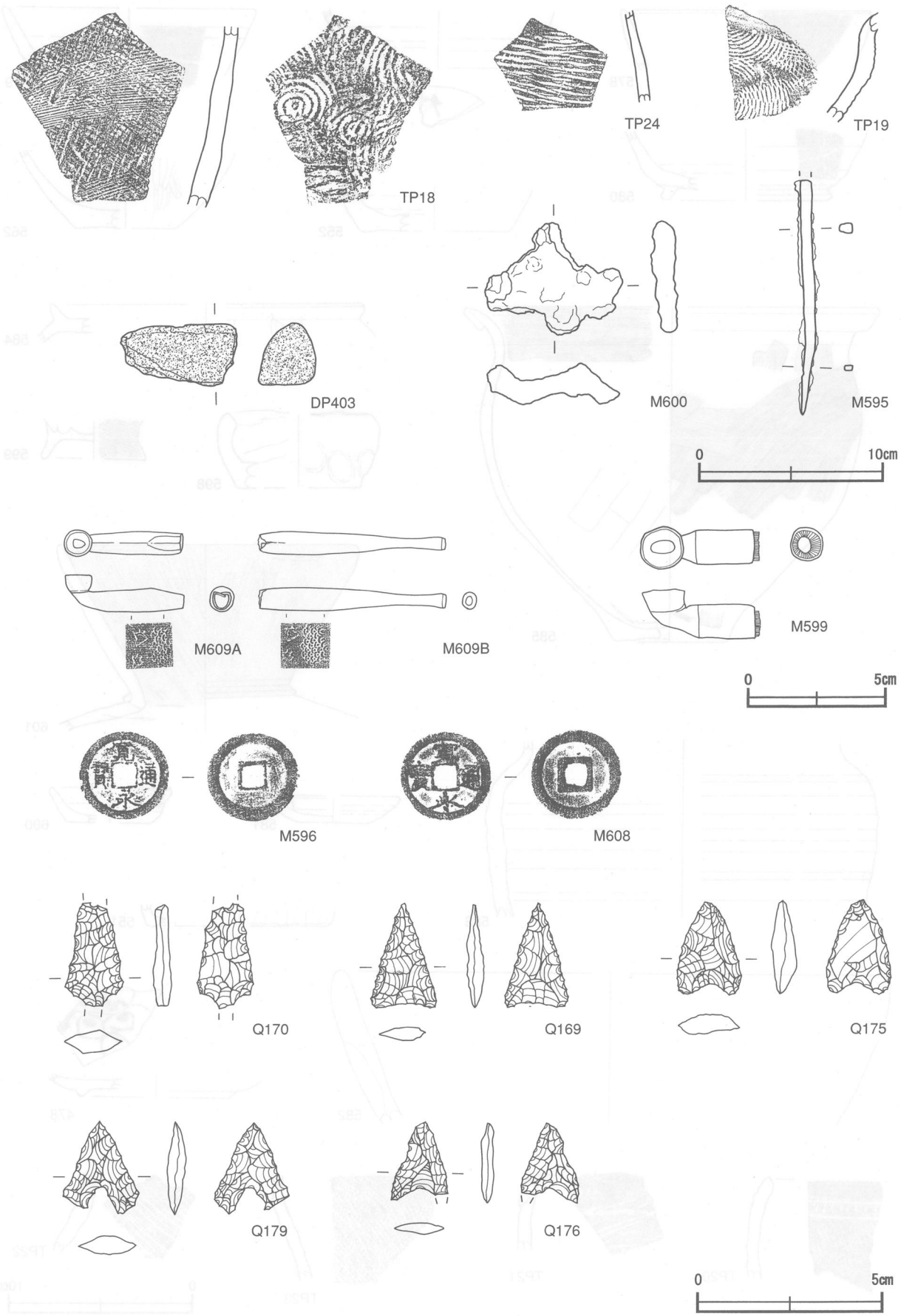
遺構外出土遺物観察表（第357～360図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
478	磁器	皿	－	0.9	[8.0]	緻密	緑灰	良好	削りだし高台，見込み部に草花文	SK312覆土中	20% PL76
551	磁器	瓶カ	－	(1.1)	[9.4]	緻密	灰白	良好	輪花状	中央2区表採	10%
552	陶器	瓶	－	(2.5)	[8.0]	緻密	にぶい赤褐	良好	ロクロ整形	中央2区表採	10%
562	土師器	甕	－	(4.1)	[5.2]	長石・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ磨き，内面ヘラナデ	中央2区表採	10%
578	須恵器	坏	[13.3]	(3.3)	－	長石	黄灰	普通	ロクロ整形	T48h6区表採	10%，体部刻書「九」ヵ PL83
579	須恵器	坏	[13.6]	(3.8)	－	長石・赤色粒子	暗灰黄	普通	ロクロ整形	東区表採	10%，体部ヘラ記号「十」PL83
580	須恵器	高台付坏	－	(3.7)	[9.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形，底部高台貼り付け後ナデ	表採	10%，体部ヘラ記号「卜」ヵ
581	陶器	灯明皿	[7.2]	1.5	[3.6]	緻密	明赤褐，鉄釉	良好	ロクロ整形，内外面施釉	T48h6区表採	20% PL76
582	瓦質土器	捏鉢カ	[29.0]	(8.3)	－	長石・雲母	灰黄褐	普通	ロクロ整形	中央2区東表採	10%，内面擦り痕
583	須恵器	甕	－	(9.6)	－	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	中央2区表採	10% PL83
584	須恵器	円面硯	[16.5]	(1.8)	－	長石・白色粒子	オリーブ黒	普通	海部瓶平坦，脚部に窓あり	中央2区表採	10%
585	土師器	甑	[22.0]	18.1	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外面ハケ目，体部外面下位ハケ目後ナデ，単孔式	U49j3区表採	70%
597	須恵器	坏	－	(3.1)	[8.4]	長石・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形，体部外面下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	SI18覆土中	10%，底部墨書「大□」
598	手捏土器	坏	[7.6]	4.2	[6.6]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面指頭圧痕，内面ナデ	SI26覆土中	30%
599	弥生土器	椀カ	－	(2.3)	[5.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部ヘラナデ		10%
600	土師質土器	小皿	[6.4]	1.9	[4.4]	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ	SI92覆土中	20%，体部外面墨痕
601	土師器	壺	16.1	(9.8)	－	長石	にぶい赤褐	普通	口縁部内外面ヘラ磨き	SI105覆土中	20%，赤彩

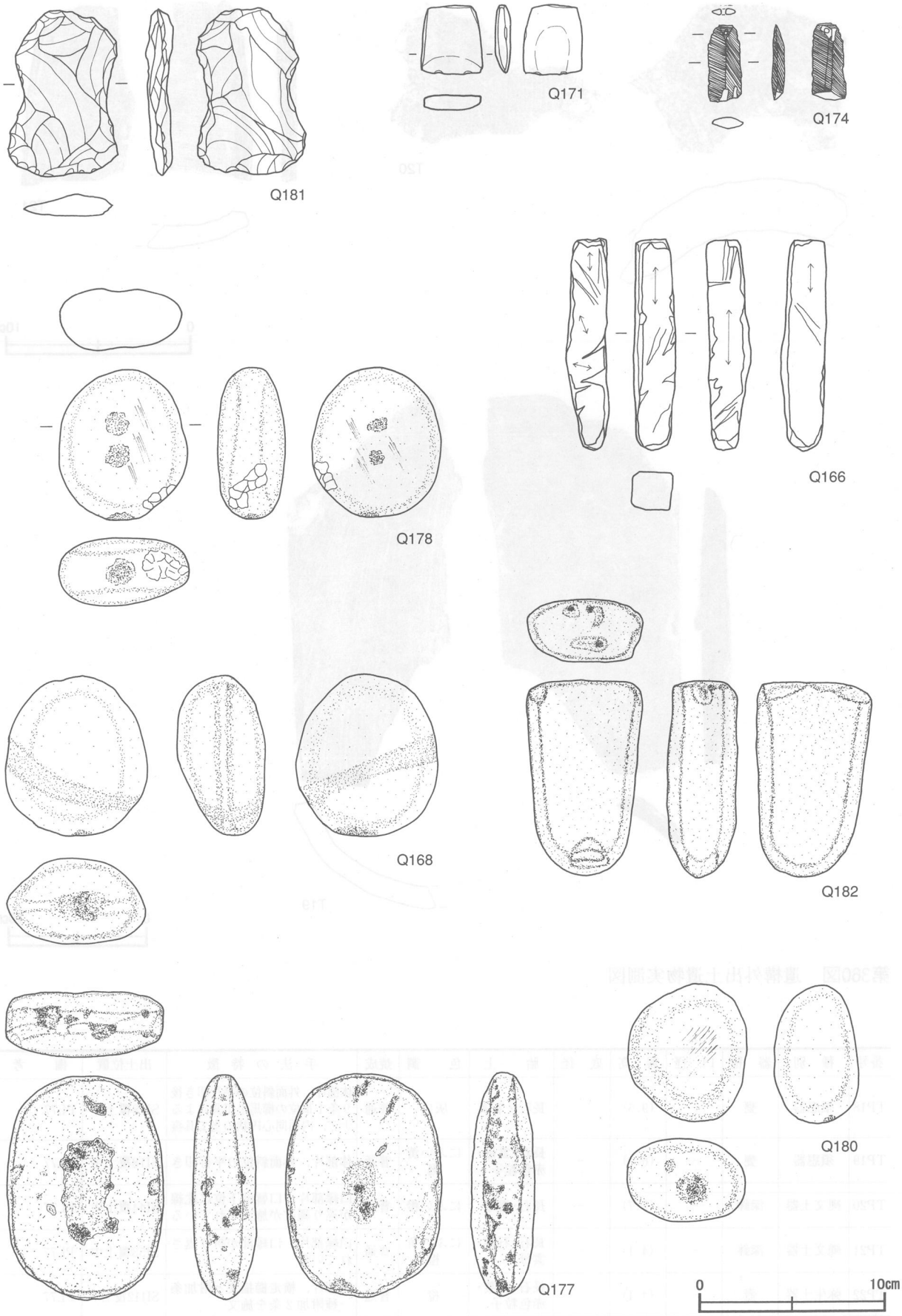
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	－	(7.8)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部片，口縁部外面に貼り付け	表採	PL77
TP15	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部片，内外面に斜位の沈線が施されている	表採	PL77
TP16	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	－	長石・石英	暗灰	普通	須恵器甕頸部片，頸部外面に波状文	表採	PL77



第357図　遺構外出土遺物実測図(1)



第358図　遺構外出土遺物実測図(2)



第359図　遺構外出土遺物実測図(3)

第360図　遺構外出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP18	須恵器	甕	－	(9.5)	－	長石・石英	灰白	普通	体部片，外面斜位の平行叩き後9条1単位の櫛馬上工具によるナデ，内面同心円状の当て具痕	SI18覆土中	PL77
TP19	須恵器	甕	－	(6.0)	－	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部片，外面斜位の平行叩き	SI18覆土中	PL77
TP20	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部片，口唇部下位に沈線が巡り縄文が施文されている	SI44覆土中	PL77
TP21	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部片，口縁部が折り返されている	SI53覆土中	PL77
TP22	弥生土器	壺	－	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部片，横走櫛描文と附加条一種附加2条を施文	SI112覆土中	PL77

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	胴部片，付加条一種附加２条を施文	SD１覆土中	PL77
TP24	弥生土器	壺	－	(4.9)	－	長石・石英	明黄褐	普通	胴部片，縄文（付加条一種附加２条）が施文されている	SD12覆土中	PL77

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP403	鋳型	(3.4)	(6.2)	(3.2)	(59.0)	砂粒	全面が赤褐色をし，内面は剥離し，残存部分はナデ調整	東区表採	PL92
DP405	泥面子	2.6	2.4	0.8	5.0	砂粒	型取り，裏面に多数の指頭圧痕あり	SI53覆土中	実測図なし PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M595	鏃	(12.7)	0.6	0.5	(19.0)	鉄	茎部片，断面長方形	中央２区表採	
M600	不明	(6.2)	(7.4)	(2.2)	(98.0)	鉄	菱形，錆多数付着	中央２区表採	PL100

番号	器種	長さ	幅	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M599	煙管雁首	4.2	1.5	1.3～1.5	10.0	銅	火皿部円形，羅芋竹残存	表採	
M607	不明	(2.0)	－	1.9	(2.22)	銅	皿状の部分に穿孔	SI37覆土中	煙管火皿部分ヵ 実測図なし PL88
M609A	煙管雁首	4.2	1.5	0.8	18.0	銀	火皿部円形，接合部に「波の上に千鳥」の線刻	SI53覆土中	PL88
M609B	煙管吸口	6.6	1.5	0.4～0.7	8.0	銀	吸口部折り返し，接合部に「波の上に千鳥」の線刻	SI53覆土中	PL88

番号	器種	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M596	寛永通寶	2.5	0.6	1.96	1697年	銅	無背文，真書，新寛永	中央２区表採	PL91
M608	寛永通寶	2.5	0.6	2.00	1636年	銅	無背文，真書，古寛永	中央２区表採	

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石質	特徴	出土位置	備考
Q86	砥石	(12.7)	6.8	(1.4)	(146.0)	泥岩	砥面２面，二方向に使用	SK59覆土中	実測図無し PL87
Q166	砥石	(11.4)	2.4	2.1	(102.0)	凝灰岩	砥面４面，二方向に使用	東区表採	PL86
Q168	敲石	8.8	7.5	4.8	406.0	砂岩	先端部敲打痕，表面に帯状の摩擦痕あり	T47j6 区表採	石錘に転用ヵ PL86
Q169	鏃	2.8	1.8	0.5	1.2	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは浅く，側縁は直線	東区西部表採	PL87
Q170	尖頭器	(3.8)	1.6	0.6	(2.0)	チャート	先端部・基部とも欠損，両面押圧剥離，側縁は直線	U51j7 区表採	
Q171	磨製石斧	(3.8)	3.2	0.8	(18.2)	泥岩	基部欠損，片刃	U49a1 区表採	PL87
Q174	石製模造品	(4.1)	1.8	0.6	(5.6)	緑泥岩	剣模造，先端部欠損，穿孔（孔径0.15cm）あり	SI17上層	PL87
Q175	鏃	2.5	1.8	0.6	1.5	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側縁は曲線	SI25上層	PL87
Q176	鏃	(2.2)	1.7	0.4	(0.93)	チャート	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側縁は直線	SI38上層	PL87
Q177	凹石	12.1	8.4	3.5	461.0	泥岩	凹面表面１か所，裏面１か所	SI99覆土中	被熱痕 PL87
Q178	凹石	8.1	7.0	3.6	314.0	砂岩	凹面表面２か所，裏面２か所，先端部敲打痕あり	SD１覆土中	敲石に転用カ
Q179	鏃	2.5	2.0	0.5	1.30	黒曜石	両面押圧剥離，基部の抉りは深く，側縁は直線	SD７中層	PL87
Q180	磨石	7.5	6.5	4.5	304.0	泥岩	先端部使用痕	SD５覆土中	被熱痕あり
Q181	打製石斧	8.9	5.9	1.5	84.0	安山岩	分銅形，押圧剥離，抉り部は浅い	SD22覆土中	PL87
Q182	敲石	10.5	6.2	3.7	378.2	砂岩	先端部使用痕	第1号排滓場覆土中	
Q183	敲石	9.2	6.5	4.4	390.0	泥岩	２か所の先端部敲打痕	SI24覆土中	実測図無し PL86
Q184	敲石	9.8	8.7	5.2	578.0	泥岩	先端部敲打痕	SD22覆土中	実測図無し PL86
Q185	敲石	7.6	7.2	3.7	3.6	泥岩	先端部敲打痕	SK37覆土中	被熱痕 実測図無し PL86

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T19	丸瓦	(28.2)	(10.0)	1.6	(804.0)	長石・石英	凸面ヘラ削り，凹面布目痕・糸切り痕，側面ヘラ切り	表採	PL85
T20	丸瓦	(8.2)	(12.5)	(3.0)	(401.0)	長石・石英	凸面長い縄の叩き目，凹面布目痕一部残存	表採	
T21	平瓦	(10.0)	(5.6)	1.2	(100.0)	長石	凸面はヘラ削り，凹面布目痕，ヘラ削り，側面ヘラ削り	表採	

表2　竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈	主な出土遺物	備考 (重複関係 旧→新)	時代
1	V51e9	N－8°－W	方形	5.23×5.21	27	平坦	－	4	1	13	1	炉1	土師器片,灰釉陶器	本跡→SE 1	4世紀前半
2	V51c5	N－7°－E	方形	4.00×3.85	35～44	平坦	全周	－	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片		8世紀後葉以前
3	V51c1	N－5°－W	方形	4.90×4.80	22～32	平坦	ほぼ全周	4	－	3	－	竈1	土師器片,須恵器片,灰釉陶器片,瓦片		8世紀中葉
4	V51g2	N－3°－W	〔長方形〕	4.26×(3.70)	30～42	平坦	〔全周〕	2	－	2	－	竈1	土師器片,須恵器片		8世紀前葉
5	V51a2	N－39°－W	長方形	4.55×4.05	18	平坦	－	－	1	－	－	－	土師器片,土製品	本跡→SD 2	4世紀前半
6	U50e7	N－10°－W	方形	4.41×4.15	18～29	平坦	－	1	－	1	－	竈1	土師器片,須恵器片,石器,瓦片		8世紀後葉～9世紀前葉
7	U50e5	N－4°－E	長方形	5.75×5.10	27	平坦	－	4	－	4	1	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品,石製品	本跡→SD 3・SD10	8世紀後葉
8	U51i1	N－49°－W	方形	4.30×4.17	24	平坦	－	4	1	－	－	炉1	土師器片	本跡→SB 1	4世紀代
9	U50b2	N－77°－E	方形	2.27×2.21	15	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片		9世紀以降
10	U50d2	N－7°－W	〔方形・長方形〕	3.45×〔1.62〕	10	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片		9世紀前葉
11	V50g6	N－34°－W	方形	4.30×4.25	10	平坦	－	2	1	－	－	炉1	土師器片,鉄滓	本跡→SD 1,SK21	4世紀前半
12	U50h5	N－3°－W	〔方形〕	4.05×(3.90)	14	平坦	－	2	－	－	1	－	土師器片,須恵器片,鉄製品	本跡→SD 1	8世紀後葉～9世紀前葉
13	U49c1	N－7°－W	長方形	3.45×3.00	25	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片,石器		9世紀後葉
15	U49d8	N－5°－W	〔長方形〕	4.22×〔3.55〕	32～42	平坦	半周	－	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品,瓦片	本跡→SE 8	9世紀中葉
16	U49h9	N－3°－E	〔方形・長方形〕	5.50×(5.30)	36～50	平坦	〔全周〕	4	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片,灰釉陶器片,土製品,鉄製品	本跡→SK15・16・17・22・132・133,SD 1	8世紀中葉～9世紀前葉
17	U49i8	N－14°－E	方形	4.92×4.52	34～52	平坦	全周	－	－	3	1	竈1	土師器片,須恵器片,土製品,瓦片	SI114→本跡→SK20・56,第25号墓壙	9世紀前葉
18	U49j9	N－82°－W	方形	4.92×4.52	43	平坦	－	－	－	－	－	－	縄文土器片,土師器片,須恵器片	SK127→本跡→SK 4・5・9・18・60・61	時期不明
19	V50a5	N－0°	長方形	3.75×3.18	14～18	平坦	ほぼ全周	－	－	1	－	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品,瓦片	本跡→SD 9	8世紀後葉
20	V50j5	N－4°－E	〔方形〕	〔3.01×2.90〕	16～20	平坦	－	4	－	1	1	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品	本跡→SK77	9世紀前葉
21	V49c7	N－5°－W	方形	3.38×3.28	22	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片	本跡→SK134→SI29	平安時代
22	T46e7	N－27°－W	〔方形・長方形〕	〔2.17×1.05〕	12～21	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片	本跡→SI43	8世紀中葉以前
23	V50c4	N－40°－W	方形	5.28×4.85	8	平坦	－	－	－	－	－	炉1	土師器片,須恵器片	本跡→SK 7・96	4世紀代
24	V49c0	N－29°－W	長方形	6.00×5.31	43	平坦	－	3	1	9	－	炉1	土師器片,須恵器片	本跡→SK11・12・19・23・24・85・129,SD24,SE 7	4世紀前半
25	U49h7	N－0°	方形	5.92×5.78	28～52	平坦	全周	4	－	3	1	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品	本跡→SK48・54,SD 6	8世紀中葉～後葉
26	U48b6	N－1°－W	長方形	3.71×2.87	29	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片,灰釉陶器片		8世紀前葉
27	U49b6	N－10°－E	方形	3.41×3.25	14～30	平坦	半周	1	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片		8世紀前葉
28	U49a6	N－6°－E	方形	3.60×3.43	28	平坦	半周	－	－	4	1	竈1	土師器片,須恵器片		8世紀前葉以前
29	V49c7	N－7°－W	方形	3.42×3.32	28～33	平坦	半周	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片,瓦片	SI21・SK134→本跡	平安時代
30	U49b5	N－5°－W	長方形	3.70×3.04	4～12	平坦	－	－	－	1	－	竈1	土師器片,須恵器片		8世紀中葉
31	U49e5	N－88°－E	方形	3.72×3.43	20～28	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片,灰釉陶器片		8世紀前葉以前
32	U49h3	N－4°－E	〔方形・長方形〕	4.23×〔3.34〕	28～34	平坦	半周	－	－	－	1	－	土師器片,須恵器片,砥石,鉄製品	本跡→SD 6,SK59・121・122	8世紀中葉
33	U49i2	N－1°－W	方形	5.50×5.30	24～40	平坦	半周	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片	本跡→SK130,SD 5・6	8世紀後葉
36	T49j2	N－3°－E	方形	3.10×2.84	10～16	平坦	－	2	－	1	1	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品		8世紀中葉
37	U49f6	N－2°－W	方形	3.42×3.27	18～28	平坦	－	2	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品,銅製品		8世紀前葉～中葉
39	U49d7	N－3°－W	方形	5.55×5.08	26	平坦	－	－	1	－	－	－	土師器片,須恵器片,陶器	本跡→SD 7	5世紀前葉
40	T47i1	N－2°－E	長方形	3.42×2.90	12～17	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品	本跡→第28号墓壙	平安時代
41	T46j9	N－88°－E	長方形	〔3.46〕×2.73	17～24	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片,鉄製品		9世紀前葉以前
42	U46c0	N－6°－E	方形	4.50×4.30	8～26	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片		8世紀中葉
43	T46e7	N－87°－W	〔方形・長方形〕	4.07×(1.66)	27～31	平坦	－	－	－	1	1	－	土師器片,須恵器片	SI22→本跡	8世紀前葉～中葉
44	T46g7	N－2°－W	方形	5.04×5.01	35	平坦	全周	4	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片		8世紀後葉以前
45	T46i7	N－4°－E	方形	3.70×3.55	32～50	平坦	－	－	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片,灰釉陶器片	SI46→本跡	8世紀中葉
46	U46a7	N－21°－E	長方形	3.60×3.20	22～28	平坦	一部	－	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品	本跡→SI45	8世紀前葉
47	U46a7	N－90°－W	長方形	3.30×2.85	24～40	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片		時期不明
48	T46h5	N－15°－E	長方形	4.36×3.36	32～36	平坦	全周	－	－	1	1	竈1	土師器片,須恵器片,土製品,砥石		8世紀前葉
49	T46h4	N－8°－E	長方形	5.52×4.35	10～17	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片	本跡→SI50	9世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）長軸×短軸	壁高（cm）	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈	主な出土遺物	備考（重複関係 旧→新）	時代
50	T46h4	N－25°－E	長方形	2.42×2.18	22～24	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片	SI49→本跡	9世紀中葉
51	U46b9	N－3°－W	方形	3.30×3.05	10～21	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片	本跡→第29号墓壙	平安時代初頭
52	T46j5	N－3°－E	方形	3.59×3.58	40～47	平坦	－	－	－	－	1	竈1	土師器片，須恵器片		8世紀中葉
53	U46b4	N－35°－E	長方形	8.90×7.80	35	平坦	－	4	1	17	－	炉1	土師器片，須恵器片		4世紀前半
54	T46j1	N－72°－W	方形	3.95×3.75	15～25	平坦	－	－	－	1	－	－	土師器片		4世紀代
56	T45b8	N－11°－E	長方形	2.92×2.45	16～24	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片，須恵器片	SI95→本跡→SI96	9世紀中葉
58	U46a3	N－10°－E	方形	3.40×3.24	32～42	平坦	－	－	－	2	1	竈1	土師器片，須恵器片，鉄製品		8世紀前葉
59	T46f2	N－1°－W	〔方形〕	3.56×(1.60)	30～35	平坦	〔全周〕	－	－	－	1	－	土師器片，須恵器片		時期不明
60	T46g2	N－50°－E	〔方形〕	〔4.38〕×4.35	17～22	平坦	－	－	－	－	－	炉1	土師器片		4世紀前半
61	T47h6	N－12°－E	方形	2.67×2.60	16～24	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片		9世紀中葉
62	U49g9	N－36°－W	〔方形・長方形〕	(2.06)×3.38	10	平坦	－	－	1	－	－	－	土師器片	本跡→SD 6	4世紀前半
63	T46i2	N－4°－W	長方形	5.55×4.29	13～33	平坦	－	－	－	2	1	竈1	土師器片，須恵器片，灰釉陶器片，鉄製品		9世紀中葉
65	U46c2	N－3°－E	長方形	3.50×2.73	36	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片		9世紀前葉～中葉
66	T45g9	N－10°－E	長方形	3.68×3.21	44～50	平坦	全周	－	－	3	－	竈1	土師器片，須恵器片	SI67→本跡	9世紀中葉
67	T45h9	N－0°	長方形	3.64×3.11	38～50	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片，鉄製品	本跡→SI66	9世紀中葉以前
68	U45j9	N－1°－W	方形	3.13×2.97	35	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	竈1	土師器片，須恵器片，砥石		8世紀前葉
69	U45b7	N－1°－E	方形	4.84×4.82	12	平坦	－	－	－	－	－	－	－	本跡→SI76，SK431	8世紀前葉以前
70	U45b9	N－0°	方形	2.43×2.32	20	平坦	－	－	－	－	－	炉1	土師器片，須恵器片	SK433→本跡→SK380・428	時期不明
71	T45f8	N－11°－E	〔長方形〕	3.70×(3.32)	24	平坦	全周	－	－	－	－	－	土師器片，須恵器片，土製紡錘車	SI72→本跡	8世紀中葉
72	T45g7	N－1°－W	長方形	4.14×3.52	30～42	平坦	〔全周〕	－	－	－	－	－	土師器片，須恵器片，瓦片	本跡→SI71	8世紀前葉
73	T45h7	N－17°－E	長方形	3.73×3.19	32～35	平坦	〔全周〕	－	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片	本跡→SD19・SB13	9世紀中葉以前
74	T45j7	N－5°－W	長方形	4.12×3.60	20～24	平坦	半周	－	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片，土製支脚，瓦片	SK432→本跡	9世紀前葉
75	T43h0	N－65°－E	〔長方形〕	(6.00×4.88)	24	平坦	－	－	－	－	－	－	－	本跡→SI90	時期不明
76	U45b7	N－1°－E	方形	5.83×5.61	36～45	平坦	〔全周〕	4	－	－	1	竈1	土師器片，須恵器片，鉄製品，石製品	SI69→本跡→SK431	8世紀前葉
77	T45h5	N－24°－E	長方形	4.85×4.03	40～49	平坦	全周	－	－	－	2	竈1	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品	本跡→SD19→SK420～424・435	9世紀前葉～中葉
80	U45a2	N－3°－W	〔長方形〕	〔3.40×2.96〕	7～10	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片，須恵器片	本跡→SI81	時期不明
81	U45a3	N－3°－W	〔方形〕	3.98×3.87	12～17	平坦	－	4	－	7	－	炉1	土師器片，須恵器片，鉄製品	SI80→本跡→SK341・356～358・366	時期不明
82	U45b1	N－5°－W	〔方形・長方形〕	3.28×(1.02)	18～21	平坦	〔全周〕	－	－	2	－	－	土師器片，石器		時期不明
83	U45b2	N－78°－W	〔方形・長方形〕	2.88×(1.24)	10	平坦	－	－	－	－	－	－	須恵器片		時期不明
84	T44f8	N－3°－W	〔方形・長方形〕	5.04×(2.85)	19～21	平坦	〔全周〕	2	－	－	1	－	土師器片		時期不明
85	T44f4	N－87°－E	〔方形・長方形〕	3.55×1.11	13～16	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片，須恵器片	本跡→SI86	時期不明
86	T44f5	N－9°－E	〔方形・長方形〕	5.00×(2.02)	30～35	平坦	〔全周〕	－	－	－	1	－	須恵器片	SI85→本跡	9世紀中葉
87	T44h5	N－16°－E	方形	4.45×4.40	15～18	平坦	ほぼ全周	－	－	－	1	竈1	土師器片，須恵器片，土製品，鉄製品		8世紀後葉～9世紀前葉
88	T44g3	N－4°－E	〔方形〕	〔5.37×5.28〕	40～46	平坦	全周	4	－	6	1	竈1	土師器片，須恵器片，土製品，鉄鎌，砥石		9世紀前葉
90	T43h0	N－5°－W	〔長方形〕	(4.00)×3.70	20～28	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片，須恵器片	SI75→本跡	時期不明
91	T43g7	N－91°－E	長方形	〔3.80×3.27〕	35	平坦	－	－	－	1	－	竈1	土師器片，須恵器片，鉄製品	本跡→SK303	9世紀中葉
92	T46d7	N－82°－E	〔方形・長方形〕	〔6.80〕×(1.42)	14～25	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片		4世紀前半
93	T46b6	N－8°－E	〔方形・長方形〕	4.82×(1.44)	12	平坦	〔全周〕	－	－	－	1	－	土師器片，須恵器片		時期不明
94	T45a0	N－17°－E	〔長方形〕	3.75×〔3.16〕	20	平坦	－	－	－	－	1	竈1	土師器片，須恵器片		8世紀後葉
95	T45c8	N－74°－E	〔方形・長方形〕	5.35×(4.20)	10	平坦	－	－	－	3	－	－	土師器片	本跡→SI56→SI96	4世紀前半
96	T45b8	N－5°－W	方形	4.02×3.87	45	平坦	全周	－	－	－	1	竈1	土師器片，須恵器片	SI95→SI56→本跡	8世紀前葉
97	S45j5	N－3°－E	方形	3.22×3.03	25～36	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片，鉄鏃，瓦片	本跡→SK326	8世紀前葉
98	T45a5	N－2°－W	方形	5.11×5.06	34	平坦	全周	4	－	2	1	竈1	土師器片，須恵器片		8世紀中葉
99	T45c4	N－10°－E	〔方形〕	(3.65)×3.45	18	平坦	－	－	－	1	－	竈2	土師器片，須恵器片	SI100→本跡→SK318	9世紀中葉
100	T45c4	N－90°－E	〔方形・長方形〕	5.80×(3.35)	20	平坦	一部	2	－	－	－	－	土師器片，須恵器片	本跡→SI99，SK318	9世紀中葉
102	T44d7	N－7°－E	〔方形・長方形〕	5.40×(2.32)	32～38	平坦	〔全周〕	2	－	－	－	竈1	土師器片，須恵器片，瓦片		9世紀前葉

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈	主な出土遺物	備考 (重複関係 旧→新)	時代
103	S44f3	N－8°－E	方形	3.27×3.19	36～52	平坦	ほぼ全周	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片,鉄製品,瓦片	SB6→本跡	9世紀中葉
104	S43j7	N－1°－W	方形	4.23×4.12	20～26	平坦	－	－	－	－	－	竈1	－	SK289→本跡→SI105→SB9,SD22	9世紀中葉以前
105	T43a7	N－93°－E	[方形・長方形]	2.90×(2.37)	8～25	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片	SK289→SI104→本跡→SD22・SB9	9世紀中葉
106	S43d8	N－75°－W	[方形・長方形]	3.14×(1.37)	58	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片	SB4→本跡→SE13	時期不明
107	S43c6	N－98°－E	[方形・長方形]	〔3.85×1.36〕	44	平坦	〔全周〕	－	－	－	－	－	土師器片,須恵器片,土製品		時期不明
108	S43e5	N－3°－W	[長方形]	3.36×(2.70)	16～26	平坦	－	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片,土製品,鉄製品	本跡→SB4	8世紀前葉
109	S43i5	N－94°－E	[方形・長方形]	4.89×〔3.73〕	28	平坦	〔全周〕	－	－	－	－	竈1	土師器片,須恵器片	本跡→SK294・295,SD22,SB9	9世紀前葉
110	T43a4	N－27°－W	長方形	6.20×5.38	28	平坦	一部	3	1	1	－	炉1	土師器片	本跡→SK290,SB8・9	4世紀前半
111	S43f4	N－9°－E	[方形・長方形]	3.65×〔2.48〕	24～34	平坦	〔全周〕	2	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片,砥石,瓦片	本跡→SK293	8世紀後葉
112	S43h3	N－5°－E	[方形・長方形]	6.15×(3.95)	30～49	平坦	〔全周〕	2	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片,灰釉陶器片,瓦片	SK296・417→本跡	8世紀中葉以前
113	T45h3	N－6°－E	長方形	3.50×3.16	27～36	平坦	－	－	－	－	1	竈1	土師器片,須恵器片,灰釉陶器片,砥石		8世紀前葉
114	U49i8	N－17°－W	[方形]	(4.54)×4.51	10～14	平坦	－	－	－	－	－	－	土師器片	本跡→SI17→SK20	時期不明
115	T43a0	N－4°－E	[方形・長方形]	4.64×(3.24)	46～54	平坦	〔全周〕	－	－	－	1	－	土師器片,須恵器片,土製品	本跡→SD22	8世紀後葉

表3　方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸	壁高 (cm)	壁面	床面	内部施設 壁溝	主柱穴	ピット	入口	炉・竈	覆土	主な出土遺物	備考 (旧遺構番号), 重複関係
1	V50a3	N－7°－W	長方形	3.45×3.00	25	外傾	平坦	－	－	1	－	－	人為	土師器片,須恵器片,陶器片,瓦質土器片,灰釉陶器片	(SI14)14世紀後葉
2	U48e8	N－87°－W	方形	1.86×1.78	14	外傾	平坦	－	－	－	－	炉1	人為	土師器片,須恵器片,炉壁片,羽口片,鉄滓	(SI35)中世
3	T49g9	N－0°	長方形	2.26×1.90	16	外傾	平坦	－	－	5	1	－	人為	鋳型片,炉壁片,羽口片,鉄製品	(SI55)中世
4	U45b1	N－3°－E	長方形	3.47×(3.11)	6	外傾	平坦	一部	2	2	－	炉1	人為	陶器片	(SI78)中世
5	U49e3	N－3°－W	長方形	3.35×2.67	4～9	外傾	平坦	－	2	－	－	－	人為	土師器片,陶器片,瓦質土器片	(SI34)時期不明
6	T46j3	N－4°－W	長方形	2.94×2.51	16～20	外傾	平坦	－	3	－	－	－	自然	土師器,須恵器,陶器	(SI57)SK156→本跡,時期不明
7	T45i3	N－0°	方形	3.15×3.10	8～16	外傾	平坦	－	3	5	－	－	人為	土師器片,粘土塊	(SI79)本跡→SK162・168・302,時期不明
8	T43g0	N－4°－E	方形	3.94×3.91	13～20	垂直	平坦	－	4	－	－	－	人為	土師器片,須恵器片	(SI89)時期不明
9	T44d2	N－3°－E	〔方形〕	〔2.60〕×2.40	60	垂直	平坦	－	－	－	－	－	人為	土師器片,須恵器片,鉄滓	(SI101)時期不明
10	U49f1	N－0°	[方形・長方形]	2.26×1.84	18	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS27)SH11→本跡,中世
11	U49f1	N－85°－E	[方形・長方形]	2.74×1.10	17	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS28)本跡→SH10・14,中世
12	U48e0	N－90°－E	[方形・長方形]	2.22×2.00	32	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS29)本跡→SH13,中世
13	U48f0	N－87°－E	[方形・長方形]	1.90×1.32	35	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS30),SH12→本跡→SH14・15,中世
14	U48f0	N－10°－E	[方形・長方形]	1.84×1.66	35	垂直	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS31)SH13→本跡→SH15,中世
15	U48f0	N－0°	[方形・長方形]	2.20×1.22	16	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS32)SH13・14→本跡→SH16,中世
16	U48f9	N－0°	[方形・長方形]	2.10×2.08	18	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS33)SH15・18→本跡,中世
17	U48f9	N－0°	[方形・長方形]	1.60×1.60	38	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS34)SH18→本跡,中世
18	U48f9	N－0°	[方形・長方形]	(1.84×0.48)	24	外傾	平坦	－	－	－	－	－	人為	炉壁片,鉄滓,炉内溶解物,白色滓	(SS35)SH16・17→本跡,中世

表4　掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	規模 桁×梁	規模	桁行柱間	梁間柱間	面積	柱穴 構造	柱穴	平面形	長径(軸)	短軸(軸)	深さ	主な遺物	遺構番号 新旧関係(古→新)	時代
1	U50g0	N－21°－W	3×2	5.85×4.55	1.90～2.06	2.21～2.34	26.62	側柱	10	円形・楕円形	43～70	35～69	14～41	土師器片,須恵器片	SI8→本跡→SK6・8	4世紀前葉～9世紀前葉
2	U50g8	N－2°－E	(1)×2	4.75×3.90	～4.75	1.80～2.10	18.72	側柱	(6)	円形・楕円形	36～48	34～45	16～36	－		時期不明
3	U50i3	N－88°－E	5×2	7.22×3.50	2.45～2.55	3.15～3.25	26.3	総柱	27	円形,楕円形	24～42	20～72	10～60	－	SI20・SK113・114・SD9・SX1→本跡	中世
4	S43d5	N－86°－W	5×3	12.00×5.80	2.20～2.55	1.81～2.05	69.6	側柱	16	隅丸方形,隅丸長方形	130～185	108～138	78～111	土師器片,須恵器片,弥生土器片,砥石	SI106・108→本跡	8世紀前葉～8世紀中葉
5	T45a2	N－3°－E	3×3	7.50×5.42	2.30～2.70	1.70～1.84	40.65	側柱	12	長方形,不整形	126～140	85～123	52～71	須恵器片		8世紀中葉～9世紀前葉

番号	位置	桁行方向	規模					柱穴						主な遺物	遺構番号 新旧関係（古→新）	時代
			桁×梁	規模	桁行柱間	梁間柱間	面積	構造	柱穴	平面形	長径(軸)	短軸(軸)	深さ			
6	S44f1	N－86°－W	5×(2)	12.60×(6.80)	2.28～2.52	3.20～3.40	(85.68)	側柱	(9)	隅丸長方形	122～153	98～120	70～94	土師器片，須恵器片	SI103，第1号円形周溝状遺構→本跡	9世紀中葉以前
7	T43c5	N－89°－W	5×(2)	12.5×(4.02)	2.23～2.77	1.97～2.05	(50.25)	側柱	(9)	長方形，方形，不整形	102～183	80～152	54～80	土師器片，須恵器片，陶器片	SB 8→本跡	9世紀前葉以前
8	T43b5	N－85°－W	5×2	10.54×5.65	1.84～2.28	2.44～3.16	59.55	側柱	14	隅丸方形，隅丸長方形，不整形	112～177	102～149	83～108	土師器片，須恵器片	SI110→SB 9→本跡→SB 7	9世紀前葉以前
9	T43a5	N－89°－E	5×3	10.80×5.71	2.03～2.29	1.60～2.20	61.67	側柱	16	隅丸方形，隅丸長方形，不整形	110～158	90～145	47～80	土師器片，須恵器片	SI104・105・110，SB8，SK327→本跡→SD22	9世紀前葉以降
10	S44i4	N－86°－W	3×3	6.50×4.70	1.84～2.02	1.50～1.70	30.55	側柱	12	隅丸方形，楕円形，隅丸長方形	86～98	65～96	46～75	土師器片，須恵器，鉄製品	本跡→SD22，SB11新旧不明	9世紀以前
11	T44a5	N－7°－E	2×1	3.60×1.91	1.73～1.87	1.90～1.95	6.88	(総柱)	6	隅丸方形，隅丸長方形	66～68	58～74	31～37	土師器片	本跡→SD22	平安時代
12	T44g8	N－89°－E	3×1	6.54×4.40	2.10～2.32	4.33～4.55	28.78	側柱	8	円形，楕円形	47～60	44～55	19～33	－	本跡→SD19	平安時代
13	T45h6	N－88°－W	3×(2)	6.78×4.73	2.20～2.40	2.40～	(32.07)	側柱	(8)	円形，楕円形	56～75	54～66	49～50	－	SI73，SD19→本跡，SI77新旧不明	9世紀中葉以前

表5　溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ					
1	U49g9～V50c8	N－85°－E	逆台形	55.25	1.52～1.97	0.82～1.42	46～55	外傾	平坦	人為	須恵器，灰釉陶器，炉壁，砥石	SI11・12・16，SX 1・2，SD 9→本跡
2	U51g3～V51h4	N－12°－W	逆台形	42.00	0.35～0.80	0.10～0.40	17～20	外傾	平坦	自然	土師器，須恵器，炉壁，鉄滓	SI 5→本跡
3	U50b8～U50e2	N－61°－E	逆台形	27.02	0.46～0.87	0.25～0.51	15～33	外傾	平坦	自然	須恵器，陶器，炉壁，椀状滓，砥石	SD 9→本跡→SD10
4	V51i0～V52g8	N－85°－E	逆台形	37.68	0.31～1.24	0.18～1.12	22～25	外傾	平坦	自然	土師器，須恵器，炉壁，鉄滓，瓦	
5	U48i0～U49f0	N－43°－E	逆台形	44.68	0.76～1.42	0.34～0.92	25～50	緩斜	平坦	人為	陶器，炉壁，鉄滓，砥石，瓦	SI33・62→本跡→SD 6
6	U48i0～U49f0	N－43°－E	逆台形	49.54	0.72～1.44	0.34～0.98	50～58	外傾	平坦	人為	須恵器，陶器，磁器，炉壁，羽口	SI25・32・33・62，SD 5→本跡
7	U48d4～U50a3	N－112°－W	逆台形	(82.46)	1.44～2.50	0.41～0.92	91～150	外傾	平坦	人為	陶器，炉壁，鋳型，羽口，鉄鍋，鉄滓	SI39，SD12→本跡
8	V53i9～W53a8	N－30°－E	逆台形	8.75	0.88～1.04	0.63～0.82	24	外傾	平坦	自然	土師器，陶器，炉壁，鉄滓	
9	U50a5～U50e5	N－15°－W	U字形	44.1	0.70～0.98	0.08～0.52	33～39	外傾	皿状	自然	土師器，須恵器，陶器	SI19→本跡→SD 1
10	U50d6～U50e2	N－75°－E	逆台形	17.07	0.45～0.85	0.45～0.61	13～37	外傾	平坦	自然	土師器，須恵器，陶器，土製品	SI 7，SD 3・9→本跡
11	T48g4～T48g8	N－89°－E	逆台形	(16.45)	0.44～0.94	0.33～0.64	29～34	外傾	平坦	人為	須恵器，灰釉陶器，炉壁，鋳型，鉄滓	SD12→本跡
12	T49g8～U48c8	N－3°－W	逆台形	25.62	1.53～1.94	0.52～0.83	95～102	外傾	平坦	人為	須恵器，磁器，鋳型，鉄滓，砥石	本跡→SD 7・11
13A	U47d5～U47c6	N－58°－W	逆台形	6.95	0.39～0.58	0.27～0.40	20	外傾	平坦	人為	土師器，須恵器，炉壁，鉄滓，羽口	本跡→SD13 B
13B	U47e6～U47c6	N－21°－E	逆台形	7.95	0.48～0.97	0.33～0.80	30	外傾	平坦	人為	－	SD13 A→本跡
14	T47e5～U47g3	N－13°－E	逆台形	49.50	1.08～1.48	0.58～0.98	48～60	外傾	平坦	自然	縄文土器，炉壁，鋳型，鉄滓	SE 9→本跡→SE10
15	U47b3～U47g2	N－15°－E	U字形	23.05	2.36～2.52	0.14～0.38	92	緩斜	皿状	人為	土師質土器，炉壁，瓦，羽口	
16	T46i9～T47j1	N－58°－W	U字形	9.60	0.36～1.14	0.27～0.42	18～30	緩斜	皿状	人為	土師器，須恵器，陶器	SI41・SX 4→本跡
17	T44j8～T44g8	N－10°－E	U字形	11.80	0.50～0.78	0.30～0.60	10～20	緩斜	皿状	自然	土師器，須恵器	本跡→SD19
19	T44g8～T46i1	N－87°－E	U字形	51.70	0.72～1.20	0.24～0.54	23～42	緩斜	皿状	自然	土師器，須恵器，炉壁，鉄滓	SI73・77，SB13，SD17・20→本跡→Pr 2
20	T45i8～U45c8	N－7°－E	U字形	17.50	0.62～0.92	0.21～0.48	20	緩斜	皿状	自然	土師器，須恵器，土製品	SI68→本跡→SD19
21	T43c8～T44c3	N－85°－E	U字形	26.00	0.29～0.60	0.21～0.47	8～19	緩斜	平坦	自然	土師器，炉壁，磁器	
22	S43j3～T44a8	N－90°－E	U字形	61.34	1.64～2.52	0.34～0.74	89～94	緩斜	皿状	人為	土師器，須恵器，陶器	SI104・105・109・115，SB 9～11→本跡→Pr 1
24	V49c0～V50c1	N－90°－E	逆台形	4.12	0.64～0.82	0.50～0.68	30	外傾	平坦	人為	土師器，須恵器，礫	SI24→本跡→SE 7，SK12

表6　土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
2	U50f9	N－0°	円形	0.95 × 0.95	20	緩斜	平坦	人為	土師器片，須恵器片，礫	
3	U49i9	N－3°－W	楕円形	0.79 × 0.70	26～41	外傾	凹凸	人為	土師器片，須恵器片，炉壁片	
4	U49j0	N－7°－W	円形	0.80 × 0.78	28	外傾	平坦	人為	土師器片，須恵器片	SI18→本跡
5	U49i0	N－12°－E	円形	0.91 × 0.84					土師器片，須恵器片	SI18→本跡
6	U50g0	N－75°－W	楕円形	0.67 × 0.55					鉄滓	本跡→SB 1
7	V50c3	N－33°－W	〔楕円形〕	1.28 × 1.08	12	外傾	平坦	自然	土師器片，須恵器片	SI23→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
8	U50h0	N－11°－E	楕円形	0.58 × 0.45	16	外傾	平坦	自然	－	本跡→SB 1
9	U49j9	N－1°－W	〔方形〕	0.62 ×(0.52)	37	外傾	平坦	自然	土師器片,須恵器片,鉄滓	
11	V49c0	N－40°－W	不整楕円形	0.36 × 0.45	37	垂直	皿状	自然		SI24→本跡
12	V49c0	N－14°－W	不整円形	0.31 × 0.30	48	垂直	皿状	自然	土師器片,須恵器片,炉壁片	SD24→本跡
15	U49h9	N－32°－W	楕円形	0.46 × 0.41	49	垂直	皿状	－	土師器片,礫	SI16→本跡
16	U49h9	N－40°－W	隅丸長方形	1.08 × 0.98	20	外傾	平坦	自然	－	SI16→本跡
17	U49h9	N－32°－W	楕円形	0.48 × 0.45	50	垂直	平坦	人為	土師器片,須恵器片,礫	SI16→本跡
18	U49a0	N－56°－E	楕円形	0.83 × 0.71	54～58	外傾	皿状	人為	土師器片	SI18→本跡
19	V49c0	N－71°－E	不定形	0.46 × 0.38	43	外傾	皿状	－	－	SI24→本跡
20	V49i7	N－39°－W	円形	1.22 × 1.14	27	垂直	平坦	人為	土師器片,須恵器片,鉄滓,砥石,炉壁片,礫	SI17→本跡
21	U50h6	N－59°－E	長方形	0.98 × 0.75	28	外傾	平坦	自然	－	SI11→本跡
22	U49h8	N－0°	円形	0.37 × 0.37	52	垂直	皿状	人為	土師器片,須恵器片,礫	SI16→本跡
23	U49d0	N－23°－W	楕円形	0.35 × 0.30	25	垂直	皿状	－	－	SI24→本跡
24	V49d0	N－26°－W	楕円形	0.57 × 0.50	32	垂直	皿状	人為	砥石	SI24→本跡
25	U50d9	N－57°－W	楕円形	1.07 × 0.94	25	外傾	平坦	人為	土師器片	
26	U50f9	N－75°－W	不整楕円形	0.86 × 0.47	40	垂直	凹凸	自然	－	
27	U50f8	N－89°－E	円形	0.97 × 0.91	27	外傾	平坦	人為	－	
28	U50g9	N－52°－W	楕円形	1.01 × 0.87	28	外傾	平坦	自然	－	
29	U50g8	N－15°－E	不整楕円形	1.11 × 0.90	13	外傾	凹凸	人為	－	
30	U50f8	N－71°－E	楕円形	0.75 × 0.58	29	外傾	凹凸	自然	－	
48	U49h6	N－54°－W	円形	0.90 × 0.85	12	外傾	平坦	自然	－	SI25→本跡
54	U49i7	N－26°－W	楕円形	0.43 × 0.37	40	垂直	皿状	自然	土師器片	SI25→本跡
55	U49i9	N－2°－E	楕円形	1.07 × 0.88	22	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,礫	
56	U49i8	N－78°－W	楕円形	0.30 × 0.24	42	垂直	皿状	人為	土師器片,須恵器片	SI17→本跡
59	U49h4	N－5°－W	楕円形	2.92 × 1.45	37	緩斜	皿状	人為	土師器片,石器	SI32,SK122→本跡
60	U49j9	N－3°－W	〔方形〕	0.55 ×(0.34)	69	外傾	凹凸	自然	土師器片,須恵器片	SI18→SK 9→本跡→SK61
61	U49j9	N－5°－W	円形	0.53 × 0.51	63	垂直	皿状	自然	土師器片,須恵器片,粘土塊	SI18→SK 9→SK60→本跡
62	V52f1	N－0°	円形	1.32 × 1.31	48	外傾	凹凸	人為	土師器片,須恵器片,鉄滓,炉壁片	本跡→SK118
63	V52f1	N－63°－E	不定形	0.82 × 0.76	97	垂直	皿状	人為	土師器片	
64	V52f4	N－40°－W	不整楕円形	1.50 × 1.35	63	外傾	平坦	人為	土師器片,礫	
65	V52f4	N－67°－E	楕円形	1.15 × 1.10	90	外傾	凹凸	人為	－	
66	V52d1	N－67°－E	不定形	0.80 × 0.47	95	外傾	凹凸	人為	－	SK66,99→本跡
67	U50h8	N－12°－W	円形	0.40 × 0.40	30	垂直	平坦	人為	鉄滓	本跡→SK68
68	U50h8	N－88°－W	〔楕円形〕	0.41 ×〔0.34〕	15	緩斜	皿状	人為	－	SK67→本跡
69	U50i8	N－69°－W	楕円形	0.98 × 0.65	19	外傾	平坦	人為	－	本跡→SK120
70	U50i8	N－15°－W	円形	0.41 × 0.41	24	外傾	皿状	自然	－	
71	U50h8	N－47°－W	楕円形	0.39 × 0.33	26	外傾	皿状	人為	－	
72	U50g0	N－30°－E	楕円形	0.98 × 0.83	27	外傾	平坦	人為	－	
73	U50g8	N－31°－E	楕円形	0.57 × 0.55	36	外傾	皿状	人為	－	
74	U50h6	N－12°－E	楕円形	1.95 × 1.63	25	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,縄文土器片,礫	
75	U50h5	N－80°－W	円形	0.46 × 0.42	15	外傾	平坦	自然	－	
77	U50j5	N－2°－W	円形	1.36 × 1.35	16	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,鉄滓,礫	SI20→本跡
82	U50g7	N－71°－E	楕円形	0.47 × 0.32	49	外傾	皿状	－	－	
83	U50g7	N－33°－E	楕円形	0.21 × 0.19	15	外傾	皿状	－	－	
84	U50g7	N－89°－W	隅丸長方形	0.27 × 0.23	15	－	－	－	－	
85	V49b9	N－33°－E	楕円形	1.03 × 0.90	17	外傾	平坦	自然	－	SI24→本跡
88	U50g7	N－9°－E	楕円形	0.25 × 0.21	10	外傾	平坦	自然	－	
89	U50h7	N－59°－W	円形	0.49 × 0.48	21	緩斜	皿状	－	－	
90	V52d1	N－34°－W	不定形	0.74 × 0.66	45	外傾	凹凸	人為	－	
91	V52d1	N－87°－W	楕円形	1.05 × 0.78	33	外傾	平坦	人為	－	
92	U51g3	N－79°－E	長方形	2.30 × 1.05	26	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片	
93	U51f6	N－52°－W	不整楕円形	0.95 × 0.72	77	外傾	凹凸	－	－	
94	V51f4	N－22°－W	楕円形	1.27 × 1.14	15	緩斜	平坦	自然	土師器片	
95	V51c7	N－58°－W	楕円形	1.43 × 1.25	28	緩斜	平坦	人為	－	
96	V50c3	N－10°－W	〔不整方形〕	0.99 ×(0.88)	12	緩斜	平坦	自然	－	SI23→本跡
97	U51f7	N－56°－W	不定形	1.85 × 1.07	0.7	外傾	平坦	－	－	本跡→SK98
98	U51f7	N－67°－E	不定形	1.04 × 0.59	27	外傾	凹凸	－	－	SK97→本跡
99	V52d1	N－63°－E	〔楕円形〕	0.46 ×〔0.60〕	80	外傾	凹凸	人為	－	本跡→SK66

番号	位　置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					遺構番号・新旧関係(古→新)
100	V52d2	N－30°－W	楕円形	0.33 × 0.28	51	垂直	皿状	人為	－	
102	V50i8	N－6°－E	楕円形	0.48 × 0.32	32	垂直	凹凸	人為	－	
103	U50c5	N－8°－E	円形	1.00 ×(0.97)	23	外傾	平坦	人為	－	
104	U50c3	N－47°－E	不整円形	1.59 ×(1.57)	23	外傾	平坦	人為	土師器片,不明鉄	
105	U51h3	N－40°－E	円形	1.42 × 1.41	10	外傾	平坦	人為	－	
106	U51e5	N－15°－E	隅丸方形	0.45 × 0.44	57	外傾	皿状	自然	－	
107	U51d5	N－5°－W	円形	0.52 × 0.49	64	外傾	皿状	人為	－	
108	U51d4	N－2°－E	方形	0.45 × 0.40	50	外傾	皿状	自然	－	
109	U51d3	N－61°－E	楕円形	0.41 × 0.32	30	外傾	皿状	自然	－	
110	U51e4	N－65°－W	楕円形	0.50 × 0.45	55	垂直	皿状	－	－	
111	V51d3	N－40°－E	楕円形	1.00 × 0.93	123	外傾	平坦	人為	－	
112	V51e2	N－12°－W	楕円形	0.93 × 0.87	11	外傾	平坦	自然	－	
113	U50j3	N－3°－W	(長方形)	1.65 ×〔0.93〕	16	外傾	凹凸	－	－	本跡→SK114
114	U50j4	N－4°－W	長方形	2.30 × 1.67	32	外傾	凹凸	人為	土師器片,須恵器片	SK113→本跡
115	U50i3	N－3°－W	円形	0.65 × 0.61	61	垂直	平坦	－	土師器片	
117	U50h7	N－3°－E	楕円形	0.93 × 0.73	34	外傾	凹凸	人為	－	
118	V52f1	N－10°－W	不定形	0.60 × 0.46	46	外傾	皿状	自然	－	
119	V52d1	N－41°－W	〔隅丸方形〕	〔0.30 × 0.29〕	48	外傾	－	人為	－	本跡→SK66
120	U50i8	N－3°－W	楕円形	0.30 × 0.22	38	垂直	皿状	自然	土師器片	SK69→本跡
121	U49h3	N－10°－W	楕円形	0.70 × 0.55	52	外傾	皿状	人為	－	SI32→本跡
122	U49i4	N－15°－W	不定形	0.97 × 0.52	50	外傾	皿状	人為	須恵器片	SI32→本跡→SK59
123	U49i9	N－32°－W	円形	1.10 × 1.05		外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,不明鉄,礫	
124	U49j9	N－0°	円形	1.20 × 1.20	23	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,鉄滓	
125	U49j0	N－60°－W	楕円形	0.67 × 0.6	37	外傾	凹凸	人為	－	
127	V49a0	N－67°－E	楕円形	1.32 × 1.03	74	外傾	平坦	－	－	本跡→SI18→SK18
129	V49c0	N－45°－W	楕円形	0.38 × 0.32	5	緩斜	皿状	自然	－	SI24→本跡
130	U49i2	N－38°－E	円形	0.48 × 0.47	10	緩斜	皿状	自然	－	SI33,SD 6→本跡
131	U49j0	N－80°－W	楕円形	0.56 × 0.42	15	緩斜	皿状	人為	－	
132	U49h9	N－6°－W	〔円形〕	0.50 ×(0.32)	19	緩斜	皿状	人為	土師器片,須恵器片	SI16→本跡
133	U49g9	N－65°－E	楕円形	0.87 × 0.69	24	緩斜	皿状	人為	土師器片,須恵器片	SI16→本跡
134	V49b8	N－74°－E	楕円形	1.07 × 0.67	19	緩斜	皿状	人為	－	SI21→本跡
135	V49a0	N－40°－W	楕円形	0.63 × 0.51	25	緩斜	皿状	自然	－	
136	V49a0	N－49°－W	楕円形	1.20 × 1.11	25	緩斜	平坦	人為	－	SK201→本跡
137	V49b9	N－0°	円形	1.00 × 1.00	30	外傾	平坦	人為	土師器片,羽口片,炉壁片	
138	V49a9	N－10°－W	円形	0.52 × 0.50	22	緩斜	皿状	自然	土師器片,須恵器片	
139	V49a0	N－32°－W	楕円形	0.46 × 0.35	50	外傾	皿状	緩斜	－	
140	V49a7	N－31°－W	楕円形	1.10 × 1.02	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
141	V49a7	N－29°－W	円形	1.17 × 1.13	14	緩斜	平坦	人為	－	
142	U49j6	N－51°－W	楕円形	1.42 × 1.32	23	緩斜	平坦	人為	土師器片,須恵器片,陶器片,炉壁片,鉄滓	
143	V49a6	N－0°	円形	1.05 × 1.05	27	緩斜	平坦	自然	－	
144	U49j7	N－6°－W	楕円形	1.19 × 1.15	29	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,炉壁片,鉄滓	
145	U49j6	N－55°－W	楕円形	1.22 × 1.12	24	緩斜	平坦	自然	土師器片,須恵器片	
146	V49a5	N－24°－E	楕円形	1.12 × 1.03	0.7	緩斜	平坦	人為	炉壁片,鉄滓	
147	U49j6	N－63°－W	楕円形	1.09 × 1.01	12	緩斜	平坦	人為	土師器片,須恵器片	
148	U49j6	N－54°－W	円形	1.20 × 1.07	0.8	緩斜	平坦	自然	土師器片,鉄滓,不明鉄	
149	U49j5	N－40°－W	楕円形	1.18 × 1.14	14	緩斜	平坦	人為	－	
150	T46h6	N－53°－E	円形	1.17 × 1.13	0.8	緩斜	平坦	人為	－	
152	U51d3	N－54°－E	不定形	0.90 × 0.47	62	緩斜	凹凸	自然	－	
153	U51d3	N－29°－W	楕円形	0.48 × 0.35	47	外傾	皿状	自然	－	
154	U51e4	N－36°－W	隅丸方形	0.44 × 0.44	52	垂直	皿状	人為	－	
155	U51f7	N－84°－E	楕円形	0.80 × 0.54	30	外傾	凹凸	自然	－	
156	T46j3	N－4°－E	円形	0.95 × 0.85	6	外傾	平坦	人為	－	本跡→SI57
158	U50g8	N－83°－W	円形	0.53 × 0.49	28	外傾	凹凸	自然	－	
160	U51e7	N－10°－W	不整長方形	1.86 × 0.85	10	緩斜	平坦	自然	－	
161	U50h8	N－58°－E	楕円形	0.35 × 0.32	20	外傾	平坦	人為	－	
162	T45j3	N－40°－W	円形	1.01 × 0.92	25	外傾	平坦	自然	－	
163	U50i6	N－49°－E	円形	0.64 × 0.62	23	外傾	凹凸	自然	－	
164	U50i5	N－78°－W	楕円形	0.75 × 0.68	11	緩斜	平坦	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
165	V50b7	N－47°－E	楕円形	1.10 × 1.03	10	外傾	平坦	人為	－	
166	V50b7	N－38°－W	楕円形	0.78 × 0.61	13	外傾	平坦	人為	－	
168	T45j4	N－36°－W	円形	1.18 × 1.15	14	外傾	平坦	人為	－	SI79→本跡
169	V49d9	N－18°－W	楕円形	0.46 × 0.35	36	外傾	皿状	人為	－	
170	V49b9	N－30°－W	楕円形	0.28 × 0.22	25	外傾	皿状	自然	－	
171	V49b9	N－58°－E	楕円形	0.30 × 0.20	19	外傾	皿状	自然	－	
172	V49c9	N－64°－W	楕円形	0.37 × 0.30	47	垂直	凹凸	人為	－	
173	V49c9	N－40°－W	楕円形	0.22 × 0.17	19	外傾	皿状	自然	－	
174	V49c9	N－47°－E	楕円形	0.35 × 0.29	20	外傾	皿状	人為	－	
175	V49a9	N－0°	円形	0.43 × 0.41	18	外傾	平坦	自然	－	
176	V49a9	N－0°	円形	0.38 × 0.37	18	垂直	平坦	人為	－	
177	V49a7	N－34°－E	楕円形	1.15 × 1.05	8	緩斜	平坦	自然	土師器片,須恵器片,礫	
178	V49b8	N－56°－E	楕円形	0.33 × 0.24	47	緩斜	皿状	自然	－	本跡→SK179
179	V49b8	N－39°－W	楕円形	0.46 × 0.37	54	緩斜	皿状	人為	－	SK178→本跡
180	U49j8	N－6°－W	隅丸長方形	0.32 × 0.21	16	外傾	皿状	人為	－	本跡→SK205
181	V49c8	N－50°－E	円形	0.21 × 0.20	30	外傾	皿状	自然	－	
182	V49a8	N－7°－E	楕円形	1.15 × 0.85	19	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,弥生土器片	SK210・266・267→本跡→SK209
183	V49a9	N－5°－W	隅丸長方形	2.88 × 0.60	7	外傾	平坦	自然	－	
184	V49b8	N－8°－W	隅丸長方形	2.75 × 0.80	12	外傾	平坦	自然	須恵器片	
185	V49b9	N－13°－W	楕円形	1.10 × 1.00	10	外傾	平坦	自然	－	
186	V49a0	N－60°－E	楕円形	0.34 × 0.25	49	垂直	皿状	人為	－	
187	T43f5	N－65°－W	円形	0.52 × 0.50	20	外傾	平坦	人為	－	
188	W49d0	N－26°－W	隅丸方形	0.57 × 0.55	36	緩斜	平坦	人為	土師器片	
189	V49b0	N－0°	円形	0.42 × 0.42	32	外傾	皿状	自然	－	
190	V49a0	N－0°	円形	0.39 × 0.39	35	外傾	皿状	人為	－	
191	V49c8	N－31°－E	隅丸方形	0.30 × 0.29	43	垂直	皿状	自然	弥生土器片,土師器片	SK192→本跡
192	V49c9	N－12°－W	隅丸長方形	2.60 × 0.82	8	緩斜	平坦	自然	－	本跡→SK191,226
193	V49a9	N－10°－E	〔楕円形〕	0.45 × 0.40	70	垂直	皿状	人為	－	SK211→本跡→SK212
194	V49b0	N－30°－E	楕円形	1.16 × 1.09	25	外傾	平坦	人為	土師器片,石器	本跡→SK273
195	V49a0	N－39°－E	楕円形	1.24 × 1.07	22	緩斜	平坦	人為	－	本跡→SD 8
196	W49d0	N－47°－W	楕円形	1.19 × 1.12	39	外傾	平坦	自然	土師器片,須恵器片,弥生土器片,炉壁片	
197	U49j7	N－46°－W	楕円形	1.22 × 1.16	15	緩斜	平坦	人為	－	
199	U48b7	N－88°－E	長方形	2.04 × 0.70	34	垂直	平坦	人為	鉄滓,炉壁片	
200	V49a9	N－20°－E	楕円形	1.23 × 1.00	13～16	外傾	平坦	自然	土師器片,須恵器片,礫	
201	V49b0	N－30°－W	〔楕円形〕	1.16 ×(0.54)	24	緩斜	平坦	人為	土師器片,須恵器片,礫	本跡→SK136
202	U49j7	N－0°	円形	1.20 × 1.08	39	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,粘土塊	
203	U49j7	N－57°－W	楕円形	1.34 × 1.21	18	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,炉壁片	SK204→本跡
204	U49j7	N－70°－W	〔楕円形〕	1.10 ×(0.41)	12	外傾	平坦	人為	－	本跡→SK203
205	U49j8	N－14°－E	楕円形	1.22 × 1.18	30	外傾	平坦	人為	土師器片,炉壁片,鉄滓	SK180→本跡
206	V49c8	N－31°－W	隅丸方形	0.25 × 0.25	10	外傾	平坦	人為	－	
207	V49c8	N－2°－W	円形	0.29 × 0.27	37	外傾	皿状	自然	－	
208	V49c8	N－72°－W	楕円形	0.38 × 0.24	49	緩斜	皿状	人為	－	
209	V49a8	N－74°－W	楕円形	0.33 × 0.28	15	外傾	皿状	自然	土師器片,須恵器片	SK182→SK267→本跡
210	V49b8	N－77°－W	〔不定形〕	0.43 ×(0.33)	45	外傾	皿状	自然	土師器片,須恵器片,礫	本跡→SK182
211	V49a9	N－33°－E	楕円形	1.73 × 1.16	14	外傾	平坦	自然	土師器片,須恵器片	本跡→SK212,193
212	V49a9	N－19°－W	楕円形	0.88 × 0.49	71	外傾	平坦	人為	－	SK211→SK193→本跡
213	V49c8	N－26°－W	楕円形	0.43 × 0.33	37	外傾	皿状	自然	土師器片	
214	V49a8	N－33°－E	不定形	1.25 × 0.81	30	緩斜	平坦	人為	鉄滓,炉壁片	本跡→SK215
215	V49a8	N－40°－W	不定形	0.47 × 0.41	32	緩斜	皿状	人為	－	SK214→本跡
216	V49a8	N－45°－E	楕円形	0.39 × 0.35	46	外傾	平坦	人為	－	
217	V49a8	N－37°－W	円形	0.28 × 0.26	21	外傾	皿状	自然	－	
218	V49b8	N－21°－E	楕円形	0.46 × 0.37	23	外傾	平坦	自然	－	
219	V49b8	N－10°－W	楕円形	0.37 × 0.30	15	外傾	平坦	人為	－	
220	V49b8	N－39°－W	楕円形	0.50 × 0.47	52	外傾	皿状	自然	－	
221	V49a5	N－24°－E	〔楕円形〕	0.44 × 0.41	32	外傾	皿状	人為	－	本跡→SK222
222	V49a5	N－19°－E	楕円形	0.34 × 0.30	20	外傾	皿状	自然	－	SK221→本跡
223	V49a4	N－26°－W	楕円形	0.96 × 0.57	38	緩斜	平坦	人為	－	
224	V49b8	N－25°－E	隅丸方形	0.35 × 0.35	33	外傾	皿状	自然	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
225	V49b8	N－8°－W	楕円形	0.46 × 0.35	25	緩斜	皿状	人為	－	
226	V49c8	N－39°－E	隅丸方形	0.31 × 0.31	47	垂直	皿状	人為	－	SK192→本跡
227	V49b9	N－55°－W	楕円形	0.75 × 0.71	15	緩斜	平坦	自然	土師器片	
228	V49d8	N－64°－W	楕円形	0.28 × 0.19	22	外傾	皿状	人為	－	
229	V49a0	N－29°－E	楕円形	1.20 × 1.06	16	外傾	平坦	人為	－	SK272→本跡
230	U49j8	N－56°－E	楕円形	0.41 × 0.28	27	外傾	皿状	人為	土師器片,須恵器片	
231	U49j8	N－59°－W	楕円形	1.28 × 1.13	30	緩斜	平坦	人為	土師器片,須恵器片	
232	V49b7	N－63°－W	楕円形	0.50 × 0.25	15	緩斜	平坦	人為	－	
233	V49c8	N－0°	円形	0.30 × 0.28	15	緩斜	皿状	自然	－	
234	V49b8	N－0°	円形	0.34 × 0.33	40	垂直	皿状	人為	－	
235	V49c8	N－0°	円形	0.16 × 0.16	20	垂直	皿状	人為	－	
236	V49c8	N－0°	円形	0.16 × 0.16	16	垂直	皿状	人為	－	
237	V49c8	N－15°－W	円形	0.25 × 0.23	8	外傾	平坦	人為	－	
238	V49c8	N－19°－E	楕円形	0.35 × 0.28	28	外傾	皿状	人為	－	
239	V49c8	N－0°	円形	0.23 × 0.23	16	外傾	皿状	人為	－	
240	V49b8	N－21°－W	楕円形	0.33 × 0.25	12	外傾	皿状	自然	－	
241	V49b7	N－39°－E	楕円形	0.29 × 0.24	18	外傾	平坦	人為	－	
242	V49b7	N－46°－W	円形	0.29 × 0.27	30	外傾	皿状	人為	－	
243	V49b7	N－5°－W	円形	0.29 × 0.27	18	外傾	皿状	人為	－	
244	V49b6	N－29°－E	円形	0.26 × 0.25	26	外傾	皿状	人為	－	
245	V49c6	N－70°－E	楕円形	0.48 × 0.28	24	外傾	平坦	人為	土師器片	
246	V49c6	N－45°－W	円形	0.36 × 0.35	36	外傾	皿状	人為	－	
247	V49b6	N－50°－W	円形	0.27 × 0.25	15	緩斜	皿状	人為	－	
248	V49a5	N－0°	円形	0.36 × 0.35	25	外傾	皿状	人為	－	
249	U49j5	N－0°	円形	0.70 × 0.69	0.5	外傾	平坦	自然	須恵器片	
250	U49j6	N－32°－W	楕円形	0.52 × 0.50	41	垂直	平坦	人為	土師器片,礫	
251	U49h5	N－52°－W	楕円形	0.53 × 0.48	33	緩斜	皿状	人為	土師器片	
252	U49j4	N－20°－W	円形	0.40 × 0.37	46	外傾	皿状	人為	土師器片	
253	U49j4	N－75°－W	楕円形	0.66 × 0.40	52	垂直	凹凸	人為	土師器片,須恵器片	
254	V49b7	N－0°	円形	0.42 × 0.42	15	外傾	平坦	人為	－	
255	V49a4	N－72°－E	楕円形	0.32 × 0.26	18	外傾	平坦	人為	－	
256	U49i6	N－75°－W	楕円形	0.33 × 0.23	24	外傾	皿状	人為	－	
257	U49i6	N－33°－W	円形	0.33 × 0.31	30	外傾	平坦	人為	－	
258	U49h6	N－9°－E	円形	0.23 × 0.22	21	外傾	平坦	自然	－	
259	U49h6	N－82°－W	楕円形	0.41 × 0.35	29	外傾	平坦	人為	－	SK260→本跡
260	U49h6	N－82°－W	楕円形	(0.36)× 0.41	45	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片	本跡→SK259
261	U49h6	N－0°	円形	0.30 × 0.30	13	外傾	平坦	自然	－	
262	U49h5	N－54°－E	楕円形	0.45 × 0.40	26	外傾	平坦	人為	土師器片	
263	U49i5	N－11°－W	楕円形	0.65 × 0.40	27	外傾	皿状	人為	土師器片,須恵器片	
264	V49c5	N－7°－E	隅丸長方形	0.64 × 0.40	60	垂直	皿状	人為	－	
265	V49c5	N－13°－E	円形	0.27 × 0.28	15	緩斜	皿状	人為	－	
266	V49a8	N－40°－W	不定形	0.33 × 0.31	25	外傾	皿状	人為	－	本跡→SK182
267	V49a8	N－42°－W	〔楕円形〕	0.46 ×(0.36)	18	緩斜	皿状	人為	土師器片	本跡→SK209→SK182
268	V49b9	N－27°－E	楕円形	1.08 × 1.02	24	垂直	平坦	自然	弥生土器片,土師器片,須恵器片	本跡→SK279
269	U49j0	N－6°－W	〔楕円形〕	0.96 ×(0.38)	46	外傾	平坦	人為	－	本跡→SK270
270	U49j0	N－59°－W	楕円形	0.69 × 0.50	53	外傾	平坦	人為	弥生土器片,土師器片,須恵器片	SK269→本跡
271	V49a0	N－0°	円形	0.27 × 0.27	25	外傾	皿状	人為	－	
272	V49a0	N－45°－W	〔楕円形〕	0.54 ×(0.41)	17	外傾	平坦	自然	－	本跡→SK229
273	V49b0	N－0°	円形	0.25 × 0.25	20	外傾	皿状	自然	－	SK194→本跡
274	V49b0	N－60°－W	楕円形	0.59 × 0.30	48	垂直	皿状	人為	－	
275	V49b0	N－53°－W	楕円形	0.32 × 0.28	17	外傾	平坦	人為	－	
276	V49b0	N－0°	円形	0.24 × 0.25	25	外傾	皿状	人為	－	
277	V49b0	N－0°	円形	0.34 × 0.35	12	外傾	平坦	人為	－	
278	V49d9	N－45°－E	楕円形	0.44 × 0.31	21	外傾	平坦	人為	－	
279	V49a9	N－27°－E	楕円形	1.50 × 1.17	18	緩斜	平坦	自然	土師器片	SK268→本跡
280	V49d9	N－14°－W	楕円形	0.56 × 0.48	19	外傾	平坦	人為	土師器片,炉壁片	
281	U49j0	N－66°－W	楕円形	0.32 × 0.26	11	外傾	平坦	自然	－	
282	U49i0	N－16°－W	〔円形〕	0.62 ×(0.49)	45	垂直	平坦	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
283	V49d0	N－0°	円形	0.45 × 0.45	32	外傾	皿状	人為	－	SK126→本跡
284	V49c9	N－8°－E	方形	0.34 × 0.33	16	緩斜	皿状	人為	土師器片,不明鉄	
285	V49d6	N－0°	円形	0.24 × 0.24	19	外傾	皿状	人為	－	
286	V49d6	N－0°	円形	0.29 × 0.29	22	外傾	凹凸	人為	－	
287	W49d0	N－43°－E	楕円形	0.72 × 0.54	17	緩斜	平坦	人為	－	
288	V49a4	N－0°	円形	0.37 × 0.37	41	垂直	皿状	人為	－	
289	T43a7	N－3°－W	隅丸方形	1.20 × 1.10	21	緩斜	平坦	人為	－	SI104→本跡
290	T43a4	N－44°－E	円形	0.55 × 0.49	42	外傾	平坦	人為	土師器片,粘土塊	
291	S43e0	N－54°－W	楕円形	1.45 × 1.00	25	緩斜	皿状	人為	－	SX 6→本跡
293	S43f3	N－9°－E	〔隅丸長方形〕	1.16 ×(0.43)	19	緩斜	平坦	人為	－	SI111→本跡
294	S43j4	N－69°－W	円形	0.33 × 0.30	11	緩斜	皿状	人為	－	SI109→本跡
295	S43j5	N－0°	円形	0.30 × 0.30	20	外傾	皿状	人為	－	SI109→本跡
296	S43h3	N－7°－E	楕円形	1.24 × 0.95	6	緩斜	平坦	自然	－	本跡→SI112
297	S43f0	N－35°－W	不定形	0.95 × 0.70	52	外傾	凹凸	自然	－	SX 6→本跡
298	T44i2	N－47°－W	楕円形	0.46 × 0.41	20	外傾	皿状	自然	－	
302	T45j3	N－29°－E	円形	1.18 × 1.16	10	緩斜	平坦	自然	－	SI79,SK301→本跡
303	T43g7	N－6°－W	円形	0.62 × 0.59	39	外傾	平坦	自然	－	SI91→本跡
304	T45c3	N－45°－E	円形	1.03 × 0.99	34	垂直	平坦	人為	－	
305	T45c5	N－23°－W	円形	1.07 × 1.04	18	外傾	平坦	人為	－	
306	T45c0	N－85°－E	円形	1.03 × 0.99	34	垂直	平坦	人為	土師器片,須恵器片,鉄製品	
307	T45b1	N－39°－W	円形	1.23 × 1.19	18	垂直	平坦	人為	土師器片,須恵器片	
308	T46c2	N－17°－E	円形	1.17 × 1.14	45	垂直	平坦	人為	土師器片,須恵器片	
310	T45c7	N－52°－W	円形	1.03 × 1.01	8	外傾	平坦	人為	－	
311	T45c7	N－52°－W	円形	1.03 × 1.00	29	外傾	凹凸	自然	土師器片,須恵器片,陶器片,不明鉄	
314	T44c4	N－40°－W	楕円形	1.21 × 0.91	20	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片	
315	T44c5	N－3°－E	不整楕円形	2.11 × 0.94	18	外傾	平坦	人為	須恵器片	
316	T45c1	N－48°－W	(円形)	(1.30 × 1.25)	62	外傾	平坦	人為	土師器片,鉄製品	
317	T45c2	N－77°－W	楕円形	0.93 × 0.81	45	垂直	凹凸	人為	人骨片	
318	T45c4	N－23°－E	円形	1.05 × 1.00	45	垂直	平坦	自然	土師器片,鉄製品	SI99,SI100→本跡
320	T43c0	N－40°－W	楕円形	0.72 × 0.60	34	外傾	凹凸	自然	土師質土器片	
321	T44c1	N－84°－W	〔楕円形〕	(0.38)× 0.52	22	垂直	平坦	人為	土師器片	本跡→SK448
326	S45j5	N－8°－E	隅丸長方形	1.85 × 0.95	40	外傾	平坦	人為	－	SI97→本跡
327	T43a7	N－75°－E	楕円形	1.62 × 1.50	70	外傾	平坦	人為	土師器片	本跡→SB 9
331	T46c6	N－0°	円形	(1.11)× 1.04	22	外傾	凹凸	人為	－	
334	S43c4	N－86°－W	〔長方形〕	1.39 × 0.90	125	垂直	平坦	人為	－	
347	T46d9	N－7°－W	不定形	0.38 × 0.27	24	外傾	平坦	人為	－	SK339→本跡
352	U45a5	N－8°－W	楕円形	1.04 ×〔0.75〕	8	外傾	平坦	－	－	SI78→本跡→SK365
353	U45a5	N－86°－W	楕円形	1.22 × 1.03	6	緩斜	平坦	人為	－	SI78→本跡
354	U45a5	N－77°－W	円形	1.18 × 1.15	27	外傾	平坦	人為	土師器片,鉄滓,砥石	SI78→本跡
356	U45a2	N－22°－E	楕円形	0.33 × 0.25	(34)	垂直	皿状	人為	－	SI80,81,SK357,366→本跡
357	U45a2	N－37°－W	不整楕円形	0.34 × 0.29	(11)	外傾	皿状	人為	－	SI80,81,SK366→本跡→SK356
358	T45j2	N－85°－W	不整長方形	1.00 × 0.83	13	外傾	平坦	人為	－	SI80,SI81→本跡
359	U45a3	N－16°－E	隅丸長方形	3.93 × 1.05	32	外傾	平坦	自然	土師器片,須恵器片,鉄滓,炉壁片	SK355,SK360→本跡
360	U45b3	N－86°－W	〔楕円形〕	3.19 ×〔1.11〕	53	外傾	－	人為	土師器片,磨製石斧	SK359→本跡
361	T45j3	N－24°－W	円形	1.14 × 1.06	12	外傾	平坦	自然	－	
362	T45j3	N－5°－W	円形	0.98 × 0.97	7	外傾	平坦	自然	－	
363	U45a3	N－60°－W	円形	0.91 × 0.88	5	緩斜	平坦	自然	－	
364	U45b4	N－34°－W	円形	1.12 × 1.08	18	外傾	平坦	人為	土師器片,須恵器片,鉄滓	
365	U45a5	N－64°－W	楕円形	1.41 × 1.27	19	外傾	平坦	人為	－	SI78,SK365→本跡
366	U45a2	N－39°－W	楕円形	1.10 × 0.88	19	外傾	平坦	人為	－	SI,SK366→本跡
367	U45a3	N－64°－W	楕円形	0.73 × 0.65	20	外傾	平坦	人為	－	SI80・81→本跡→SK356・357
368	U45a3	N－24°－W	〔長方形〕	(3.85)× 0.63	22	外傾	平坦	人為	－	SK368→本跡
369	T45j2	N－5°－W	円形	1.00 × 0.97	11	外傾	平坦	自然	－	本跡→SK367
370	T45j3	N－64°－E	円形	1.14 × 1.09	13	外傾	平坦	自然	－	
371	T45j5	N－45°－W	円形	0.99 × 0.99	6	外傾	平坦	人為	－	
372	U45a6	N－31°－W	〔楕円形〕	1.05 ×(0.80)	40	外傾	皿状	人為	－	本跡→SK372
373	U45a6	N－29°－W	楕円形	0.72 × 0.65	58	外傾	皿状	人為	－	SK372・374→本跡
374	U45a6	N－26°－E	円形	1.14 ×(1.08)	18	外傾	平坦	人為	－	SK372・375→本跡→SK373

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					遺構番号・新旧関係(古→新)
375	U45a6	N－75°－E	不整楕円形	0.67 × 0.47	18	外傾	平坦	人為	－	本跡→SK374
376	U45a6	N－9°－E	楕円形	1.18 × 1.00	17	外傾	平坦	人為	－	
377	U45a6	N－17°－E	不整楕円形	0.88 × 0.49	55	外傾	凹凸	人為	－	
378	U45a5	N－22°－W	長楕円形	2.09 × 0.46	72	外傾	平坦	自然	－	本跡→SI78・SK379
379	U45a5	N－36°－E	楕円形	0.58 × 0.49	73	外傾	平坦	人為	－	本跡→SI78・SK379
380	U45b9	N－43°－E	円形	1.11 × 1.05	22	外傾	平坦	自然	－	SI70, SK433→本跡
384	T43g5	N－5°－E	円形	0.95 × 0.93	8	外傾	平坦	自然	－	
385	T43g5	N－90°	円形	0.45 × 0.44	13	外傾	平坦	自然	－	
386	T43g6	N－0°	円形	1.38 × 1.31	30	外傾	平坦	人為	－	
388	T43f5	N－89°－W	〔楕円形〕	1.07 ×(0.53)	15	緩斜	平坦	人為	－	
389	T43f5	N－23°－W	円形	0.86 × 0.83	10	緩斜	平坦	人為	－	
392	T43f7	N－87°－E	〔楕円形〕	1.46 ×(0.56)	27	緩斜	平坦	人為	－	
393	T43a8	N－41°－E	円形	1.37 × 1.26	47	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
394	T43f8	N－5°－W	楕円形	1.24 × 1.04	43	外傾	平坦	人為	－	
395	T43f8	N－16°－W	楕円形	1.36 × 1.20	44	外傾	凹凸	人為	土師器片, 鉄滓	
396	T43g9	N－15°－W	円形	1.38 × 1.30	41	垂直	平坦	人為	須恵器片	
397	T43g9	N－24°－W	楕円形	0.97 × 0.82	21	外傾	平坦	人為	－	
398	T43g0	N－6°－E	円形	0.81 × 0.78	16	外傾	平坦	人為	－	
399	T43f9	N－88°－E	〔円形〕	1.31 ×(0.70)	20	緩斜	平坦	人為	－	
400	T43f9	N－88°－E	〔楕円形〕	1.45 ×(0.63)	34	外傾	皿状	自然	－	
401	T44a1	N－2°－E	楕円形	1.52 × 1.22	13	外傾	平坦	人為	－	
402	T44f1	N－5°－E	楕円形	1.18 × 0.96	11	外傾	平坦	自然	須恵器片, 鉄滓	
403	T44g1	N－28°－E	円形	1.14 × 1.05	13	外傾	平坦	人為	－	
404	T44h1	N－57°－E	楕円形	1.21 × 0.99	6	外傾	平坦	人為	－	
405	T44g2	N－48°－E	楕円形	1.44 × 1.26	15	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片, 鉄滓	
406	T44g2	N－25°－E	円形	1.02 × 0.94	13	外傾	平坦	人為	土師器片	
408	T44f2	N－89°－E	円形	1.16 × 1.10	10	外傾	平坦	人為	－	
409	T44g2	N－89°－E	楕円形	1.08 × 0.93	70	垂直	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
410	T44h2	N－51°－E	円形	1.31 × 1.27	17	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 礫	
411	T44h2	N－49°－W	円形	0.95 × 0.87	17	外傾	凹凸	人為	炉壁片	
412	T44g4	N－1°－E	楕円形	0.76 × 0.63	20	外傾	平坦	人為	－	
413	T44i7	N－68°－W	隅丸長方形	1.59 × 1.23	30	外傾	皿状	人為	須恵器片	
414	T44i7	N－74°－W	隅丸長方形	1.87 × 0.98	31	外傾	平坦	人為	－	
417	S43h4	N－9°－E	〔円形〕	2.45 ×(1.22)	16	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	本跡→SI112
419	U49b5	N－73°－E	長楕円形	2.39 × 0.91	57	外傾	平坦	自然	－	
420	T45h5	N－28°－W	円形	0.48 × 0.45	24	外傾	皿状	人為	－	SI77→本跡
421	T45h5	N－69°－W	楕円形	0.33 × 0.27	12	外傾	平坦	人為	－	SI77→本跡
422	T45h4	N－51°－W	楕円形	0.34 × 0.29	55	外傾	皿状	人為	－	SI77→本跡
423	T45h4	N－12°－W	〔楕円形〕	0.39 ×(0.25)	13	外傾	平坦	人為	－	SI77, SD19→本跡→SK435
424	T45g4	N－17°－E	楕円形	0.41 × 0.30	31	外傾	平坦	人為	－	SI77, SD19→本跡
425	U45a7	N－16°－W	円形	1.06 × 0.97	5	外傾	平坦	自然	－	
426	U45a7	N－12°－E	円形	0.93 × 0.86	22	外傾	平坦	人為	－	
427	U45a7	N－55°－W	円形	0.28 × 0.26	20	外傾	皿状	自然	－	
428	U45c9	N－4°－W	円形	0.27 × 0.26	17	外傾	平坦	自然	土師器片	SI70, SK433→本跡
431	U45b6	N－86°－E	円形	1.46 × 1.38	66	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI69・76→本跡
432	T45j7	N－4°－W	楕円形	2.17 × 2.08	77	外傾	凹凸	自然	－	本跡→SI74
433	U45b9	N－39°－E	楕円形	2.66 × 2.06	46	外傾	平坦	人為	－	本跡→SI70, SK380, SK428
435	T45h4	N－53°－E	楕円形	0.40 × 0.31	28	外傾	平坦	人為	－	SI77, SD19, SK423→本跡
441	T46c9	N－78°－W	〔長方形〕	1.04 ×(0.39)	81	外傾	平坦	人為	五輪塔	
448	T44c1	N－5°－W	不整楕円形	0.50 × 0.39	24	外傾	平坦	人為	－	
449	S43h5	N－50°－W	楕円形	1.05 × 0.96	14	緩斜	平坦	自然	－	
451	U51h1	N－56°－W	楕円形	0.45 × 0.35	16	外傾	平坦	－	－	SI 8→SB 1→本跡

表7　墓壙一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係
1	T47c1	N－10°－W	方形	0.82 × 0.75	130	垂直	凹凸	人為	土師質土器,釘	(SK31)第40・43号墓壙→本跡→第46号墓壙
2	T46c9	N－15°－W	長方形	1.04 × 0.75	94	垂直	平坦	人為	土師質土器,釘	(SK32)第3・6・35号墓壙→本跡
3	T46c9	N－35°－E	隅丸長方形	1.26 ×〔0.74〕	48	外傾	平坦	人為	土師質土器,釘	(SK33)第6・35・37・38号墓壙→本跡→第2号墓壙
4	T46c8	N－3°－E	楕円形	1.22 × 0.69	33	外傾	平坦	人為		(SK34)
5	T47c1	N－9°－W	〔長方形〕	(0.66)× 0.73	63	垂直	平坦	人為	古銭,煙管,釘	(SK35)
6	T46c9	N－75°－E	〔長方形〕	(0.95)×〔0.80〕	22	外傾	平坦	[人為]		(SK36),本跡→第2・3・38号墓壙
7	T47c1	N－10°－E	〔長方形〕	〔0.70 × 0.58〕	48	垂直	平坦	人為	煙管	(SK37)本跡→第47・49号墓壙
8	T46c9	N－4°－E	長方形	1.06 × 0.68	83	垂直	平坦	人為	須恵器	(SK38)第16号墓壙→本跡
9	T46c0	N－15°－W	楕円形	0.98 × 0.77	41	垂直	平坦	人為	須恵器	(SK39)
10	T46c8	N－4°－E	方形	1.01 × 0.95	69	外傾	平坦	人為	寛永通寶,釘	(SK40)
11	T46c8	N－10°－W	長方形	1.25 × 0.86	36	垂直	平坦	人為	土師質土器,古銭	(SK41)
12	T47c1	N－9°－W	楕円形	1.16 × 0.95	85	垂直	平坦	人為		(SK42)
13	T46c0	N－4°－W	方形	0.73 ×(0.73)	95	垂直	平坦	[人為]	古銭	(SK43)第15号墓壙→本跡→第14号墓壙
14	T46c0	N－3°－E	不整長方形	0.96 × 0.82	130	垂直	平坦	[人為]	土師質土器,釘,数珠玉	(SK44)第13・15号墓壙→本跡
15	T46c0	N－27°－E	不整長方形	1.28 ×(1.07)	30	垂直	平坦	人為	土師質土器,古銭,釘	(SK45)本跡→第13・14・44号墓壙
16	T46c9	N－6°－W	〔方形〕	0.93 ×(0.93)	70	垂直	平坦	人為	釘	(SK46)本跡→第8号墓壙
17	T46c9	N－33°－W	方形	0.80 × 0.75	112	垂直	平坦	人為	－	(SK47)
18	T47c1	N－59°－W	〔長方形〕	〔0.74 × 0.52〕	90	外傾	凹凸	人為	古銭	(SK49)第18号墓壙→本跡
19	T46d0	N－6°－E	方形	0.87 × 0.85	101	垂直	平坦	[人為]		(SK50)
20	T46d9	N－6°－W	方形	0.82 × 0.75	78	垂直	平坦	人為	土師質土器,古銭,釘	(SK51)
21	T46d9	N－12°－W	長方形	1.21 × 0.80	15	外傾	平坦	人為	土師質土器	(SK52)本跡→第33号墓壙
22	T46c9	N－4°－W	〔長方形〕	0.92 ×(0.48)	6～17	外傾	凹凸	人為	鉄製品	(SK53)本跡→第35・37号墓壙
23	T46c0	N－6°－W	長方形	1.06 × 0.91	127	垂直	平坦	人為	古銭,釘	(SK57)第24・31号墓壙→本跡
24	T46d0	N－79°－E	〔隅丸方形〕	1.05 ×(0.46)	52	外傾	平坦	人為	土師質土器,古銭	(SK58)第26・31号墓壙→本跡→第23号墓壙
25	U49j8	N－10°－E	楕円形	0.80 × 0.77	47	外傾	平坦	人為	古銭	(SK78)SI17→本跡
26	T46d0	N－79°－E	〔長方形〕	(0.34)× 0.80	36	外傾	平坦	人為		(SK79)本跡→第24号墓壙
27	T47c1	N－8°－E	方形	0.85 × 0.80	79	外傾	凹凸	人為	古銭	(SK80)第34号墓壙→本跡
28	T47i1	N－6°－W	長方形	1.07 × 0.8	95	垂直	平坦	人為	古銭,櫛,煙管,蛇尾	(SK151)SI40→本跡
29	U46b9	N－6°－E	長方形	1.12 × 1.05	135	垂直	平坦	人為	古銭,釘	(SK157)SI51→本跡
30	T46c7	N－0°	方形	(0.85)× 0.85	59	垂直	平坦	人為	土師質土器,古銭,毛抜き	(SK319)
31	T46c0	N－15°－W	長方形	0.89 ×(0.70)	102	外傾	平坦	[人為]	土師質土器,古銭,鉄鍋,煙管	(SK337)第31号墓壙→本跡→第24号墓壙
32	T47c1	N－7°－W	楕円形	0.60 × 0.50	25	外傾	平坦	[人為]	古銭	(SK338)
33	T46d9	N－16°－W	隅丸長方形	1.25 × 0.57	22	外傾	平坦	[人為]	古銭	(SK339)第21号墓壙→本跡→SK347
34	T47c1	N－83°－W	[不整長方形]	1.24 ×(1.03)	79	外傾	平坦	[人為]	土師質土器,古銭	(SK340)本跡→第27号墓壙
35	T46c9	N－0°	〔楕円形〕	〔1.35〕×(0.36)	51	垂直	平坦	人為	土師質土器	(SK342)第22・37号墓壙→本跡→第2・3号墓壙
36	T47d1	N－2°－E	〔方形〕	0.70 × 0.48	101	外傾	平坦	[人為]	古銭,煙管	(SK343)第40号墓壙→本跡→第43・50号墓壙
37	T46c9	N－85°－E	[長方形]	〔0.70〕×(0.32)	12	外傾	平坦	[人為]	－	(SK344)第22号墓壙→本跡→第3・35号墓壙
38	T46c9	N－14°－W	〔長方形〕	0.95 × 0.65	30	垂直	平坦	人為		(SK345)第6号墓壙→本跡→第3号墓壙
39	T46d9	N－14°－W	長方形	1.06 × 0.90	102	垂直	平坦	人為	釘	(SK346)本跡→SK347
40	T47d1	N－4°－W	[長方形]	1.06 × 0.62	75	外傾	平坦	人為	古銭,釘	(SK348)本跡→第1・36・41・43・50号墓壙
41	T47d1	N－5°－W	[長方形]	(0.93)× 0.56	53	垂直	平坦	[人為]	古銭,釘,煙管,飾り金具,珊瑚玉	(SK349)第40・45号墓壙→本跡
42	T46d0	N－84°－W	[長方形]	0.98 ×(0.50)	124	垂直	平坦	人為	釘	(SK350)
43	T47d1	N－88°－W	[長方形]	1.05 × 0.80	20	垂直	平坦	[人為]	古銭	(SK351)第36・40・47・49号墓壙→本跡→第1号墓壙
44	T46d0	N－24°－W	方形	0.92 × 0.92	129	垂直	平坦	[人為]	－	(SK442)第15号墓壙→本跡→第31号墓壙
45	T47d1	N－1°－E	[長方形]	(1.08)× 0.69	91	垂直	平坦	[人為]	－	(SK443)本跡→第41号墓壙

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係
46	T47c1	N－4°－W	楕円形	0.71 × 0.35	42	垂直	平坦	人為	－	(SK444)第1・47号墓壙→本跡
47	T47c1	N－5°－W	[長方形]	1.08 × 0.90	112	垂直	平坦	人為	－	(SK445)第7・40・49号墓壙→本跡→第43・46号墓壙
48	T47c1	N－28°－W	〔長方形〕	0.70 × 0.60	14	外傾	平坦	人為	－	(SK446)本跡→第18号墓壙
49	T47c1	N－3°－E	[長方形]	0.87 ×(0.56)	65	垂直	平坦	[人為]	－	(SK447)第7号墓壙→本跡→第43・47号墓壙
50	T47d1	N－86°－E	[方形]	0.70 ×(0.29)	60	垂直	平坦	[人為]	釘	(SK450)第36号墓壙→本跡

表8　井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係
1	V51d9	N－17°－W	円形	0.95 × 0.92	135	垂直	－	人為	土師器片,須恵器片,鉄滓	(SK 1)SI 1→本跡,中世以降
2	U50g2	N－41°－E	楕円形	1.48 × 1.25	101	外傾	－	人為	土師器片,須恵器片,炉壁片,鋳型,鉄滓	(SK76)中世以前
3	V50d5	N－24°－W	楕円形	1.02 × 0.88	(170)	垂直	－	人為	－	(SK81)SE 5→本跡,近世
4	V50d5	N－34°－W	不整円形	2.48 × 2.28	127	外傾	－	人為	陶器片,炉壁片,鉄滓	(SK87)中世
5	V50d5	N－23°－E	〔楕円形〕	1.65 ×(1.30)	182	垂直	－	人為	土師器片,須恵器片,炉壁片,鉄滓	(SK101)本跡→SE 3,中世
6	U50a1	N－20°－W	楕円形	1.18 × 0.95	110	垂直	－	人為	陶器,羽口片,炉壁片,鉄滓	(SK116)中世
7	V49c0	N－53°－E	楕円形	2.10 × 2.05	(165)	外傾	－	人為	炉壁片,鉄滓	(SK126)SI24・SD24→本跡→SK283,中世
8	V49e8	N－50°－W	〔楕円形〕	1.50 ×(1.30)	(132)	外傾	－	人為	陶器,炉壁片,鉄滓,砥石	(SK128)SI15→本跡,中世
9	U47f3	N－58°－W	楕円形	1.30 × 1.06	(134)	垂直	－	人為	羽口片,鋳型,鉄滓	(SK159)SD14→本跡,中世
10	U47a4	N－48°－W	楕円形	1.86 × 1.50	(128)	垂直	－	人為	土師器,須恵器,青磁,五輪塔	(SK167)SD14→本跡,近世
11	T45i3	N－25°－W	円形	0.99 × 0.92	176	垂直	－	人為	土師器,炉壁片	(SK301)本跡→SK302,近世
12	S44h2	N－68°－W	楕円形	1.43 × 1.23	200	垂直	－	人為	－	(SK328)近世
13	S43d8	N－71°－W	[楕円形]	1.81 ×(0.58)	(134)	外傾	－	人為	－	(SK329),SI106→本跡
14	U45a3	N－61°－W	[不整楕円形]	2.13 × 1.82	141	垂直	－	人為	土師器,須恵器,羽口,炉壁	(SK355)本跡→SK359,中世
15	U47f2	N－37°－E	楕円形	2.05 × 1.71	148	外傾	－	人為	陶器,羽口片,炉壁片,鉄滓	(SK381)
16	T49h3	N－49°－E	円形	1.10 × 1.00	(145)	垂直	－	人為	－	(SK418)
17	T44h8	N－0°	円形	1.24 × 1.24	188	垂直	－	人為	須恵器,砥石	(SK430)UP1→本跡

表9　炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (旧遺構番号)・新旧関係(古→新)
1	U52g2	N－89°－W	不整長方形	1.63 × 1.03	27	緩斜	皿状	人為	陶器,炉壁,鉄滓,鋳型	(SS1)本跡→F 7
2	U52g2	N－29°－W	不整円形	0.84 × 0.78	15	緩斜	皿状	人為	炉壁,鉄滓,鋳型	(SS2)
3	U52g2	N－88°－W	[方形・長方形]	0.68 × 0.23	40	緩斜	皿状	人為	磁器,炉壁,鉄滓,羽口	(SS3)CP 7とは新旧不明
4	U52g2	N－6°－W	[不整楕円形]	1.02 × 0.53	27	緩斜	皿状	人為	炉壁,鉄滓,鋳型	(SS6)CP3→本跡
5	U52h1	N－86°－W	[不整円形]	0.53 × 0.48	12	緩斜	皿状	人為	鉄製品,炉壁,鉄滓,砥石	(SS10)
6	U52h3	N－86°－E	[不整楕円形]	0.65 × 0.32	17	緩斜	皿状	人為	炉壁,鉄滓	(SS11)
7	U52g2	N－36°－E	不整楕円形	0.42 × 0.27	10	緩斜	平坦	人為	炉壁,鉄滓,鋳型	(SS13)F 1→本跡

表10　鋳造関連土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考(旧遺構番号)・新旧関係(古→新)
1	U52g2	N－88°－E	不定形	0.62 × 0.61	12	緩斜	皿状	人為	炉壁片,鉄滓,鉄製品,鋳型	(SS4),CP2→本跡
2	U52g2	N－86°－E	不整長方形	0.67 × 0.59	10	緩斜	皿状	人為	陶器,炉壁片,鉄滓,鉄製品	(SS5)CP18→本跡→CP1
3	U52g2	N－89°－W	不整楕円形	1.49 × 1.29	18	緩斜	皿状	人為	石器,炉壁片,鉄滓,羽口片,鋳型片	(SS7)本跡→F4
4	U52h2	N－2°－E	不整長方形	1.79 × 1.39	27	緩斜	平坦	人為	炉壁片,鉄滓	(SS8)CP15→本跡,CP12とは新旧不明
5	U52h2	N－89°－E	楕円形	0.80 × 0.48	12	緩斜	平坦	人為	炉壁片,鉄滓	(SS9)CP13→本跡
6	U52h1	N－9°－E	不整方形	0.98 × 0.80	9	緩斜	凹凸	人為	炉壁片,鉄滓	(SS12)CP8とは新旧不明
7	U52g2	N－14°－W	不整楕円形	0.42 × 0.39	9	緩斜	平坦	人為	鉄滓,羽口片	(SS14)F3とは新旧不明
8	U52g1	N－6°－E	不整楕円形	1.65 × 1.39	74	外傾	平坦	人為	炉壁片,鉄滓,羽口,鋳型	(SS15)CP15・17→本跡,CP6とは新旧不明
9	U52h2	N－4°－E	〔不整楕円形〕	1.07 × 0.70	10	緩斜	皿状	人為	炉壁片,鉄滓	(SS17)本跡→CP11・12
10	U52h3	N－87°－E	〔不整楕円形〕	1.05 × 0.80	15	緩斜	皿状	人為	鉄滓	(SS18)
11	U52h2	N－85°－W	〔不整楕円形〕	0.93 × 0.34	18	緩斜	凹凸	人為	鉄滓	(SS19)CP9→本跡→CP12
12	U52h2	N－6°－E	〔不整楕円形〕	0.72 × 0.63	6	緩斜	平坦	人為	－	(SS20)CP9・11→本跡
13	U52h2	N－89°－W	〔不整楕円形〕	0.90 × 0.83	8	緩斜	平坦	人為	炉壁	(SS21)本跡→CP5,CP9とは新旧不明
14	U52g3	N－4°－E	〔不整楕円形〕	0.42 × 0.35	27	外傾	皿状	人為	－	(SS22)
15	U52g2	N－22°－E	〔不整楕円形〕	1.20 × 0.97	42	緩斜	平坦	人為	炉壁,鉄滓,鋳型	(SS23)CP17→本跡→CP4・8
16	U52g2	N－88°－E	[円形・楕円形]	0.88 × 0.28	76	外傾	平坦	人為	－	(SS24)
17	U52g2	N－89°－E	〔不整楕円形〕	1.17 × 0.48	68	外傾	平坦	人為	炉壁片,羽口,鋳型	(SS25)本跡→CP8・15
18	U52g2	N－88°－E	〔不整楕円形〕	0.64 × 0.40	25	外傾	皿状	人為	土師器片	(SS26)本跡→CP2

表11　不明遺構一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)	備考 時代
1	U50j6	N－6°－E	不定形	6.12 ×(4.84)	7～16	外傾	平坦	自然	土師器	SB3→本跡→SD1	不明
2	V50c7	N－25°－W	不定形	5.84 ×(2.58)	10～18	外傾	平坦	自然	－	本跡→SD1	不明
3	U47a6	N－85°－W	隅丸長方形	(7.07)× 4.40	8～35	外傾	平坦	人為	土師器,須恵器,土師質土器,陶器		9世紀中葉以前
4	T46i9	N－87°－E	不定形	4.24 × 2.48	7～20	外傾	平坦	自然	縄文土器,土師器,須恵器,土師質土器,陶器,炉壁	本跡→SD16	不明
5	T46d3	N－23°－E	不定形	(2.87)× 1.87	17～36	緩斜	平坦	人為	－		不明

表12　円形周溝状遺構一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径(軸)×短径(軸)	規模 深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考(旧遺構番号)・新旧関係(古→新)	時代
1	S43e0	N－47°－E	円形	6.00 × 5.00	14～20	外傾	平坦	人為	土師器,須恵器	(SX6),本跡→SB6・SK291・297	8世紀後葉以前

第4節　まとめ

当遺跡の調査は，平成14年4月から平成15年3月にかけて実施された，今回は，そのうちの平成14年4月から10月の調査で確認された竪穴住居跡106軒，方形竪穴遺構18軒，掘立柱建物跡13棟，土坑368基，井戸跡17基，墓壙50基，溝跡22条，地下式壙1基，円形周溝状遺構1基，炉跡8基，鋳造関連土坑19基，排滓場2か所などの報告である。

これまでの調査結果から，古墳時代前期，奈良・平安時代に断続的に集落が形成され，中世には鉄生産に関わる鋳造が行われ，近世には墓域として使用されていた複合遺跡であることが判明している。ここでは，確認された古墳時代，奈良・平安時代，中世の鋳造関連遺構を中心に概要を述べ，まとめとしたい。

1　縄文・弥生時代

縄文時代の遺構と遺物については，中期から後期にかけての縄文土器片や石鏃，磨石，敲石などの石器類が中央2区中央部以東を中心に出土している。耕作による撹乱などで出土したものがほとんどであり，陥し穴の可能性のある第419号土坑が1基だけ確認されていることから，狩り場であった可能性がある。また，弥生時代の遺物は，土器片が東区及び中央2区東部を中心に出土しているが，遺構は確認できなかった。

2　古墳時代

当遺跡は古墳時代前期になって，集落が営まれはじめた。古墳時代前期（Ⅰ期）の遺構としては，住居跡13軒，土坑1基，中期（Ⅱ期）の遺構として住居跡1軒が確認されている。遺構の形態や土器の特徴から下記の2期に区分することができる。

Ⅰ期（4世紀前半）

当該期の竪穴住居は13軒で，調査区中央部から東部の台地の平坦部に分布している。長軸が7mを超える大形の住居跡は，第53号住居跡だけである。長軸が4m～7mの中型の住居跡は9軒で，長軸が3m以下の小形の住居跡は3軒である。集落構造について考えると，住居の配置から3つの単位集団があったと推定される。中央区埋没谷の東側には，中形の住居跡6軒，小形の住居跡1軒が検出され，住居の規模の差はあまり見られない。それに対し西側では，大形の第53号住居跡の周辺に中形の住居跡3軒，小形の住居跡2軒が位置し，住居の規模の差が比較的はっきりしている傾向がある。さらに埋没谷の中心から西へ約100m離れると古墳時代の住居跡は見られなくなる。これについては古墳時代の住居跡が最寄りの湧水点から150mの範囲内に位置しているというひたちなか市武田石高遺跡における集落の立地と共通する傾向が指摘できる[1)]。さらに調査区の西寄りに1軒だけ離れて位置する第110号住居跡は，西側の別の集落に含まれる住居跡と推定される。

内部施設については，主柱穴，炉，貯蔵穴を有するもの（第1・8・24・53・110号住居跡），主柱穴と貯蔵穴を有するもの（第11号住居跡），主柱穴を有せず，炉，貯蔵穴などを有するもの（第5・23・60・62号住居跡），主柱穴を有せず，ピットだけを有するもの（第54・95号住居跡），その他（第92号住居跡）に区別することができる。炉はすべて床面を掘りくぼめた地床炉で，基本的に1か所である。炉の位置は中央部から北寄りに偏っている。貯蔵穴の位置は，南東コーナー部に設けられている例が多い。貯蔵穴の平面形は円形あるいは楕円形を基本とし，深さや覆土の様相には若干の差異が見られる。第24号住居跡の貯蔵穴だけ北東コーナー部に設けられている。また，この住居跡の炉からは直方体状の粘土塊が検出されており，炉石の

第361図　竪穴住居変遷図(1)

代用として使用されたと考えられる。また，第110号住居跡の炉の南側からは泥岩を利用した炉石が出土している。古墳時代前期の13軒のうち，この2軒だけが炉石を付設している住居跡である。

出土遺物では土師器に，坏・高坏・器台・坩・壺・甕・台付甕・甑・手捏土器・ミニチュア土器と多くの器種が認められる。破片を含めた出土点数では，壺・甕が圧倒的に多く，高坏，器台がそれに次いでいる。坏，甑はわずかである。器種により出土地点に目立った傾向は見られないが，壺・甕は貯蔵穴やその周辺から出土する例が比較的多い。高坏は坏部が大きく開き，脚部に孔を有し，ラッパ状に開く特徴を持つ東海系のものが出土している。器台には受け部が丸味を持つもの以外に，直線的なものや端部をつまみ上げたものなどがあり，種類が豊富である。この高坏と器台は薄手で，丁寧な磨きや赤彩が施されているものが多い。壺は口縁部の形態が単口縁のもの，折り返し口縁のもの，有段口縁のものなどが見られ，ハケ目整形後にナデや磨き調整がされている。甕はハケ目調整がほとんどであり，口縁部が単口縁で，頸部が「く」の字状を呈するものが多い。手捏土器は第8号住居跡で，貯蔵穴，炉，床面から1点ずつの計3点出土している。同時期の住居跡からは計6点出土しているが，その内3点がこの住居跡から出土している。

この時期の出土土器の特徴としては，外来系土器の影響が多く見られることである。第1号住居跡からは東海方面の高坏（元屋敷系）が，第5号住居跡からは口唇部に刻み目のある南武蔵方面の台付甕が波状口縁を持つ南関東方面の平底甕と共に出土している。さらに，第8号住居跡からは，細片ではあるが口縁部外面に輪積み痕を残す房総系平底甕が出土している。これらの遺物からは東海方面や，南関東方面など南からの影響をうかがうことができる[2]。また，西関東や北陸方面からの影響がうかがえる土器も出土している。第1号住居跡では，赤彩された3点の底部が突出した平底の小形鉢形土器が出土しており，これらは赤井戸系土器や吉ヶ谷系土器の系譜を引いている，県内では，結城市善長寺遺跡第20号住居跡などにも類例があり[4]，西関東方面の影響である。また，第9号掘立柱建物跡から出土した，混入したと考えられる装飾器台は受け部に三角形の透かしを持っており，北陸系のものと考えられる[5]。

Ⅱ期（5世紀前葉）

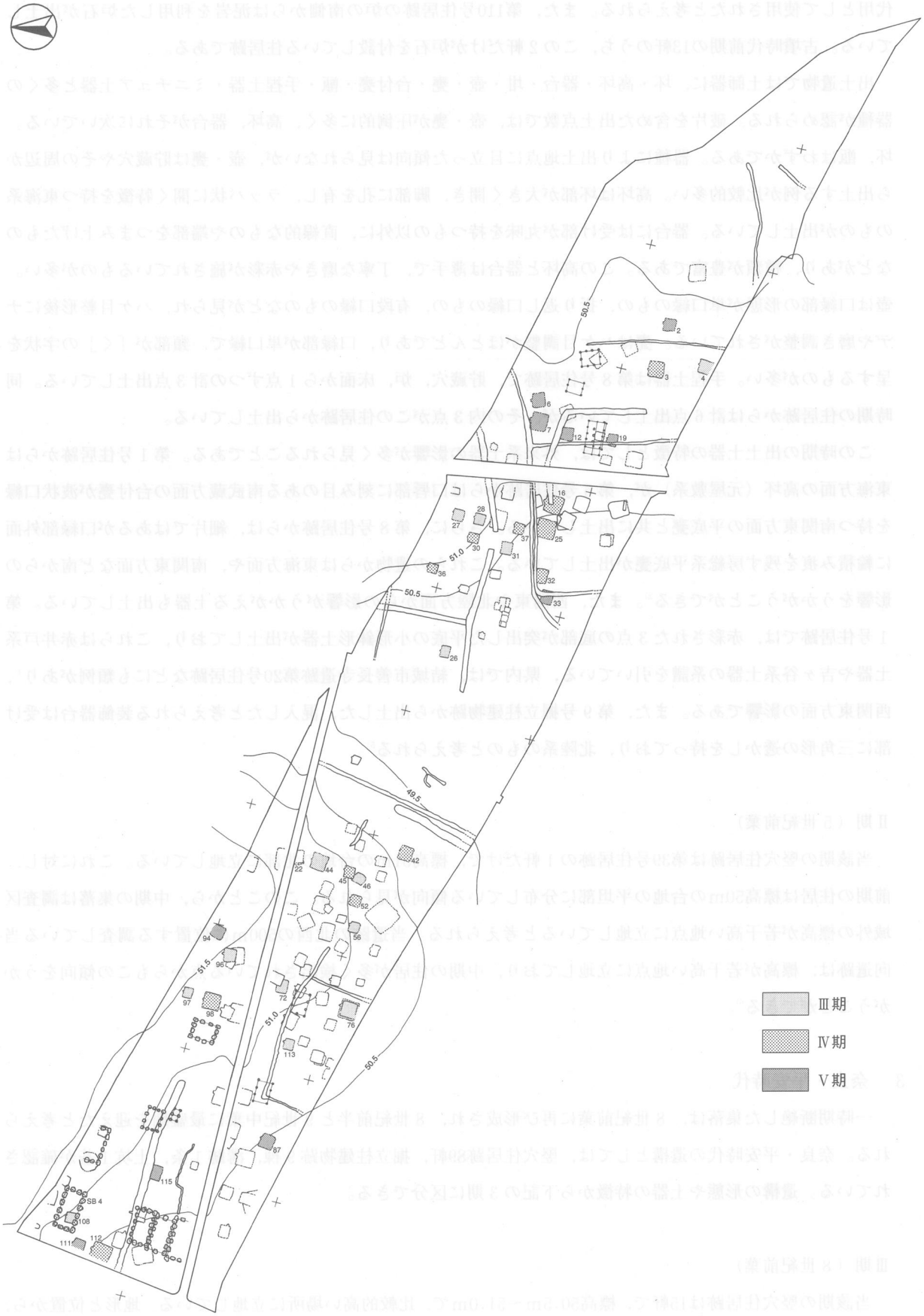
当該期の竪穴住居跡は第39号住居跡の1軒だけで，標高51mの台地の北部に立地している。これに対し，前期の住居は標高50mの台地の平坦部に分布している傾向が見られる。このことから，中期の集落は調査区域外の標高が若干高い地点に立地していると考えられる。当遺跡の北西の500mに位置する調査している当向遺跡は，標高が若干高い地点に立地しており，中期の住居が多く検出されている点からもこの傾向をうかがうことができる[6]。

3　奈良・平安時代

一時期断絶した集落は，8世紀前葉に再び形成され，8世紀前半と9世紀中葉に最盛期を迎えたと考えられる。奈良・平安時代の遺構としては，竪穴住居跡89軒，掘立柱建物跡9棟，溝跡1条，土坑1基が確認されている。遺構の形態や土器の特徴から下記の3期に区分できる。

Ⅲ期（8世紀前葉）

当該期の竪穴住居跡は15軒で，標高50.5m～51.0mで，比較的高い場所に立地している。地形と位置から，東区の第4号住居跡の1軒，中央2区東部の第26・27・28・37号住居跡の4軒，中央1区東部の第96・97・113号住居跡と中央2区中央部の第44・46・58・68・72・76号住居跡の9軒，中央1区西部の第108号住居跡



第362図　遺構変遷図(2)

の１軒で単位集団が形成されていたと考えられる，その村落内でも，中世に排滓場として利用されることになる東区東部と中央２区中央部は自然の谷部であり，遺構は谷部に挟まれた台地に集団が形成されていたと考えられる。谷部からは当該期の土器片が出土しており，水場として使用された可能性がある。住居跡は，規模が第４・72・76号住居跡を除いて，いずれも12.35㎡以下であり，主軸方向が北方向（N－１～10°－E・W）となっている。竈も北壁の中央部東寄りに付設されており，壁外への掘り込みもわずかで，袖部がロームを掘り残して，その上に粘土を貼り付けて構築されている。この竈の傾向はⅣ期まで継続されている。また，主柱穴が４か所が確認できたものはわずか２軒であるのに対して，出入り口施設に伴うピットが付設されている住居が８軒で半数を占めている。出土遺物では底部外面にヘラ記号（「キ」・「一」・「×」）で須恵器坏の施されており，出土している住居跡は第31・68・72・76・97号住居跡である。

Ⅳ期（８世紀中葉）

当該期の竪穴住居跡が16軒，掘立柱建物跡が１棟で，標高が東区で50.5m，中央１・２区で51.0～51.5mの平坦部に位置している。集落は東区の第３号住居跡と中央２区東部の第16・25・30・36号住居跡の５軒，中央部の第42・43・52・69・71号住居跡と中央１区の第98号住居跡の６軒，中央１区の第112号住居跡の１軒でそれぞれ単位集団が形成されていたと考えられる。また，このころから掘立柱建物跡が作られ始められ，９世紀中葉まで続くが，住居跡との重複関係は少なく，掘立柱建物跡と住居跡の地区分けはされていたと考えられる。住居跡は規模が第16・25・69・98・112号住居跡は23.33～34.22㎡で，その周辺に2.28～14.13㎡の小形の住居跡が位置しており，大形の住居跡が集団の有力者の住居であった可能性がある。主軸方向は北方向（N－０～11°－E・W）であり，竈がⅢ期では北壁中央部の東寄りの付設されていたのに対して，当期はわずかに２軒だけで，他は北壁中央部に付設されている。主柱穴が４か所が確認できたものは５軒と増え，出入り口施設に伴うピットを有するものは９軒と半数を占めている。

出土遺物ではヘラ記号のある土器は６軒（第16・25・45・52・98・112号住居跡）から「一」・「×」の２種類で９点，篦書き文字のある土器は２軒（第25・42号住居跡）から「川」・「廿」の２種類で４点が確認されている。墨書土器は第71号住居跡の１軒から４点出土しており，須恵器坏体部に「道」と墨書されたもの以外は，判読不能である。また，第42号住居跡からは須恵器盤・坏の転用硯が２点と朱墨痕のある須恵器盤，第45・98・112号住居跡からは円面硯が各１点出土している。こうした遺物などから，東区及び中央２区東部に広がる集団と中央２区中央部及び中央１区に広がる集団とは性格が異なり，中央１区と中央２区中央部に広がる集団は大形の掘立柱建物跡もあり，新治郡衙と関わりがあったのではないかと考えられる。

Ⅴ期（８世紀後葉）

当該期の竪穴住居跡が11軒，掘立柱建物跡が１棟で，標高が51.0mの平坦部に位置している。集落は東区の第２・６・12・19号住居跡と中央２区東部の第33号住居跡の６軒，中央２区西部の第87号住居跡と中央１区の第94・111・115号住居跡の４軒が第８号掘立柱建物跡の周辺に散在して，集団が形成されていたと考えられる。前期までは中央２区中央部に集中していたのに対して，この時期になって，周辺への広がりが見られるようになる。遺構の住居跡は9.05～29.33㎡と規模の差が大きく，主軸方向も北方向（N－10°－W～N－17°－E）で，ばらつきがみられた。竈の位置は北壁中央部東寄りに付設されているのが第87号住居跡だけで，これ以降の時期では確認されていない。主柱穴が４か所ある住居跡はなく，出入り口施設に伴うピットは第６・19・33号住居跡を除いて，他の住居では確認されている。

出土土器ではヘラ記号のある土器は3軒（第7・12・87号住居跡）から「カ」「キ」・「×」・「一」・「＝」の5種類，7点が確認されている。箆書き文字のある土器は1軒（第12号住居跡）から「上」の1種類1点で，須恵器坏の底部内面で確認されている。墨書土器が出土しているのは第87号住居跡（「坂□」；土師器甕体部）と，判読不能の墨書土器が出土している第7号住居跡の2軒だけである。そのほか，第7号住居跡からは朱墨痕のある須恵器蓋や重ね焼きの際他の土器が付着した須恵器蓋が出土し，隣接する第12号住居跡からは須恵器盤の転用硯が出土している。墨書土器・刻書・ヘラ記号が東区への広がりが見られる。

Ⅵ期（9世紀前葉）

当該期は竪穴住居跡が10軒と掘立柱建物跡が4棟である。標高は50.5～51.0mの範囲に位置している。掘立柱建物跡は最も多く建てられた時期である。東区は10・20号住居跡の2軒，中央2区東部の第17号住居跡の1軒，中央2区中央部の第41・49・74号住居跡と中央2区西部の第88号住居跡と中央1区の第102・104・109号住居跡の7軒で，それぞれ集団を形成していたと考えられる。当該期以降東区・中央2区東部で確認される住居跡は7軒となり，集落の範囲が縮小していく傾向にある。規模は第20・41号住居跡を除いて12.53～28.35㎡となり，Ⅴ期よりも規模差は縮小の傾向にある。主軸方向は北方向であるがやや東向きの傾向（N－7°－W～N－14°－E）が見られる。竈の位置は東壁に付設されている住居跡（第109号住居跡）が1軒，北壁の中央部東寄りに付設されている住居が1軒（第49号住居跡）である。主柱穴が4か所が揃うのは2軒，出入り口施設に伴うピットがあるのは3軒で，両方が揃っているのは2軒と非常に少ない。Ⅴ期で東側には集落の広がりが見られなかったが，再び中央2区中央部と中央1・2区西部に広がる傾向にあり，当該期の住居跡の5軒がそこに位置している。さらに，第104・109号住居跡にいたっては掘立柱建物跡群の内側に位置している。

出土遺物では，今回の調査では火襷が認められる須恵器が4点のうち2点が当該期の住居跡から出土し，ヘラ記号のある土器は第49号住居跡から「一」の1種類1点のみである。箆書き文字のある土器はヘラ記号と同じ第49号住居跡から「廿」の1種類1点で出土しており，ヘラ記号・箆書きが認められるようになってからでは最も数の少ない時期と考えられる。それに対して墨書土器の増加し，記される文字や土器の種類にも変化が見られる。墨書土器は5軒の住居跡（第17・20・49・88・109号住居跡）から「大□」・「一」・「万年□」・「生」「八俣」・「巨または臣」・「□南」などを含めて12点で，須恵器坏・皿・盤，土師器皿・高台付坏に認められ，器種も多様化している。3軒の住居跡から転用硯3点（第74・88・102号住居跡），1軒の住居跡から円面硯1点（第102号住居跡）が出土している。住居跡は多くないが，出土遺物などから見て，集落が栄えた時期と考えられる。その他の遺物では，第88号住居跡からはほぼ完形で漆付着の須恵器坏(266)・高台付坏（276）が出土している。高台付坏は大形で，底部中央部が外面から穿孔された痕跡がある。前述のようにこの住居からは多くの墨書土器が出土し，円面硯や転用硯も出土しているので，漆掻き職人の住居などではなく，漆の流通・消費に関わる人物の住居跡であった可能性がある。

Ⅶ期（9世紀中葉）

当該期は竪穴住居跡が18軒と掘立柱建物跡が2棟である。今回の調査では最も多い住居跡数で，標高51.0mの台地に位置している。中央2区東部の第15号住居跡を除いて，7軒の住居跡は中央2区中央部から中央1区西部にかけて平均的に散在している。前期に比べさらに西に移り，集落の範囲が縮小する一方で，住居跡数の増加が見られ，集住化傾向が見られる。規模では第15・63・77・100号住居跡は14.98～23.81㎡とそ

第363図　遺構変遷図(3)

の他は5.02～12.59㎡と規模の二極化が見られる。主軸方向は真北からわずかに西に振れる住居跡（N－4・5°－W）が2軒で，北から東に振れる幅が大きく（N－3°～93°－E）なっている。東壁に竈が付設された住居跡は今回の調査で5軒が確認され，3軒が当該期である。主柱穴が4か所確認されている住居跡はなく，出入り口施設に伴うピットが確認されているのも4軒（第15・63・77・86号住居跡）だけで，規模の縮小化・施設の簡素化が進む傾向にある。出土遺物では朱墨痕のある須恵器高台付坏が第65号住居跡から出土している。ヘラ記号のある土器は第65号住居跡から「×」の1種類1点，刻書のある土器は第77号住居跡から「廿一」の1種類1点出土している。墨書土器は第50・56・65号住居跡の3軒から3点出土，一般的には墨書は坏や高台付坏に見られるのに対して，2点が土師器甕に書かれていたのは珍しい。また，硯としては転用硯がほとんとで，第91・103号住居跡から3点で，円面硯は第91号住居跡から1点だけである。住居跡数の増加に反して墨書及びそれに関係する遺物が減少していることから，集落の質的変化があったと考えられる。それは，社会の変化つまり弘仁8年の新治郡衙の火災で，郡衙の勢力低下に伴い，中央勢力の庇護を受けていた集落や郡衙関連からの流入により一時期は増加したものの，在地勢力に押される方で他へ移動したかあるいは在地勢力に組み込まれていったことが推測される。

Ⅷ期（9世紀後葉）

当該期は竪穴住居跡が，中央2区東部の第13号住居跡の1軒で，Ⅶ期では見られなくなった東区及び中央2区東部で確認された。その一方でⅥ期からⅦ期に増加した住居跡数が，当該期になり急激な減少傾向を示している。規模は11.04㎡で，主軸方向が北方向（N－7°－W）であり，主柱穴及び出入り口施設に伴うピットも確認できず，北壁中央部東寄りに付設された竈も簡易な作りである。当該期は，Ⅶ期までとは，あきらかに集落が変質し，郡衙または中央との関係を持った集落から，在地勢力に組み込まれた，性格の異なった集落になったといえる。

以上，Ⅲ期からⅧ期の奈良・平安時代は，集落規模の拡大と縮小を繰り返し，最盛期が東区まで広がったⅣ期で，終焉期がⅦ期であったと考えられる。当遺跡では遺構は古墳時代後期の住居跡などは確認されていないことから，奈良時代になって，計画的に集落が形成されたと思われる。さらに近くには新治郡衙が位置していることから，それらの施設との関連も推測される。

4　中世

中世の遺構は，方形竪穴遺跡13軒，掘立柱建物跡1棟，井戸跡4基，土坑1基，溝跡12条，地下式壙1基，鋳造関連遺構の炉跡9基，鋳造関連土坑17基，排滓場2か所が確認されている。以下，遺構について，項目を立て記述する。

(1)　溝跡

溝跡は深さの差はあるものの，すべて断面逆台形をしている。第7号溝跡は中央部2区東部に地山を掘り残した土橋があり，東側は東区から調査区域外へ延びており，西は中央2区中央部の第2排滓場までは確認されている。深さが1mを超え，形状が類似しているのは第11・12号溝跡は，方形状に巡る可能性がある。それらは防御的性格を有し，大きさから居館などの小区画のための溝の可能性が考えられる。北側が施設の内側，南側が外側となり，土橋がその出入り口として使用されたと考えられる。しかし第1・3・5・6・9・10・17・19・20号溝跡があり，それほど深くないことから区画溝と考えられる。これらの区画溝の南側には工房跡と推定される方形竪穴遺構，掘立柱建物跡，井戸跡などが確認され，差ほど深くな

く，内部に工房もあることから，火除け的な意味合いをもっていた可能性がある。中央２区中央部では，第17・19・20号溝跡に南側だけから鉄滓や炉壁片が出土することが多いことから区画内に工房があったと考えられる。中央２区東部では，深い溝と浅い溝との狭間に，第２・５・10～18号方形竪穴遺構が一直線に並んでおり，その周辺に付設されていた溶解炉の炉壁の破壊されたものが，第７号溝跡に投棄されたと推定していることは本文でもふれたとおりである。この周辺では鋳造関連遺構が多く確認されており，それについては後述する。そのほかに地下式壙は１基が中央２区西部で確認されているが，他遺跡の調査例から単独で存在することは考えにくく，調査区域外に広がっていた可能性がある。

(2) 鋳造関連遺構

東区の第１号鋳造関連遺構群は炉跡８基，鋳造関連土坑18基，中央２区東部の第２・３・10～18号方形竪穴遺構で構成される。第２号方形竪穴遺構は斜面部にあり，方形の掘り込みに，東壁が大きく三角形に掘り込まれている。中央部床面には炉と推測されるくぼみがあり，東壁を除く３方の壁面から鉄滓が出土しているが，具体的に何を作っていたのかは不明である。中央部の炉は規模から梵鐘のような大きなものではなく，小形のものも作られた可能性が考えられる。第３号方形竪穴遺構からは良好な鉄鍋の鋳型，Ｓ字状の鉄鍋の把手，炉壁片などが出土していることから，鋳型から鍋を取り外し，把手などを取り付けた場所ではないかと考えられる。第10～18号方形竪穴遺構は遺物の遺存が土壌の取り上げた結果，砂鉄や製錬滓が出土していることから，製鉄も行われていた可能性がある。しかし，遺構としては確認できなかった。

当遺跡周辺では，西にある当向遺跡で鋳造の仏像の鋳型が出土し，また鉄滓などが出土していることから，鉄生産に関わる遺構があったと考えられている。また，東にある辰海道遺跡では10世紀の鍛冶工房跡が確認されている。この周辺には金山，金谷，金井前など，「金」のつく字が多く，古代から中世にかけて製鉄・鍛冶・鋳造などの鉄生産との関わりが非常に深い地域であると考えられる。

(3) 鋳造関連遺物

ア　鋳型

出土している鋳型の種類は，鍋，磬と蓮弁文状のものが確認されている。第２号方形竪穴遺構から出土したDP７は良好の鍋の鋳型（外型）で，中央部がトレンチャーによる撹乱を受けているが，その部分を除いて，鋳型（外型）はほぼ完形である。第７号溝跡及び第２排滓場からは外型の細片が多く確認されているが，中型と確認できるものは少なく，外・中型とも粘土塊としたものの中にも両面剥離した鋳型の細片が含まれている可能性がある。鋳型は内面が暗青灰色をした蝋状のものを塗り，その外側に薄く砂粒を混ぜた粘土で，さらに外面にはスサなどを含む粘土で作られている点ではほぼ一致している。鋳型からみた鍋の形状は鍋Ｂあるいは鍋Ｃ[8]と推定される。

イ　炉壁

出土している炉壁片は，外面の粘土にはスサを多く含みで，半溶解状の鉄が付着している。実測可能なもので，推定される径は60cm～80cmである。遺構に伴って出土したものは少なく，実測可能なものは第７号溝跡や排滓場から出土している。

ウ　羽口

粘土にはわずかに砂粒が含まれる程度で，内・外面ともヘラ状工具によるナデが施されている。羽口と炉壁の接合する羽口受け部には半溶解状の鉄が付着し，内径は10cm～16cmの円形である。

エ　鉄滓

18
48
7
27
43
34
1
40
41
32
45
5
13
14
15
44
31
23
24
20
35
33
21
11
10
Ⅰ期
Ⅱ期
Ⅲ期
Ⅳ期
0
2 m

第364図　墓域変遷図

白色滓の出土数は多く，破片であり，鉄の含有量が少ないため重く，着磁性はない。炉内溶解物としたものは，炉壁に付着した半溶解鉄が破損したものや流動滓とは判断できなかったものなどを総称し，大形のものが多く，重量も大きい。銅滓は確認できなかったが，コバルト色滓や銅発色滓などがわずかではあるが出土している。炉壁片と同様，実測可能なものは遺構に伴ってなく，溝跡と排滓場や井戸跡から投棄された状態で出土しているのが多い。

オ　鉄鍋片

明らかに鉄鍋片と認定できるものは2点である。1点は第2号方形竪穴遺構から出土したM23で，内耳鍋の把手に類似したS字状のもので，その形状から鍋Cの把手と考えた。もう1点は第7号溝跡から出土している。口縁部片である。口縁端部は平坦な面をもち，T字状になっている。鉾田町の烟田遺跡[7]出土している鍋Bとは形状的には異なるが，長野県松本市中山千石遺跡から出土したものと類似している。近世の墓壙から鍋Bが出土しているが，形状も異なり，さらに，自然科学分析の結果，当遺跡で作られたものではなく，他の地域からもたらされたものであることが判明している。

5　近世

確認された墓壙50基。そのうち中央1区東部に47基が集中しており，非常に狭い空間が墓域として利用されていたことがわかる。また副葬銭が出土している墓壙が23基とほぼ半数を占めている。その銭の種類は寛永通寶（背文字に「文」のある新寛永銭，背文字の「文」のない新寛永銭，背文字に「足」のある寛永銭，古寛永銭），政和通寶，治平元寶，元豊通寶，紹興元寶，開元通寶，熙寧元寶，天禧通寶，永楽通寶，元祐通寶，淳化元寶など14種類である。このことから4期に区分することができる。Ⅰ期は明銭や北宋銭などの渡来銭のみの出土する時期，17世紀前葉以前。Ⅱ期は古寛永銭だけ，または渡来銭を含んでの出土する時期，17世紀中葉。Ⅲ期は新寛永銭だけ，またはそれに渡来銭や古寛永銭を含んでの出土する時期，17世紀後葉。Ⅳ期は新寛永で「足」「文」の背文字のあるものが出土する時期で，18世紀初頭となる。

また，埋葬方法も座葬と屈葬の2種類が確認でき，時期的な変化が見られる。Ⅰ期は第11・25号墓壙の2基が該当し，屈葬である。出土した古銭だけをみれば第15・24号墓壙も当該期に相当するが，重複関係から除外した。Ⅱ期は第27・29・30・33・34・40号墓壙の6基が該当し，屈葬4基，座葬2基である。主流は屈葬であるが，座葬が行われるようになり，座葬の1基に棺が使用されていると思われる。Ⅲ期は第5・10・13・18・20・23・24・28・31・32・36・41・44・45・48・50号墓壙の16基が該当し，屈葬6基，座葬10基と，屈葬と座葬の割合が逆転する。Ⅳ期は第7・14・21・43・46・47・49号墓壙の7基が該当し，屈葬1基，座葬6基で座葬が大部分を占めるようになる。

この周辺の土坑や井戸跡から五輪塔も出土しており，中世後半に石塔を有する墓域であった地域が近世になっても墓地が営まれたといえる。

註）

1）白石真理『武田石高遺跡　古墳時代編』㈶ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告　第17集　1999年

2）古墳時代研究班　「茨城の『S字状口縁台付甕』について（3）」『研究ノート』7号　㈶茨城県教育財団　1998年6月

3）日本考古学協会新潟大会実行委員会『東日本における古墳出現過程の再検討』　日本考古学協会　1993年10月

4）加藤雅美ほか「一般国道４号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書２（結城地区）本田遺跡，善長寺遺跡，小田林遺跡」『茨城県教育財団調査報告第51集』㈶茨城県教育財団　1989年３月

5）塩谷修ほか『土器が語る－関東古墳時代の黎明－』　古墳時代土器研究会　1998年５月

6）当向遺跡の調査報告書は茨城県教育財団から2004年３月に刊行予定である。

7）橋本勉・高橋杏二「鹿島線関係遺跡発掘調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告Ⅴ』㈶茨城県教育財団　1980年３月

8）五十川伸矢「古代・中世の鋳鉄鋳物」『国立歴史民俗博物館研究報告第46集』国立歴史民俗博物館　1992年12月

参考文献

・樫村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として」『研究ノート』５号　㈶茨城県教育財団　1996年６月

・甘粕健・春日真実　『東日本の古墳の出現』　山川出版社　1994年

・千葉県文化財センター「房総地方における前期古墳の展開」『千葉県文化財センター研究紀要21』㈶千葉県文化財センター　2000年

・赤熊浩二「金井遺跡Ｂ区」『埼玉県埋蔵文化財調査事業段報告書第146集』　㈶埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1994年10月

・村上伸二「金平遺跡Ⅱ　嵐山町平沢土地区画事業に伴う発掘調査報告書」『嵐山町遺跡調査会報告９』嵐山町教育委員会　2000年12月

・五十川伸矢「鍋釜の生産と供給」（『鋳物の技術史』）鋳物の科学技術史研究部会　1997年３月

・笹生衛「東国における中世墓地の諸相－房総の事例を中心に－」『研究紀要』16号　千葉県文化財センター　1995年３月

付　　章

金谷遺跡出土赤色塗彩土器塗彩断面の自然科学的調査 ……岩手県立博物館　赤沼英男　449

金谷遺跡出土鉄関連遺物からみた鉄関連遺物の組成とその意味 ……岩手県立博物館　赤沼英男　457

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

写　真　図　版

遺跡遠景

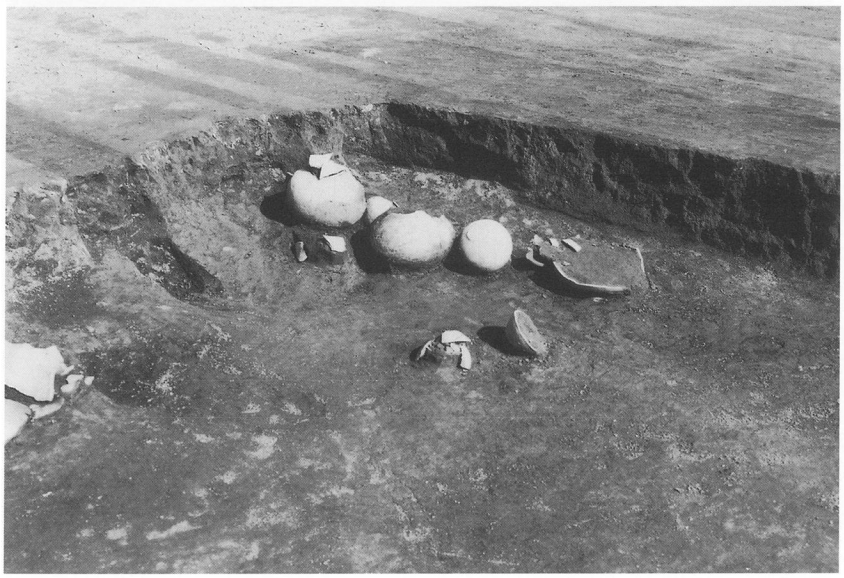
東区完掘全景

中央１区西部全景

PL 2

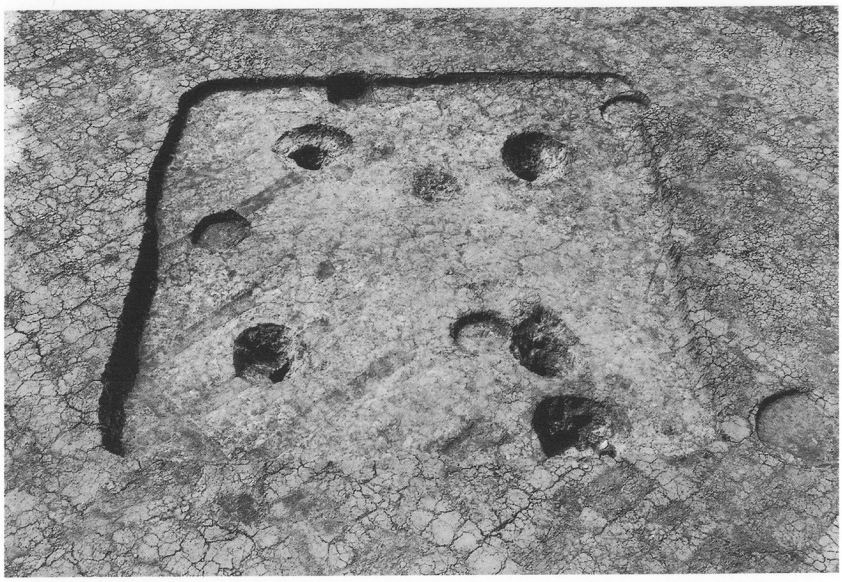
第１号住居跡
完 掘 状 況

第１号住居跡
遺物出土状況

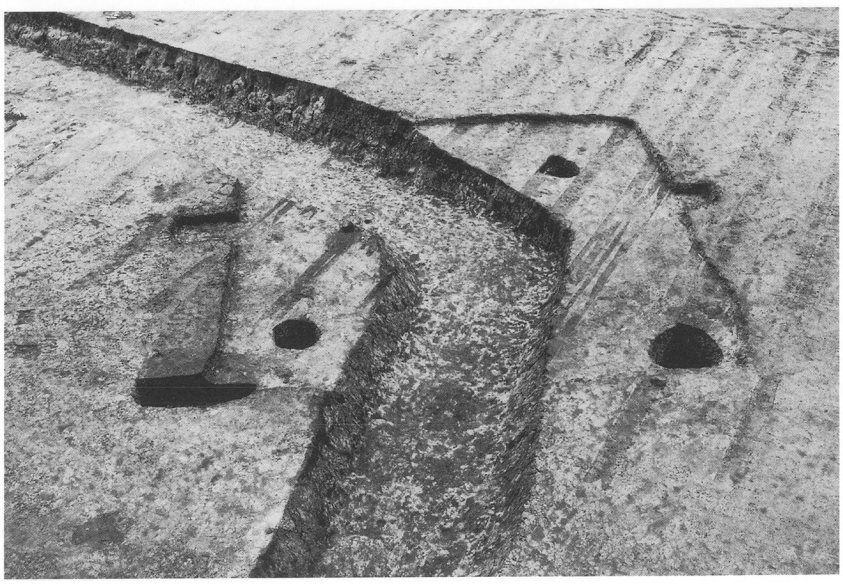


第１号住居跡
遺物出土状況

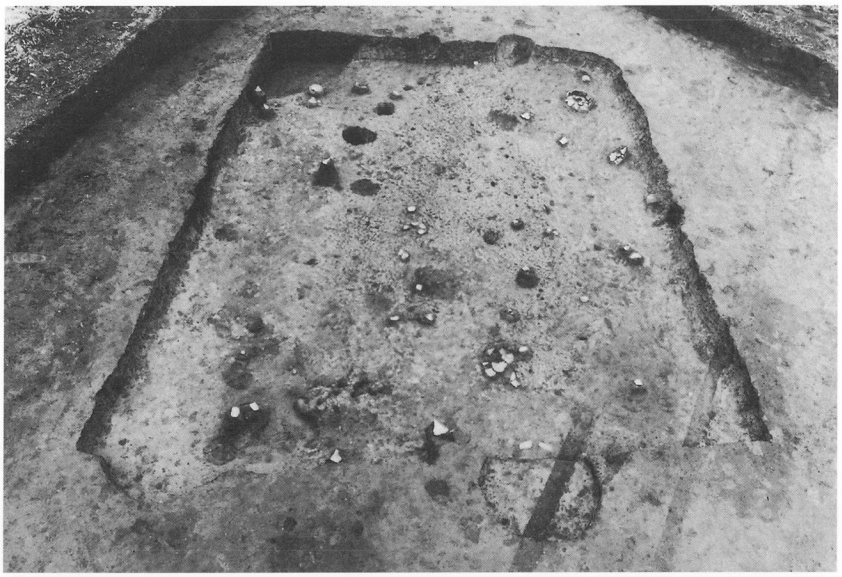
第１号住居跡
遺物出土状況



第８号住居跡
完 掘 状 況



第11号住居跡
完 掘 状 況

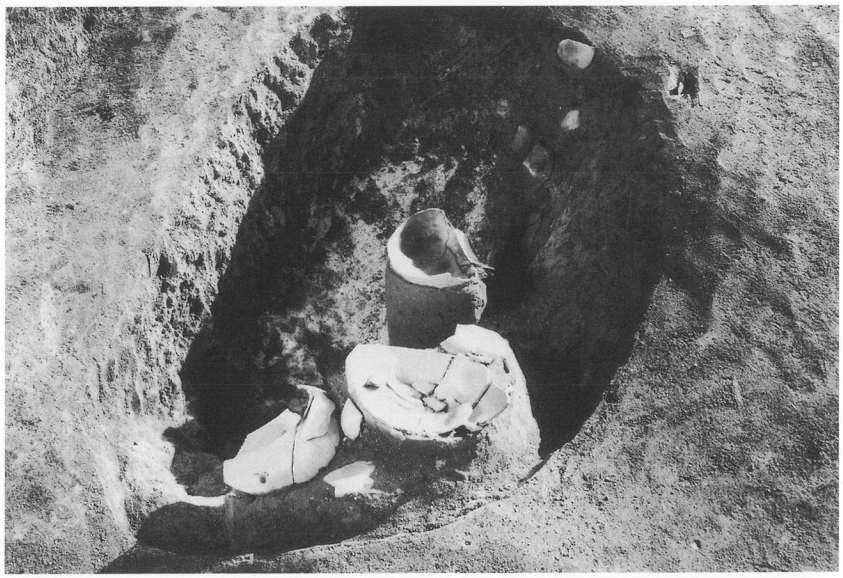


第24号住居跡
遺物出土状況

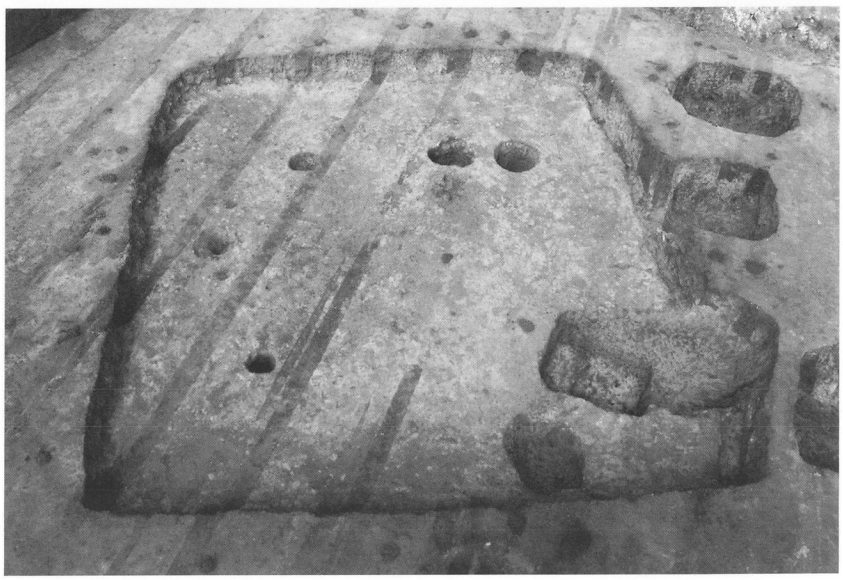
第24号住居跡
遺物出土状況

第39号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況

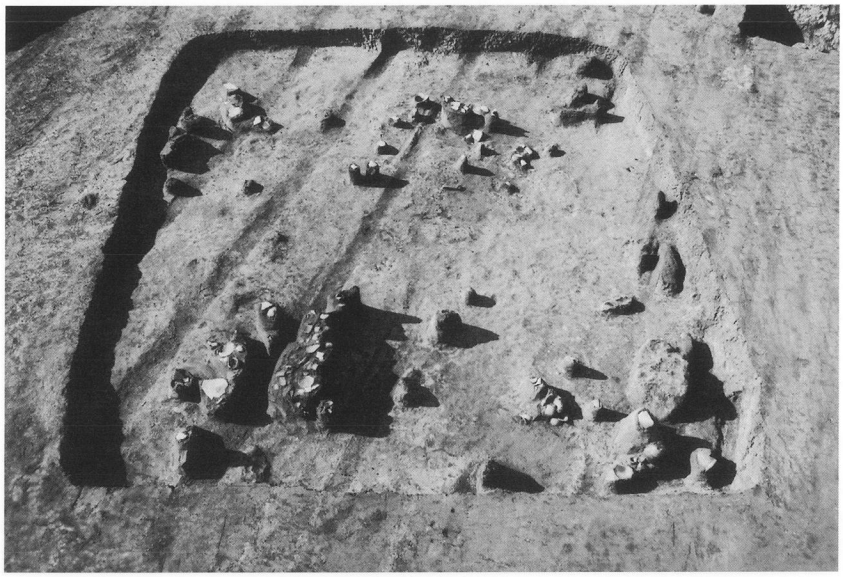
第53号住居跡
遺物出土状況



第53号住居跡
貯蔵穴遺物出土状況



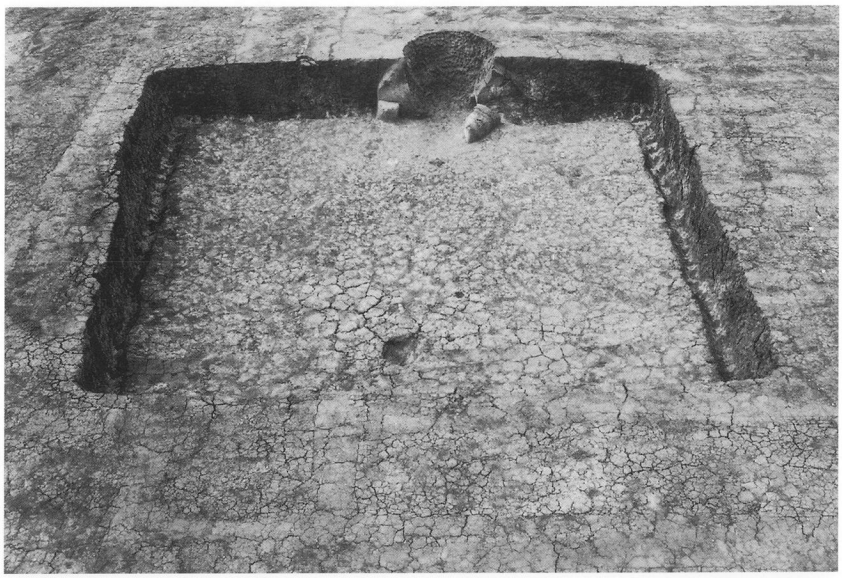
第110号住居跡
完掘状況



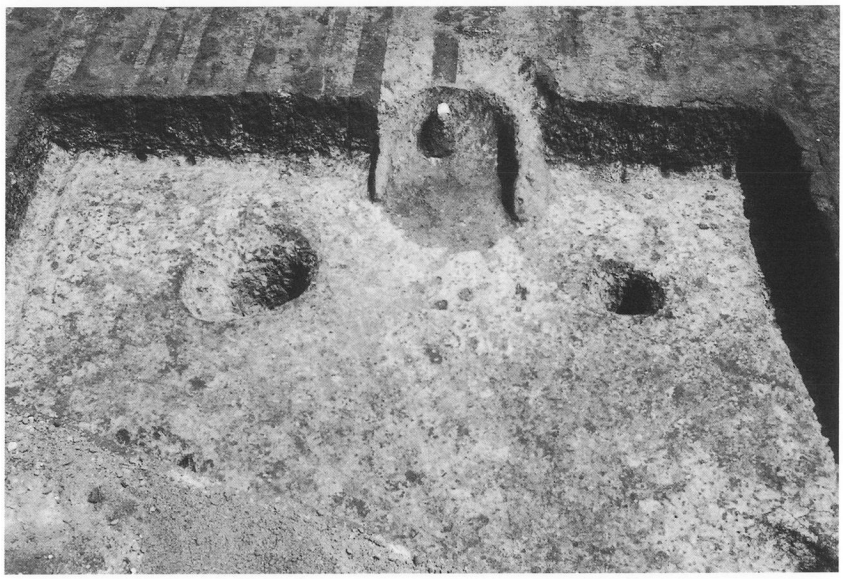
第110号住居跡
遺物出土状況

第110号住居跡
遺物出土状況

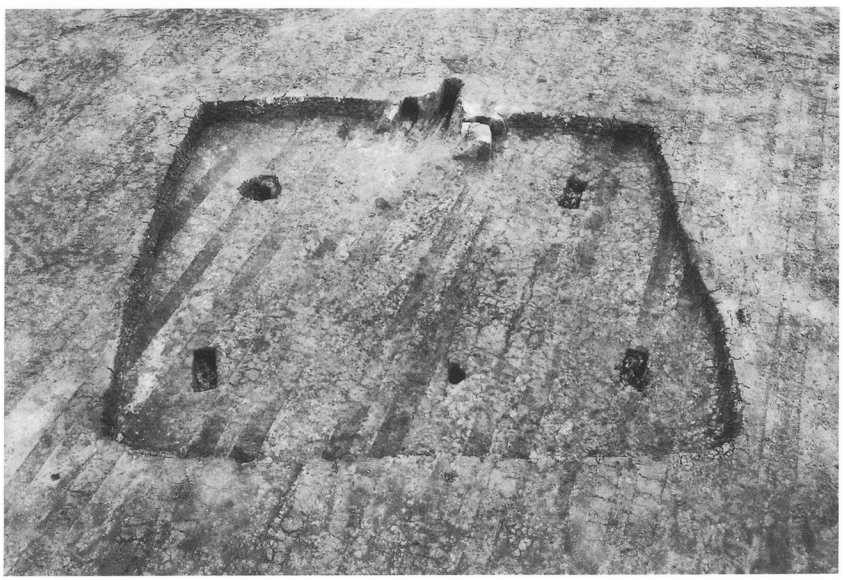
第417号土坑
遺物出土状況



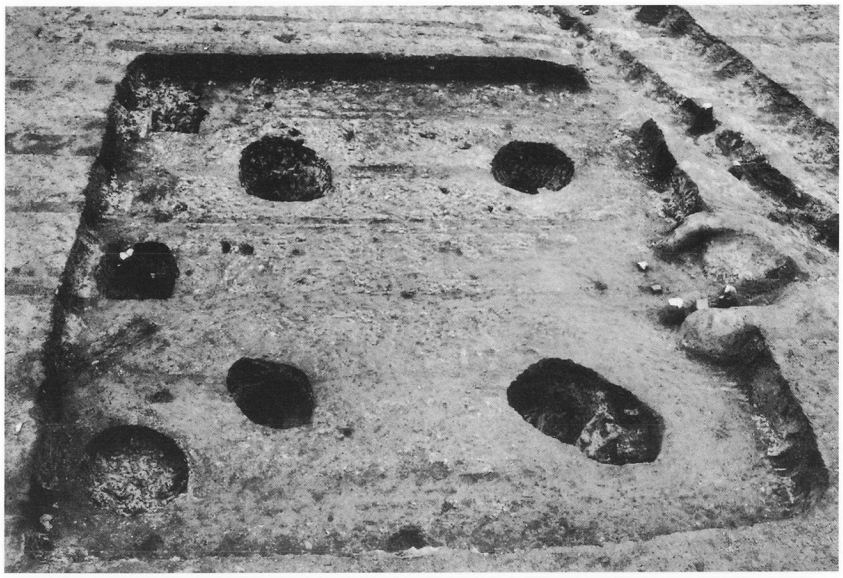
第 2 号住居跡
完 掘 状 況



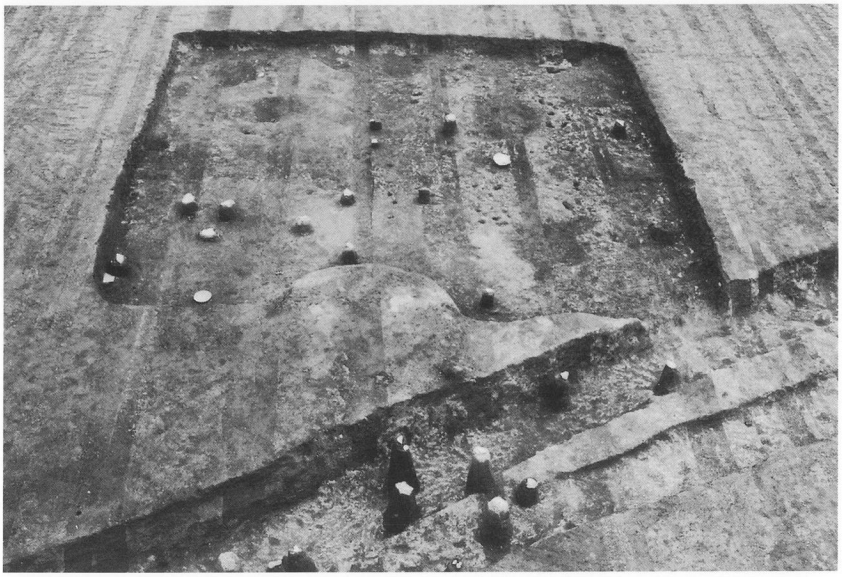
第 4 号住居跡
完 掘 状 況



第 6 号住居跡
完 掘 状 況



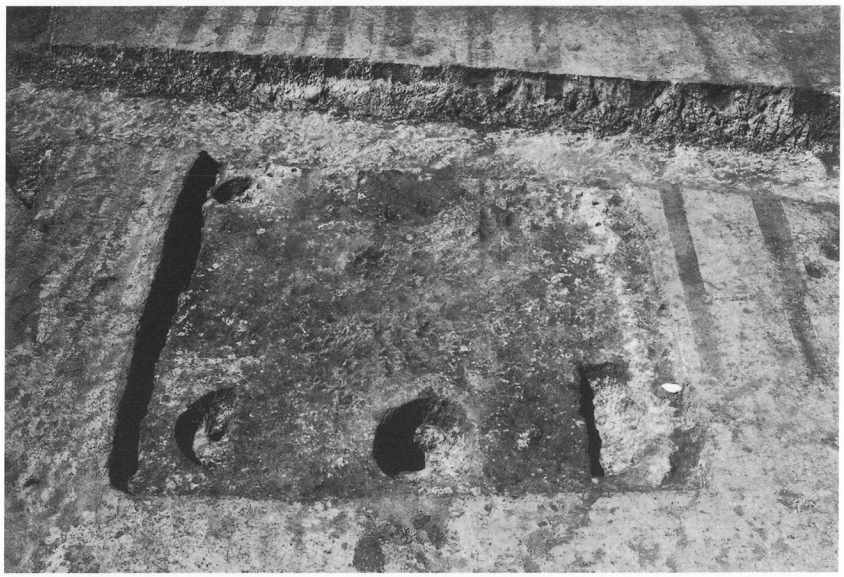
第７号住居跡
完 掘 状 況



第７号住居跡
遺物出土状況

第７号住居跡
竈遺物出土状況

第９号住居跡
完 掘 状 況



第12号住居跡
完 掘 状 況

第13号住居跡
完 掘 状 況

第16号住居跡
完 掘 状 況

第16号住居跡
遺物出土状況

第17号住居跡
完 掘 状 況

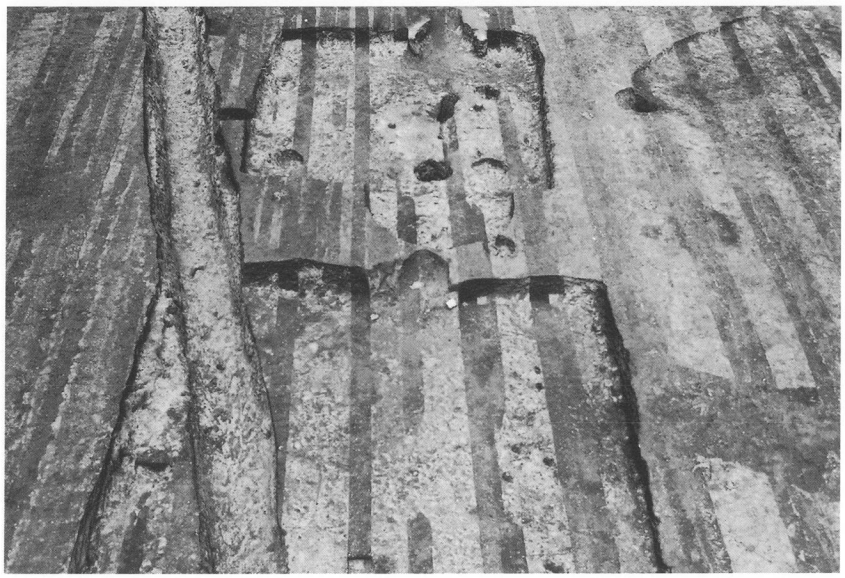
第17号住居跡
遺物出土状況

第17号住居跡
遺物出土状況

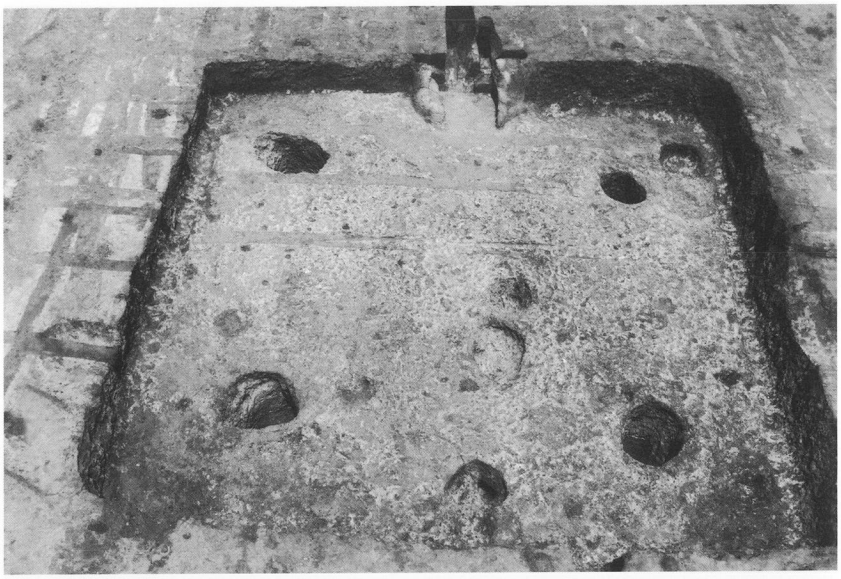
第17号住居跡
竈遺物出土状況

第17号住居跡
竈遺物出土状況

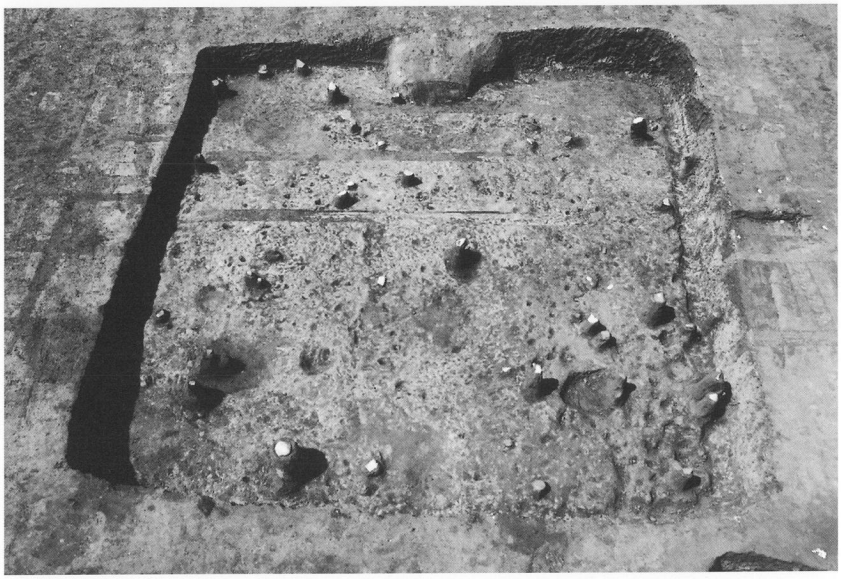
第19号住居跡
完 掘 状 況



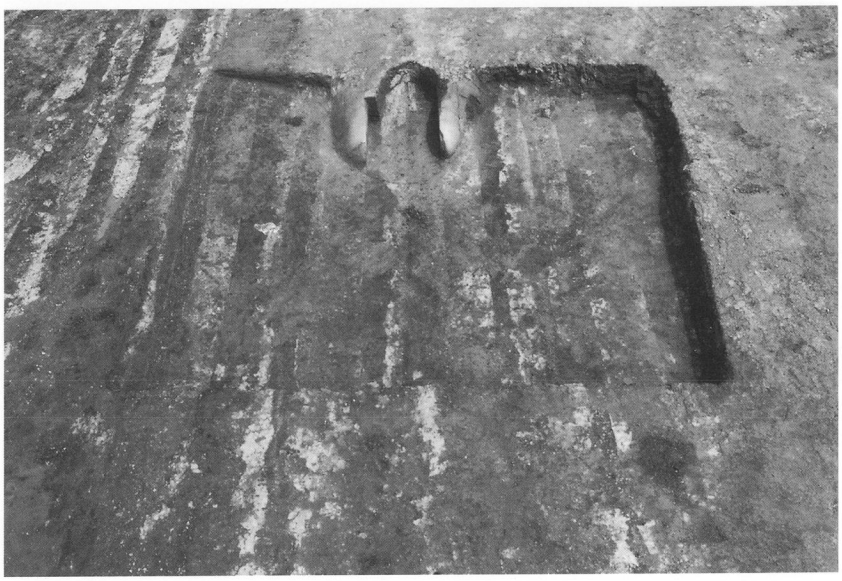
第19・20号住居跡
完 掘 状 況



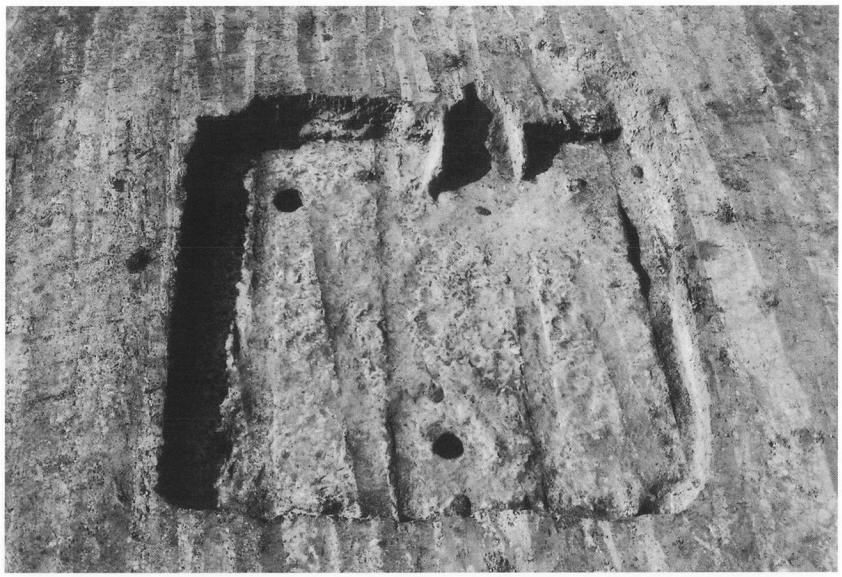
第25号住居跡
完 掘 状 況



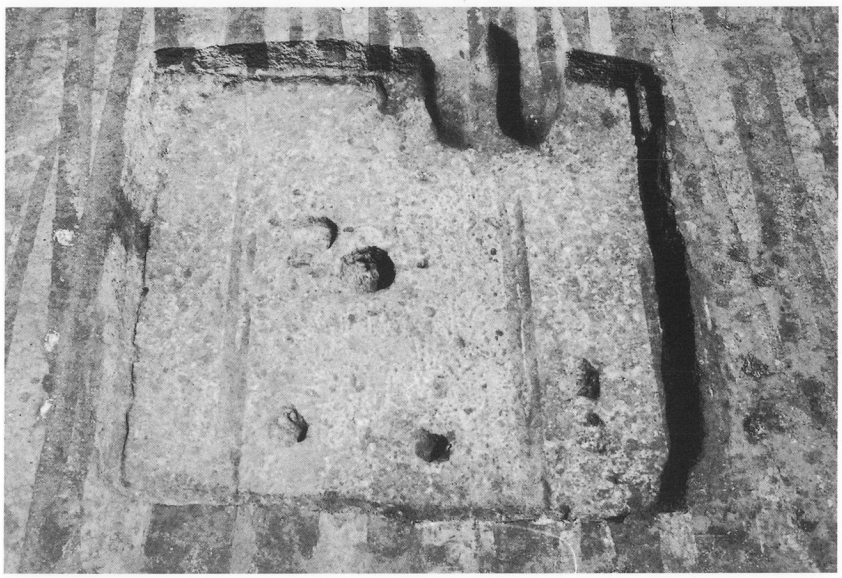
第25号住居跡
遺物出土状況



第26号住居跡
完 掘 状 況



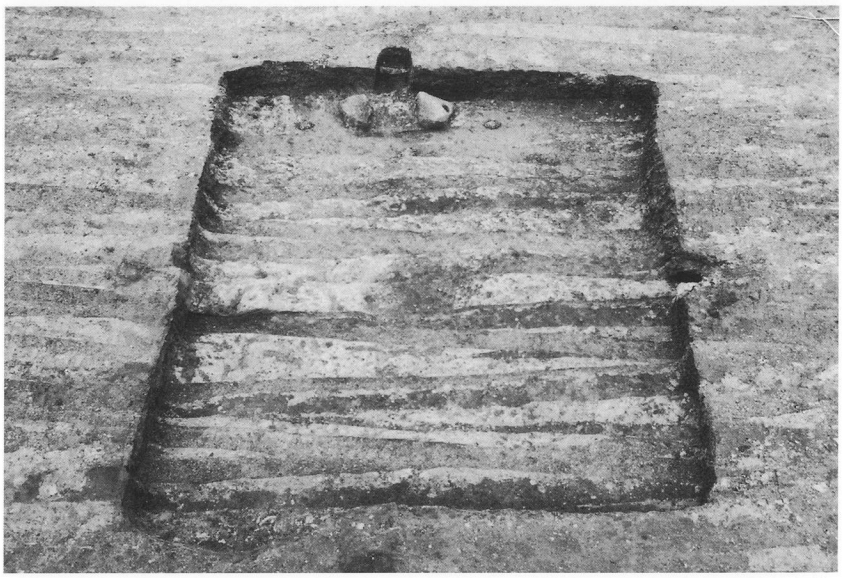
第27号住居跡
完 掘 状 況



第28号住居跡
完 掘 状 況

第28号住居跡
竈遺物出土状況

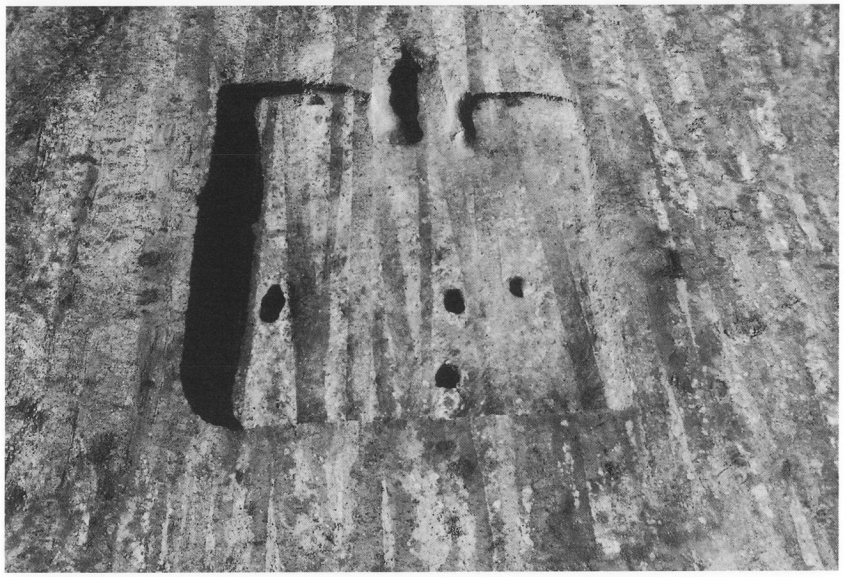
第30号住居跡
完 掘 状 況



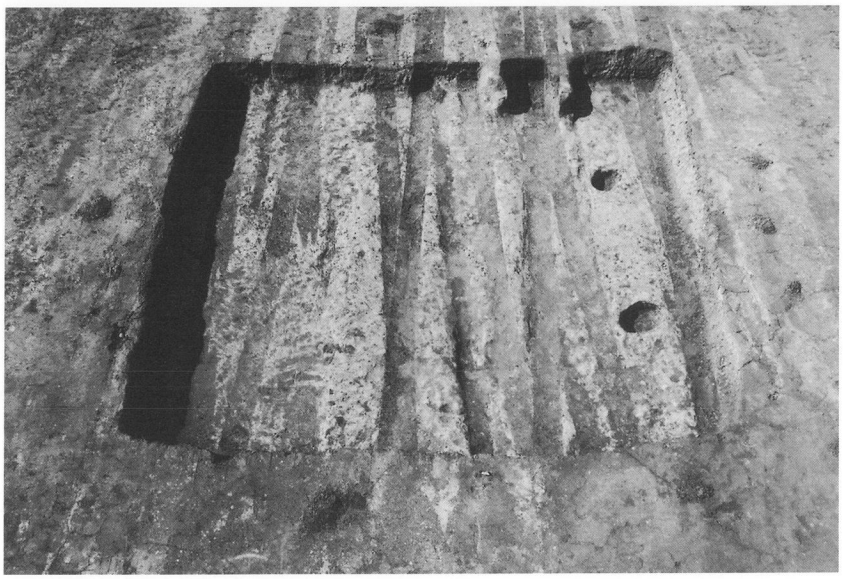
第31号住居跡
完 掘 状 況

第32号住居跡・第６号溝跡
遺 物 出 土 状 況

第33号住居跡
完 掘 状 況



第36号住居跡
完 掘 状 況

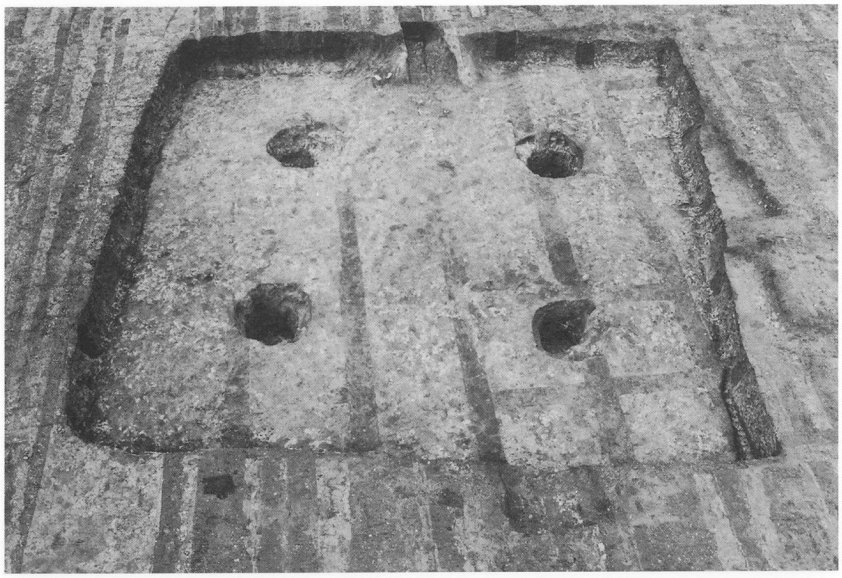


第37号住居跡
完 掘 状 況

第41号住居跡
遺物出土状況

第42号住居跡
遺物出土状況

第42号住居跡
遺物出土状況



第44号住居跡
完 掘 状 況

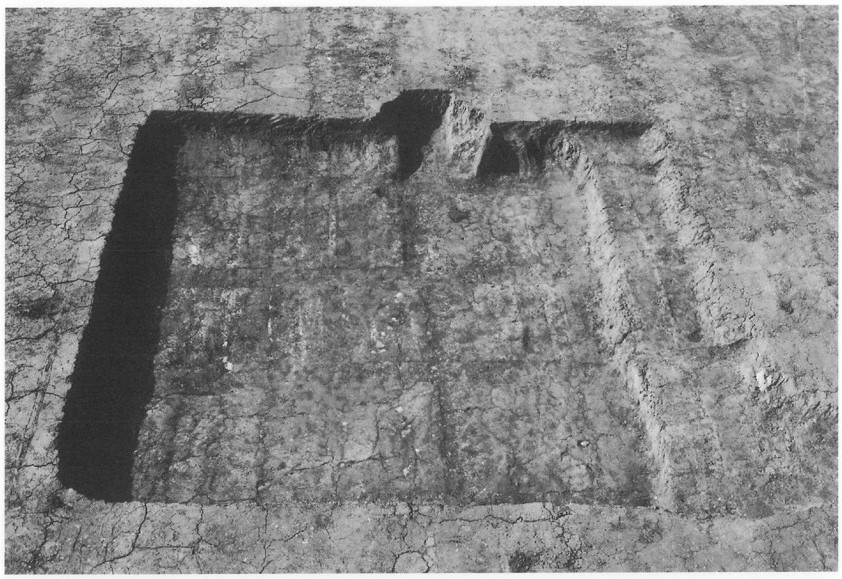
第45号住居跡
完 掘 状 況

第48号住居跡
完 掘 状 況

第49・50号住居跡
完　掘　状　況

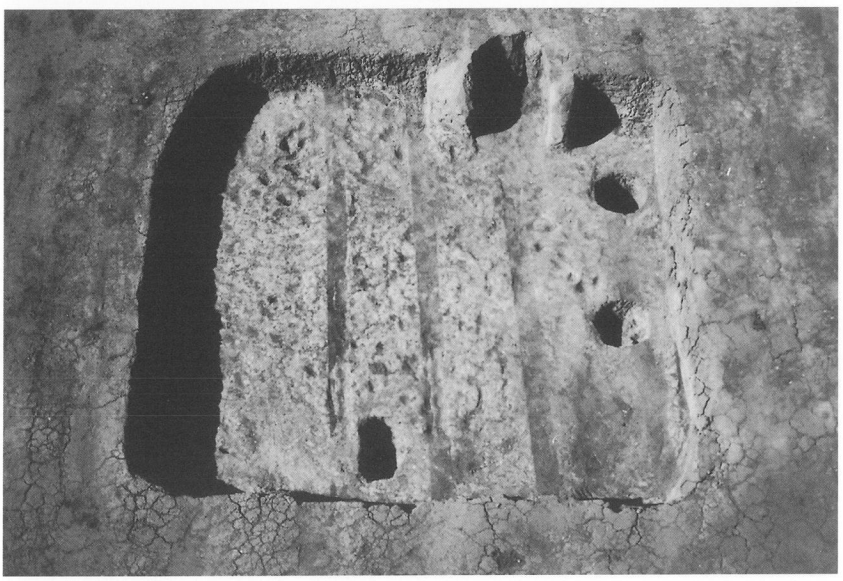
第49・50号住居跡
遺物出土状況

第49号住居跡
遺物出土状況

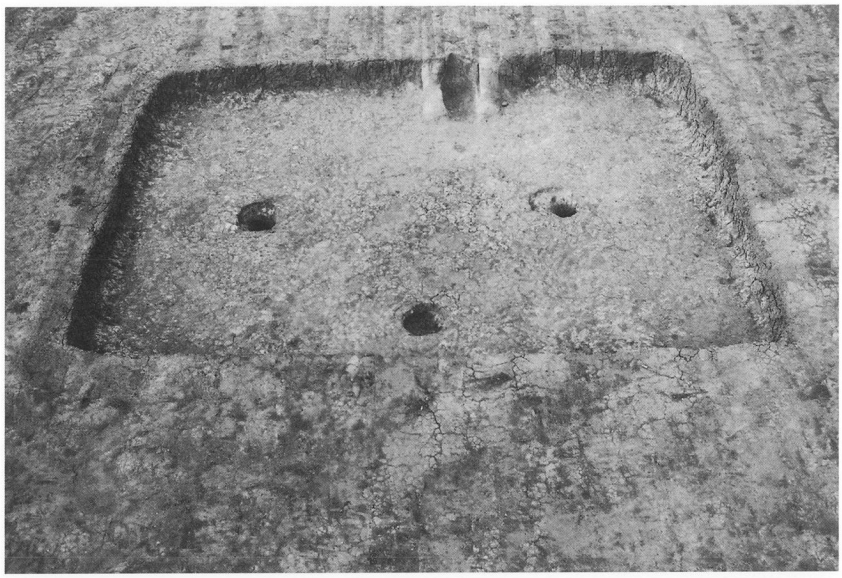


第51号住居跡
完 掘 状 況

第52号住居跡
完 掘 状 況

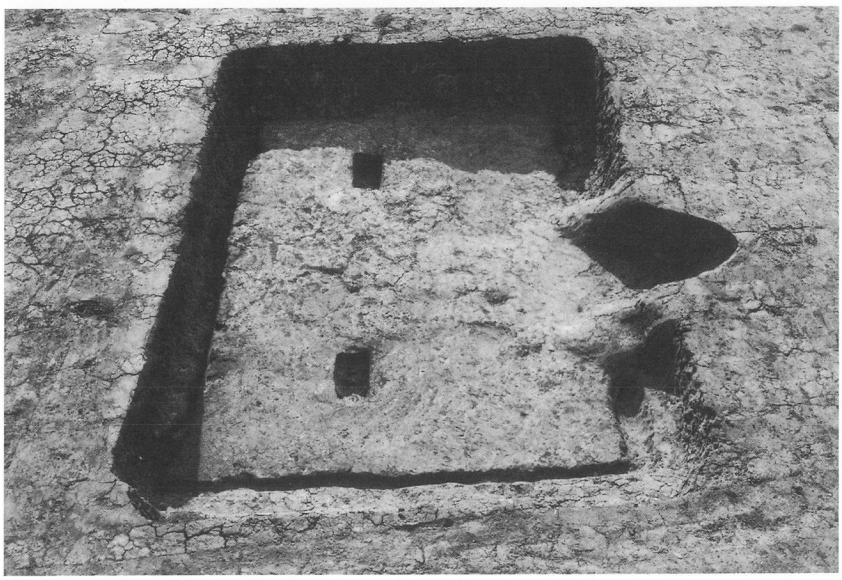


第58号住居跡
完 掘 状 況

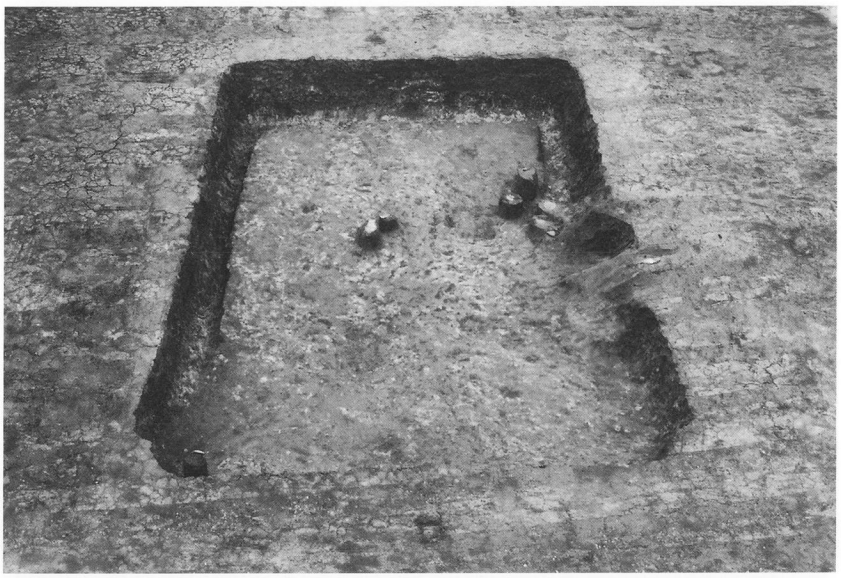


第63号住居跡
完 掘 状 況

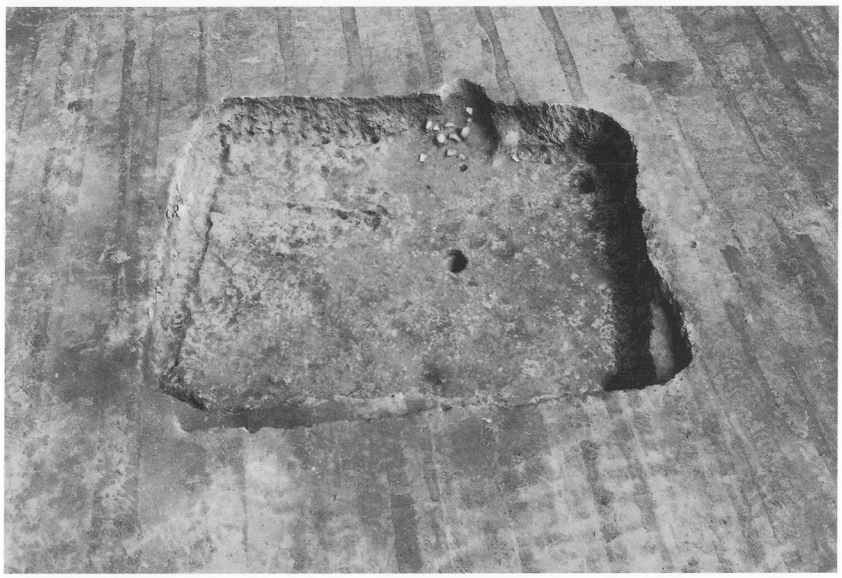
第63号住居跡
遺物出土状況



第65号住居跡
完 掘 状 況

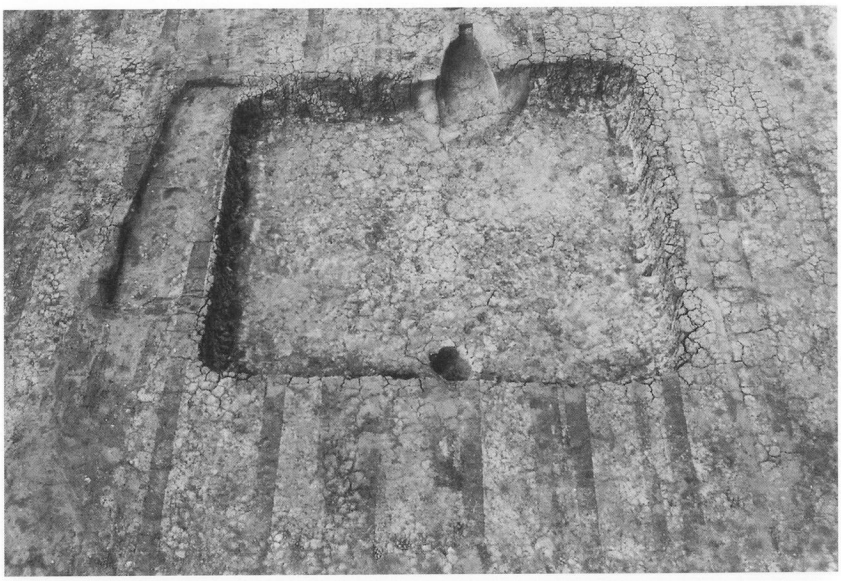


第65号住居跡
遺物出土状況



第66号住居跡
遺物出土状況

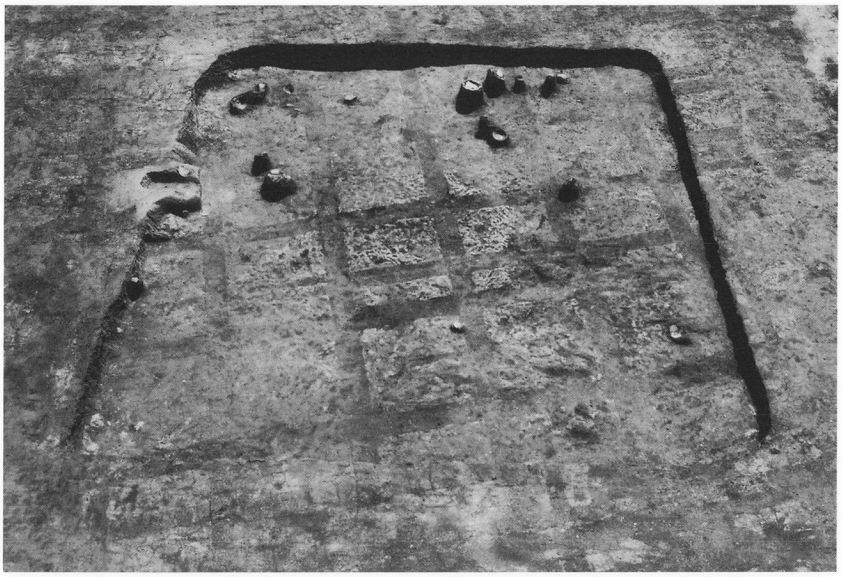
第66号住居跡
竈遺物出土状況



第68号住居跡
完 掘 状 況

第73号住居跡
完 掘 状 況

第77号住居跡
遺物出土状況



第87号住居跡
遺物出土状況

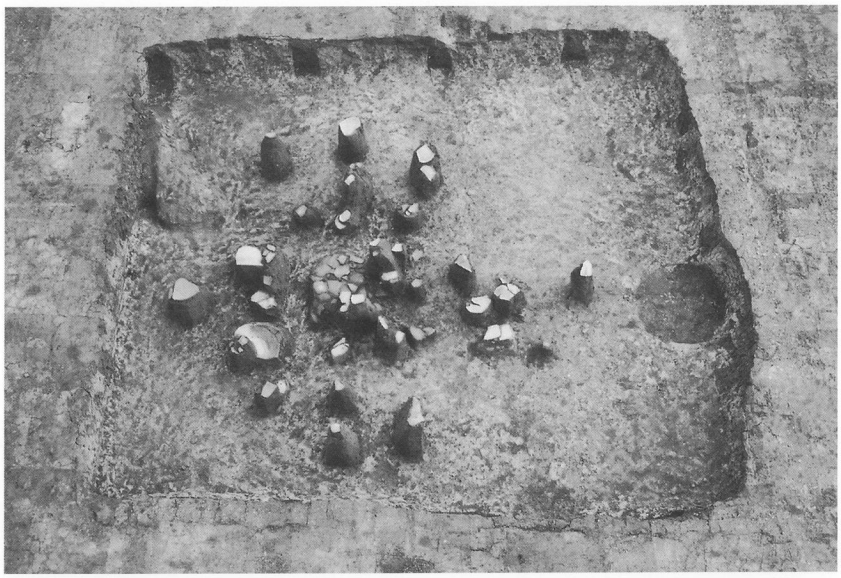
第87号住居跡
遺物出土状況

第88号住居跡
完 掘 状 況

第88号住居跡
遺物出土状況

第88号住居跡
遺物出土状況

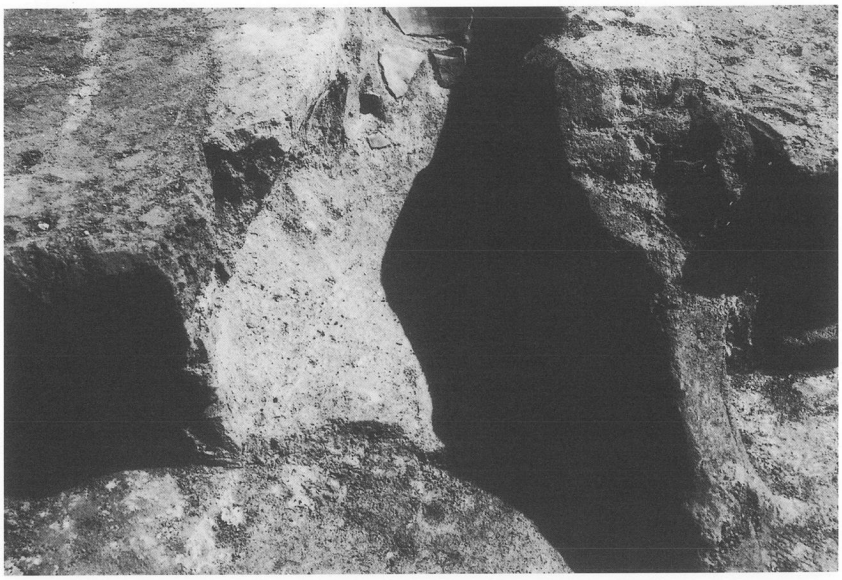
第88号住居跡
遺物出土状況



第91号住居跡
遺物出土状況

第91号住居跡
遺物出土状況

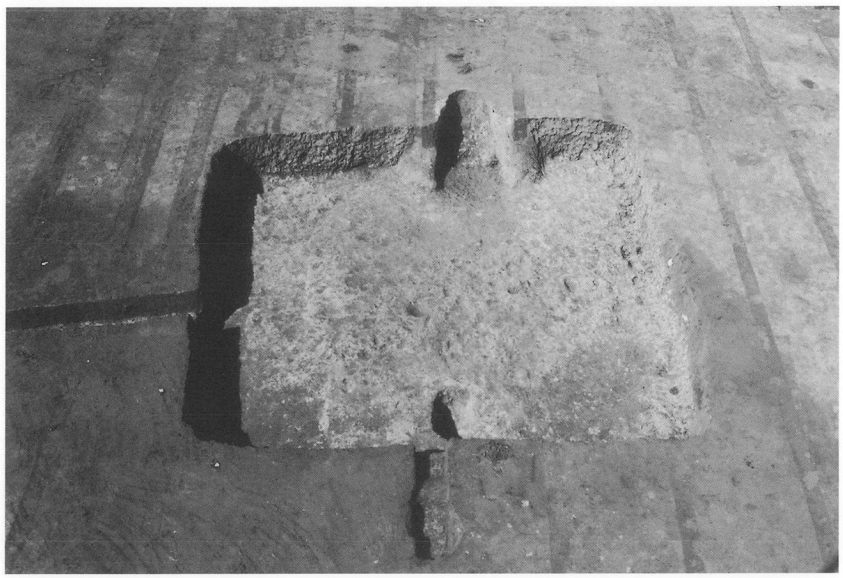
第91号住居跡
竈遺物出土状況



第91号住居跡
竈遺物出土状況

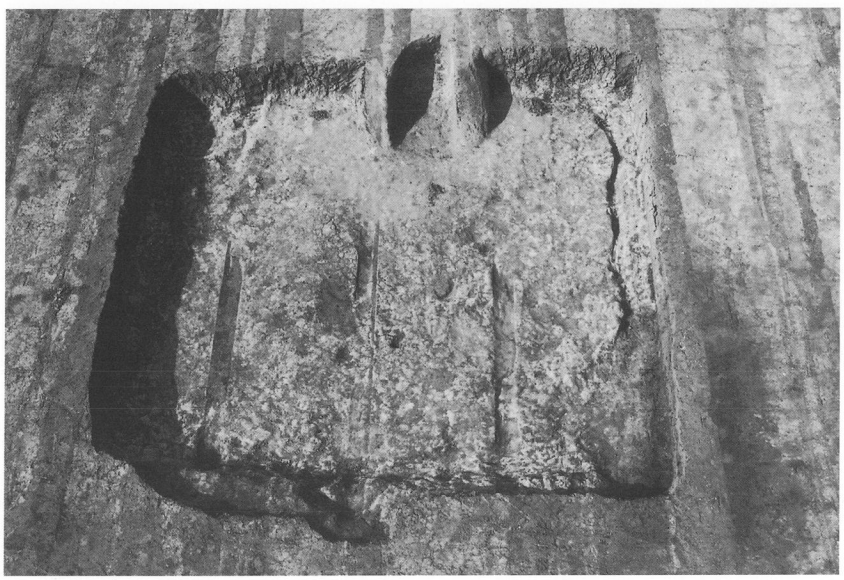
第94号住居跡
遺物出土状況

第94号住居跡
竈遺物出土状況

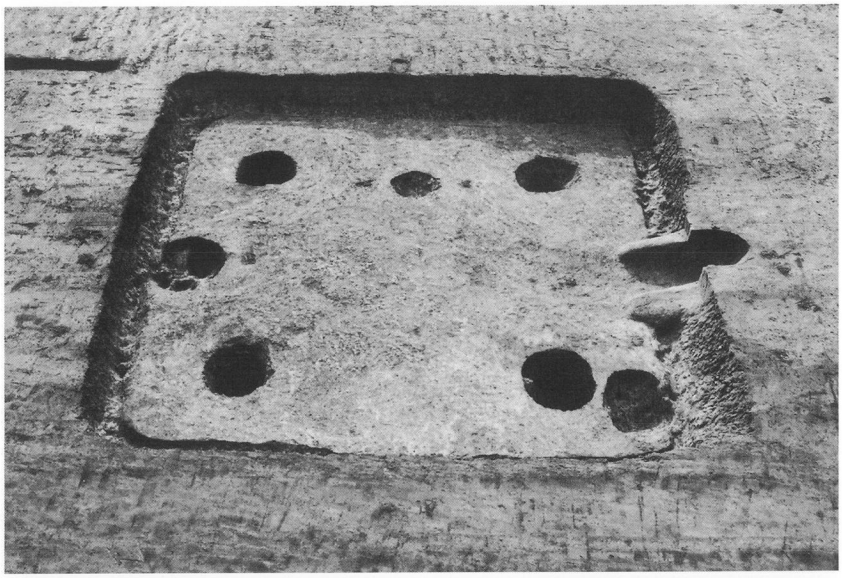


第96号住居跡
完 掘 状 況

第96号住居跡
遺物出土状況

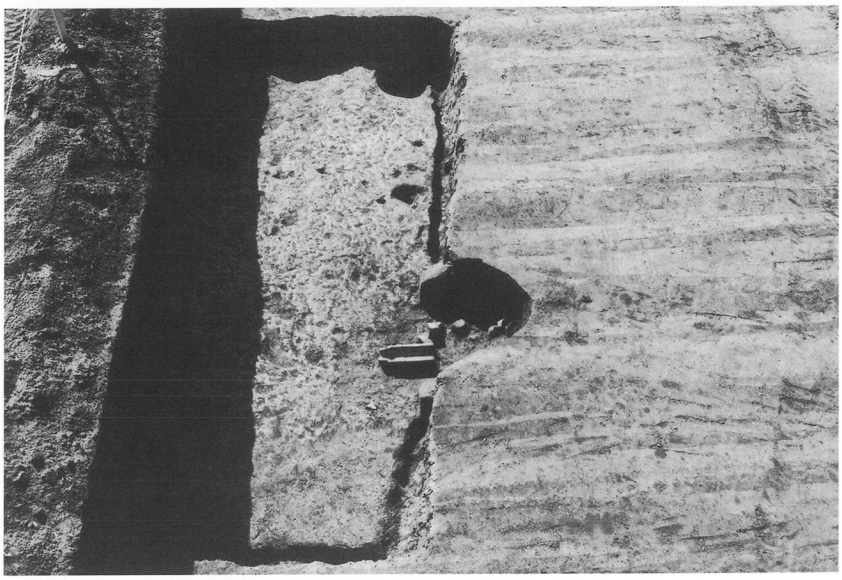


第97号住居跡
完 掘 状 況



第98号住居跡
完 掘 状 況

第99号住居跡
竈遺物出土状況



第１０２号住居跡
完掘・竈遺物出土状況